

月の誕生、代々漢學家として郷黨子弟の教育に當り來れる家柄にして、氏も亦漢語の造詣深きものありき。明治二十五年を以て福岡に出で、正木昌陽師の門に入り、研鑽怠らず、後山口高等學校に入學し卒業後上京、早稲田大學文科に學び、英、獨、ラテン語等に語學の研究に力を致し、業を卒へて山口縣三田尻、周防中學の教諭となりしが、明治四十四年退き、同年十一月三十日、天長の佳節を卜し、豊國中學校を創設開校す。爾來今日に至るまで二十有七年間、精勵努力あらゆる苦難を突破せし處、學燈燭々として今日の隆盛を招來す。其間本校は明治四十五年六月文部大臣の認可を受け、大正七年三月官立中學校と同等資格の認定を受けしが、當時この資格認定は容易に得られざりしも、これを獲得せし氏の烈々火の如き信念は、著しこれを容易ならしめしと云ふべきか。氏は校務繁劇の傍ら、書畫骨董に興味を有し、詩文を能くし常に筆硯を離れざりき。門司教育界に盡瘁する所頗る多く、福岡縣教育界の長老として、その存在は昭昭の重きに比すべきものありしが、惜むべし、昭和十二年四月、この教育界稀に見る偉材は、病を得て長逝す。享年五十九、洵に痛惜に堪へざるなり。

而してその歿後は長男西田幸太郎氏襲名、同校理事長として、父君の遺志を繼承して經營の術に當りつゝあり。資性温厚、沈着果斷その強固なる信念と温雅なる風格とは父君に優るとも劣らざる人格を絶讃されつゝあり。蓋し好個の後繼者と稱すべき乎。  
(所在地 門司市大里)

### 眞鍋 棧 四郎

屋號を松影堂と稱し、關西書畫骨董商界に牢固不拔の信譽を博せるもの、即ち我が眞鍋棧四郎氏の全國新業界に謳はるゝ令名は、轉々として容易に犯し難き處なり。氏は明治二十年三月二十五日を以て、伊豫松山市に呱呱の聲を擧げ、父君庄太郎氏は該地方屈指の名表具師として、天才的技能を推獎されし人、氏は其の次男にして、夙に聰明俊英の資質を現はし、且つ父君の薫陶下に美術品愛好の念厚かりし爲、明治四十三年、齡二十四歳にして奮然大阪に出で、美術骨董商界の雄重岡完次郎商店に入りて切磋琢磨、孜孜として新業研修に努力を傾け、忠實熱誠以て主家に奉ずること三星霜、斯くて其の妙諦を體得するや大正二年五月の交、敢然獨立店舖を現地に構え、茲に業界雄飛の第一歩を踏み出せり。以來非凡犀利たる手腕と、不撓精勵の努力を以て銳意業運發展を圖る處、着々繁榮の一途を

### 金野 祐三

銀杏印タオル、ガーゼ、敷布、ハンカチーフ等を製造販賣し、各種製品の品質優秀にして意匠斬新、常に流行界の尖端を切ると共に

將又實用價值絶大なるを以て、冷く需要界の好評激讚を博し、其の業運隆々たる新界屈指の商店は實に我が、金野祐三氏主宰に拘る金野商店に他ならず、氏は堺市を據據の地として明治二十五年に呱呱の聲を擧げ、父君を佐七氏と呼びて其の長男なり。夙に俊敏伶俐、出藍の譽れ高く、弱少十二歳にして實社會に身を投じ、河新ネル商店に入るや、忠實熱誠を旨として専心主家に奉じ、且つ鑲骨精進、能く實業道研修に邁進して遺憾なかりき。即ち天賦の才幹力量は事毎に閃々光芒を發し、而かも勤練する事十年に及びて信望内外に噴々たるものあり、前途に多大の囑望を寄せられたり。斯くて商機把握の秘訣を體得し若冠なりと雖も、手腕識見卓抜となるや、茲に圓滿同店を辭し、泉州佐野町所在の叔父經營に拘る金野吳服店に入り、爾來同店營業方面の重責を擔ひ、殊に慧眼能くタオル仲買の有望たるに着眼、銳意之に努力を注ぎし處、果然業績頗に擧り、同地方吳服商界稀に見る麒麟兒として名譽を博せり。其後大正十二年願然獨立を決意し、大阪市南區高津町に地を相し店舖を開設、専ら前記タオル、ハンカチーフ類の製造販賣を創業せるも、當時業界不況に喘ぎ、加ふるに開業直後なりし爲、幾多の難關障礙前途に横たはり、業務遂行の困難、實に言語に絶せるものありき。然るに生來不

屈不撓の精神に富み、且つ多年修練せる自信堅固たる氏は、只管勇往邁進、巧みに浪波を克服し、着々業礎を築くに至れり。而して昭和十年八月、事業盛大に赴くや、更に將來の大發展に備ふべく、店舗工場の擴張を圖り、現地に營業所を移轉する一方、生産設備の改善整備を斷行して現在見るが如き堂々たる陣容を呈するに及べり。今や商品聲價の顯然たると共に、販路廣汎にして内地全土に亘り、業勢益々躍進發展を顯現し居れり。因に氏は資性實直なる一面烈々不退轉の意氣に燃え、且つ人格圓滿にして、識見手腕共に拔群の稱あり、而かも至誠一貫、斯業の進歩興隆に善處して功勞甚大を諷はれ、現にタオル商組合幹事、タオル卸商組合幹事、タオル昭和會々長等の要職に擧げられ、名望隆々たるものある一面平和なる家庭を營めり。  
(所在地 大阪市此花區上福島北四丁目)

### 株式 山發 商店

近代人の日常生活に於て、その基調となるべきものは、固より衣食住の三要素たるは勿論なりと雖も、就中衣服の重要性は單に防寒防暑の具たる已ならず、文化の進展に隨伴して益々複雑となり多岐となれり。斯る必然的趨勢に順應して現代衣服文化を増長せしむべく、莫大小業報國の大旗を高掲げて偉容堂々たる商陣を張るもの、即ち株式會社山發商店の存在たるや、實に驚嘆瞠目に値するものあり。抑も當店は莫大小被服製製造加工及び販賣投資を營業目的となし、昭和六年三月、資本金二百萬圓を以て設立せられ、巍然として宛然巨城の觀を呈せる本社を現地に構える外、東京支店を日本橋區橋町に設置し、更に諸施設完備して理想的大工場たる玉造工場及び浦江工場を夫々大阪市東成區東小橋北之町同西淀川區浦江に設けて、製造販賣兩部門を整備し、其販路の如き實に内地全般に及ぶは勿論、遠く海外各國市場に進出して、恰も疾風枯葉を捲くが如き、躍進發展を擡にし居れり。是實に店舗の豪華華麗なると共に、斷然本邦新業界隨一の、業容を諷はるゝ所以にし



山發商店工場と社長山發次郎氏

て、而かも明治二十七年五月、先代發次郎氏の創業せし以來、常に製品の改良進歩を圖りて、幾多斯界に誇る可き優秀品の製造を完成し各博覽會、展覧會等に出品するや、毎回受賞の名譽を獲得せる事枚舉に遑なき等、名實共に覇者の實績を發揮して遺憾なし。斯くて累年業績累数の躍進發展を遂げ、販路亦擴張せられし結果、曩に昭和十年を以て、營業陣の合理單一化を圖り、從來の内地部を當社が



山崎精氏

擔當、更に山發貿易株式會社を新設、之に貿易部業務を繼承せしめ、爾來兩社協力一致して益々業界を席捲し居れり。因に當社重役は社長山本發次郎、専務山崎精、其他山本慶一、稻井源三郎、中村武一等の諸氏なり。

**社長 山本發次郎** 氏は岡山縣戸田嘉平氏の三男、明治二十年五月を以て同縣上房郡に誕生し、夙に俊敏英明、將來活躍の天地を實業界に求むるや、郷賢高梁中學を経て東京

高商に學び、同四十一年同校卒業後、直に鐘淵紡績會社に入社せり。以來精勵倍勤する事四星霜、其間大正四年整望せられて、先代發次郎氏養子となり、後同九年家督を繼承して今日に至れり。而してその非凡の學殖才腕は不斷の努力勵精と相俟ちて、父業を益々興隆繁榮せしめ、躍進及躍進、遂に昭和六年營業の一大擴充を圖りて株式會社に改組し、以て今日の盛大を招來せる斯界の第一人者なり。而かも平素公共事業に關心を抱く事深く巨額の私財を寄附納して功勞著す可らざるものあり。曩に兵庫縣多額納稅者に列し、現に當社を統帥する傍ら、山發貿易社長、明正紡織明正レーヨン各取締役たり。

**専務 山崎 精** 氏は明治十八年二月を以て岡山縣眞庭郡山崎直太郎氏三男に出生

夙に山本發次郎商店に入りて録骨奮勵、能く業務修得に邁往せる後、大正十二年市内阿波座堀に獨立營業を開始し、業運逐年隆盛に赴きつゝありしも、昭和六年當社の改組あるや自店を之に合併、其の専務取締役に就任し、爾來社長を扶佐して營業一切を執掌、以て卓腕を縱横に揮ひて、當社の飛躍發展に資する處甚大なり。傍ら山發貿易監査役に推される。因に諷曲に深詣を有し、人格手腕共に拔群なる偉材の士、蓋し令名業界に周きも當然の歸

結ならん。家庭には令閨磯子夫人、長男誠一、次女登美子嬢、四女鶴子嬢、五女正子嬢ありて、一家頗る和氣胎薄たり。  
(所在地 大阪市東區南本町二丁目)

### 帝國精密工業株式會社

金輸出再禁止以降、我が機械工作界が異常なる發展を示現し、殊に支那事變發生以來、更に新たなる發展段階を迎へつゝあるは周知の事實なり。而して機械工作工業は其内容極めて複雑多様にして、或は軍需品を中心とするもの、或は紡績人絹等の平和産業を中心とするもの等、種々難多なるが、當社は前者に屬せるが爲、事變を契機として更に殷盛に拍車を加へられたるは、當然なりと言ふべし。

當社は我が機械工作界の偉材たる山田多計治氏を中心に、昭和九年三月を期して、資本金三百萬圓(全額拂込済)を以て創立せられたる、純然たる軍需工業を目的とせる新鋭なり。即ちその製作品は諸兵器精密螺子航空機艦船部分品製作等なれば、軍事に關するために、其内容を爰に悉詳を叙するを許されざるも、彼の大阪機械製作所の隆々たる今日在らしめたる山田多計治氏の綜理するを觀察せば、其基礎の確乎不動、内容の充實、運營の

巧妙は若し思ひ半に過ぐるものあらん。而も操業以來未だ日淺きも、既に獨特の社風を樹立し、業況頗る好調を極め、殊に最近は需註殺到して、現規模に於ては到底需註に應じ切れざる状態にて、設備の擴張を促進され居れば、増資も自づと斷行さるに至らん。

現役員は、取締役社長山田多計治、専務取締役本田菊太郎、取締役坂井新次、同川瀬一、同岡崎三郎、同高野仁慈、同田所義雄、監査役齋藤恒一、同前田與次郎の諸氏なり。

**取締役社長 山田多計治** 事業經營に超凡の才腕を有し、行ふところ一として可ならざるはなき逸足として其令名愈々顯揚さるゝ俊英たり。

明治二十一年正月、新潟縣谷内田金藏氏の三男に生れ、後ち山田又七氏の養子となる。頭腦精緻にして克明、機軸縱横にして勇猛果敢、明治四十二年東京高商を優秀の成績を以て卒業、事業界に入り、眞摯熱腸の精神力を以て邁往奮命し、逐次地位を築き上げ今日に達す。現に大阪機械製作所取締役社長、滿洲工廠、原口電氣製作所各取締役、理研ピストリング監査役を兼ねつゝあり。

**専務取締役 本田菊太郎** 山田社長の良い佐として適材を誦はれる機械工作界の一異彩た

る氏は、明治二十三年大阪府に出生。夙に事業界に身を投じ、現に當社専務の傍ら大阪機械製作所常務取締役、原口電氣製作所取締役を推舉されて倍勤す。

**取締役 田所義雄** 當社營業の樞樞に參畫して智略非凡、手腕亦卓絶し、斯界錚々の逸材を以て令名擧たる氏は高知縣の出生、明治二十五年に誕生し、大正五年神戸高商を卒業するや、奮然事業界に躍進を伸ばして勇奮活躍する事多年、其後昭和十年招致せられて現職に就き、今や社内外に信望甚なるものあり。資性濃厚篤實なるも一面、不撓剛毅の精神に富み、人格識見共に高邁、名實共に典型的紳士の稱高し。  
(所在地 神戸市林田區大池町四丁目)

### 千葉 銚子商業學校

千葉縣下有数の模範的商業學校として、學燈燦々たる銚子商業學校は、明治三十三年二月千葉縣銚子中學校設立の認可を受け、同年四月一日授業を開始せるを其濼嚆とす。而して翌三十四年五月十七日千葉縣立銚子中學校と改稱し、同三十九年三月三十一日縣立を變更銚子町外二町五ヶ村の組合立とし、校舎全

部を同組合に貸與せり。其後同四十二年三月以來右組合立中學校存続年限を同四十六年迄となし、茲に同月十五日千葉縣立銚子商業學校設立認可せられ、前記中學校校舎を右組合より返附せしめ、之を千葉縣立銚子商業學校校舎とす。次で同四十四年二月十七日學則改正せられ、從來豫科一年、本科三年制なりしを豫科二年、本科三年制となし、以來星霜を關する事二十有七ヶ年、其間時世の變遷推移文化の進歩發達に伴ひ、常に學校當事者の間然する處なき經營方針と教育指導とに依り、着々校内諸施設完備せらるゝと共に、學風興隆の一途を辿れり。今や新興都市銚子市に於ける商業教育機關の白眉として、傳統的實實剛健なる校風を滿養し、更に多數卒業生を始め在校生徒に優秀人材を輩出せしめ、其昭々たる育英成果の高揚は、縣下優良校素より誇しとせざるも、容易に匹敵を許さざるものあり。殊に本校の他に誇るべきは、上級生修學旅行に於て、専ら商工業關係の實地見學を爲さしめ、或は當時實際的教育方法の一として、實習販賣部及び實習銀行部を設け、全校職員及び生徒をして交替實務に當らしめ居れり。即ち毎月生徒に一定額の預金をなさせしめ、記帳出納等の實習、又は小切手使用に習熟せしめ賣買取引等の實際を會得せしめて好評噴々たり。尙ほ當校は嘗て明治四十四年二月十七日

及び大正五年十一月十七日の雨度に亘り、畏くも皇太子陛下行啓あらせらるゝの光榮に浴し、以てその昭々たる校歴を想見すべし。  
(所在地 千葉縣銚子市)

### 前門司市會議長 宮原六三郎

近來北九州有數の大海港都市として、市勢の發展膨脹顯著なる門司市には、素より識見手腕の超凡なる、抱負經綸の高邁なる、而かも至誠一貫能く同市發展を圖りて努力獻替せる士材なからずと雖も、此等全部を兼備して且つ烈々たる愛市奉公の念に燃え、多年市會議長の顯著に在りて、功勞多大なりし、我が宮原六三郎氏の如きは、寂寥々として恰も曉天に星芒を仰ぐが如く、其數斷じて多數を求む可らざる處なり。抑も氏は縣下朝倉郡三輪村に籍を有し、明治三年七月八日を以て生を享け、幼にして俊敏穎悟、長ずるや學に志して京都同志社大學に學び、同二十九年熊本視務監督局に奉職す。以來天賦の才幹を發揮して精勤恪勵する處、時の監督局長、故濱口雄幸氏の知遇を享け、信望稱溢なりしも、後年胸底深く感ずる處ありて、同三十五年職を辭せり。斯くて事業界雄飛の潮氣を抱きて、門司市に來たるや、先づ安川礦業會社門司支店

に勤務し、銳意専心社業に盡す事八年間其手腕力量の卓拔なるは、夙に社長安川敬一郎男の認むる處となり、令名内外に噴々たるものありき。然るに生木獨力勇往の氣概に富み終生大樹の庇護下に姑息退嬰に墮するを屑しとせざる氏は、同四十二年敢然として獨立事業經營に着手し、石炭船積積送勞力請負業を開始せり。以來昭和十一年功成り名遂げて第一線を退くの間、實に三十星霜の永きに亘りて鐵骨無盡の活躍を擅にし、請負業者として常に偉大なる存在を識はれたり。即ち業界の音宿長老として聲望隆々たる事、實に斯界に冠たるものありき。而かも一方明治三十七年以來同四十五年に至る間、福岡縣會議員の要職に連續當選し、更に同四十二年以來、昭和十年に至る二十數星霜間、門司市會議員に連續當選の榮冠を擔ひ、當地方民政黨の長老として斷然重きをなし、而かも人格識見共に非凡なる處、衆望翕然として聚り遂に昭和七年市會議長の顯職に推さるゝに至れり。而して其間當市發展に寄與貢獻せる處、眞に絶大なるものあり、偉功赫々たると共に、同十三年五月市會二十年以上勤積者として門司市長より表彰せられたり。因に氏は多年安達謙藏若槻禮次郎、故濱口雄幸等政界の名士と親交を結び、特に安達謙藏氏の信望厚く、同氏の民政黨を脱退するや、行動を共にし、以て今

日に及ぶ地方自治界の一大功勞者なり。最近不幸病魔の冒す處となりて病床に在りとも雖も其全徳の目取て還らざる處、再び當市政界に颯爽英姿を現はすを、全市民舉りて待望し居れり。蓋し其人徳望々たるを窺知すべきなり。尙ほ現在經營せる事業は關門トンネル工事、大倉組工事、内務省等の納入品御用達商として、卓犖犀利たる手腕を以て社員を指導統制し、業績益々顯然たるは寔に偉とすべきなり。  
(住所 門司市清瀧町三丁目)

### 福水合名會社代表社員 福水倍逸

氏は福水合名會社を主宰して織物、メリヤス、雜貨の製造並びに卸販賣を營み、斯業界に快腕を揮ひて、近時社運の興隆頗る著しくその躍進何人も驚嘆せざるはなし。明治十七年播州龍野に生を享けたるが、夙に事業界に雄飛せんとの大志を抱懷し、二十歳にして上阪し、織物加工店小寺商店に入り、萍蹤剌勉して業務に傾注し、同店の繁榮に寄與する所ありて、多大に推重せられたり。三十七歳にして同店を辭し、直ちに福水商店を創立して現業を開始す。時に大正九年なりき。氏は多年の經驗に基づき需要界の趨勢を察知、人心

の機微を洞察して、新製品の發賣に或は新經營法の創始に、幾多の新機軸を出し、逐年業況躍進を告ぐるに至りたり。即ち、同店發賣の商品は常に流行界を風靡して、大衆の間に多大の歡迎を受け、全國各地の小賣、卸販賣高日を逐ひて著増し、漸次斯界に頭角を現すに至れり。昭和四年に至りて個人經營を改めて、資本金十萬圓の合名會社に改組し、經營方針を一段と精進して海外輸出に力を注ぎ近時鮮滿、南洋羣島、ジャワ、アフリカ方面



福水倍逸氏

に大量の輸出を行ひ、邦品の海外進出に貢獻せる所鮮少なからず。斯くて商況一段と股賑に向ひ、店舗總坪數二百餘坪、店員總數五十餘名を算し、營業課目は毛織物、綿織物、メリヤスの外子供服、運動着、肌着等の製造卸販賣にして、何れも好評噴々、將來株式組織に變更の計畫あり。資性眞率にして濃厚、業務に關與する傍ら、業界の爲に奔走して寄與せる貢獻夥しとせず。遂に大阪服裝雜貨同業組合長に推され、現に大阪服裝雜貨同業組合、大

阪莫大小タオル同業組合、大阪被服工業組合等の役員を兼ね、信望噴然たるものあり。人格清廉にして温情に富み、思慮圓熟して襟度潤大なり。因に嗣子五郎氏は廣島縣に生れ、夙に早稻田大學文科に學び、昭和十二年に追んで氏の長女文子嬢の養子に迎へらる。頭腦明敏にして質實堅確の資性を具へ、眞摯業務に精勵し、内外の好評を聚め、その將來を多大に矚目せられ居れり。  
(住所 大阪市北區木幡町)

### 旭電化工業株式會社

近來飛躍的發展を顯現して其製品は世界的水準に達し、而かも將來益々汪洋たる發展性を具備する本邦化學工業界には、素より社礎の堅固、業績の躍進、或は製品價値の優秀を以て鳴る優良會社とせざるも、是等の渾然融合して豪華絢爛たる社容を識はれ、名實共に斯界の花形會社として、社名赫々たる旭電化工業株式會社の如きは、蓋し其數多くを求む可らざる處なり。抑も當社は大正六年一月を以て創立せられ、同七年六月資本金を一百萬圓に増額、次で同九年九月一百五十萬圓に、超えて昭和三年六月二百萬圓に、其後五百萬圓(拂込済二百七十五萬圓)に夫々増資

して今日に至る。而して其間常に化學工業界の大旗を掲げて舉社一致邁往、能く諸製品の品質改良、或は製法技術の向上を圖りて研究琢磨せる結果、夙に當社製品の眞價顯然として好評を博し、一方漸次業績擧りて遂に今日見るが如き隆昌盛榮を呈せるは、敢て冗言を要せざるべし。斯くて事業の發展膨脹に伴ひて營業陣容及び、生産施設の完備を計り、現在本據を當所に構える外、近代的設備完全なる一萬七千坪の理想的工場を荒川區尾久町九丁目に設け、更に大阪出張所を大阪市北區會根崎上二丁目、又た名古屋出張所を名古屋市西區伊倉町一丁目に設置、東西相呼應して斯界を廣捲し居れるは、寔に偉とすべきなり。尙ほ當社製造品目は苛性曹達、酒粉、合成鹽酸、高度酒精、液體鹽素、次亞鹽素酸曹達、硬化油、硬化蠟、旭ステレン、高度ステレン、脂肪酸、食用油脂、化粧石鹼、洗濯石鹼、浮石鹼、粉石鹼、農藥石鹼、グリセリン、人造バター、鹽素バルブ、金屬マグネシウム、グリコール、グリフラン、アデカ豆炭等の多岐多彩に亘り、今や化學工業藥品製造界の雄鎮として、斷然業界に重きをなし居れり。次に當社第四十二期(自昭和十二年六月一日至同年十一月三十日)に於ける營業概況を述べれば、即ち曹達部は當期高酒精が四割五分の生産制限行はれたるも、液體鹽素並に鹽酸の

需要増加に依りて、全能力操業を行ひ、又油脂部は全期間を通じて輸出、内地共に一般的不振の環境に在りたるも、之亦能く全操業をなし、其他グリセリン、石鹼、バター等は需要に應じて操業を行ひ、一方セロファン、パルプ及び新規事業金屬マグネシウム、グリコール等孰れも豫定の操業をなし、其結果良好成績を挙げ得て左の如き利益金を見たり。即ち總益金六百五十六萬八千二百餘圓、總損金六百七十七萬七千餘圓、之が差引利益金四十九萬八千餘圓を得、更に固定資産償却金十八萬圓を控除せる純益金三十一萬八千一百餘圓を獲得し、之に前期繰越金二十四萬八千七百餘圓を加算、計五十六萬六千八百餘圓の利益金を見、株主配當は新舊株共に普通一割、特別二分の年一割二分の好配當を極めて餘裕綽々裡に了し、尙ほ後期繰越金に二十六萬一千八百餘圓を残せるは、總資産一千六百六十六萬五千餘圓に達せると相俟ち、當社業容の堅實強固たるを物語る處ならん。

因に重役陣は前社長鈴木市之助氏他界せられ、現事務取締役磯部徹一郎、取締役浦山助太郎、同山口喜三郎、同工學博士棚橋寅五郎、同兼技師長藤堂良漢、同近藤眞一、同工學博士浦野三郎、同兼支配人小池一郎、監査役南部助之丞、同木村利吉、同雨宮四郎の諸氏なり。

專務 磯部徹一郎 氏は岡山縣淺口郡の出身、明治十四年十一月十一日を以て呱呱の聲を擧げ、同四十年早大商科卒業後天龍川水力電気支配人、東邦電力庶務課長、古河礦業日光變電事務所主任等に歴勤、着々斯界に地歩を築き大で正六年當社支配人に就任す。爾來至誠努力、専心事業の發展興隆を圖りて貢獻寄與する處多く、遂に現職に推されたる業界屈指の英才なり。資性濃厚にして謙直、其高潔圓滿なる人格は齊しく人の尊敬欽慕を聚むる所以にして、而かも識見手腕の斬然秀拔なるは言を俟たず。因に趣味として旅行を好み閑暇を得れば浩然の英氣を養ふと聞く。(所在地 東京市麹町區丸之内三丁目)

### 會社 山中吉郎兵衛商店

優美高雅にして、風韻自ら積蓄たる本邦傳來の古美術骨董品は、單に鑑賞玩味の對象物として神韻飄渺たる雰圍氣を醸成する己ならず、或は珍奇高價なる商品として市場價値の高大なる、實に巨匠名工の心血傾倒の神品たるに相應しきものあり。而して新品賣買を以て營業目的となし、絢爛豪華の業容を展示せる古美術骨董商の最高峰に値する我が合資本邦美術骨董商の最高峰に値する我が合資

會社山中吉郎兵衛商店の如き、驚嘆眩目に値する盛名を有するは、容易に他に求め難き處ならん。即ち當店は姉妹會社たる大阪高麗橋山中商會、京都山中商會と共に、業界に一大王國を形成し、各社の緊密不可分なる提携下に内容の堅固不搖なるは勿論、汎く業界及び諸大名門間に蓄蓄なる信用を博し、殊に其賣買高の如き、大阪第一を以て謳はるゝ代表的商店なり。茲に其沿革を釋ねれば大正七年八月に發し、資本金三十萬圓、出資人員五名を以て設立せられ、爾來新古美術品商として常に堅實主義に一貫、堂々業陣を進むる處、其取扱賣買品の多岐多様に亘りて、而かも珍貴品に富む邊り、名實共に斯界の優秀商店として信望着々高きを加へ、遂に隆昌盛大今日見るが如き盛業を成し得るに至れり。斯くて其屋號たる纂堂堂、或は角山の名稱は燦然光彩を放ちて知られざるはなく、業勢益々躍進發展の一路を辿りて、恰も斯界を席捲するかの如き觀あり。因に當店代表社員は店名の示すが如く山中吉郎兵衛氏にして、其他出資社員は可部幾太郎、川口重三、中井猪藏、松川龍等の諸氏なり。

代表社員 山中吉郎兵衛 氏は先代吉郎兵衛氏二男にして、明治二十六年二月の出生、後前名龍太郎を改め襲名せり。夙に斯業界に

於て鑄骨精進の修業を累ね、父君の衣鉢を繼ぎて當主となるや、天稟の英才を遺憾なく發揮して着々業運を盛大ならしめ、遂に大山中商店を築き上げたる斯業錚々の偉材の士たり。資性濃厚篤實にして玲瓏珠の如き人格を有し、而かも高邁たる識見、卓越せる手腕を備へ、常に斯業眞の發展隆榮を圖りて、貢獻寄與する處甚大、現に當社代表社員たる外、大阪美術俱樂部取締役、山中商會監査役を兼ね、名望愈々高きものあり。因に令閨ツニ夫人は斯界の大宗として名聲赫々たる戸田彌七氏令妹にして夫君に仕ふるに貞淑溫雅從順にして、實に賢夫人の譽れ高く、其間嗣子養太郎君(大正八年生)を擁して一家頗る和氣に滿つ。尙ほ氏は趣味に讀書、古美術研究を好みて造詣深甚なりと聞く。

(所在地 大阪市東區北濱二丁目)

### 古今堂主 井口藤兵衛

當店は天保初年京都の人井口藤兵衛氏來阪し、東區伏見町二丁目に於て表具師を開業せるがその始祖にして、その優秀の技術を以て一躍名を成し、代々の當主に妙腕の士輩出し名門富豪よりの註文相次ぎ、多大の信託を博して、遂に現時の如く、斯界第一人者を以て



四代目井口藤兵衛翁

稱せられるに至れり。四代目井口藤兵衛氏は眞學研鑽に努めて表具の技術の蘊奥を極め、その妙技は江湖に絶讃湧くが如く、註文引きもきらず、多大の盛況を見るに至りたるに依り、現地に移轉、茲に斯界に確固不拔の地歩を築けり。昭和六年大阪府より畏き邊りに献上したる畫帳の表装の命を受け、多大の面目を施せり。氏は書畫骨董の鑑定に長じ、就中繪畫に關しては堂々一流の大家に伍するの妙手にして、一切毛筆を以てせず、即ち支那の

明の時代に指頭畫の流布せしを知りたる氏は獨力を以て之を研究し、遂に獨特の描法を創始完成せり。その構圖の閑雅にして描寫の素純なる、眞に先縱的妙境を拓けるものにして畫面に横溢せる滋味波めども盡きず、何人も嘆嘆措かざるところなり。曩に英國コンノール殿下、ルーマニア皇太子殿下(現ルーマニア皇帝)御來朝の御、御前揮毫の榮に浴し、多大の御讚辭を賜りたり。氏は現在家督を當主に譲りて隠退し、花鳥

風月を友として之に雅懷を托せり。尙ほ當主五代目藤兵衛氏は明治二十七年を以て生れ、學業を了ふるや直ちに家業を研修し、昭和十一年祖業を繼承せるが、夙に家傳の秘法を修得して、その妙手は多大の讚辭を博しつゝあり。資性濃厚にして品性高雅を以て、名流人士の間に信認高く、能業に造詣深くして、その洗練せられし人品は神商の典範と仰ぶがるゝ所なり。(住所 大阪市東區平野町一丁目)

### 不少店主 加藤松太郎

「不少」の屋號を掲げて連綿三代に亘り、北陸の雄都金澤市は勿論、殆く全國美術骨董商界に斷然重きをなすは、即ち我が加藤松太郎氏の主宰經營に拘る當店に他ならず、茲に其の發祥を尋ねれば、遠く天保年間に發し、業祖不動寺屋少兵衛翁の創業開店せるに溯源す。以來斯界の一大權威を以て推獎されし其の非凡透徹せる鑑定眼と、機略縱横の商才に依りて業運逐年向上發展し、爰に萬代不易の業礎を確立、巋然斯界に一頭地を拔んずるに至れり。是實に翁の終始一貫、常に創業の苦難を突破克服しつゝ、只管美術品の保存鑑賞に意を注ぎ、幾多世界に誇るべき、神品尤物の

取扱賣買に當り、而かも信用第一主義を奉じて拮据經營せる賜なり。而して其の斯業發展に獻替寄與せる功績は、美術研究家として噴然たりし偉名と共に、熾然光輝を放ちたりき。次で二代目店主加藤九郎二氏家業を繼承するや、嚴密の備業を偲びて屋敷を「不少」と命名、益々業容の擴大整備を圖りて努力奮闘し、或は貴什珍品の蒐集に東奔西走、寔に涙ぐまじき活躍を顯現せる處、果然業運一大發屋を齎したり。其間明治四年金澤市に最初の博覽會開催さるゝに及び、多數美術品を出陳するや、畏くも宮殿下御親覽の光榮に浴せり。他方氏は美術品鑑定に天才的眼孔を有し加ふるに濃厚篤實に見る人格者にして數多の同業者を首め、貴顯紳士間に信望絶大なるものあり。且つ其の多年に亘る健闘努力に依りて、當市より國貨品を輩出せる事勢ならざりき。蓋し本邦美術界の一大貢獻者として名聲噴々たりしを窺知するに足らん。斯くて現主松太郎氏に至るや、父祖傳來の堅實無比なる營業方針に、更に新時代の合理的經營政策を加味して銳意邁進せる結果、業績益々舉りて遂に今日の盛榮を招來、以て斯界に冠たる豪華多彩の美陣を布陣し居れり。因に氏は明治三十六年一月四日の誕生、夙に父君の徹底的薰陶方針に依りて、大阪一流の古美術商店に入り、鑲骨研鑽、銳意業務修得に精進す

る事柄十星霜、其父業に従事して、愈々天賦の才幹砥礪せられ、今や全日本美術商界の重鎮として聲望斷然他を壓し去りて、降々たるものあり。資性豪放大膽にして頗る明察、而かも一面細敏明敏なる頭腦を有し、人格識見手腕共に拔群なる、斯界稀有の少壯偉材の士なり。家庭には母堂健在にして、温雅貞淑の譽れ高き夫人との間、長男和良君、次男悦大君を擧げて、一家團樂たる事近隣羨望の的たり。尙ほ氏は能樂、舞踊、旅行、讀書、古美術研究等に深湛なる興趣を抱き、殊に能樂、古美術研究に就きては、既に大家の見識を保持し居れり。

(住所) 金澤市上今町一八

#### 竹吉回酒店

### 竹吉 幸市

終始一貫その業務に精勵し、遂に斯界の重鎮として赫々たる名聲を馳するに至りしとせば、その人は尊敬すべき一人格と云ふべきなり。茲に傳せんとする門司市回漕業界の長老現門司商業會議所議員竹吉幸市氏の如きは、蓋しその材器と稱すべきならん。

氏は島根縣濱田町の産にして明治八年五月の生誕、本年六十四歳なり。二十五歳にして青雲の志を抱きて上京、和佛法律學校に學び

たるも、感ずる所ありて中途退學歸郷し、越えて同四十二年、門司市に於て回漕業を獨立開業し、爾來三十餘年、一路事業に邁進し、今日の大を爲すに至れり。當店の營業種目は海陸船舶代理業、船内人夫取扱、引船及舢舨一般重量貨物取扱、機械据付請負、その他八幡製鐵所、門司鐵道局、小倉工廠の納品取扱税關貨物取扱人、陸上努力請負、一般代理仲介業等にして、主なる得意先は、三菱商事門司支店、三菱重工津島造船所、三井物産門司支店、日本足袋、栗林商船門司支店、山陽バルブ工業、ブリツチストンタイヤ等本邦屈指の大企業たる點に見るも、その業務の大規模と信用程度を窺ひ知るに足らん。當店一ケ年の取扱總噸數は四十萬噸に達すと謂はゞ何人も一驚を喫する事ならん。氏の眞實にして眞剣なる性格は、一般の敬慕し信賴する所にして、大正十四年以來、氏が門司商業會議所議員として、今日まで當選連續四期、十五年の長年月に及べるに徴するも、人物の如何を訊ぬるの要は無からん。正に地方事業界の重鎮と云ふべく、また西日本唯一の港都門司市に於ける代表的人物として推奨すべき人材たるを失はず。

竹吉正喜 幸市氏の長子、昭和三年明大出身の秀才、現に當店の大柱石として、父

君を扶佐して、積極的に事業發展に努力せるの外、門司市會議員にして市參事會議員に選出され重きを爲せり。資性調達、頭腦明敏、新興門司市第一線の紳士として、發利たる活動をつゞけ、その將來大成の兆瞭然たり。

(住所) 門司市外濱町四丁目

#### 京都府

### 橋本貸座敷組合

抑も當遊廓所在地の創草を擇ぬれば、遠く聖武天皇の御宇、名僧行基上人が諸人交通の便を圖りて、同地より淀川對岸山崎の地に架橋し、以て土地繁榮の發端をなせるに始まり地名の發祥は、即ち該橋南詰に所在せるを以て橋本と稱呼するに至りしと云ふ。而して後年橋畔に茶店を設け、茶汲女を置きて諸客接待に當らせたり。是即ち當橋本遊廓の濫觴にして、同地は京都、大阪の中間部に位置し、數丁にして八幡八幡宮の鎮座せるあり、更に東方に八幡山眼界を遮り、西方に淀の清流を臨み、宛然京阪の一關所たるの觀を呈し、往時伏見、淀の最盛期に當りて、遊場として繁榮せりと聞く。其後明治二十年六月橋本遊廓營業の許可を得るや、當初五業組合と稱して事務所を同町中之町に設け、奥西秀之助氏初代表補役に擧げられ同組合發展に盡瘁貢獻し

たりき。超えて昭和四年十月事務所を現所に移轉、雅麗宏壯、堂々たる和式建築物たらしめ、同時に組合名稱を橋本貸座敷組合と改めたり。今や業者八十三樓、組數六百餘名を擁し、衛生設備は勿論、其他施設頗る完備し、而かも百花散亂として、姍を競ふが如き美妓群と、その親切丁寧なる接客振りと、一度登樓歡を盡くさんか、何人たりとも恍惚踴躍たる境地に誘導されざるはなし。蓋し同遊廓の發展殷駁、遂年顯著なるは、寧ろ當然の歸趣と云ふ可きならん。因みに現在取締に石原傳四郎氏、副取締に土屋良太氏夫々就住し、在職既に十年以上に及ぶ功勞者たる一方、兩氏共に公共事業に獻替寄與する處頗る多く、仁情流露、且つ圓滿福徳の典型的紳士として、衆庶の尊敬追慕の的たり。

(所在地) 京都府下橋本町

#### 株式伊藤萬商店

大大阪都心の商業街、東區本町四丁目に壹々地上七階、地下二階の最新式鐵筋混凝土建造物を構え、其豪壯雄大、摩天樓の如き偉容を以て、斷然近隣に壓倒的偉觀を示すものこそ、實に我が株式會社伊藤萬商店の業界に誇るべき本據たり。而かも當店は單に瓦城の如



伊藤萬商店の偉容

き建物の大を以て、斯界に儼然巨大を瀕はるゝ已ならず、其業勢の隆々乎たる、信用の該博諸甚なる、實に本邦毛織物雜貨商界の霸王たるに恥じざるものあり。抑も當店は近代稀觀の商傑として、聲名昭々たりし先代伊藤萬助氏の創業に係り、明治十六年羽州屋より分家獨立して營業を開始せるに發す。爾來業績頗る擧りて躍進又發展、大正七年五月に至るや、業容の一大擴充を圖りて株式會社に組織を變更、次で翌八年早くも當初資本金三百萬圓を五百萬圓に増資し、更に最近八百萬圓に増額して現在に及ぶ。而して今や營業陣容を

毛織部、綿布部、雜貨部、輸出部の四部門に分ち、之に配するに斯界の逸材敏腕の士たる當店高級幹部を以て、其の責任擔當者となし、營業狀態に驚異的盛況を顯現すると共に更に加工製造機關として、諸設備完全なる直營工場を和歌山市に三ヶ所設置し、或は日本染業株式會社、大進染工合資會社等の直營會社並に和歌山染工株式會社の專屬工場を擁し、生産加工陣容の整備し居れるは勿論、一方販路の如きは、實に日本全國は素より、周く世界各國の市場に敢然進出して廣汎確實なる販賣網を獲得し、其の内容の充實せる、規模の差大なる、正に斷然他店の模倣し得ざる處なり。而かも積極的堅實なる營業方針下に只管信用第一主義を以て臨み、各種商品の品質優秀にして價格低廉、且つ取引の迅速丁寧なる等は、夙に世界需要界の好評賞讃を博する處にして、名實共に本邦斯業界の爲に萬丈の氣を吐くものと稱すべきなり。

斯くて異數の躍進盛大を致せる業績を大觀するに、昭和八年度下期の如きは普通一割、特別三割、合計實に年四割の株式配當を極めて餘裕輝々裡に行へり。因に店舗敷地は六百餘坪にして、之に前記豪華華麗なる白亜の大建築物を構え、従業員約六百名を擁する一方、店員好遇の一證左たる第一寄宿舎を阪神沿線鳴尾村(敷地三千五百坪)に、又第二寄宿舎

(鐵筋混凝土建六階)を營業所北側、即ち御堂筋に面せる地に設置し、各種修養樂樂施設を完備せしめて遺憾なし。尙ほ首腦部を形成するは取締役社長伊藤萬助、常務取締役伊藤萬治郎、取締役伊藤藤治郎、同伊藤良三、同奈良正次郎、同並河久次郎、同小林輝雄、監査役眞田竹男等の諸氏なり。

社長伊藤萬助氏は先代伊藤萬助氏長子にして、明治十二年三月に呱呱の聲を擧げ、大正八年家督を引継、前名卯三郎を改め襲名す。而して弱冠十六歳の折、業務見習の爲め洋反物商藤野商店に入り、銳意精進、克く斯業經營の眞骨頂を把握せる後、父業を繼承するや、卓腕を縱横に揮ひて拮据經營、遂に現在の盛大を招來せしめたり。今や伊藤萬助合名會社無限責任社員、或は大日本紡績、納定染工、和歌山染工、宮川モスリン、日本レヨン等各社重役を兼ね、又大阪府多額納稅者として偉名赫々たる已ならず、居常公共事業に巨財を散じて些も惜しまず、其功に依り昭和二年六月組役賞章を賜り、更に同三年九月同飾版を下賜さるゝの光榮に浴したり。朝日新聞主筆昭和十三年度日本一健康兒童に推選されし伊藤直三君こそは、當社取締役伊藤良三氏次男にして、萬助氏の令甥なり。(所在地 大阪市東區本町四丁目)

### 染料藥品部 森部鋤次郎

名古屋商工業界の高處より大觀すれば、素より他に資本の巨額、規模の宏大を誇るもの尠しとせざるも、確固不動の基礎に立脚するものとして、其販賣品の多種多様なる、或は信用該博なる點に於て、斷然染料藥品商界に一頭地を拔んずる優良商店を求むれば、何人たりと雖も先づ指を大須賀商店名古屋支店に屈するに至らん。即ち同店は斯界の驍雄、大須賀清五郎氏の設置經營せるに發し、以來其實際的經營に卓腕を發揮する事、眞に縱横無盡、以て隆々たる業運を招來せしめたる我が森部鋤次郎氏が、之を譲受けて拮据經營、遂に今日見るが如き盛榮隆盛を齎らせるものなり。而して森部氏は明治三十三年十月二日を以て呱呱の聲を擧げ、父君を吉三郎氏と稱し、出生地を名古屋市南區とす。幼にして聰明出藍の譽れ高く、長ずるや凌雲の志を實業界に馳せて奮然上阪せり。以來大阪市熊野商店に入りて、精勵奮勵する事幾星霜、其忠實熱誠なる勤務態度は克く、僑界の模範と稱せられ、店主の信認寵愛措く能はざるものありき。其後昭和三年大須賀商店名古屋出張所の新設さるゝや、聘せられて同所主任の要荷に

就き、爾來益々努力奮勵間然する處なき店主の指導薫陶下に天賦の穎才、愈々砥礪せられ中京斯業界稀に見る少壯有爲の村幹として聲望頗る擧り。斯くて後年同所を譲受け、同七年合資會社に組織を變更、之が代表社員となりて今日に至る。資性實直動勉にして且つ不退轉の實行力を有し、常に信用第一主義を奉じて銳意顧客奉仕に専念する處、其商品の優良確實なると相俟ちて、能く需要界の好評信用を博し、遂に今日の隆盛を獲得せる成功者なり。蓋し過去多年に亘る斯業邁進の道程に於て、敢て風雲に乗じて一躍進を成せるが如き燭爛さは無しと雖も、徒らに左顧右盼する徒輩と異り、終始一貫、堅實なる道を歩み、着々成功に達せるは、又以後進子弟の範とするに足る。而かも報恩感謝の念頗る厚く平素前店主大須賀氏の鴻恩を銘記し、事毎に報徳の實を擧げんと力め居れるに至りては、正に當代稀觀の人格者として、尊敬推服すべきなり。因に大須賀氏は人も知る、神奈川縣の出身にして一介の斯業外交員より身を起し努力奮闘、遂に輝々たる成功を贏ち得し立志傳中の人物なり。尙ほ家庭には父君吉三郎氏母堂やす乃自共に健在にして、令閨靜枝夫人との間に長男一男君(昭和三年出生)を産して和氣瀟々たるものあり。

(住所 名古屋市西區伏見町三ノ五)

### 野村デパート社長 川村嘉市

土佐實業界には、素より努力或は成功傳の人物尠ならずと雖、眞に赤手空拳、裸一貫より身を起し、凡ゆる苦難障礙を克服して、一步又一步、而かも天賦の商才奇略を遺憾なく發揮し得て、遂に隆々たる成功の榮冠を獲得せる我が川村嘉市氏の如きは、蓋し容易に求む可らざる血涙の奮闘兒と云へむ。氏は縣下安藝郡土居村の産、明治二十三年十二月を以て産聲を當し、高知高等小學校を卒業するや、若冠十六歳にして高知足袋醬油商店高橋庫吉商店に入り、爾來忠實熱誠、只管主家に忠節を抽んぜし處、其の聰明伶俐の資性と相俟ちて、入店僅か數星霜にして同店支配人の要席に拔擢せられ、而かも店主の懇望黙し難く、同家二女と華燭の典を擧ぐるに至れり。然るに其後店主の態度急變し、無斷氏を養子として入籍せる已ならず、恰も暴君巨下に臨むが如く專恣橫斷、事毎に氏の言行に容喙し爲に意思感情の阻隔を來たせし結果、茲に斷乎意を決して上阪し、郷黨の先輩帝國火災保險社長大谷順作氏に依頼し、同社社員として勤務すること暫時、其後歸郷して家庭問題を解決するや、捲土重來、新生の意氣に燃えて

大正五年六月の交、市内帝屋町に彼々たる一店舗を借受け、物品小賣商として業界雄飛のスタートを切れり。以來盤根錯節に遭遇するや、益々不撓不屈に一貫し、具さに世露風霜の苦酸を嘗めつゝも自奮自勵、克く着々として業礎を築き、殊に歐州大戰當時には果斷機敏にも、當時新聞紙上に權威的經濟記事の記載されざりしに鑑み、地元某通信社と新約締糸相場記事を賣込み、且つ市内一流大商店を好固の敵手として、一大活躍を顯現せる結果茲に俄然巨利を博して、斯界稀に見る風雲兒の稱を擅にせり。斯くて業績俄然發展するや直に將來の飛躍に備ふべく現店舗を買収し、或は縣下樞要地に支店を開設する等、目覺しき奮闘振りを顯はれし後、財界不況に沈倫するや、地方支店を廢し、全力を市内に傾倒して續々支店を設置、恰も天馬空を翔けるが如き勢威を以て、業界を席捲し去り、其後時代の要望に鑑み、野村デパートを創立し、更に斬新獨特の營業方針と、非凡の努力を以て拮据經營する處、業運一躍發展して今日に至れり。其間途次支店格たる大三百貨店及び丸新百貨店を設立し、縣下百貨店界に斷然君臨すると共に今や各店に於ける洋品部の充實振りたるや、其品種の多種多様なると良品廉價主義なる、正に顧客層の絶讚激賞の的たるを失はずして、業績益々顯著なり。是實に氏が

波瀾萬疊の半生を乗越えて七轉八起、遂に凱歌を奏せる刻苦力闘の賜に他ならず。資性醇厚篤實にして、半面烈々たる氣概を藏し、百戰練磨の卓腕家たると共に、崇高圓滿なる人格者として定評を有し居れり。

(住所 高知市新市町)

### 淡路屋 島 伊 三

抑々淡路屋は先代島市三氏が、明治三十三年正月に創業せる、書畫骨董並に諸道具商にして、今日既に四十年の店歴を誇示せる老舗なり。而して先代市三氏は堺の産、垂髫十二歳にして當時大阪市備後町所在の書畫骨董商針富舖に入店し、以來十有八年の格闘を遂げしが、氏の飄脱にして機敏なる性行は痛く主人を感服せしめて、其寵愛を一身に籠めたりき。三十歳にして奮然獨立の機熟し、卓抜なる識見と遠大の志望を抱きて、南區浪治町に於て斯業を創めたるが、既に深詣と超凡の蘊蓄を有し、加ふるに理財に長ぜる氏は、克く古豪同業者に伍して堂々の業陣を布き、以て致々營々店務に努力し、幾何もなく、同區長堀二丁目に移轉して業容を更に擴大し、繁昌亦繁昌、斯界を畏怖せしむ。更に大正十年に迫んで現所に移りて順調を辿り、昭和初葉の

交には東店を新設するに至りて威望噴々たりき。其間氏は終始薄利多賣を信條の下に力闘し、一面斯業界既往類に百出の弊費に顧み、或は同業が一部世人より屑々乎たる際物商的に觀せらるゝを憂ひ、公明正大、社會正義の規準に悖らず、店務の信用を増大すべく敢然として、陳列商品全般に亘りて札附を實行せり。斯くて來客に正直勉強店たる認識を深からしめ、逐次大業的にして入りよき店として好評を擧げらるゝに至れり。氏は陽春を賦する



島伊三氏

に早き、昭和十三年三月二十二日、六十八歳にして、光彩陸離たる手足痕跡を貽して中有的族に過ぎしが、家業は隆々として嗣子即ち現主伊三氏之を襲ふと共に家督を相続す。而かもその扶佐に聽敏たる令弟秀三郎氏あり。兄弟相共に嚴君在世中より斯業に携はりて造詣深く、繁榮倍稱、更に地方顧客の開拓に一層の努力を傾注しつゝありて、將來の發展を嚆矢とすること多大なり。因に伊三氏は濃厚篤實にして、其行藏嚴父

に勞翫し、一面茶道、華道に精進して既に師範の免許を有せりと。圓滿なる家庭には三代子夫人との間に、長男弘三君を擧げ家運編々榮えて、資業亦旺んたり。

(住所 大阪市南區玉屋町)

### 新望銅山株式會社

昭和六年勃發せる滿洲事變以來、颯爽我が鐵業界に登場せる新望銅山株式會社は、其の社名の示すが如く、現下未曾有の好況期に乗じて愈々新らたなる望みを抱き、既設事業の擴張及び新規事業の着手を斷行、以て生産力の擴充、天然資源開發の國策線上に勇躍發展し居れる斯界錚々たる新興有望會社なり。而して當社が天下に誇る優良鐵區は、熊本縣球摩郡深田村に所在し、元祿年間相良藩主の發見せるものと傳へられ、大正七年歐洲大戰末期に當りて、高田商會之が採掘經營を企畫し資本金百五十萬圓を投じて、掘鑿を開始せるも、戦後の世界的大恐慌に同商會崩解の悲運に遭遇せる爲、計畫亦た中絶廢棄の已むなきに及べり。然るに後年故園球磨男眼克く其の銅鐵埋藏量の豊富なる、將又品位優秀なるを知りて該鐵區を入手し、之を三井鐵山に勸續精勵する事二十年、同男の信認措く能はざ

りし稀觀の快男兒、元代議士前當社々長故貝谷眞次氏を起用して經營に當らしめたり。斯くて業績着々舉がるや、昭和九年四月、本格的經營に乗出して、資本金二十五萬圓を以て株式會社を設立、以來時局の反映を受けて躍進を果ねたる結果、屢次資本金を増額して二百萬圓に達したるも、更に業容の一大擴張を圖るべく、昭和十三年三月、一躍五百萬圓に増資を決定せり。斯くて従來採掘せる黃銅鐵、炭酸銅、黑鉛銅、酸化銅其他數種に加ふる、新規事業たる硫化鐵、滿俺鐵、及び耐火粘土等の開鑿増産に乘出し、更に熊本縣平澤津銅山及び其他有望銅山並に、銅鐵區等を買収、以て今や事變下業界の花形會社として、前途の一大飛躍を期待され居れり。因に深田鐵業所(面積百十萬坪)は交通至便の地に所在し産出各銅鐵の品質優秀なるは素より、殊に粘土狀鐵の如きは、往々純銅を含有し、品位八十パーセントを下らざる稀有の優良鐵なり。而して従前生産能力は日産五十噸なりしも、今次増資に伴ふ諸施設の擴張充實に依り、近々百乃至百五十噸に飛躍的增加を見るは、必然的結果ならん。尙ほ昭和十二年後期營業成績を概觀するに鐵業收入二十七萬六千圓餘、雜收入七百餘圓、合計二十七萬七千餘圓を擧げ、之に對する支出は本社總經費三萬五千五百圓、鐵業所總經費六萬五千五百圓、固定資産價

却金一萬二千圓、其他合計十二萬九千圓を計上し、差引當期利益金十四萬七千圓を收め、株主配當は年一割二分の好配當をなせり。次に重役陣容を形成するは取締役社長緒方謙吉、取締役山田重吉、同邊居誠一、同南波禮吉、同中山眞史、同貝谷和昭、監査役寺島成信、同原圭一等の諸氏なり。

(所在地 東京市麹町區丸之内郵船ビル内)

### 阪根商店支配人 山田 萬 治

世紀的新段階に立てる本邦金屬工業界に、獨自發刺たる業勢を持して、發展顯著なるを屈指せんか、即ち拉し來りて阪根金屬商工株式會社を擧ぐるに、毫も躊躇遠慮を感ぜざるべし。我が山田萬治氏は實に同社營業部副長の要職を占め、且社長阪根家支配人として同家關係事業會社に聲望比肩するなき、至實的人物たり。抑も氏は明治二十八年十二月十八日を以て産聲を揚げ、父君を萬治郎氏と呼び母君をハル女と稱す。而して幼時既に剛豪堅忍の英資發し、弱年十五歳にして敢然將來雄飛の天地を實業界に求め、先々代阪根武兵衛翁に全身を委ねて粉骨業務修得に精勵を果ぬること幾星霜、其の熱直聰明なる天性、或は不退轉の氣概を以て、夙に主君の信認を博

し、主家の二男武二郎氏と協力一致、克く業務發展を策して遺憾なく、而かも不斷に營業最前線に勇往、果敢なる活躍を擅にし、又は入りて牙籌を握らば神算鬼謀、商略斷じて同業者の匹倫を許さざりし處、令名燦然として同社内外に光輝を發するに至れり。即ち武二郎氏父名を襲ひて武兵衛を稱し、阪根武兵衛商店を首め、阪根伸銅所、阪根金屬商工等の社長として偉々噴々たるに至りしは、實に其陰に在りて至誠一貫、犬馬の勞を執り、或は無双の良佐として、獻策寄與せる山田氏の功勞甚大なるに因するものなり。斯くて昭和十三年六月三日、主人武兵衛氏惜くも年齒五十五才を以て病歿するゝや、同家支配人の大任を擔ひて家運盛衰の秘鍵を一手に握り、若冠二十八才の嗣子隆氏(金屬商工勤務)及び二男健三氏(住友電線勤務)の二氏を擁立指導して、益々主家興隆の實を擧ぐ可く獻身奉公し居れり。顧みるに過去三十有餘年、身命を主家に捧げて尊貴なる人生を辿り、以て愈々眞價を發揚するに及びし氏の如きこそ、寔に當代稀觀の忠勤者として、推稱嘆賞せずんばあらざる可らざる賢材の士たり。資性素より忠實熱誠、而かも圓滿玲瓏たる人格を備へ、年齒漸く不惑を越ゆる事四歳、蓋し其の前途を期待するゝ處愈々甚大なるも、寧ろ必然的趨勢と云ふべきなり。家庭には母堂健在にし

て孝養怠らず、一方富子夫人との間に、長男稔夫君、二男弘君、長女政子嬢を産して一家悦樂に満ち、尙ほ趣味とする園藝に造詣頗る深しと聞く。

(住所 大阪府南河内郡藤井寺町平岡)

### 努力請負業

## 樋口寅吉

氏は明治十一年四月十六日を以て、呱呱の聲を擧げ、幼にして剛毅潑刺、長じて青雲の志を抱くや、弱冠二十一歳にして奮然下關市に來たり、爾來船積荷請負業農村組配下に屬して、刻苦奮闘する事多年、斯くて貴重なる體験を得、且つ荷役改善に關する研究を積みて獨立自營の好機を把握するや、茲に奮然令兄末吉氏と協力して樋口組を創立せり。其後非凡縱横の手腕を遺憾なく發揮し、且つ斯業眞の發展興隆を企圖して拮据經營せる處、業績著々擧りて今日の大を築き、今や三菱倉庫株式會社門司支店の所屬運送及び努力請負業者として、信望愈々厚きを加へ、又船内荷役業者としては、大阪商船、北日本汽船、播陽商船、南洋海運其他外國航路就航船の船内荷役を一手に引受け、其の正確迅速なる業務遂行能力は、嶄然業界に一頭地を拔んじて誇示するに足るものあり、且つ年額貨物取扱

高實に百萬噸を突破する盛況を呈し、業運隆々たる事正に他の羨視の的たるを失はず。資性剛毅剛達にして烈々不退轉の意氣に燃え、斷乎初志を貫徹せずんば已まざる氣概を有する一面、多年世露風霜の苦酸を嘗め、頗る人情の機微を察して遺憾なき處、温情流露として恰も慈父の如き態度を以て全従業員に臨み威ありて猛からず、其の稜々たる任侠の義心は勞働大衆の崇敬追慕措く能はざる處なり。

即ち常に勞働者の利福増進を圖りて畫策奔走し、夙に門司勞働共濟會に關與して、昭和二年其の會長に推戴さるゝや、同業界一方の雄者市川文七氏等と相協力し、銳意勞働者の味方として就職斡旋、貧困者救済、無料宿泊所經營、慰安施設、或は勞働者溜所等の社會事業に挺身して功勞渺ならず、斯くて同會の事績顯然たる結果、昭和五年以來元節の佳節を卜して、宮内省及び内務省より御下賜金又は助成金を拜受するの光榮に浴し居れり。而かも他國國民體位向上の實踐躬行を策し、私費を投じて市内丸山校に野球チームを組織せしめ、又は門司少年野球聯盟を結成せしめて、少年健康の増進に寄與、献替せる功績たるや、眞に没す可らざるものあり。蓋し氏の如きを稱して篤行家と云ふも、敢て過言には非らざるべし。

因みに支配人白石芳重氏は、多年縣下警察

界に在りて重責を完遂し、其後現職に就くや獻身精勵、克く樋口氏を扶佐して益々業績を向上せしめつゝある卓腕家なり。

(住所 門司市丸山町一丁目)

(事務所 門司市東湊町海岸通)

### 茶道具書齋覽圖

## 戸田政之助

光輝燦たる古き傳統と、藉甚なる信用を顯はれ、關西美術骨董商界に儼然重きをなせる當店は、屋號を谷松屋と稱し、天保初年に創業せるものなり。而して居住地屈指の舊門豪商たる當家は、當時業祖戸田權兵衛巨萬の資財を擲して、之を諸大名武家に貸付け、豪勢近隣に比肩するもなく、後歲年齒四十有歲にして家業を實弟に譲渡し、悠々閑日月の餘生を送り居りしが、偶々明治維新の變革に際して諸資金回收不能に陥り、茲に驟然奮起せる鴻池家勤務中の中興の祖徳兵衛氏は、現所に地を相して再び茶道具商を開業、爾來家運挽回の烈々たる圖志と、非凡の商才を以て活躍目覺しき處、鴻池家の援助と相俟ちて、業績頗る擧り茲に萬代不搖の基礎を確立せり。斯くて先代家業を繼承するや、益々業運を伸張せしめて、鞏固不拔の信用を贏ち得、更に大阪美術俱樂部創設の議起るや、東奔西走、能

く目的達成に貢献し、其他業界の進歩發展を圖りて功勞多大なりき。即ち該俱樂部監査役の重職に推され、本邦美術界に令名噴々たりしも、惜しくも大正十年幽明界を異にされたり。而して其の偉業は、生前社會事業に献身盡瘁せる功績と共に、同業者間には素より近隣民衆の瞻仰措く能はざりし處にして、死後尙ほ遺徳を追慕敬仰されたり。我が戸田政之助は實に其の後繼者にして、明治二十七年九月十六日の出生、夙に父業に従事して銳意業務修得に精進し、家業繼承後幾何もなく、從來の個人經營を合名會社に變更し、業容の整備擴充を斷行すると同時に、新時代的積極營業方針に乗せり。時に大正十一年にして、以來業運の躍進顯著を加へ、更に同十三年には大阪隨一の繁華街心齋橋北詰に新店舗を開設之を松花屋と稱して、新書畫をも取扱ひ、洽く江湖の絶讃禮に今日に至り、今や業界錚々の大業者として、恰も巨星の燦たるが如き存在を示し居れり。而して其の間昭和五年三月二十七日、大宮御所秋泉の茶室用具御用を蒙り、其の勞に依り内匠頭男爵東久世秀雄閣下より謝狀を賜るの光榮に浴せし事あり。蓋し家門末代迄の名譽と云ふ可く、令名斯界に冠たるも寧ろ當然の歸趨に屬するものなり。資性濃厚篤實にして人格高尚、趣味に諧曲、俳句を好み、秋仙と號して藝名斯界に噴々た

り。以て其の風雅なる風采の一端窺知するを得可く、又他面常に公共の福祉増進に献替して功勞渺ならずの士なり。因みに家庭にはトク子夫人及び三令嬢ありて一家團樂たること、附近評判の的なり。

(住所 大阪府東區伏見町四ノ三七)

### 八幡市長

## 圖師兼貳

資性清廉剛達にして公明正大、恭儉身を持つて博愛衆に及ぼし、而かも全國屈指の難治市、鐵都八幡の六代目市長たる重責を擔ひ、獻身奉公、能く巨腕を發揮して遺憾なく、市勢の發展膨脹を圖り、其の功績隆々たる從五位勳五等圖師兼貳氏の如きは、蓋し現下非常時必須の名市長と推稱す可きなり。氏は宮崎縣東臼杵郡を播磨の地として明治十年七月十日に出生、夙に官界に志を懐くこと厚く、同三十三年明治法律學校を卒業するや、翌年高等文官試験に登臺、直ちに農商務省屬となり林務官を拜命し以來熊本、高知、青森各大林區を経て、東京大林區林務課長に昇進、常に精勵恪勤、而かも天賦の敏才卓腕を揮ひて、職務を完遂し、令名省内に噴々たりしも、大正九年官を辭して閑地に就き、其後暫時悠々閑閑の生活裡に天下の大勢を靜觀し居れり。

然るに其の識見抱負の絶倫なる、更に人格手腕の卓越せる處、昭和三年六月二十一日を以て八幡市長に推薦され、翌七年再選、同十一年六月三選せられて今日に及べり。天性剛腹にして明朗、而かも常に時代の眞髓に徹せる識見理想に燃えて、一路市勢發展に邁進せる當市隨一の大立物たるは勿論、其の市會統御或は吏員統帥に表現する恰も快刀亂麻を斷つが如き手腕の冴えは、歴代市長に素より人材渺なからざりしと雖も、比肩する者稀有にして、内政に明徹せると共に、外交手腕亦た頗る縱横、殊に全國に冠たる勞働都市として、新興無産黨勢力と、既成政黨の軋轢磨擦甚を極むる當市に在りて、之を克く融合調和せしめ、大衆的國家的見地に立脚して指導、統制、以て大八幡市の劃期的明朗市政を樹立せるは、正に斷然誇るに足る可き偉功たるを失はず。而して黒崎町合併を實現せるを手初めに、折尾、上津兩町村の併合工作に成功し、或は小學校増築、山手線貫通道路の完成、大塚場、藤井場、市營墓地等の改新設を逐次達成、特に會て八幡製鐵所民營問題の議起りし時、市會、製鐵所に業稅問題を回りに對立、其の形勢頗る險惡化する際、敢然奮起して盤旋調停に乗出し、見事該問題を圓滿解決せしめし已ならず、實に同製鐵所をして官營時代に徹する業績を擧げさしめ、鐵都八幡の眞



面目を全國に高揚せるは、當時二十八萬市民の嘆賞讃揚はさざりし處なりき。是實に氏の非凡の人材なるを如實に立證するものと云ふ可く、蓋し愛市觀念強烈なる名市長として全市民の崇敬瞻仰を蒙り、又た縣廳其他の信認大なるも當然の歸結と云へん。斯くて其後更に上水道、下水道の大事業を起し、失業者救済公營事業として完成せしめたる等、近代都市八幡の樹立たる文化建設に寄與貢獻せる功績枚擧げに遑なきなり。

(住所 福岡縣 八幡市)

株式会社亞細亞貿易商會社長  
**大 槻 勝 弘**

國家興隆の大局的見地に立脚し、國富増進を圖らんには、須らく對外的に接觸して貿易業を營むに如くはなし、我が大槻勝弘氏は即ち此高邁なる識見を把持し、夙に海外雄飛の霸氣に燃えて、驚天動地の活躍を恣にする事多年、即ち其努力奮闘の結晶として、今や株式会社亞細亞貿易商會を主宰經營し、本邦貿易界に異彩赫々たるを顯はるゝ稀觀の快男子なり。氏は丹後宮津町の出身、明治十九年三月十日を以て大槻熊吉氏五男に生れ、幼に於て聰明伶俐、且つ頗る進取敢爲の氣象に富み年少早くも奮勃たる大志を抱きて、神戸に出

で、以來獨逸人經營に拘るニツケル商會に於て業務見習に精勵する事幾星霜、其後商機の妙諦を充分に把握し、獨立自營の好機至るや茲に敢然獨領スマトラに渡航し雜貨輸入商を營みて、遂年隆昌繁榮を極むるに至れり。斯くて明治四十年、事業の一大擴張を圖りて亞細亞貿易商會を創立、其社長に就任し、爾來多年に亘りて砥礪琢磨せる巨腕敏才を遺憾なく揮ひ、且つ日本男兒の眞面目を發揮して



大 槻 勝 弘 氏

縦横無盡の大活躍を展開する處業運益々好調の一途を辿り、ジャヴァ、スラヴァヤ其他樞要地に支店を設けて、斷然業界に一王國を形成するに及びべり。而して昭和十一年八月、海外飛躍實に三十星霜に亘る光輝燦たる成功者として歸朝し、翌十二年日支事變勃發するや、神戸に出張所を設け、慧眼克く鐵材鐵礦の必然的趨勢なるを洞察、即ちジャヴァに於ける製糖會社閉鎖に依る古鐵材を輸入し、之を住友を首め其他數社に納入、以て軍需資材供給の一部門

に銳意努力を傾倒し居れるも、其胸底に烈々たる愛國心の然らしむる處、毫も私利私慾を圖る事なく、専心報國の實踐道に勇往邁進し其崇高なる心情は業界人の齊しく賞讃尊敬の的たらざるはなし。蓋し氏の如きこそ眞に貿易業界の模範的人物と稱すべきならん。

(神戸出張所 葦合區磯部通四丁目)

土木建築請負業  
**安 井 寅 次 郎**

鐵は其灼熱したる時機に於て打たざれば、屈伸自在なる事能はず。即ち時を失し熱の冷えたる時に當りては、如何に強重なる槌を以てするも、之を如何とも爲すを得ず。吾人の世に處するに於ても、亦斯の如きか。夫れ最良と信じたる機會に、自己の全能力を發揮する事に努むれば、其抱負を貫徹し事功を擧ぐるに至る。我が安井寅次郎氏は確乎たる自立精神の持主、而かも超凡の才幹に加ふる、常に素志の堅固用意の周到なるものあり、且つ慧眼以て能く業務の伸張發達を圖る處、其不撓不屈の努力と相俟ちて、今や中京土木建築請負業界に斷然君臨し居れるも、蓋し當然の歸趨なりと稱す可きにあらざるや。氏は當市安井百太郎氏長男として、明治二十五年十二月十五日に産聲を發し、幼にして俊敏穎悟、

其將來を嚮望するゝ事深甚なりき。斯くて長ずるや、男子畢生の事業として現業に大志を懷き、多年斯界の雄杉浦組に在りて、業務見習に粉骨砕身せる結果、遂に斯業經營の眞骨頂を得るに至れり。即ち大正二年敢然獨立創業、茲に安井組を起し、以來眞摯熱誠業務執行に當りて寧日なく、或は經營に、或は現場監督に、天賦の英才卓腕と豊富多彩なる經驗を以て臨む處、其施工能力の迅速にして正確、而かも巧妙にして能く近代斯業の粹を執りて遺憾なく、名實共に中京斯業界の俊傑として信望噴然たるに及びべり。而して最近大同製鋼、金城鑿岩機、日本車輛等軍需工業界の花形會社工事を請負ひ、驚異的施工能力を發揮するや其名更に加はり、今や業運隆々たる安井組總帥たる一方、更に其人物手腕の非凡なる、將又識見高邁なるを以て衆望翕然として鐘り、夙に名古屋土木建築請負業組合副組長の要職に推されて現任し、至誠一貫、只管組合事務の總攬、或は同業者の親睦融和を圖りて貢獻寄與する處甚大、殊に事務的手腕の卓抜なるは到底他の企及し得ざるものあり。資性剛毅剛達にして、烈々たる霸氣に富み、而かも一面温情流露として社交的能度頗る洗練され居れり。たま子夫人との間、弘君(大正十三年生)を産して一家和氣に満つ。

(住所 名古屋市昭和區道徳新町一丁目)

梶 又 組  
**梶 又 力 藏**

一業を達成するは熱誠努力の結晶にして、將又強固なる意志の賜なり。即ち「至誠努力は成功の母」とは千古不滅の金言と稱すべきか。我が梶又力藏氏は多年に亘りて、此熱誠努力に一貫し、今や北九州屈指の貿易港、門司を中心とせる努力請負業界に斷然重きを置はるゝ已ならず、出でては市政に參與して功勞多からず、以て警望隆々たる斯界の第一人者なり。氏は明治二十一年八月五日を以て福岡縣築上郡黒土村に呱呱の聲を擧げ、夙に堅忍不拔確固たる意志を抱き、而かも進取の氣象勃然たりし處、若冠二十一歳にして奮然來門し、直に船舶荷物積込業界に入りて一介の沖仲士となれり。爾來不撓不屈、凡ゆる苦酸を嘗めつゝも、只管向上の一途を邁進し、其人格の高邁なる、手腕の卓抜なる、實に多數同僚間に巍然群を抜き傑出、前途の大業を嚮望するゝ事甚大なりき。即ち斯界に身を投じて僅か四星霜、年齒二十五歳に至るや早くも敢然獨力を以て努力請負業を開始し、而かも着々業運を膨脹せしめたる結果、當時業界人齊しく、其縱横無盡の飛躍振に驚愕嘆賞の聲を放たざるはなかりしと聞く。以來同

業者或は労働者に信望隆々として高まり、其主宰經營する梶又組の業態、年と共に發展を果ね、遂に克く今日の偉容を形成するに至りしも、其間に於ける氏の苦闘血涙の奮闘振りたるや、實に筆舌の能く盡し難き處にして、一度其實際を知らんか、何人も感奮興起の念に驅られざるものはあるまじ。斯くて業成り名を遂ぐるや、更に一身を投じて市政發展に獻替し、現に門司市會議員の要職に在りて至誠一貫、烈々たる愛市の赤心を披瀝しつつ、只管市民の利福増進、市勢の發展躍進を圖りて間然する處なく、且つ市會既成陣營に一大警鐘を與ふる、重大なる役割を演じ居れる處、其人格識見の非凡なる、或は衆望多大なるを以て、將來の動向は注目的たらざるはなし。因に梶又組は單に當門司市に止らず若松、八幡兩市に出張所を設け、北九州に於ける業界の一大勢力たり。尙ほ氏は資性豪放闊達にして小事に拘泥せず、常に大局を把握して悠容瀟灑の貫祿を示し、一面頗る人情味に富みて、任俠義血の士として世人の畏敬を受け、而かも斗酒猶ほ辭せざる酒豪と聞く。

(住所 門司市末廣町一丁目)

實業家  
**西 山 龜 七**

其の人格手腕に於て卓越し、而かも抱負經

給あり、兼めるに實際的手腕ありて、信仰心之に伴はば、先づ人物として萬全の資格を備ふるものと云ふ可きなり。現在西山合名會社を主宰經營し、多額納税者の榮譽を擔ひて、錚々たる名聲を擧げられたる、我が西山龜七氏の如きは、正に斯る人物として擧ぐるに相應しき偉材の士なり。併かも榮光燦たる今日の成功を獲得せる道程に於て、不撓不屈凡ゆる苦難を突破して、一路邁進せる立志奮闘傳中の人物たるに至りては、著し世の勳鑑として推獎敬惜能はざるものあり。氏は明治十五年五月五日を以て呱呱の聲を擧げ、幼にして英悟、頗る細心周密の資質を有し、且つ實業界飛躍の青志を藏して、銳意目的達成に邁進する事多年、斯くて著々業界に地歩を築くや、更に驥足を遺憾なく伸ばして、震天動地の大活躍を展開し、今や前記西山合名會社代表社員たる外、高知新聞副社長、高知鐵道副社長、土佐セメント取締役、合資會社四國モーターズ代表社員、或は高知商業會議所副會頭、高知穀物同業組合長等の要職を占め、縣下商工業の進展發達を圖りて、功績多大なるものあり。蓋し、縣下屈指の大實業家として信望猶甚なるを窺知するに難事たらざる可し。資性重厚篤實にして勤勉實直の稱高く、殊に熱烈なる基督教信者にして、單に自己修養に精進する已ならず、洽く接する者に神の

福音を説き、或は業世の利輪増進を計りて實踐躬行する邊り、正に機轉的精神旺盛なる當代稀觀の徳望家と云ふべきなり。因に縣下安藝郡は土佐實業家の播磨灘最の地とも譽ふべく、現に斯界の大御所野村茂久馬氏及び我が西山龜七氏の輩出せるあり、其他群小事業家に至りては枚擧に遑なき程にして、而かも性格相反するが如き兩雄相提携して、一意實業報國の大道に邁進し居れるは、寔に該郡郷黨の斷然他に誇るべき處たり。

### 棉花商 畑山市藏

創業日尙ほ淺きにも拘らず、關西棉花商界に扶殖せる絶大の信望と、豊富なる經驗を以て異彩赫々たる發展を展示し、將來の一大飛躍を期待され居るを、我が畑山市藏氏とす。氏は明治二十五年十月三十日を以て、當市南區に産聲を發し、同四十二年二月斯界の權威芝棉行に入りて勤続する事實に二十有五年、其間粒々辛苦、凡ゆる試練を克服して只管業務に精勵努力する處、遂次天賦の材幹を認められ、支配人或は取締役の要職に就任するに至れり。斯くて漸次斯界に頭角を現はすや、益々自強自勵に終始して卓腕を遺憾なく揮ひ、



畑山市藏氏

同行業運に驚異的發展を招來せしむる一方、常に斯業の進歩發展を圖りて、畫策奔走する事多大なるものありき。即ち其功績顯著なるを以て、同業組合又は大阪市より業者の模範として數度表彰せられ、名實共に斯界稀に見る逸材として令名愈々高きを加へり。然るに其後昭和六年九月に至るや、芝棉行經營者死去せるに遭ひ、茲に一時同社解散の餘儀なきに及びし爲、同年十一月奮然獨立自營の端を發し、現所に地を相して店舗を構え、爾來誠實主義を奉じて而かも機略縱橫、能く業界の動向推移を察知して、合理的經營に邁進せる結果、業績着々舉りて堅固不動の業礎を築き更に裁然他社に優越せる、特色を發揮しつゝ、遂に今日の隆榮繁盛を齎らせる、努力奮闘傳中の人物なり。資性濃厚篤實にして、而かも不撓精勵、初志を貫徹せずんば已まざる氣概に滿ち、且つ崇高玲瓏たる人格と、高邁非凡なる識見を有し、其高推純直なる風格は正

に以て他の範するに足るものあり。現に畑山商店主たる以外、日本棉花同業會、紡績綿商組合各役員に推され、他面西區各公私團體の役人として寄與貢獻する處頗る多し。尙ほ氏の主宰經營に係る畑山商店は、西區土佐堀通一丁目に營業所を設け、亞米利加、印度、北支其他各國棉産地より棉花を輸入、之を内地各紡績會社に販賣して、信用藉甚なるものあり。是實に取引銀行たる第一銀行同地支店の絶對的保證する處なり。

(住所 大阪府泉北郡濱寺町下九一三)

### 荻勸商店主 古屋勸五郎

西日本水産界の明星、荻勸商店主業者として偉名風に業界に洽く、其卓犖不羈の手腕を顯はるゝ我が古屋勸五郎氏の如きは、正に當代立志傳中の一頁を飾るに、相應しき人物と推獎すべきなり。即ち氏は明治十二年三月六日を以て、山口縣萩市濱崎町に呱呱の聲を擧げ、若冠十二歳にして凌雲の志を抱き、敢然朝鮮に渡りて刻苦奮闘する事五星期、其間同地某鮮魚問屋の一店員となり、或は貿易商に従事して具さに世黨風霜の苦酸を嘗め、茲に將來雄飛の基地を造り、其後母君逝去の報

に接して郷里萩市に歸省し、銳意家業に従事し居りしも、偶々日清戰爭勃發するや勇躍志願して朝鮮語通譯を拜命、平城に滞在して敵身勤務中、不幸病魔の冒す處となりて内地に歸還し、以來再び家業に精勵努力を傾けたるも、若輩未だ十九歳の折、父君長逝の悲運に遭遇せる爲、茲に奮然曠起して同市に鮮魚海産物販賣及び運送業を開始し、弟妹多數を養ひて人生苦難の道に再出發せり。斯くて一度獨立營業の衝に立つや、不撓不屈、凡ゆる障礙難關を突破して著々業礎を築き、其後星霜を開する事、僅々十有餘年にして、早くも數萬の財を成し、青年卓腕家古屋の盛名を業界に顯はれたり。而して堅固不動の業礎を確立し、斯界錚々たる氣鋭逸材の士として、前途に多大の囑望を抱かるゝや、更に奮勵勇往常に積極的經營方針に一貫し、其後市内某同業者と共同經營にて、日本漁業株式會社を設立して同社販賣部長の重責を擔ひ、卓腕を縱横に發揮すると共に、霸氣勃々として未だ黎明期を脱せざりし遠洋漁業に進出せり。時に明治四十二年、氏の年齒三十歳の頃なりき。其後下關水産株式會社仲買人として、第一線に雄飛發展を顯現し、業勢侮り難きものありしが、天の試練再三下り、其積極的營業方針に破綻を來たして、十萬圓の負債を擔ふに及べり。されど堅忍不拔、捲土重來の意氣凛然と

して、益々孜孜經營に一貫し、而かも合理的經營法を以て邁進せし結果、大正八年には全負債を返済し、以來飛躍的發展を顯現して、多年に亘る努力健闘の成果、茲に見事美果を結び、今や資本金五十萬圓、年商内高百萬圓を突破する大荻勸商店主として、信望藉甚を極め、而かも昭和四年以來、下關市會議員の要職に推され、事三回、常に市政發達に對する大理想に燃え、正義熱血、克く市民の利福増進を圖り、殊に市會隨一の水産通として、斯業の發展進歩に貢獻寄與する處甚大、更に昭和六年には縣會議員に當選し、現に參事會員を兼ねて令名益々光輝を發し居れり。蓋し業界の先覺者として、衆庶の尊敬信服措く能はざるも當然の歸趨と云ふべきなり。

(住所 下關市伊崎町八四)

### 美術骨董商 安井彌三郎

古陶器、書畫、骨董等を鑒定して、關西同業界に独自の業陣を張り、其の取扱賣買に拘る品目に、稀代の大物珍品の多きを以て好評噴々たる已ならず、雅味溢るゝが如き店名を掲げて、夙に全國名家間に愛顧絶讃を博するものに合名會社安井彌好山房の輝やける存在あり。我が安井彌三郎氏は、實に同店の代表社

員にして、將又斯界の大家を以て囑る人格者なり。氏は大阪府安井安吉氏の長男、明治十年十二月十一日に呱呱の聲を擧げ、夙に學業を卒へるや、生來藝術的才操に富み、且つ古美術品に深甚なる興趣を抱ける處、幾多研鑽修業を累ねたる後、獨立自營の確信を把握するや、同四十年を以て、大連に古美術商安井商店を開業せり。以來専ら支那及び朝鮮の古陶器賣買に主力を注ぎ、東奔西走、能く稀有の逸品蒐集に成功して、俄然名聲を擧げ、而かも其の神謀鬼略の商才、到底尋常商人の追隨を許さず、常に異數の業績を擧げし結果、店運隆々發展して着々大を築き、其後大正十一年に及ぶや、全國斯業の本場たる大阪市に店舗を移轉、爰に愈々業界幾多の大豪新銳に伍して、角逐戦を演ずるに至れり。斯くて多年苦心を傾倒、以て入手せる鮮支金器時代、或は石器時代の古陶器を供して、銳意拮据經營する處、信用第一主義の營業方針と相俟ちて斬然頭角を抽んずるに及び、發展亦發展、昭和九年には業容の擴充を圖りて、合名會社を組織し、其後益々好調盛運を辿りて今日に及び。而して其間所有物品中、重要美術品の指定を受けたるもの尠ならず、今や業界屈指の大商店として、巍然特異の光彩を放ち居れり。資性醇厚誠實にして圓滿崇高なる人格は、正に典型的神商たるに相應しく

而かも旺盛熾烈なる美術品研究心に燃え、其の靈識眼の非凡なるは驚嘆讚賞に値するものあり。趣味を美術品研究及び旅行に有し、一面社會公共に奉じて、毫も倦怠せざる篤行家なり。蓋し信望愈々厚きを加へ、業庶の尊敬信賴措く能はざるも當然なりと云へん。家庭にはつね子夫人ありて賢夫人の譽れ高く、其間長男彌太郎氏、二男昌次郎氏を擧げ、前者は東京帝大法科出身にして、新進氣鋭の逸材たり。又後者は大倉高商出身にして、現に暴支膺懲の聖戰に従軍、赫々たる武勳を樹てつゝあり。

(住所 大阪市東區平野町四丁目)

宇治山田市會議員

### 岡村 耕 二

深甚なる造詣と卓抜なる識見を、縦横に發揮し、神都宇治山田市政壇上に侃諤の論陣を進めて、英委颯爽たる我が岡村耕二氏は、常に時代の眞髓に徹せる所論と、自治發達に對する理想に燃えて、一路邁進する市會屈指の偉材、資性剛毅調達にして、而かも一面典雅の味を失はず、人に接するや儼然として犯し難き裡にも春風融蕩たる感あるは、蓋し其の崇高廉潔なる人格の然らしむる處か、自ら敬仰の念に打たれざるはなし。寔に氏の如き人



氏二耕村岡

事に在職し至公至平、且つ精勵格働して非凡の手腕を顯はれ、前途の大成を囑目さるゝ事甚厚なりき。然るに該職實務を體驗之れに精通するや、多年官界に奉職するの意志毫も無く、驟然後進に進路を開きて辭職し、茲に郷里に歸還、昭和二年を以て辯護士業を開始せり。斯くて正義人道の守護者を以て任じ、權利擁護の大道に沿ひて、熱誠職務に奮腕を揮ふ處、其の壯快流暢恰も立板に水を流すが如き辯舌と、一片情味を加へたる法理の徹底せ

るとは相俟ち、忽然斯界の一大巨星として、偉名赫然たるに及び。以來星霜を閱するこゝと幾星霜、信望愈々高まりて業庶の尊敬仰仰の的となり、其間市會議員選舉戦に出馬するや、見事當選の榮冠を擔ひ、而かも議長の權椅に推されて、斷然市會に君臨するに至れり。今や市政發達に寄與せる功績眞に顯著なるものあり。且つ辯護士として縣内民事刑事事件の大半を處理し、聲望隆賑たる事容易に他の企及し難き處にして、市民有識階級の齊しく第二世濱田を以て推稱する所以たり。

(住所 三重縣宇治山田市)

### 神邦鑛業株式會社

事變下國防資材の必須品として、需要旺盛なるクロム鑛石の採掘精煉に當り、政府の獎勵指導下に業績顯然たるを神邦鑛業株式會社とす。抑も當社は昭和十年十月二十四日、資本金十萬圓(全額拂込済)を以て設立せられ、本社を名古屋市中、營業所を東京市京橋區銀座八丁目、更に出張所を北海道石狩國上川郡神樂村に設け、鑛業地は出張所所在地及び空知郡音江村(石鑛)に有して、其鑛區面積約二百萬坪、又砂鑛及契約鑛區約三百萬坪を擁し居れり。而して鑛石品位は本邦は素

より、世界に於ても、未だ嘗て採掘されし事なき六〇パーセント以上を含有し、當初之が儼然たる事實に疑念を抱きし者多かりし爲、當社に於ては分析の確實を期すべく、札幌鑛山監督局及び、名古屋大同電氣製鋼所に其の分析を依頼し、茲に六七パーセント三二乃至六七パーセント七四たる驚異的好結果を得たり。是實に世界的最優秀鑛石にして、之が産出を見たるは、單に當鑛山の名譽たる己ならず、實に邦家の爲欣快に堪えざる所たり。斯くて優秀品位の鑛石採掘せらるゝや、札幌鑛山監督局技師出張來たりて、三日間鑛山、坑内外を具に調査せる結果、當鑛の確實性を承認し、准重要鑛區の認定を受けるに至り、其後更に商工省鑛山局より、伊藤技師一行入山調査し、次で監督局技師の再調査及び鑛區測量等ありて、茲に愈々其の鑛石の高品位と埋藏量豊富なるを立證せられ、本道内即ち本邦第一のクロム鑛山なりと推賞、即時重要鑛區となれり。爾來新道路開鑿、或は諸施設備完備等を圖りて、着々規模内容の充實擴張に努め、今や開坑以來年月淺しと雖も、逐次採掘量多額に及び、道内錚々たる同業鑛山を凌駕しつゝあり。而かも諸施設完成及び人員増加の曉には、正に業界の最高位を占むるものとして設備の熟備措かざる處なり。因に第四期(自昭和十二年四月一日、至昭和十三年

三月三十一日)營業概況を大觀すれば、國策に順應して資源開發に努力せんと、隣接鑛區の買収、有望鑛山たる旭山鑛山の委託經營を引受ける等、極力採掘採掘に努力したるも、未だ本格的採掘量を得ざりし爲、期末決算に於ては總資産二十八萬六千九百九十九圓餘、總利益六萬九千八百八十五圓餘、總損出四萬五千五百三十六圓餘を算し、之が差引純利益四百三十三圓餘を得たるに過ぎざりしも、前述せるが如く本社の眞面目を發揮するは、一に向後にありと云ふべし。因に重役陣容を組織するは取締役社長菊元繁雄、取締役青木正明、同小川善志、同谷島松次、監査役宗本利市等の諸氏にして何れも斯業に深詣を有し居れり。

### 社長 菊元 繁雄

氏は岡山縣久米郡龍山村の出身、夙に鑛山業に興味を抱き、各地鑛山を跋渉踏査する事二十餘年、就中北海道に於ては其足跡の到らざる處なく、遂に最高位クロム鑛石埋藏鑛たる神樂鑛山を發見し以來専心國策的資産開發に渾身の努力を傾注して着々業績を擧げ居れる斯界の俊魁たり。

(所在地 名古屋市中區新榮町三丁目)

### 株式 坂田 作治郎 商店

單に關西美術骨董商界の一流大商店たる已

ならず、實に本邦美術界の曉星として盛大隆  
賑なる業運を謳はるゝを株式会社坂田作治郎  
商店とす。抑も當店は其名稱の示すが如く、  
坂田作治郎氏の主宰經營に係り、昭和八年十  
二月、資本金二十萬圓を以て設立されたるも  
のにして、株式會社としての業歴敢て古から  
ざるも、其創業は夙に社長坂田氏の獨立經營  
せる個人商店に發し、爾來堅實なる營業方針  
と經營者の奇才卓抜なるは相俟ちて、着々業  
運を躍進發展せしめ、斷然牢固不拔の信用を  
贏ち得るに至り、更に前述昭和八年組織を改  
め、内容規模の一大擴張を斷行するや、業績  
愈々顯然として擧り、遂に今日見るが如き繁  
榮を呈するに至れるなり。而して其店舗は大  
阪市屈指の大商店街、東區高麗橋二丁目に所  
在して、店內常に稀品名什豐富に陳列せられ  
絢爛多彩の景況は、蓋し觀覽者の驚嘆瞠目の  
的たらざるはなし、而かも信望隆々として業  
界に洽きは勿論、更に名門大家間に絶大なる  
愛顧を蒙り、商況の活氣横溢せる事、斷然他  
店の追隨し得ざるものあり。殊に嘗て昭和四  
年六月及び同七年十一月の兩度に亘り、聖上  
陛下大阪に行幸あらせられし御御覽も御座  
所に於て茶器、道具類を天寶に供し奉り、或  
は昭和五年三月以來三回に及びて青山、大宮  
御所に御催しあらせられし、御茶席御用とし  
て、茶器道具類調達の御用を賜る等、家門永

代の名譽たる無上の光榮に浴せり。是實に當  
店が斯界の一大權威として、儼然下らざる實  
勢力を有する證左と云ふべきならん。因に重  
役陣を組織するは社長以下、坂田てい、坂田  
保、土居慶太郎、生島房次等の諸氏なり。

**社長 坂田作治郎** 氏は大阪府人同姓幅  
之助氏の令弟として明治五年十月に生れ、同  
十九年分家して一家を創立せり。而して夙に  
業界に身を投じて鏗骨研鑽する事多年、其後  
奮然獨立創業するや不撓不屈、益々賦稟の才  
幹を發揮して拮据經營する處、業運頓に擧り  
て發展又發展、遂に今日の盛運を把握するに  
至れり。資性濃厚篤實にして人格頗る高潔、  
而かも常識交際の圓滿なるは素より、特に美  
術品鑑定に現はす眼力の正鵠透徹せるは、斯  
界に人材多しと雖も、容易に比肩するものな  
し。因に家庭は精練の令妻といふ夫人ありて内  
助の功頗る多く、其間長女榮子嬢を擧げて養  
子慎三郎氏を迎へ、令孫悅郎、安佐、弘の三  
君を擁して一家和風踴躍たり。

(所在地 大阪市高麗橋二丁目)

**尾州高顯寺**

中京有數の名刹として、四時參堂者の跡を

臺せんか、恰も福樂淨土に遊ぶの感あらしめ  
尙ほ寺實に千手觀音菩薩像、十六羅漢木像、  
觀世音畫像、黃檗千駄の書其他を藏し、何れ  
も稀代の珍寶たるは論を俟たず。

**株式 上田商店**

**住職 山田実風** 縣下佛教界稀觀の名  
僧たる己ならず、曹洞宗門屈指の重鎮として  
法名赫奕たる師は、明治九年一月十五日を以  
て名古屋市中區近藤甚太郎翁長男に生れ、幼  
少七歳にして慈母を失ひ、當寺前住石川禪子  
に就きて佛門に入る。以來研鑽精進、只管佛  
典を修め、同十八年大本山總持寺上棟仙師  
に隨伴して參宮十年、更に大阪藤澤南岳の門  
下に漢籍を學び、或は曹洞宗大學、中央大學  
等に研學の功を積めり。其間同三十一年當山  
住職に就任し、其後昭和二年管長代理、同四  
年曹洞宗特選議員に擧げられ、同十二年には  
縣下正眼寺住職を兼任、又た翌十三年四月管  
長代理として、朝鮮軍慰問の爲渡鮮支し、其  
他夙に全國を巡錫、懇篤なる教化を垂れて佛  
陀の慈悲眞境を説き、名實共に衆庶渴仰の的  
たる高僧智識なり。蓋し現下曠古の非常時局  
に際會し、國民思想の益々清純を要望する、  
の時、師の如き宗教界の大人物ありて、献身  
克く本來の大使命遂行に邁進し居れるは、邦  
家の爲め洵に慶賀すべき處たり。

(所在地 名古屋市中區下日置町)

紙業王國土佐の一偉觀として、豪壯雄大な  
る業容を謳はれ、儼然斯界に重きをなせる株  
式會社上田商店は、今や傳統燦たる古き歴史  
に加ふる、製造販賣品の優秀確實なる、或は  
販路の廣汎多岐なるを相俟ちて、眞に目覺し  
き躍進發展を遂げ、内外需要界に信望諸甚な  
るものあり。茲に其の創業を顧みるに慶應年  
間に發し、當初は微々たる一個人商店に過ぎ  
ざりしも、業祖多年に亘る努力奮闘見事功を  
奏し、業績着々伸張するや、明治三十年組織  
を合名會社に改め、次で同三十三年高知支店  
を開設、更に其後順風滿帆裡に業運躍進せる  
結果、大正六年資本金五十萬圓を以て株式會  
社に改組せり。斯くて傳統的堅實なる營業方  
針に一貫、益々舉社協力一致して社業遂次に  
奮勵する處、時代の進歩發展に伴ひて遂に今  
日の盛大を獲得するに及べり。現在當地所在  
の工場は最新式優秀機械多數整備せられ、其  
他諸施設の完全なると共に、理想的工場の稱  
あり、而かも擁する従業員何れも熟練卓抜な  
る技能を有し、其の製造販賣に拘る半紙、學  
童紙、巻紙、半切紙、仙花、煎子紙、改良紙  
インキ止薄用紙、骨皮紙、電話絶縁紙、帽體

絶たざる高顯寺は、其縁起を稽ふるに石山和  
尙の開基創草に係り、當初寺號を東輪寺と稱  
したり。後黃檗宗千駄の法弟大林和尚當寺を  
董するに膺り、天和二年壬戌十二月土工を起  
して伽藍を建立し、那非禪師を請して開山と  
す。其後幾何もなく和尚志水氏の懇請に應  
じ大高の長藤寺に轉任せる爲、適當の後任な  
く遂に無住寺となれり。斯くて貞享三年瑞龍  
院殿萬松寺に於て、慈母高原院殿の五十回忌  
法要を修し、尙ほ追善供養の爲、無住寺たる  
當寺を再興、境内若干を寄進し、高原院殿を  
開基となせり。時に萬松寺住職たりし巴室、  
祖少禪師を開山として、尙ほ高原院殿の紀州  
淺野家より、尾張公に御婚嫁せるに當り、其  
所持せられたる護持佛千手觀音菩薩像を當山  
本尊佛に寄附して曹洞宗所屬寺たらしむ。此  
に於て黃檗千駄和尚之を遺憾となし、寺社本  
行に對して黃檗宗復舊を出願せられし爲、瑞  
龍院殿其願を許容し、直に隣村古渡の郷に當  
山境内に準じたる地を賜れり。千駄和尚即ち  
該地に伽藍堂塔を建立、江外和尚を住持たらし  
む。是れ現今古渡の東輪寺なり。而して當  
時人呼びて當山を古東輪寺と云ひ、古渡所在  
寺を新東輪寺と稱したり。其後元祿八年開  
基高原院殿の名稱に因み、當寺を高顯寺と改  
稱し、爾來連綿法燈を傳へて今日に至れり。  
境内樹木鬱蒼とし崇嚴の氣自ら迫り、一度登



氏 治 榮 田 上

厚紙、膠寫紙、紙テープ、ナフキヤン、巻取紙  
障子紙等を始め、或は製紙原料たるマニラ麻  
バルブ、椿三極、並に製紙用藥品たる晒粉、  
荷性青達等の品質優秀にして、種類豊富なる  
實に業界屈指の稱ありて、之が販路の如きは  
内地全般は勿論、遠く海外市場に進出して日  
本製紙紙の眞價を高揚して遺憾なし。而して  
之が年度額二  
百五十萬  
圓を越  
え、又  
本社及  
び高知  
支店の  
他、有  
力なる販  
賣機關として  
大阪市西區新町通二丁目合名會社大丸商店  
あり。因みに當社首腦部は取締役社長上田榮  
治、専務兼工場長上田重八、取締役北添春喜  
同上田種尾、監査役今村一正等の諸氏なり。

**社長 上田 榮治** 氏は明治十九年十月  
二十二日の出生、縣下長岡郡三里村坂本馬平  
氏二男に呱呱の聲を擧げ、小學校卒業後土佐  
銀行に入りて精勤奮勵すること約八星霜、其  
後同三十八年先代上田哲次郎氏に懇望せられ

て、其養子となれり。斯くて三十九年土佐紙合資社に入社し、超えて同四十三年五月退社するや、茲に上田合資社を再興し、以來奮闘努力、克く天賦の巨腕を發揮して、今日に至れる斯界屈指の俊剛の士なり。現に當社々長たる外土佐製綱所社長、伊野食料社長、伊野上水道事務等の要職を兼ね、或は伊野消防奉仕會副會長、町會議員、信用組合理事、商工會長、土佐紙業組合議員等に歴任して功績顯著なるものあり、曩に縣會議員選舉戦に出馬するや、見事當選する等、名實共に縣下財界及び政界稀に見る麒麟兒として聲望隆々たり。  
(所在地 高知縣吾川郡伊野町)

### 建築材料商 栗 林 實

下關建築材料業界の霸王として、業勢隆々宛ら天馬空を翔けるが如き、潑刺たる躍進振りを展示し、取扱商品の豊富多彩にして品質優秀、而かも絶大なる信用を扶植せるを栗林商店とす。我が栗林實氏は實に同店主宰者として令名赫々、斷然業界に巨星的存在を顯はるゝ雄剛の士なり。抑も氏は明治二十七年六月二十七日を以て誕生し、同四十四年下關商業學校を卒業するや、直に三井物産株式會社に入り、爾來天稟の才幹を發揮して精勵奮動

する事八星霜、其間熱誠眞摯なる態度を以て上長の信認益々大なるものありしが、生來獨立獨歩の精神に富み、且つ奇才縱横にして文才秀拔なる處、大正七年驕然感する處ありて同社を辭し、其後操縦界に身を投じて東京二六新報、九州東洋民報、朝鮮釜山日報等各社に歴勤、其流麗奔放なる筆致を以て讀者を魅了し去り、名記者の聲名噴々たるものありき。然るに同十三年卒然父君逝去の報に接するや、茲に家業繼承の念を固めて直に墳墓の地に戻り、當時未だ業勢隆々ならざりし栗林商店經營の重責を擔ふに及びり。斯くて全然經驗薄き業界の人となりたりと雖も、三面六臂の卓腕敏才は忽ち鋭鋒を現はして遺憾なく、其拮据經營に一貫せる賜として、業績頓に躍進、遂に今日見るが如き斷然當市業界に君臨する陣容を示すに至れり。然りと雖も、此間に於ける過去十有五年、常に寢食を忘れて東奔西走し、一意業務發展を圖りて努力奮闘せるは没す可らざる處なり。今や堅固無双の業礎に立ちて其販路の如き、實に當地方は勿論、朝鮮、滿洲、臺灣、中國地方及び九州一圓に亘る廣汎なる區域を占め、而かも需要界に扶植せる信望多大にして、容易に他の追隨を許さず、年商内高五十萬圓を突破し、尙前途の飛躍的興隆を期待され居れり。因に氏は眞實温厚にして篤實、且つ人格識見共に高

く、一面頗る社交に長けたる同地方に於ける模範的紳士の稱高し。  
(住所 下關市 岬之町)

### 合名 中野善九郎商店

清・興堂の屋敷を掲げて、關西美術骨董商界に馳騁縱横なるもの、即ち我が合名會社中野善九郎商店の斯界に博せる信用は、牢固不拔にして頗る廣汎に亘り、傳統古き業歴と共に斷然他店に誇るべきものあり。抑も當店の創業を顧みれば遠祖、天保初年の往昔に發し、先々代業祖善九郎翁が、當所に茶道具商を經營せるに蓋勵す。而して開業以來逐年順風滿帆裡に業勢發展を累ね、土地屈指の舊門大地主として名望隆々たりし家名に一如の光彩を添えしむるに至るや、其富麗潤澤なる資財に加ふる高邁卓拔なる識見、或は犀利非凡の手腕とは相俟ちて、大阪古物商頭取に推されて其職にある事實に三十有餘年、其間獻身克く美術商界に盡瘁獻替せる功績たるや、眞に没す可らざるものありき。斯くて當市最初の商法會議所(現商工會議所)議員に擧げられ、又大阪府立博物館(現博物館)役員等を歴職其他府市に寄與貢獻せる處、甚大にして至誠奉公稀に見る徳望家たりし他面、天才的藝術

を有して能樂の名人域に達し、更に庭園設計に深詣神技を有せし處、懇請せられて支那に渡り、彼地に風雅清淡なる庭園を造置せる等殆ど諸藝に至妙の靈腕を有し、且つ茶道の深奥を悟得して茶道具鑑定眼の炯々たるは、名實共に日本隨一の稱ありたる巨材の士。二代目善九郎氏亦、初代に劣らざる非凡の藝才を顯はれ、且つ仁情流露たる高徳家として、衆庶の欽仰敬慕を受けたるも、惜しむらく年齒四十有歳の少壯を以て、幽明界を異にせられたり。而し其後を襲ひたる當主三代目善九郎氏は、明治二十年九月の誕生にして、幼少先代に懸望せられて養子となり、長じて學を卒ふるや、岳父の指導薫陶に鐘骨碎身、孜孜として業務修得に精進し、其後家督を繼承するや、益々努力奮闘、多年練磨の敏腕英才を縱横に揮ひ、守成の最大難關たる三代目當主の重責を果し居れる己ならず、實に父祖傳來の家業をして一段たる發展隆盛に赴かしめ、大正十年には合名會社を設立、茲に事業規模の擴大を實現せしめたり。斯くて自ら其代表社員となり、長男、次男を夫々出資社員となして、親子相協力し、和氣霽然たる雰圍氣の裡に眞摯事業經營に邁進し居れり。尙ほ當社は代々諸名家に愛顧を受ける事深く、其信用彌甚なると共に、取扱賣買に拘る茶道具中の逸品貴什頗る多大にして、斷然茶道具商界の一

大權威を以て、店名全國業界に輝々たるものあり。因に店舗は初代善九郎翁の苦心設計に成りし風雅絕佳の庭園に圍繞せられ、高麗橋通り隨一の優舖として夙に聲價治し。  
(所在地 大阪市東區高麗橋三丁目)

### 山下汽船名古屋出張所長 藤 井 光 三

非常時局を反映して、活氣旺盛せる本邦海運界に、多年の傳統的感星振りを賞感なく現示して、迅速正確、且つ著大なる運輸能力を發揮して、輻輳刺繁なる動的社會の要望を充足し居れる山下汽船株式會社は、素より斯界有數の大會社にして、陣容の豪華絢爛たる、或は業勢の隆昌盛大なる、敢て茲に冗言を要せざる處なり。從而同社の人的要素を大觀すれば、俊魁巨材雲集し、斷然他に誇るべきものありと雖も、我が藤井光三氏の如く眞に當社の國家的大使命を認識し、卓犖不拔の手腕を揮ひて功勞多大なるは、其適例を屈指するに容易ならざるべし。抑も氏は明治二十四年十月二十日を以て京都に出生、長じて海運界に嚆矢するや、廣島縣立福山中學校を経て東京高等商船學校に進み、切磋勉勵、克く優秀不群の成績を保持して、大正五年三月之を卒業せり。由來同校卒業生は學業を卒ふるや、



藤井光三氏

一度海洋生活に入るを常例とせるに拘らず、氏は直に山下汽船株式會社に入社し、本店勤務を業界雄飛の第一階梯として精勵奮動、専心社務に携りし處、其忠實熱誠なる態度と、天賦の才幹力量を認められ、社内屈指の重要人材として、前途を期待さるゝに至れり。即ち臺灣、香港、印度等の各支店に歴勤、其後昭和十年四月名古屋出張所開設さるゝや、一躍同出張所長に拔擢せられたる俊材の士なり。以て其の事務的手腕の斷然卓越せるを窺知するに足らん。斯くて現職に就任するや、以來所務總攬に益々巨腕を發揮して、同社業績の一大躍進を圖る一方、更に名古屋港輸出入の進展發達に甚大なる力を致し、功績没す可らざるものあり。苟も名古屋海運界に一隻眼を有するもの、齊しく認知稱讚する處なり。而して今や同出張所の業運盛賑なるは、實に本邦斯界の双璧、大阪商船、日本郵船兩社の當地方に於ける勢力を競然凌駕し、名實

俱に中京海運界の覇權を掌握し居れり。因に氏は資性聰明俊美、頭腦頗る明哲にして思慮亦周密を極め、謙嚴寡黙、而かも明朗潤達なる半面を有し、社交に長じて一度對談せんか何人と雖も其應對振りの巧なるに感激せざるはなし。蓋し典型的現代紳士の風貌を示して面目躍如たり。尙ほ趣味にゴルフを好み、技術既に拔群なりと聞く。

(住所) 名古屋市東區前ノ町)

日商名古屋出張所長

### 紀田重治

汎く事業界に活躍する人物相を大觀すれば機略縱横なるを以て鳴るものあり、或は膽斗の如きを以て秀づるものあり、又は精力絶倫にして、旺盛なる活動力を顯はるものありと雖も、是等を打つて一丸となし、而かも手腕卓頭、見識豊富なる、恰も玲瓏珠玉の如き人格の所有者に至りては、蓋し世に多數を求む可らざる處ならん。然るに我が紀田重治氏の如きは、實に此の容易に求め難き稀觀の人物者として推稱尊敬に値する異彩の士なり。氏は大阪市住吉區を播磨の地として、呱呱の聲を擧げ、父君を紀田四郎兵衛氏と云ふ。夙に氣才拔群なるものありて、前途を嚆望さるゝ事厚く、大正九年三月神戸高等商業學校

を卒へるや、更に東京商科大学に進み、切磋琢磨、克く堂々の功を積み、同十一年之を卒業せり。斯くて實業界に第一步を印するや年來の志望たる實業界雄飛の霸氣に燃え、大阪市に本據を置き、毛織物販賣商の白眉日商株式會社に入り、爾來忠實熱誠、寔に實業に垂範の實を示せる態度を以て、精勵恪勤する處、其超凡非俗の手腕力量と相俟ちて、社内之信認噴々たるに至り、稀に見る新進氣鏡の逸材として、大いに名聲を轟はれたり。其後同社事業の躍進的發展に伴ひ、營業陣營化の一段として、昭和十一年名古屋出張所の新設さるゝや、率先拔擢せられて同所長の要任に就任、以來同市を中心中部地方毛織物販賣商戰場裡に、勇姿颯爽登場し、天賦の機敏發達たる才腕を發揮して活躍する事、縱横無盡なるものあり、今や設置以來歲月を閱する僅か一年有餘なるに拘らず、同所の業績を顯然たらしめ、恰も疾風枯葉を捲くが如き勢威を以て業界を席捲し居れり。是れ實に其の才幹手腕の凡庸ならざるを立證し得て餘りありと云ふべくも、殊に平素抱懐せる烈々熱ゆるが如き、商業報國の至誠の發露とも稱すべく、以て其努力奮闘の殊常ならざるを觀察するに足らん。資性明朗快活にして氣宇豁達其洋々たる宏量襟度は、正に大器の素質を備へて遺憾なく、而かも機略縱横、頗る商才に

富み、且つ一脈後々たる氣骨を藏して威あり瀟あり、寔に拘すべき性格の持主にして、加ふるに人格圓滿識見高大、其流麗なる社交態度に相俟ちて、名實共に典型的紳士の稱高し。而して其全面目を發揮するは寧ろ今後にありと云ふべく、今や内外上下の信望翕然として鍾まり、近き將來に於ける本社重役の第一候補者として、前途の活躍を一層期待され居れり。因に日商株式會社は本社を大阪市東區北濱に構え、昭和三年二月、資本金一百萬圓を以て設立せられ、内外各種商品賣買仲立問屋及び保險船舶代理業を營みて、躍進發展を累ねたる結果、其後資本金を五百萬圓(全額拂込済)に増額し、絢爛豪華の陣容を顯はるゝ關西貿易界の巨星的存在にして、同名古屋出張所は現在店員二十數名を擁し、紀田氏の間然する處なき統制手腕下に、業員協力協心、以て昭々たる業績を擧げ居れる同社營業陣の一重要機關なり。

(所在地) 名古屋市東區朝日町一ノ一五)

### 勝山高等女學校長 故吉村ヨシ

古人謂へらく「塵世に流轉窮まる所を知らず、其中遁れざるは死のみ。貴賤老弱、朝服を閉づれば即ち萬世空寂、達人は然らず。身

死すれども遺跡百世に彰はる」と。蓋し今は亡き勝山高等女學校長故吉村ヨシ女史の如きは是を謂ふか。女史は籍を佐賀縣伊萬里町に有し、明治四年十二月十七日を以て、佐賀市松原町屈指の名門に生れ、幼にして穎悟、十六歳にして松野塾に漢學を修め、同二十二年佐賀縣尋常女師範學校を卒業、以來郷里の小學校に十ヶ年、又同三十四年當時小倉市教育界の元老たりし杉山貞師に認められ、聘せられて小倉高等小學校裁縫科専科教員となり在職七年。其後明治四十一年杉山師其他有志の懇望後援を得て斷乎公職を退き、婦女子に必須缺く可らざる技藝、並に家政技能を修得せしむべく、女子技藝女學校たる勝山女學館を創設、以て當時至難とされたる、私學經營に當りて能く功を奏し、着々校運隆賑に赴くや大正十二年に至りて組織を變更、勝山高等女學校館となし、更に時代の要望に對して昭和二年には勝山高等女學校と改稱、女史自ら校長として其經營に任じ、益々内容の改善整備に力む。於此乎入學志願者逐年増加し、校舍狹隘を告ぐるに至りしを以て改築に着手、昭和六年三月之が落成を見たも、其後尙ほ學級増加に伴ひ、同九年更に四教室を増築せるに拘らず、三度教室狹隘を告ぐるに至りし爲女史は東奔西走、遂に某方面に修學絶向の適地を買収せりと。尙ほ女史は常に瀟灑貞淑、

日本個有の婦道を以て、生徒薫染の根本精神となし、更に家庭本位なる家庭的にして、骨惜みせず、而かも常識圓滿にして、人情味豊かなる婦人の養成を以て、教育方針となし、學校創設以來約三十年、卒業生を出す事約二千、全員親しく其訓化に浴して現に良妻賢母或は女子職業線に在りて、婦人本來の使命達成に邁進し居れり。而かも其間出でゝは愛國婦人會、國防婦人會其他各種團體の社會事業に携はり、其幹部として重責を全うし、就中愛國婦人會員として功績顯著なる處、其功勞に依り第一等有功章を授與さるゝの光榮に浴したり。斯くて生徒指導に學校經營に、或は公共事業に心身を没頭盡瘁する事多年に及び且つ曩には大正十一年以來約三ヶ年、英、米、獨、佛、伊、瑞西等の諸國を歴遊し、具さに各國の女子教育、家庭教育並に生活改善の實情を視察し、歸朝後北九州女子教育界に寄與貢獻する處、又甚大なりき。資性沈毅果斷、識見高邁にして聖女の風格を備へ、加ふるに温厚典雅、深く禮儀を重んじ、眞に教育者の範として崇敬欽慕すべき女丈夫たり。然るに惜むらくは天餘命を籍さず、昭和十三年五月、恰も巨星地に墮つるが如く長逝されしは寔に惜しみて猶ほ餘りあるものと云ふべし。然れども遺業は萬代不易以て女史を偲ばん。

(學校所在地) 小倉市堺町)

### 沖ノ山炭礦專務取締役 金野藤衛

新興産業都市、宇部市に於ける事業界に、恰も巨星の如き燦然たる光芒を發し、常に偉大なる足跡を踏しつゝある、當市稀觀の人物を屈指すれば、吾人は我が金野藤衛氏を擧ぐるに、毫も躊躇逡巡を感ずるものに非らず。寔に氏の當地方に扶植せる聲望は、隆々乎として容易に他の企及し難きものあり、其卓犖不羈の巨腕と、市勢發展に寄與せる功績は、永代不滅の光輝を放つものと云へん。氏は明治二十六年十二月二十九日を以て、呱呱の聲を擧げ、大正二年山口縣豊浦中學校を卒業するや、更に旅順工科大学に入りて切磋琢磨、克く優秀なる成績を保持して、同五年之を卒業せり。斯くて將來雄飛の天地を炭礦界に求め、同年直に沖ノ山炭礦株式會社に入社し、以來眞摯熱誠、天賦の卓腕英才を發揮して、鋭意社業に精勵する事實に二十數星霜、其間凡ゆる困苦艱難を克服しつゝ、着々地歩を占め累進遂に同社常務取締役の樞機に就き、今や名實共に當社の大黒柱として、至實的存在を顯はるゝ己ならず、更に同社傍系會社たる長崎縣福島炭礦專務取締役を兼ね、或は亦日本發動機油會社取締役、宇部商事株式會社取締

役等に推されて、羽翼を充分に伸ばし、事變下軍需インフレの波に乗り、飛躍的發展を擡にし居れるは偉とすべく、而かも一方政界に出馬しては、宇部市議員として連続當選三回の榮冠を擔ひ、現に同參事會員の要職に擧げられて至誠一貫、常に公正無比の態度を堅持し、且つ革新時代の眞意義に徹せる、高邁卓抜なる識見を披瀝し、献身市政刷新と市民の利福増進を念願に、東奔西走を怠らず、其功績顯然たるに於ては、蓋し非常時局下必須缺く可らざる人材として、崇敬心服するに足る。資性豪放磊落にして、些も小事に拘泥せず常に大局を把握して誤らざると共に、半面頗る細心にして周到、事業上の企畫の綿密細緻なるは驚嘆に値するものあり。而かも大膽果斷にして不撓不屈の勇猛心に富み、他面人格崇高廉潔にして、識見の非凡卓越せるは勿論其渾然玉の如き風格は、全市民の尊敬信賴措く能はざる所以なり。因に嘗て大正五年一年志願兵として工兵第十二大隊に入營、同十年陸軍工兵少尉に任ぜられ、除隊後帝國在郷軍人會沖ノ山炭礦分會會長の要職に推され、更に同十五年宇部市聯合分會副會長を兼任、専心郷軍の指導に盡瘁献替して功勞紛なからず、其後昭和七年四月を以て陸軍中尉に任官せられ、從七位に叙せられたる帝國軍人なり。

(住所) 宇部市上町二二一

### 古美術商 小澤龜三郎

近代文化絢爛たる大商工都市、大阪の中樞繁華地に堂々たる店舗を構へ、關西美術骨董商界に斷然重きをなす人に、我が小澤龜三郎氏の輝やける存在あり。氏は明治二十二年三月二十七日を以て、小澤治郎右衛門氏三男に生れ、幼にして英悟俊敏、長ずるや神戸に赴きて漢學を修め、其間古美術に深甚なる興味を抱きて、將來立身の天地を業界に求む。即ち當時氏の實兄橋崎治三郎氏浪華の地に於て古美術商を營み、合名會社橋崎治三郎商店代表社員として業運隆々たりしを以て、決然斯界に身を投じ、令兄の指導薫陶下に鏡意古美術品、金器、石器等の鑑識眼養成に、鑲骨研鑽の星霜を累ねて、遂に昭和八年西區江戸堀に獨立創業す。以來専ら金器、石器の賣買取扱に主力を注ぐ一方、茶道具、書畫骨董等をも取扱ひ、賦性の商略的手腕に加ふる、努力奮闘を以て一貫する處、業績順に擧りて信用頗る高まり、創業以來未だ日淺きにも拘らず卓然同業者中に優位を占むるに至り、同年早くも市内一等地たる現地に店舗を移轉、以て古美術商小澤商店の業礎を確乎不動たらしむ



小澤龜三郎氏

其後業勢益々順調發展し、恰も旭日昇天の概を示して加速度的隆昌を招來せる結果、更に業容の一大擴張を圖り、中之島朝日ビル内に出張所を設置する外、敢然驥足を海外に伸して北支北京に北京支所を設け、爾來支那陶磁器の研究、或は採集賣買に努力を傾けて其深遠透徹せる鑑別眼を以て幾多磁器中の珍貴逸品を紹介する處、斷然業界に異彩を放ちて名實共に支那陶磁器商界の最高權威たる名聲を獲得せり。而して其販路の如き實に内地全般に及ぶは勿論、更に遠く歐米に廣汎なる販賣網を整備して、今や業況の驚異的盛況を呈せる事、敢て取言を要せず、而かも其所有品中、藝に文部省より國實に指定を受けたるもの數種、或は重要美術品の選定を受けたるもの十數種の多きを示し同業者間は素より諸名家大家の信用藉甚を極めて、斷然本邦金石器美術商の王座に君臨し居れり。資性濃厚篤實にして、又明朗快活、而かも圓滿なる常識と非凡なる専門知識を有

し、其渾然珠玉の如き人格は夙に世人の尊敬追慕の的たる已ならず、且つ胸底熾烈なる公共奉仕の赤心に燃え、平素社會業庶の利福増進を圖りて功勞紛なからざる處、徳望翕然として聚るの觀あるは、蓋し當然の歸趨と稱すべきなり。因に家庭には内助の功多き賢夫人コシヨ夫人あり、其間長男英三郎君(十二歳)長女住江嬢(十六歳)、相愛女學校在學中)、三女萬壽子嬢(十二歳)、四女朝子嬢(七歳)を擁して和氣瀟然たる事、眞に近隣羨望の的とされ居れり。

(住所) 大阪市東區今橋五丁目

### 實業家 白石保平

事業成功の道程を検討するに、素より其の徑路多々あるは勿論なりと雖も、之を大別すれば一は金權物力に依存し、一は努力奮闘に一貫せる賜と云ふべく、而して吾人の尊敬敬服指く能はざる成功者とは、實に後者の如く渾身の努力を傾注して事に當り、而かも多年砥礪せる利器を充分に發揮して、遂に榮光燦たる成功に達せる奮闘傳中の人物なりとす。我が白石保平氏は實に斯の如き逸材の士、即ち赤手空拳以て敢然高知事業界に身を起し、以來粉骨碎身、凡ゆる苦難障礙を克服して着

々地歩を築き、今や高知商工會議所議員を始め、土佐商工聯合會常議員、高知乾物雜貨商組合長、高知乾物株式會社社長、高知倉庫株式會社取締役等の要職を獲得し、名聲斯界に隆々たる奮闘見たり。抑も氏は明治十八年二月二十三日を以て高岡郡須崎町に呱呱の聲を擧げ、夙に獨立不羈の念烈々たりし處、敢て正規の學業課程を履まずと雖も、獨學力行、克く活社會を無二の教師と心得、自奮自勵の成果を擧げ、其後徵兵適令となるや、海軍を志願して徹底的皇道精神の練磨と、體力増進に勇往邁進し、歸郷後印刷業に従事するに至れり。斯くて本格的實業界進出の第一歩を踏み、多年の自己修練空しからず、前途有望の新進氣鋭として、着々地位を向上せしめ、而かも天運回りに來りて、支那青島所在の印刷會社營業部長に就任、其の犀利非凡の手腕は洽く同業者の畏怖する所となり、茲に令名噴々として同社内外に喧傳されたり。而して大正九年終ありて、白石家養子に迎へらるゝや養家傳來の家業たる乾物雜貨商に心身を傾注し、奮闘又奮闘、遂に倍舊の盛運を贏ち得て今日の大を招來する一方、前記各名譽職或は各社重役の椅子に推され、斷然當地方の重鎮たるに至れり。資性剛直大膽にして霸氣勃然たるものあり、常に自己の所信に邁往すると共に一片稜々の氣骨を藏して仁俠の義氣に富

み、衆庶の尊敬信賴を受くる事甚大なり。即ち當市實業界稀に見る努力家として、毅然異彩を放ち、前途一段たる飛躍發展を期待されつゝあり。偉なりと謂ふべし。

(住所) 高知市材木町一四八

### 三重縣工業試驗場長 熊田健一

近來三重縣人絹工業の進歩發展は、加速度的趨勢を以て擡頭し來りて、今や縣下商工業界に重要な役割を演ずるに至れり。而して斯業今日の躍進を奏するに及びしは、素より業界人士の銳意専心、只管斯業發達を圖りて努力邁進せる賜なりと稱すべきも、殊に我が熊田健一氏の烈々たる、技術報國の赤心に燃え、常に之が發展興隆に先驅的活躍を顯現せる偉功は、赫々として没す可らざるものあり。即ち氏は地方技師兼地方商工技師に任ぜられ、三重縣工業試驗場長の要職を占むる事多年、其間至誠一貫、該博深遠なる蘊蓄を傾け、能く縣下織物業界の發達を企圖して指導的卓腕を發揮する已ならず、更に三重人絹會社、其他斯界の有力工場を大阪市或は津市に誘致建設せしめ、以て斯業現今の繁榮を贏ちせる殊勳者なり。蓋し從五位勳五等の榮譽を賜りたるも、當然の良酬なりと稱すべきなら

ん。抑も氏は大分縣臼杵町の出身、明治十七年三月二十三日を以て安東清右衛門氏二男に呱々の聲を擧げ後岐阜縣熊田直吉氏の養子となり同家を相続す。聰明穎智にして出藍の譽れ高く、同四十一年東京高等工業學校を卒業するや、神戸兼松商店に入り、其後日本絹織株式會社技師長に就任、爾來優秀技師の技術を傾倒して、同社興隆に献若せる事甚大なりしも、大正九年岐阜縣工業試驗場長に任命せられ、次で翌年現職に轉じて官界技術畑の人となれり。斯くて當縣産業界の指導的要荷に就くや、至誠一貫、益々斯業の發展興隆を圖りて努力献替し、前記人絹工業を始め、各種工業製品の質的改良は勿論、更に國力充實に對する大衆的見地に立脚して、經營方面にも幹旋奔走の勞を厭はず、以て三重縣工業界に寄與貢獻する所、多大なる偉材の士たり。尙ほ一方縣立工業學校講師、縣織物聯合會、人絹織物普及會各理事長の要職に推され、該縣下工業發展の大恩人として、令名愈々光輝を發し居れり。資性濃厚篤實にして寡言動勉、而かも清高廉潔なる人格と高邁非凡なる識見を有し、其洗練せられたる社交的態度は、正に技術界稀に見る處なり。因に趣味として運動、園藝を好み、夫々造詣頗る深きものありと聞く。家庭には養母むろ刀自を首め、貞淑のほまれ高き令閨はな子夫人（養父直吉氏長

女、岐阜高女卒）嗣子一郎君（大正六年出生、帝大法科在學）其他二女ありて和風胎氣、定に美觀に値すべき清福圓滿なるものあり。  
（住所 津市乙部神子）

### 株式 黒田商店

抑も當社は現社長黒田國三郎氏が、中京名古屋に敢然獨立、古鐵賣買商を開始せるに發し、以來其の神算鬼謀、容易に他の追隨を許さざる獨特非凡の商才の然らしむる處、業績逐年舉りて發展亦發展、其後昭和十年十二月に至るや、業界稀有の好調に加ふる、將來の一大飛躍に備へん爲、茲に組織を株式會社に改め、現社を設立せるものなり。而して本社を東京市芝罘西芝浦四丁目設置し、營業所を名古屋市中村區船戸町五丁目設けて東西相呼應、克く産業報國の實を擧ぐべく邁進せる結果、益々業運の興隆躍進となり、信用の廣大深厚を齎し、今や斷然業界屈指の新興有力會社として社名噴然たるに至れり。而かも當社の如き堂々の業陣を張る優秀會社が、其の全機能を擧げて傳統的堅實主義に立脚し、且つ機敏大膽なる經營方針を以て、本領を遺憾なく發揮する處、必ずや斯界を席捲し去りて、名實共に王座を占むるは、敢て遠く將來

には非らざる可し。茲に當社第四期（自昭和十二年六月一日、至同月十一月三十日）營業成績を概觀するに、該期に於ける商品賣買益十八萬八千八百餘、雜收入一萬六千九百餘、合計十九萬六千二百七十四圓の總收入を得て、之に對する總支出は營業費九萬七千七百十三圓餘、運賃勘定五萬八千四百四十六圓餘、固定資産償却金九千七百圓餘、其他三十七圓餘等、合計十五萬七千七百四十四圓にして、之が差引期末純益金は三萬八千五百二十二圓餘、更に前期繰越金一萬五千七百六十五圓餘を合せる當期利益金合計五萬四千二百六十七圓を舉げ株主配當の如き實に年二割二分に達する高配を斷行せり。以て當社の面目躍如たるを親知するに足らん。尙ほ現在總資産は百三十四萬四百餘圓にして、資本金は七十萬圓（拂込済四十二萬圓）なり。因に重役布陣を見るに、取締役社長黒田國三郎氏、專務取締役古田亮造氏以下、取締役兼支配人黒田太郎、取締役藤田善次郎、同興利三郎、監査役黒田重三郎、同作田高太郎等の諸氏にして、孰れも業界錚々の人材たるは論を要せず。

社長 黒田國三郎 氏は明治二十五年六月二日を以て、横濱市末吉町に呱々の聲を擧げ、年少の頃より親戚黒田三郎商店に入りて、斯業練磨に精進する事約廿年、斯くて商

機の妙諦を把握するや、萬全の用意を備へて名古屋に古鐵問屋を創業し、以來卓腕を發揮して、々業運を進展せしめ、殊に滿洲事變以來の斯界好況の波に乗ずるや躍進亦躍進、遂に今日の盛大を獲得せる當代奮闘傳中の人物なり。資性豪放大膽にして脂肉磨削して體軀堂々、而かも綿密緻細なる頭腦を有して頗る商才に富み、嘗て燭眼克く中部地方に同業者尠きに鑑み、關東地方の商品を大量移出して、巨利を博せる如きは、未だに業界話題の一とされつゝあり。現在自宅を名古屋市中川區八熊町に構え家庭頗る圓滿なり。

（本 社 東京市芝罘西芝浦四ノ三）  
（名古屋營業所 名古屋市中村區船戸町五丁目）

### 小田 滿

我が國政界の偉傑伊藤博文公の邸宅に書生として寄寓し、外國語學校に通學して卒業後三井物産に入社せり。たゞその行履のみにても何となく凡庸の徒にあらざるを直感する處現下關市商工會議所議員たり。内外木材輸出商小田滿氏こそ即ちそれなり。  
氏は明治十五年七月四日を以て、山口縣豊浦村に呱々の聲を擧げ、同三十四年下關商業

學校卒業後、直ちに上京して前掲伊藤博文公邸に入り、外語卒業後三井物産本社に勤務するに至り、幾何もなく日露戰爭勃發するや、勇躍應召戰團に参加、勳功を樹て、凱旋後再び三井物産北海道木材部に勤務することとなり、北海道各地出張所主任として令名を馳せたり。當時、三井の藤原銀次郎氏、平田篤次郎氏等の知遇を得、尠からず將來を熱望され、在道中氏の活躍は眞に目覚ましく、木材部の業績は發展顯著なるものがありき。大正六年偶々三井物産名古屋支部材木部の新設さるゝや、拔擢されてその主任として榮轉し、翌大正七年同社製材部が北滿洲進出を見るや氏はまた滿洲勤務を命ぜられ、奉天、吉林、長春等各都市に於て約三年間奮闘をつげ手腕を揮ひしが、自ら期する所ありて、大正十一年住み馴れし三井物産を退社して下關に居るを定め、三井物産特約店として、内外木材輸出商を經營、以て今日に迫り。爾來十有七年業務著く發展し、西日本一圓に販路を擴



小田 滿 氏

大し、年商内高數十萬圓を計上するの盛況を示現するに至れり。其間大正十三年以來海軍省關係の佐世保、吳、横須賀各鎮守府及び内務省下關土木出張所にも納入しつゝあるが如き、特異の地歩を築けり。  
氏は現に下關商工會議所議員たるの外、各種役員に擧げられ、公共の爲めに献身的努力を捧げ居れり。北九州六都市木材商聯合組合の組織に不眠不休の努力を拂ひて、之を結成せしめ、或は關門トンネル連成の爲め幾度か上京して建築せる等、尠ならず感謝せられつゝあり。資性濃厚篤實、語學を能く判断力に富む。すべて純理の上に立脚して堂々と邁進するの美點を認められ、經濟學的にも卓越せる一見識を備ふ。蓋し、下關市として不可缺の有用人材と謂ふべきなり。  
（住所 下關市上田中町名池山）

### 株式 關西整絨所

國際的の衣服文化の燦爛たる進出發展に伴ひ本邦毛織物整理加工業の逐年榮榮を呈し居れるは、敢て贅言を要せざる處にして、此間に處する幾多業者の努力奮闘、寔に偉とすべきものありと雖も、愛知縣東春日井郡の一角に本據を構え新興氣鋭の意氣激刺として縣下業



界に断然重きを爲す株式会社西農機所の如きは、蓋し其代表的會社と推稱すべき存在ならん。抑も當社は現社長磯兼三氏が昭和二年五月、資本金三十萬圓を投じて合資會社を設立せるに發し、爾來時代の要望に對應、銳意優秀獨特なる技術を揮ひ、營業陣の第一線に勇姿颯爽、奮闘努力に一貫せる處、業運着々舉りて盛大を極め、遂に從來の内容規模にては、到底殺到する計文に應じ切れざるに至りし爲、茲に昭和九年四月、資本金八十萬圓を以て株式會社に改組し、事業の一大擴張を圖りたるものなり。而して當社設立以來未だ尙年處淺しと雖も、過去十星霜に亘りて獲得せる信用絶大を諷はれ、加ふるに堅實無比なる營業方針と、優秀卓抜なる加工技術とは相俟ちて、業勢更に躍進發展せしめ、尙且つ前途の飛躍隆盛を期待され居れるは、將に偉とするに足る。因に當社第八回（自昭和十二年六月一日、至同年十一月三十日）營業概況を大觀すれば、該期に於ては主として冬物加工に従事せしも、内地毛織物帶貨夥しく、且つ日支事變に依る輸出の激減、其他事件の續出せる爲、或は加工賃金、諸材料等の漸騰に依り、所期の成績を挙げ得ざりしは遺憾とする處なり。然りと雖も、各種償却金を控除したる純益金二萬九千七百七十五圓餘を收得し、之を處分するに法定積立金千二百圓、別途積立

金二千五百圓、役員賞與金二千圓、株主配當金一萬六千圓、後期繰越金一萬六千五百八十七圓餘等に按配し、而かも總資産百二十六萬七千九百餘圓を有し居れるを以て、内容基礎愈々強固なるを察知し得べく、且つ其後新製品の加工を研究し、又高級品の整理加工を完成し、断然同業者の追隨を許さざる逸品を製出、以て杜絶せる輸入雜紗の需要に充當せしめんと、學社全努力を傾倒し居れる處、次期決算に於ける業績の躍進振りは、明して俟つべきものあらん。因に重役は社長磯兼三氏を首め、取締役金井潤三、同業原勝一、同水原豊次、同水谷藤太郎、監査役鈴木勇、同上田貞二等の諸氏なり。

野村の出身、明治十六年十月二十一日を以て呱呱の聲を擧げ、夙に實業界雄飛の霸氣を藏して、斯業經營に着手するや、其不撓不屈の努力と、非凡の手腕を發揮して、遂に今日の盛大を招來せる業界錚々の偉材なり。資性濃厚篤實にして頗る部下を遇するに厚く、全従業員皆慈父の如く氏を敬仰追慕し居れり。現に關西シミレーン紡績取締役を兼任し、名古屋市東區主税町三丁目に閉居する邸宅を有し、一家頗る圓滿清福なり。

實業道に邁進して敢て左顧右盼せず、常に「我は商人なり」と標榜せる祖父の言行を遺徳なく繼承して、典型的實業家の聲名を擡にし居れり。氏は明治三十四年を以て呱呱の聲を擧げ、夙に高知商業學校を卒業するや、父祖傳來の家業を繼ぎて海運業及び石炭業に身を投じ、曩に其の主宰經營せる臼井商事株式會社を資本金四十二萬圓に膨脹發展せしめ、更に營業陣容を船舶部、精米部、燃料部、工具部、セメント部等に劃然たらしめて、着々實績を擧げ居れる一方、臼井酒造合名會社代表社員、合名會社臼井商店船舶部代表社員、合資會社臼井精米所代表社員、高知海産物株式會社社長、富士商船株式會社取締役、合資會社富田屋出資社員等の要職を兼ね、更に高知商工會議所議員に推されて至誠一貫、土佐商工業の進歩興隆に處して、功績顯著なるものあり。而かも氏は風貌典雅にして、頭腦頗る明敏、其の機略縱横の商才は断じて他の追隨を許さず、名實共に斯界の重鎮を以て目され信望隆々たるは勿論、支配力の甚大なる事亦一驚に値する所なり。家庭には温雅貞淑の譽れ高き静子夫人ありて琴瑟相和し、又た夫人の母愛を恰も、實母の如く遇し、新町田淵に宏壯華麗なる邸宅を供して孝養を怠らざる邊り、將に世の儀表とも稱すべき人物なり。

關西事業界一方の霸王たる名實を兼備し、其聲望隆々乎たる、實に他の容易に追隨し得ざる稀觀の人物に、我が磯野良吉氏の光彩陸離たる存在あり。即ち現に大阪實業、大饗證券、大阪實業セメント、大阪實業耐火煉瓦、各株式會社々長たるを首め、泉尾土地監査役等、其他の要職に在りて巨腕を縱横に發揮し其鸚翼の伸張する處、一として發展興隆せざる關係會社はなく、宛然無人の崎野を往くが如き活躍振りを驚嘆され居れり。抑も氏は明治二年三月二十五日を以て同市に呱呱の聲を擧げ、曾て關西投機界の奇傑を以て稱されし磯野小右衛門翁の長男なり。而して幼少既に父君の英資を承けて聰明穎敏、才氣煥發なるものあり。頗る順境裕福なる家庭に育成せりと雖も、剛毅堂々、些も優柔不斷に流るゝ事なく、一意修養練磨に精進せり。斯くて長するや、嚴君の衣鉢を繼ぎて事業界雄飛の跡を固め、以來不撓不屈、幾百の難關を突破して、着々斯界に地歩を築き、堂島米穀取引所理事として、機略俊敏の才腕を賞揚せられ、名望噴々たりしも、其後同所閉居するもや、工業界に驍足を伸すに至れり。即ち前記各社

### 事業家 磯部 良吉

の創立に參畫、其樞要地位に任じ、或は曩に井笠鐵道、有隣生命各重役たりし事あり、現に又大阪綿業俱樂部員を兼ねて、當市商工業の發展隆昌に寄與する處尙少ならず。以て断然大阪財界に重きをなし居れり。資性豪放闊達たるも、一面温厚稀に見る篤實さを有し、其渾然玉の如き人格は清高にして玲瓏、而かも俊英果斷の偉材として巨腕を諷はるゝ事久しく、今年年齒老境に入りて、敢て風動卓發の鋭鋒を現はさずと雖も、悠揚事業界の大勢力を靜觀して常に大局的見地に立脚し、只管國力充實の第一線に偉力を傾倒し居れるは、蓋し巨豪の貫録に背かざるものと云ふべし。因に書畫、骨董、茶道等に造詣深く、清雅枯淡の風格は寔に拘す可きものあり。

(大阪事務所 大阪市北區堂島船大工町三七)

### 實業家 臼井 鹿太郎

土佐實業界稀に見る少壯氣銳の卓腕家として、截然異彩を放つ我が臼井鹿太郎氏こそ、實に近世土佐の大商傑として、偉名赫々たりし先々代臼井鹿太郎翁の令孫に他ならず。而して其の英邁剛毅なる資性、或は卓犖犀利たる手腕共に大白井を髣髴たらしめ、撒頭赫尾

### 自治功勞者

### 小野 彦太郎

一翁は明治元年七月、福岡縣企救郡横代村に生る、天資聰明にして仁恕 弱冠身を自治行政に委ね、企救郡會議員、城野村長、企救町長、遠賀郡島門村長等に推され、恪勤精勵績常に擧る。選ばれて縣會議員となるや、參事會員に擧げられ縣治の樞機に參し、地方大小の事關知せざるは希なり。今齡古稀に達し致々猶公務に袂掌し、前後四十有餘年の間終始渝る所なく名譽四方に隆し。朝廷其功を録して勳七等に叙し、青色桐葉章を授け、御紋章付御盃を賜ふ。光榮洵に大なりと謂ふ可し是に於て地方の有志胥謀り、翁の爲めに壽像を建つ。蓋し後昆をして永く翁の高風を仰ぎ發奮興起翁の志を繼がしむるに在らむ歟」

是即ち福岡縣政發達史上に萬代不滅の偉功を録し、現に同縣會の重鎮として聲望隆々たる稀觀の功勞者、我が小野彦太郎翁壽像に寄する樞密顧問官正三位勳一等南弘氏の撰文、並に從四位勳三等片山秀太郎氏の書になる像銘文たり。以て翁の多年地方自治行政に獻替寄與せる功績赫奕たるを窺知し得べく、而かも生前既に此事あるに至りては、蓋し眞に世の龜鑑たるべき巨材の士として尊崇瞻仰すべき

(住所 高知 市 農 人 町)

きたり。抑も此は銘文の如く明治元年七月十五日を以て呱呱の聲を挙げ、同三十一年城野村助役に就任せし以來、同三十三年同村長、同三十八年郡會議員に選ばれ、其後同縣畜産組合長、教育會長、聯合學校協會長、町村會長等の要職に就任、更に産業組合福岡縣支會企救支會長、福岡縣町村會副會長等に歴任し昭和二年推されて縣會議員の候補に就くや、爾來連續當選三期に及びて今日に至り、其間參事會員として縣政の樞機に參畫、至誠一貫



小野太郎氏

常に公大正明なる態度に終始して専心自治の刷新發達を圖り、其功績偉大なるは遠く説を要せざる處にして、昭和十三年二月憲政發布五十周年記念に際するや、自治功勞者として内務大臣より表彰せられたり。資性穩健にして潤達、而かも崇高廉直なる人格と、高邁卓抜なる識見、更に愛縣奉公の念熾烈なるは到底他の企及し難き處にして、過去數十年に亘る功績は燦然光輝を發し、且つ高德仁慈、當代稀有の人格者として、衆庶の絶大なる尊敬を

受けつゝあり。即ち同年四月郷土有志の發起に依りて壽像を建設せられ、徳風益々全縣下に洽し。因に企救町長に就任以來勤績する事十五ヶ年、昭和十二年に及びて同町の小倉市に併合さるゝや其職を去り、現に小倉市役所相談役の重責を擔ひて至實的人物たり。

(住所 小倉市城野六四三)

### 阪神國道自動車株式會社

迅速快適なる近代路面交通界の寵兒、新型優秀自動車八十三輛を營業全線に配備し、加ふるに乗務員の親切丁寧なる接客態度と相俟ちて好評噴々たるもの、即ち我が阪神國道自動車株式會社の阪神國道交通網に於ける存在は、儼乎として犯す可らざる所たり。抑も當社は昭和三年十月を以て創立せられ、爾來該國道の重要交通機關たる認識の下に、着々營業陣容を整備し、業績敢て飛躍的發展を招來せずと雖も、逐年堅實なる進展を爲して今日に至り、殊に現常務大西三四二氏入社するに及ぶや、其の間然する處なき指導下に、全従業員交通報國の赤心に燃え、銳意社運興隆に努力邁進し居れる處、前途繁榮の曙光を仰ぐに至るも、敢て遠き將來にはあらざる可し。而して現在營業料程は四十五料六にして停留所

百一ヶ所を設置しあり、之に配する車輛は乗合用としてシボレー三十五年型十八人乗二十輛、同三十六年型十八人乗三十輛、同三十六年型十二人乗七輛、同三十七年型十八人乗十五輛又貸切用としてシボレー三十四年型十八人乗三輛、ボンテアツク三輛、シボレー小型一輛サービスマン其他四輛等を所有し、常に快速安全且つ明朗懇切を標榜して一般乗客、或は觀光乗客に自動車交通の醍醐味を満喫せしむる邊り、正に優秀業者の一に屈指すべきものあり。因に資本金は四百四十萬圓にして、其内未拂込四十四萬圓あり、一方重役陣には取締役社長坂田幹太氏以下、常務取締役大西三四二、取締役上田寧同井上周、同榎並充造、同今西興三郎、同岡喜太郎、監査役森本喜太郎、同大塚清之助等を擁し孰れも關西實業界一流人物網羅せられたり。

常務 大西三四二 氏は縣下排保郡掛西村大西清右衛門氏三男として、明治二十四年七月十四日に生れ、龍野中學校卒業後兵庫縣巡查を拜命、爾來精勵克く職務に献身し、大正二年には警部に任官、相原署長となり、超えて同十三年地方警視として、尼崎警察署長に榮進して、名署長たる聲望隆々たりしも、昭和元年之を退職せり。其後實業界に身を投じて神明バス株式會社常務に就任し、更に同

五年阪神聯合自動車常務に推さるゝや、茲に天賦の頭才卓腕縱横に發揮され、同社業績の興隆發展に寄與せる功績顯著なり。即ち令名噴々として斯界に洽く、業界稀に見る卓腕家として衆望翕然と聚るや、本年三月二日懸望せられて當社改革の重責を擔ふに至れり。資性豪快明朗にして意氣凜烈、而かも人格識見共に高く、且つ非凡の才幹力量を有して眞摯熱誠、克く當社本來の營業目的を明確たらしも、往々世評に誤傳さるゝ利益度外視の對抗會社たる風評を一掃し、全従業員を一糸牽れざる統制下に指導激勵する一方、重役機密費其他の冗費を極度に削減、以て眞個社業の恢復に邁進し居れるは偉とすべきなり。

(所在地 兵庫縣武庫郡大庄村)

### 小倉市

福岡縣の北部、鹿兒島本線と日豊線との分岐點に位置し、軍事上重要な地として野戰重砲兵第二旅團司令部、並に小倉聯隊司令部の所在地たり。我國實業界の巨頭連が巨費を投じて築港、埋立等の大工事を起し、更にまた最近、陸軍造兵廠小倉工廠の移轉問題、西部防衛司令部の閉關等、軍事上の重要據點として工業上の重要地帯として隆々發展の途

上にある『小倉市』の將來は、必ずや驚異に値ひするものあるべきは、言を俟たざる所なり。隨つて之れが市政に關與する市長、助役、乃至市會議員等々の人選が治績の上に至大の影響を及ぼすべき事を、この重要新興都市小倉市に於て特にその感を深くするものありと思料する者、豈筆者のみならんや。

#### 小倉市長 島 永太郎

氏は、軍部出身の

而かも在郷陸軍中將正四位勳二等功五級の巨材にして、本年即ち昭和十三年四月衆望を擔ひて市長に當選す。就任早々左の如き計畫案を掲げて、直ちにその實行へと方針を決定せり。即ち(一)國民體位向上のため相互グラウンドを建設すべく、三百萬圓の費用と、七萬坪の廣大な土地を必要とすること、(二)市廳舎の改築、(四)都市計畫街路の完備、(五)九州唯一の木村港たる小倉港に對して、港灣の設備改善。而して著々として、之の方針に向つて邁進して居り、全市民はこの計畫案に對して滿腔の賛意を表し、新市長の快舉を大に徳と爲せり。今日時局重大の秋、西部防衛司令部所在地たる小倉市に、慎重にして而して果敢なる、軍部出身の殊に同市生え抜きの名市長を得たることは同市としては勿論、國家の爲めに洵に慶祝に堪へざるところなり。

氏は小倉市三萩野の産にして現住所も同所

明治十三年二月二十日を以て生る。同三十四年陸軍士官學校卒業、翌年歩兵少尉に任官し四十七聯隊勤務、三十七年日露戰役に従軍、四十年參謀本部附、四十一年陸軍大學入學、四十四年卒業後再び參謀本部附となり四十四年より大正十年八月迄十ヶ年間在勤、その間二回米國に出張を命ぜらる。大正十年八月より同十四年一月まで關東軍司令部附となり、その間一ヶ年間、歐米各國軍事視察を命ぜらる。大正十四年十二月歩兵第十四聯隊長、昭和二年三月第七師團參謀長、昭和四年八月第十一師團旅團長、同六年十二月第十師團司令部附等に歴任し、同八年三月陸軍中將に昇級任官後退職せらる。この間特記すべきは、氏が昭和九年より十一年まで九州帝大法文學部に於て法政經濟の研究に従事された一事である。一死國國民人の爲めに竭きんとする氏の熾烈なる愛國の至誠が然らしめたるものと稱すべきなり。悠揚追らざるその態度、仁愛に満ちたその温顔、何物にも屈せざるその毅然たる信念、眞に稀に見る典型的市長と稱すべきなり。

(住所 小倉市三萩野)

#### 伊野町長

上田 扇次

衆庶の爲には敢て自己一身の利害を顧みず

至誠一貫、盡瘁するの奉仕的精神に富み、清  
廉潔白を以て稱はるゝ我が上田寅次氏が、老  
來尚ほ矍鑠として社會公共の福祉増進を圖り  
町勢發展に絶大な貢獻をなすつゝあるは、  
其過去半生に亘る土佐財界、及び政界に寄與  
せる轉々たる功業と共に、萬代不滅の光輝を  
發するものと云へん。氏は明治八年四月を以  
て土地屈指の名望家、先代橋次氏の長男に  
生れ、夙に實業界に鵬翼を伸ばして、株式會  
社高知座社長、高知洋服株式會社社長、富士  
漁業取締役、三和汽船取締役、高知電氣取締  
役、高知瓦斯取締役、土佐園藝取締役、土佐  
商船取締役、土佐牛乳取締役、徳島水力電氣  
取締役、高知製材監査役、阿波鐵道監査役、  
堀詰座監査役、伊野上水道社長、土佐組取締  
役、土佐紙工業監査役、土佐製材社長等、或  
は高知水産會々長、高知縣商工聯合會々長、  
縣稅務署管内營業調查委員、丸龜稅務監督  
局内營業稅審查委員、縣稅務管内相續審查委  
員、同土地賃賃借價額調查員、高知縣信用販  
賣購買利用組合監事等の諸要職に歴任、更に  
政界に出馬するや、見事縣會議員に當選、且  
つ副議長の樞機に推され、其他高知商業會議  
所副會頭、同市會議員等にも就任し、其間眞  
摯熱誠、只管土佐實業界の進歩發展を圖り、  
或は自治發達の大理想に燃えて銳意奮發し、  
其の識見手腕、將又人格素養の高邁卓越せる

或は人氣沸然たる事、嶄然群雄を抽んじて比  
肩するものなく、名實共に當地政界の重鎮と  
して偉名燦然たり。而かも資性明朗にして無  
我奉公の念に富み、磊落清白、所謂竹を割り  
しが如き氣性を有し、人に接するや胸襟を開  
きて談論風發する一方、常に皇室中心主義を  
鼓吹宣揚に力め、之が實踐道の第一歩して、  
每朝東天を遙拜し、其の至高至純の精神を以  
て、大業善導に  
精進する等  
實に性情  
性格の  
多角的  
なるが  
如く、  
趣味亦頗  
る多方面に  
及びて書畫、骨  
董、淨瑠璃、演藝、俳句、盆栽、茶道、華道  
等の百般に通ぜざるはなく、殊に演藝に關し  
ては縣下第一人者の稱あり、其雅號醉吟魯羊  
痴の稱呼は著聞せざるなし。而に現在日本赤  
十字社高知支社商議員、大日本武徳會高知支  
部商議員、所得稅調查委員、地方森林會議員  
土佐産林會議員、縣耕地協會副會長、伊野町  
耕地整理組合長、縣經濟更生計畫委員、土佐  
中部木炭同業組合代議員、土佐木炭組合聯合



氏次昭田上

### 蘇鐵味噌醬油株式會社

現下非常時局に際して國民本位の向上が、  
一層要望せられつゝある秋、吾人日常生活に  
必須缺く可らざる食料品として、美味滋養且  
つ補血の効果著大なる理想的日用食料、即ち  
蘇鐵味噌醬油株式會社の醸造發賣に拘はる  
「蘇鐵味噌」及び「蘇鐵醬油」の出現せるは洵  
に國民體力増進の爲め慶賀に堪えざる處な  
り。抑も該食料品は古來藥用に供せられて神  
顯卓効々謳はれ、頗る珍重せられ來りし「蘇  
鐵の實」を日常の食料化し、一般國民の保健  
に貢獻せんが爲、多年當社の獨心研究せる結  
果、遂に蘇鐵の實及び大豆を主要原料となし  
當社獨特の醸造方法に依りて、完成されたる  
美味滋養を兼備せる特許品なり。而して同品  
はカルシウム及び鐵分の含有量多くなる已  
ならず、更に葡萄糖二十一パーセントを有し  
自然の甘味と高尙なる風味を備へ、且つ絶對  
腐敗變質の危惧なく、而かも大衆の嗜好に適

して價格、使用法共に從來品と同様なる等、  
幾多の特徵美點を具備する處、發賣以來一般  
需要家の好評實績を博し、其賣行の如きは日  
月と共に益々白熱化し居れり。即ち當社は昭  
和十二年一月十八日、資本金百萬圓（拂込二  
十五萬圓）を以て設立され、本社を現地に設  
置せる外、設備完全にして頗る衛生的なる工  
場を瀬戸市共榮町に設け、更に東京市日本橋  
區箱崎町、大阪市南區豐谷仲ノ町、同西區京  
町堀、其他全國樞要地に各出張所或は販賣店  
を置き、全營業陣渾然一丸となりて、食料報  
國に邁進し居り、既に陸海軍を始め鐵道購買  
大阪醫大病院、大阪日赤病院其他各地の諸官  
衙、學校、食堂及一般家庭に進出普及せしめ  
て、需要激増の趨勢にあり。斯くて社運の躍  
進發展顯著なる處、更に殺到する受注消化に  
備ふるべく、生産設備の擴充を圖り、現に大  
阪、東京の二ヶ所に新工場を建設中なりと聞  
く。蓋し異彩赫々たる當社前途の一大飛躍た  
るや、眞に刮目して期待するに足らん。因に  
現在製造石数は年額一萬五千石、貫數九十萬  
貫を算し、尙ほ重役陣容は社長青木新四郎、  
常務岩田重雄、取締役鬼頭賢市、同福井諒、  
同深谷六郎、同堀吉勝、同山口清、監査役盛  
田清兵衛、同大久保昇二、同千田晃、同青木  
武吉郎等の諸逸材を以て形成し居り、その前  
途熱囑さるゝこと多大なり。

常務岩田重雄 氏は京都府宮津町岩  
田與氏の三男、明治二十六年四月を以て生れ  
夙に京都中學校を卒業するや、當初銀行界に  
身を投じて敏腕を發揮する事二十年、其後名  
古屋に來たりて大正九年以來、味噌醬油販賣  
業を奮む傍ら、味噌の改良に幾多苦心研究を  
累ね、數年前蘇鐵味噌及び醬油を完成せる業  
界赫々の偉材にして、且つ光輝燦たる發明者  
なり。然るに之が販賣統制及び販賣店の選擇  
を誤りたる爲、事業一度挫折するに至りしが  
更に捲土重來、資本金の援助を求めて當社を  
創立し、以來専心營業報國を一念願に拮据經  
營し居れり。資性沈着豪膽にして識見高邁、  
而かも温情流露たるものありて、其玲瓏珠玉  
の如き人格は、全従業員は勿論、洽く業界人  
の尊敬信頼を博する所以たり。  
(所在地 名古屋市東區吳服町五丁目)

### 名望家 磯村彌右衛門

攝津銀行頭取、高槻銀行頭取、大阪府會議  
長、大阪府市町村協會會長、高槻町長、其他公  
共團體の重席に在ること五十有餘、徳澤一世  
に高き磯村彌右衛門氏は、大阪府の人先代義  
三氏の三男として、明治二十三年十一月を以  
て出生す。由來當家は累代大冠村の舊家にし

以來名町長として町民の信頼頗る厚く、高槻町の慈父として崇敬の的となれり。

氏は居常、洵に謹嚴、一言一行苟もせず、事を行ふに當りて、研究調査を厳密にし充分に熟慮し、而して斷行せり。隨つて物事に過誤失敗を生ぜしことなく、生來同情の念に富み、其念頭を絶えず去來する所のものは「社會奉仕」の一念にして、各種救済事業に私財を惜まず、献金せるは枚舉に遑あらず。宜べなる歳、昭和十二年十二月功勞に依り、藍綬褒章を下賜せらる。一途國家社會に奉ずるを念とし、「至誠奉公」を唯一信條として進む氏の如きは、現在時局重大の折柄、眞に國家的重器として、その加餐自重を祈つて止まず。家庭は芳枝令室を始め、長男義一(大正六年)、二男章(大正八年)、長女悦子(大正十二年)、二女照子(大正十四年)、三女隆子(昭和三年)四女千鶴子(昭和八年)の諸子ありて、頗る圓滿、謹嚴なる主君、時に諾諾を飛ばすことありて、笑聲堂を播がすこともあり、和樂春の如し。

(住所 大阪府三島郡高槻町西天川)

### 器具、製鐵、製鋼、製鋼

## 石原庄太郎

機敏先見の明を有するは業の何たるを問は

進發展振りを顯現し居れり。抑も當社は遠く明治四十三年九月、水車及びポンプ製造所として營業の端を發し、以來不斷に製品の改善改良を圖り、更に堅實なる營業政策を持して邁進する處、其製品の聲價顯然として需要界に洽きに至る一方、業運着々發展するに及びり。斯くて大正八年に至るや、生産施設の擴充に迫られし爲、茲に同年十二月資本金百二十萬圓を以て株式會社に改組し、同時に社名を現稱の如く改め、超えて昭和九年十二月、資本金を倍額増資して二百五十萬圓とせるも曩に勃發せる滿洲事變以來、俄然活況を呈せる工業界黃金時代の波に乗りて業績赫々たる結果、更に工場規模の狹隘不便を感ずるに至りし爲、新たに現地を相して近代的設備完全なる大工場を建設、同十一年十一月之に移轉し、尙ほ同年六月三十日従來の電業社原動機製造所を合併して一躍資本金六百二十五萬圓に増資せり。而して其間製造したる水車の總容量實に四百七十萬馬力に達し、國産水車の大半を占むる已ならず、國産最大容量五萬七千馬力、最高落差六百四十米の製造記録を有し、而かも最近朝鮮滿洲鴨綠江水電會社より、世界最大水車十四萬三千馬力七臺を受註、目下其製作に鋭意努力を傾けつゝあり。是正に單に當社の誇りたるに止まらず、實に本邦新業界の爲め萬丈の氣を吐くものとして

す、其大成の一大要訣として缺く可らざる條件たり。業勢の動向を看取し、時世の推移を洞察して不撓精勵し、且つ卓腕を縱横に發揮する處あらんか。即ち業運隆昌發展して求めずして大を築き、以て業界に重きをなすは必至の事實とも云ふべし。我が石原庄太郎氏が今日器具、製鐵、製鋼兩問屋を營み、中京名古屋を中心と縣下一圓に聲望隆々たるものあるは、實に慧眼遠識能く、臨機應變以て事業經營に當り、而かも努力奮闘に一貫せる賜なり。蓋し氏の如きを稱して商機の妙諦を把握せる偉材の士と云ふべきか。氏は生粹の名古屋人、先代庄太郎氏長男として、明治三十五年に呱呱の聲を擧げ、夙に聰明にして才氣煥發、優秀拔群の成績を以て名古屋商業を卒業後、大正十年父君逝去さるゝや、若冠にして家業を繼承し、前名庄市を改め襲名せり。以來多年先考の扶植せる實勢力を地盤として、年少なりと雖も、眞摯熱誠家業に精勵し、且つ天賦の卓腕を遺憾なく發揮する處、業運益々隆昌に赴き、名實共に製鐵販賣界の王者を以て推稱さるゝに至れり。然るに當時製鐵業界の衰頹漸く濃厚となり、前途の恢復期何邊にあるや、模倣として付度し難き情勢に立及ぶや、茲に機敏犀利を以て鳴りし氏に、父業に兼ねて率先陶磁器輸出用木箱の製造販賣に着手せり。斯くて逐年業務を發展擴大せしめ、

需要の旺盛劇甚となるや、更に生産規模の完備擴充を在りて市内大曾根及び一宮市に地を相し、近代的設備完全なる理想的工場を設け兩來益々拮据經營、各種製鋼事業に邁進して業績實に顯然たるものあり。資性明朗調達にして頗る商才に富み、且つ人格圓滿、識見高邁にして、常に進取の氣象勃然たる處、其超凡非俗の手腕と相俟ちて、前途一段たる飛躍を期待され居れり。蓋し業界稀に見る少壯氣鋭の逸材として、令名噴々たるも當然の歸結ならん。因に令閨ちよ夫人は本縣市野徳太郎氏二女にして、貞淑温雅なる賢夫人の譽れ高く、其間五女を擧げて一家團樂たり。

(住所 名古屋市中區山崎町一五ノ二三)

### 株式會社 電業社原動機製造所

本邦水車及ポンプ製造界の最高權威として生産規模の宏壯雄大なるは勿論、其各種製品の規格精確にして性能優秀、將又生産高の巨額を以て鳴る株式會社電業社原動機製造所は帝都城南の一大新興工場地帯、蒲田稲谷の地に廣袤一萬數千坪の敷地を占め、水運利便なる河畔に宛然巨城の如き偉容を誇る白亜の理想的大工場を構え、現下生産力擴充の國策線に沿ひて絢爛豪華、正に驚嘆刮目に値する躍

推稱絶讃に値する處たり。又たポンプは本邦最大容量六千八百馬力並に最高揚程六百七十米の記録を保持し兩々相俟ちて名實共に斷然國産業界に君臨し居れるは、敢て説明を要せざる周知の事實なり。因に現在年産製造能力は五百萬圓を算し、一方重役陣には取締役社長寒川恒貞、常務取締役三好松吉、取締役納富馨一、同門田勝次郎、同富田清人、同三村龜雄、同小路彦三郎、監査役武田勝太郎、同久野調雄、同大田黒元雄、相談役平田篤次郎等の諸氏あり。

社長 寒川恒貞 我が國電業界一方の重鎮として偉名噴然たる氏は、香川縣寒川恒吉氏長男として、明治八年六月を以て生れ、



電業社原動機製造所の全景

前名安太郎を改む。夙に工業界雄飛の鵬志を藏し、同三十五年京大電氣科を卒業後、稀有の敏腕を發揮して着々成功の道程を辿り、曩に深川電燈、川越電氣各顧問、箱根水電技師長四國水電、名古屋電燈各顧問たりし事あり、現に當社々長たる外、東海電機製造、日本起重機製造所、極東興業、東洋刀物各取締役社長、大同電氣製鋼所、日本アルミニウム、朝鮮ドレツチ鐵業、木曾川水電其他數社の重役を兼ね、人格識見共に超凡、斷然比肩する者僅少なる我が電業界偉材の士として令名高きものあり。昭和三年氏多年の功に依り、紺綬褒章御下賜の榮に浴したり。私的生活に於ては哥澤に深詣ありて著聞せり。

常務 三好松吉 氏は廣島縣の出身、明治十八年十月を以て、同縣三好周平氏の四男に生れ、夙に當社に入りて精勤恪勵、汝々として業務執掌に卓腕を揮ひ、今や現職に在りて信望内外に稱甚なる逸材卓見の士なり。資性温厚篤實にして、而かも剛毅不屈の半面あり、其の渾然玉の如き人格は全従業員の崇敬慕措く能はざる處なり。家庭には内助の功多きコヨ夫人あり、其間長男正人君(大正元年生)二男一雄君、三男俊吉君を擁し、一家和氣瀟々として近隣羨望の的たり。

(所在地 東京市蒲田區稲谷町四丁目)

事業家 松原基助

西日本の要港たる下關市に於て、下關市商工會議所議員、下關中央鮮魚仲買組合長、山口縣市港組評議員、下關市水上防護團副團長、下關鮮魚出荷組理事、下關重油株式會社監査役、日鐵鐵工所監査役等多數公職に携はり、勢望隆々たる、鮮魚仲買商松原基助氏は幼弱十二歳の頃より、父君の營業たる漁業に携はり、鮮魚界の將來有望なるを看破して、依之、成功せんと誓ひ、勤勉克く業に従ひ、父君の片腕となつて奮闘した。この間の經驗は氏をして、將來漁業人として斯界に雄飛するの根柢を爲したもので、愛見基助氏の爲めに、父君が如何ばかりか、心根を砕きて指導教訓に當られた事であるかは、想像に難くない。氏は昭和元年三十歳の時、父君の營業地たる宇部市から下關市に來り、現在の住所に於て鮮魚仲買商を開業した。これ氏が關門に於て成功するの第一歩であつた。其後氏の營業は年々歳々良好の成績を揚げ、同業者間に異彩を放つに至り、隨つて相當の資財も蓄積することになつた。生來仁侠に富み、人情濃かなる氏の行藏は、自づから同業者間の尊敬する所となり、事毎に氏の力を煩はずに

至り、氏も亦喜んで之れに盡すといふ關係から、獨り業界のみならず、一般からの人望も次第に高まり、遂に下關市として無くてならぬ存在となつたのである。今日氏の聲望と信用は河に絶大であつて、業續に於ても驚くべき成果を擧げてゐる。松原商店が取扱ひたる昨年一ヶ年の買入高實に八十六萬圓といふ巨額に達したるに見ても、如何に堂々たるかは想像出来るわけである。區々たる小事業でなく、眞に全日本の大事業である。重なる取引先を擧ぐれば、關東は東京、横濱、名古屋、静岡、小田原、關西は京都、大阪、神戸、新潟、岡山、金澤、福井、中國は岡山、廣島、山口。九州は福岡、熊本、鹿児島、宮崎、大分と販路網は宛然蜘蛛の巣を張れるが如くである。又別に松原商店は昭和七年から、市港網漁業を經營し、漁船八隻を所有し、山口縣海岸線、長崎縣海岸線に出漁し、多大の收穫を収めてゐる。斯くして幼時克く漁業界の將來を遠視したる炯眼、遂に今日この大成を贏ち得たのである。年齢未だ不惑を出づること三眞の仕事は今後にあり。立志傳中に輯録すべき模範的偉材と言ふべきではないか。氏の成功は嚴君の薫染に依るは勿論なるも居常自己の利慾にのみ染らず、斯界の發展たる大衆的の信念の發願に力めたることを明記して置く。(住所) 下關市 岬之町 五)

帝國自動車株式會社

本邦自動車工業界の先驅として、夙に獨自の境地を拓き、華々しき國産自動車進出戰の中に陸離たる光彩を放ちつゝある帝國自動車工業株式會社とする。この會社は、全額拂込二百萬圓の資本を擁し、専ら各社自動車々體及び自動車部分品の製造に従事してゐる。創業は明治四十一年四月故郷田兼太郎氏が、個人經營を以て開始せるに由來し、其後大正三年の歐洲大戰勃發を轉機として、我が産業界の全面的發展に伴ひ、從來質澤品視されたる自動車も需用の激増を來し、遂に大衆化の實現を見るに至り業界頓に活況を呈した。茲に於て、この會社は好機逸す可からずとなし、大正九年組織を改めて合資會社と爲し、越えて昭和五年三月、資本金を二十三萬圓に増加し、更に昭和十年一月には三十萬圓に増資し、次いで二年後の昭和十三年二月一躍資本二百萬圓全額拂込の大擴張を遂行し、同六月縣田自動車帝國自動車と改稱し、愈々本格的な活躍の舞臺に入つたのである。この會社製作の各種自動車ボディは、技術上獨特の長所を有し、製品の優秀正に天下に冠絶し「縣田式ボディ」の名聲は卓然として一世

を風靡し、「日本一」と稱されてゐる。今次日支事變に際し、特に功勞顯著なるの故を以て陸軍省より感謝状を受けたるを見るも、如何にこの會社の技術が斯界に卓越せるかを知る事が出来る。惟ふにこの會社が業界に嶄然頭角を現はす所以のものは、その經營方針が徒らに營利を貪らんとするに非らずして、現下非常時局に際し、國策に順應して、君國に報ひんとする、奉公至誠の發露に基因するものと謂はざるを得ない。この會社の工場は、設備充實し、優秀機械整然として眞に戦時日本一の工場たるを思はしめる。本社施設の第一工場を始めとし、芝浦二丁目一帯に順次第五工場を設置し、新興帝國自動車の隆盛を誇つてゐる。現車役としては、社長中内謙一郎、常務大町北造、取締役松本新太、山本孝介、長谷川昌宏、監査役木村兼次郎、高木楨二の諸氏であつて何れも業界知名の人材である。總務部長北澤實、經理部長郡司金次郎、營業部長根本直治、監理部長鈴木孝敬、工場長藤田良一、工場副長米川清四郎、検査部長肥後良夫の諸氏、共に新進氣鋭、機鋒縱横の人達である。今や、社長、専務以下重役、職員を始めとし、四百の職工、渾然一體となつて、戦時祖國の爲めに奮闘を續けてゐる。因にこの會社の取引先は、東京自動車工業、日産自動車、トヨタ自動車、三菱重工業等の大會社

で、ボディは全部この會社の提供に係るものである。其他、鐵道省、臺灣總督府、市營自動車、東京地下鐵道乗合自動車部等枚擧に達なしの状態である。將來の進展蓋し注目し値ひするものあるべきを信す。(所在地) 東京市芝區芝浦二丁目) 確乎不動の信念を抱きて、回天の事業に邁往する事多年、遂に北海道開拓史上に燦然永劫不朽の大功績を録せし己ならず、更に國政に參與しては獻身奉公、克く國利民福の大計樹立に侃諤の正論を吐き、其の志操堅牢たる識見の高邁たる、實に政界稀に見る高德の士として聲望全道を壓したる故代議士栗林五朝翁こそ、爰に其の傳記を概記せんとする我が栗林友二氏の嚴父に他ならず。而して翁功成り名遂げて昭和の初頭、卒然幽明界を異にせられ、其の訃報一度國會開催中に傳はるや、滿場肅然として襟を正し、時の田中内閣農林政務次官東武氏の發議に依り、衷悼切々たる弔慰文を奏せられ其逝去を痛惜せられて罷まざりき。蓋し翁生前の人徳隆々たる、將又國士的風格の躍如たりしを想見するに足らん。即ち稀世の人傑頭山滿翁と肝膽相照し、斷金

事業家 栗林友二

の親交ありしと聞く。友二氏は其二男として明治三十一年一月三日北海道の港邑室蘭に呱呱の聲を擧げ、幼にして堅忍剛毅、而かも嚴君の恰も親獅子の仔獅子を試練するが如き、猛鷲胸を受け、或は頭山翁の膝下に在りて心身練磨に専念し、若冠克く先考の英資を承けて麒麟兒の譽れを有したり。斯くて大正九年東大農學部獸醫科實科を卒業するや、更に熾烈なる向學心に燃えて敢然英を英國に負ひ、彼地ケンブリッジ大學經濟部に切磋琢磨の功を積む事三星霜、克く最新斯學の蘊奧を會得して、同十一年十一月之を修學歸朝す。翌十二年十一月嚴君遺業の一たる栗林商船株式會社に入り、令兄社長徳一氏の下に常務取締役の要席に就きたり。是實に事業界雄飛の初階梯にして、以來業務秩掌に賦稟の快腕を揮ひ兄弟協力、着々として社運を伸展興隆せしめたる己ならず、更に同十四年九月芝浦運輸取締役に就任、或は昭和三年四月、室蘭埠頭取締役に、同六年登別温泉取締役に、同十年二月數香海陸運輸監査役等の要椅を占め、踵で同年須取運輸監査役、栗林商會取締役に、共同海運取締役に、遂次就任、以て眞摯熱誠、孜孜として重責完遂に努力を傾け、其の非凡超俗の識見手腕を縱横に發揮して遺憾なきところ、各社共に業運隆々手として盛大に赴き、今や氏の令名北海道海運界は勿論、冷く事業界に

轉焉たるものあり。而かも父君の威烈に同化せられて國家觀念頗る厚く、單に私業の興隆發展を圖る己ならず、不斷に本邦海陸運轉界全般の進展に献替して、間然する處なし。即ち曾て昭和七年五月、海事審議會委員を拜命して以來今日に及び、其間に於ける功勞没す可らざるものあるは、偉とす可き處たり。資性剛毅測遠にして稜々たる氣骨に富み、而かも温情一度發せんか、恰も流露として兒女も之に懐しみ、其の渾然珠玉の如き人格は接する者齊しく欽仰敬慕せざるなし。且つ趣味として運動百般に通じ、殊に柔道には練達堪能高段者たる名實を兼備し、偉軀堂々、克く先考を髣髴たらしむるあたり、將に非常時運轉界の快男兒として、前途一段たる活動を期待され居る所以たらん。

家庭には淑徳高く貞節の賢夫人として令名を讓はるゝワカ子令間在りて、其の間長子定友君、長女禮子嬢、次女裕子嬢、三女和子嬢の一男三女を擧げて學家和風薫然たり。因に故五朝翁創立に拘る遺業には、栗林商船の他、株式會社栗林商會（大正八年三月設立、目的運轉倉庫代理業）、登別温泉株式會社（大正四年四月設立、目的北海道札幌別郡札幌村温泉町の温泉地開拓）室蘭埠頭株式會社（大正十二年十一月設立、目的海面埋立土地建物賃貸）室蘭石炭荷役株式會社（大正十五年

七月設立、目的石炭積卸請負）等ありて何れも故翁の偉大なる手績足跡として、隆々進展を遂げ以て今日に迫り。殊に栗林商船株式會社は、栗林商會と同時に、即ち大正八年三月に設立せられ、當初資本金は一百萬圓なりしも、其後社運の跳躍的發展に隨伴して、逐時亦増資、現に一千五十萬圓を擁し、本社を室蘭市海岸町に設置せる外、東京に支店、大阪、神戸、朝鮮に出張所を設け、社長に令兄



故栗林五朝翁

德一氏、常務に友二氏就任し、取締役には鈴木伴實、小林清三郎、笠井亨、瀨川祐二、監査役に水梨岩太郎、北村勝文の諸氏列し居れり。而して業礎の鞏固不動なるは論を俟たず終始堅實なる營業方針に一貫して、既往幾多の難關を能く突破し盡し、遂に今日見るが如き、赫々たる業績を顯揚し、北方海運界に鼎呂の重きを爲すに至れり。尙ほ現時所有船舶は二十二隻、十二萬噸を擁して、本邦沿岸各方面航路に就航し、其の運轉能力の迅速正鵠

なるは、斷然他の追隨を許さざるところなり。蓋し事業下に於ける我が海運界の花形會社として、業績益々顯然たるも、當然の歸趨と稱す可きなり。

(住所 東京市澁谷區大山町二二)

法學博士

### 栗津清亮

我國民の保險に對する知識が、幼稚であつた時代に於て、保險知識の普及を圖らんが爲めに、身を保險業界に投じ、その豊富なる學識を以て、保險の國民生活に必需なる所以を説き、文明國民として、當然保險そのものを認識しなければならぬと力説して、今日の向上を促した。保險界の恩人であり、保險界の權威である、法學博士栗津清亮氏の學界並に國民に齎したる功勞は、洵に顯著にして没すべからざるものがある。氏は京都府の人、士族淺田忠八翁の長男として、明治四年四月二十日を以て呱呱の聲を揚げた。幼名を徳次郎と稱し、先代清翁の養子となり、後改名したのである。氏は將來、學界の權威者たるだけありて、幼時既に凡庸の器ではなかつた。「人間としての自分を盡さんことは、人間全體の幸福を圖ることである。人間全體の幸福を圖るは、人間の不幸を救済するにあるのだ

吾れこの方向に進まん」と。大悟一番奮然として將來を覺悟した。明治二十七年東京帝國大學法科を卒業し、大學院に入り保險學を専攻したる所以も「人類の不幸を救済する」といふ大信念が然らしめたものに外ならぬ。明治四十年には法學博士の學位を授與された。今日でこそ博士號は、さほどの光輝を放たないけれど、當時の「博士」といへば、日本に於ても寥々曉天の星の如きものであつたので「法學博士栗津清亮」の名は光輝燦然たるものがあつた。次で農商務省囑託、有隣生命支配人、東邦火災取締役、日本傷害火災海上社長、日本アクチエアー會長、保險學會主事等に就任、保險界に進出し、これに依て意義ある人生の目的を達せんとしたのである。この間歐米に遊ぶこと二回、博士の名聲は漸次斯界に高まり、保險界の權威として明星の如き存在となつた。現在氏の携はれるは、東邦火災社長、南洋物産社長、保險高等專攻學校長、專修大學教授、巖松堂書店監査役等々で最近まで氏が生誕せられた日本動産火災保險の社長をもして居られたが、後進に要請を讓られて第一線を退いて顧問になられた。氏は資性謹直重厚、日本音楽に趣味を有し、人間味富富である。氏の爲めに救恤されて成功せる學生相當あり、一般景仰の的となつてゐる。定に尊敬すべき國實的學者である。家庭は故實

族院議員大澤謙二氏二女たる小松夫人との間に長男清隆君、二女美登里嬢、二男清徳君があり、長女萬里子嬢は京都大藤高英氏に嫁してゐる。琴瑟和調し和樂春風の如くである。(住所 東京市大森區田園調布三ノ七六)

西吉店主

### 西村吉次郎

古美術業界に鑄々の聞え高き「西吉」を家號として表流の茶器茶道具を専門に取扱ふ西村吉次郎氏の奮闘史は、古來幾多立志傳中に見る著名の人々と同様なる、涙なくして讀まれざる感激に満ちたるものがある。氏は明治三十年大阪府西村松之助氏の長男として生れ十五歳にして志を古美術商に抱き、東區伏見町二丁目茶道具商治村商店に入り、店主治村六助氏に就きて、古美術の熱心なる研究をつづけ、勤続十二年、大正九年三月、廿七歳にして始めて獨立し、營業を開始したものである。家號「西吉」もこの開業當初から用ひたもので、營業は始めたもの、當時美術業界は著しく不況時代であつた爲めに、氏は言外の苦難に遭遇したものであつた。治村商店奉公の書籍に依つて眼前に髣髴たるものがあり、思はず涙を催さしむるものがある。……『芳



西村吉次郎氏

松と丁稚名を呼ばれ、主人格別に目をかけられ十七歳より賣買共に一人歩きをゆるされ、十八歳の時堺にて一軒の古道具屋に立寄りて了入茶碗を見る。應舉下繪にて鶴繪あり、如何程なるやと尋ねしに、五十圓との事段々交渉の結果三十五圓にまけさし、買歸り主人も之れは安いと話あり、恰度その夏賀賀山代に會ありて、夫れを携へ出品せしところ四千三百圓に賣れ、主人も喜ばる。六助氏廢業隠退せらるゝと共に、益々責任の大を痛感二十七歳より獨立營業を天王寺小宮町にて始む、しかし時不況にして幾何もなく故人になられ、暗夜に光を失せし心地にて、一時は如何なさんと思ひ居る折柄、父に死別なし遺産廿六圓八十錢を受け義母の冷やかさに別居なし節骨一番奮然と俱樂部の入會を思ひ立ち、之れまた一重役の爲め入會も出來ず、此上はと根も力もつきながら、伏見町に居を移し斯業に努む、たま／＼入札札元を頼まるを機に、坂田作治郎氏より俱樂部の入會を懇懇せられ治

村竹次郎氏も又賛同せられ入會す。未だ平々凡々乍ら主席をけがす一員なれど、健康の續く限り斯業に努力なす覺悟なり……と。營業するには入會せねばならず、入會するには邪魔があり、この間の苦衷眞に同情に堪へざるものがある。乍伴天は遂にこの好漢を見殺しにはしなかつた。入會の宿望叶ひ、加ふるに店舗は元の主人の店と同じ歴史の意義ある伏見町に構ふることを得、奮闘努力、粉骨碎身の活動の結果、遂に今日の成功を贏ち得、業界一方の雄たるに至つたのである。氏は業務と關係深き茶道に興味を有し、一家を爲して居り、表流鑑定家の權威として知られ、殊に土氣、書付、切等の鑑定に至つては有數の人である。氏はまた珍らしき敬神家であつて、毎月一日住吉神社、生玉神社、伏見荷稻神社に參拜するを行事として、永年缺かしたことがなく、美術界は勿論、公共方面に貢獻する所頗る多い。梅世夫人との間に二男一女ありて、家庭常に和氣瀟々として朗かである。

(住所 大阪市東區伏見町三丁目)

### 日本コンクリートボール株式會社

日本コンクリートボール株式會社は、現社長吉澤兵左氏が、栃木縣葛生町に於て本事業を獨立經營せるを以て其の前身と爲す。氏は

その將來性に富める事業を、徒らに小規模なる個人經營に終らんとし、寧ろ事業そのものに不忠實なる所以なりと喝破し、百万畫策、遂に昭和九年八月、資本金參百萬圓を以て當社を創立し、渺たる個人經營は茲に堂々たる大會社として組織を改めしものなり。當社の營業目的は、一、コンクリートボール、コンクリート管並に附屬品の製造販賣及び之等原料の製造並に製品の賣買、二、同種の目的事業に關聯する一切の事業、三、前各號に關聯する一切にて、創立以來著々進展の歩を進め、第七回たる前期々間の業態は、支那事變の重大時局に直面して、原料資材の缺乏と努力拂底にて、相當製造上の困難ありしにも不拘、製品各種に對し、全面的に需要旺盛を極め、順調の製造を行ひ、特に「日本パイル」は、米材の輸入制限、内地材の品薄等の爲め市場の進出頗る顯著にして、一面又、鐵道省高架線、及び東京驛乘降場基礎工事等に使用せられ、更に日本製鐵會社各地工場建築工事基礎用として新規に採用せられ、其他軍需品工場建築工事等の爲め需要の激増を著聞して、盛況を呈し居り、將來の發展は益々期待し得らるゝ狀勢にあり、殊に昨年中旬操業を開始せるも、遂成を告げ、既に二月中旬操業を開始せる業況なり。されば當社各部門の狀況を總合觀察せば、愈々好調を招來するは瞭然にして、

次期に於ては、一躍優良の成績を擧ぐるは勿論、更にその上に、製造能力の擴充、既存設備の改善を行ひたれば、翫然一大勢力を築き上ぐるに至るべきは、寧ろ贅言を要せざる所なりとす。當社重役は、取締役社長吉澤兵左、同副社長大塚晃長、取締役田中徳兵衛、加賀山學、香田五郎、河西三九郎、福島茂富、監査役米本卯吉、大谷順之助、松下榮の諸氏にて、社長吉澤氏は定評ある濃厚篤實の士君子にして、力量手腕衆に勝れたる人。専務大塚氏は帝大工學部出身の工學士、その該博なる學識と豊富なる經驗とは容易に得易からざる有能の士にして、而も富國セメント専務、東武鐵道専務、南海鐵道取締役等の重職を兼ねてゐる人、其の他の重役亦何れも業界知名の先覺にて、巨船に棹さすはこれ等不爲の人材を以てする。如何なる巨浪激流も、坦々砥を往くの概あるや必然と言ふべきなり。従業員としては、前期末に於て役員一〇名、顧問一名、參事三名、技師三名、主事二名、書記十六名、技手六名、囑託四名、雇六名、試用六名、工手八名、タイピスト一名、守衛二名、小使一名、職工二百四十四名、計參百十六名を擁し、怒濤の如く殺到する市場の註文の爲めに舉社一致以て、全能力を發揮して晝夜兼行の活動をつとけつゝあり。前期八分の利益配當は期を遂ふて果進すべく、當社の前途洵

に洋々たるものあらん。

(所在地 東京市足立區千住關屋町)

### 渡邊數雄

日本火熱工業專務取締役

非常時火熱工業界の人物相に一瞥を興へんか、識見手腕共に卓抜なるもの、素より多々ありと雖も、之に烈々たる進取の氣象を加へ眞に國策線上に勇往邁進する少壯氣鋭の偉材即ち我が渡邊數雄氏の如き、眞摯熱誠なる人物に至りては、其の將來一段たる大成の兆歴々たる相俟ちて、容易に求む可らざる處たり。抑も氏は三重縣人渡邊敬次郎氏二男として明治三十五年十月、同縣津市に呱呱の聲を擧げ、幼にして俊敏穎悟、長ずるや鋭鋒益々光芒を發し、前途に多大の囑望を寄せられたり。斯くて縣立松阪工業學校を優秀なる成績を以て修業するや、他日雄飛の舞臺を工業界に求めて、砥礪研鑽する事幾星霜、其後昭和元年日本護謄株式會社に入り、爾來非凡の眞性と加ふるに進取敢爲の氣概を以て挺身社業に精勵を累ね、而かも事毎に累數の實績を擧ぐる處、翫然同輩を凌駕して昇進又昇進、社長田中周一氏の信認措く能はざる逸材として七ヶ年、昭和八年には早くも常務取締役の樞

樞に擧げられ、益々卓腕を發揮して同社興隆に甚大なる寄與をなす一方、慧眼遠識克く工業窯爐及び重油噴燃機等の前途一層需要の激増せん事を洞察、且つ同種類品の質的向上に處して工業報國の實を擧げんと、同十年四月に及ぶや、敢然社長田中氏と相謀りて姉妹會社日本火熱工業株式會社を設立せり。而して同社專務取締役の要椅を占め、或は製作方面に、或は營業方面に、銳意努力を傾注して、今や生産力擴充の國家要望に對應す可く驚天動地の大活躍を展開し居れり。資性濃厚篤實にして、人格高潔なる一方、不撓不屈、萬難を克服するの意氣に燃え、而かも温情流露、従業員を遇するに家族主義を以て臨む處、全社員の敬仰追慕措く能はざるものあり。尙ほ昭和十二年冬季、販路開拓の爲め滿洲國に渡り、具さに新天地の事業界を觀察して歸朝せる新時代工業界の俊魁たり。家庭には母堂小松刀自健在にして、令閨靜子夫人は、横濱ミツシヨンスクール卒業の才媛にして温雅貞淑の譽れ高く、其間長男敬介君(昭和二年生)長女美代子嬢、二女郁代嬢を擁して一家頗る和氣に満てり。因に日本護謄は大正六年の創立、日本火熱工業と共に、半額拂込資本金五十萬圓を擁し、後者は東京市日本橋區野村ビルに本社營業部を置き、名古屋市中區牧野町に名古屋出張所を設置する一方東

京市瀧野川區に諸施設完全なる工場を構へ、特許NKK重油噴燃機を始め、各種重油爐、高熱高氣爐瓦斯爐、各種瓦斯發生裝置及附屬諸機械、工業用及び艦船鐵山用各種火熱裝置各種窯爐設計、築造工事其他火熱應用諸施設一切等を營業課目に掲げ、其の製品の性能優秀にして構造堅牢なる、或は設計工事に表現する技術の卓越せる事、斷然他の匹儔を許さず、現に創業年處淺しと雖も、全國一流製作大會社は勿論、滿洲需要界にも絶大なる信用を博して業績一路向上に驀進し居れり。

(住所 東京市目黒區中目黒四ノ一四七五)

### 株式會社 東京美術俱樂部

生活意識の淨化と美術品の鑑賞趣味とは、到底離す可らざる處にして、殊に古典的藝術に表現されたる優雅恬淡、且つ神韻漂渺たる芳香は、現代無難なる人生路上恰も早天の慈雨たるが如き趣きを興へ、觀者をして宇宙生命の大根元に恍惚たらしむるものあり。而かも是等古典的美術品たる書畫骨董類が、單に鑑賞の対象たる己ならず之を商品的分野より檢討して、更に甚大なる價值を有するに於てや蓋し美術商の近來益々盛業を加へ居るも理の當然と云ふ可きなり。我が東京美術俱樂部

部は即ち東都新業界の圓滿なる發展隆榮を圖り、創立以來常に目覚しき業績を顯はるゝ全國美術俱樂部中の一大巨擘なり。而して其發祥は明治四十年四月資本金十五萬圓を以て兩國元町に設置されたるに拘り、初代社長に黒川新三郎氏就任、克く創業の困難を克服して着々業礎を築き、次で大正十三年一月二代目社長川部利吉氏就任を見、同十五年川部氏辭任するや、其後昭和七年に至る迄、由谷事務取締役業務執掌の重責を擔ひ、翌八年現社長伊藤平藏氏其任に就きて、今日に至る。其間關東大震災に遭遇、建物一切灰燼に歸するや現地に移轉し、超えて昭和十二年十月、多年懸案たりし宏壯雅麗、正に新界に冠たる大建築物を新築し、爰に傳統的鞏固を誇る内容と相俟ち、名實共に美術の一大殿堂を現出せしめたり。即ち新社屋は總建坪千三百四坪餘敷地坪數七百五十坪を占め、其の外部は鐵筋混泥土造、内部は純日本式にして和洋建築様式の精華渾然融合し、絢爛豪華壯麗に目も眩なす一大偉觀たるを失はず。而して一步屋内に足を踏み入れんか、結構善美を盡せる諸設備整然とし、地下五十六坪餘、一階四百三十七坪餘、二階三百二十二坪餘、三階百六十七坪餘に宛然青海原を劈掃せしむる疊千百有餘疊を數へ、此處に開催せらる、諸入札賣立會、或は美術品展覽會の盛觀たるや、蓋し想像する

に難事たらざる可し、一方業運隆盛に伴ひ、昭和十一年五月資本金を増額、最在の五十萬圓となし、之が株主は約三百名にして其内美術商約二百二十名を擁し、首腦役員を首め舉て、銳意奮勵たる時代文化の一領野に活躍奮奮し居れり。因に當社第六十一回（自昭和十二年一月至同年六月）營業成績を概觀するに賣立會席料二萬四千六百六圓餘、雜收益二千三百四十三圓餘、合計二萬六千九百四十九圓餘の總收入を得、他方總支出は八千七百九十五圓餘にして、之が差引該期純利益一萬八千五百四十四圓を擧げ得たり。而して前期繰越金五千八百一圓餘と合算せる利益金二萬三千九百五十五圓餘を處分するに株主配當（年三分）七千五百圓、法定積立金千三百圓、役員賞與金千八百圓、使用人退職手當基金二百圓後期繰越金一萬三千五百五十五圓餘等を計上せり。因に社屋新築なるや之が落成記念展覽會を開催する豫定なりしも、非常時局に鑑み他日に延期の機會を得て盛大豪華に舉行する事となれり。現在重役陣を組織するは社長伊藤平藏、取締役橋本元祐、同中村富次郎、同小山常太郎、同三谷勘四郎、監査役一色利厚、同豊田益之助、同中川清壽、相談役石野力藏、同川部利吉、同田谷廣吉等の諸氏にして、執事も業界屈指の人材たるは論を要せず。

社長伊藤平藏氏は神奈川鎌倉の出身、明治四年十一月を以て呱呱の聲を擧げ、夙に美術品を愛好する事深く、同二十八年、若冠にして東京市四谷區尾張町に、美術骨董商を開業す。以來堅實主義に一貫し、着々信用を贏ち得ると共に、超凡の商略を案じて業運を躍進發展せしめ、今や其の經營に拘る平山堂及び平山洞（世田谷區岡本町所在）は業勢隆々たること斷然新界の最高峰に位し、而かも人物識見共に卓然たる處、夙に當俱樂部社長、東京美術親交組合長等の要職に推され常に美術界の向上繁榮を圖りて、功勞多大なるものあり。資性濃厚篤實にして人格清高、且つ熾烈なる公共心を抱き、至誠一貫克く自治公共に奉じて功績顯著なり。即ち曩には東京府會議員に擧げられ、現時四谷區尾張町々會長、同區懇町睦會々長、四谷露店商店道會長等の要職に在りて令名益々光輝を發し居れり。因に氏は一面、俳人として亦傳ふべき人士にして、新道に意を潛めて不退轉の熱腸を捧ぐることに永年。その吟風の妙圓にして枯淡、自ら獨造自得の境を占め、斷じて他の籬下に立つを屑とせず。筆者、曩に「趣味大觀」を監修せる際、氏の新道の操履を鮮明にしたるは全國趣味人の齊しく知る處なり。爰に附言し以て氏の吐屬の益々旺んならむを祈念せむ。

（所在地 東京市芝區新橋七丁目）

陶磁器骨董賣商

會羽龜太郎

弱冠にして墳墓の地を離れ、未知の世界に鑛骨修業を果むること十有餘星霜、今や其の功燦爛たる光彩を添えて美果を結び、關西美術骨董商界に不壞の信用を築ける我が會羽龜太郎氏の如きは、蓋し業界立志傳中の一頁を飾るに相應しき人物と云へむ。抑も氏は奈良



會羽龜太郎氏

縣吉野郡上市町の出身、明治二十九年二月十九日を以て、龜三郎氏四男に生を受け、夙に郷費を卒へるや、敢然清志を美術商に馳せ、年少十六歳の時より斯界の巨商大阪村上金菊堂本店に勤務し、眞摯精勵、一意店務に忠勤を抽んぜしは勿論、他面美術品研究に不斷の努力を傾け、模範店員の聲譽を擧ひたりき。斯くて昭和二年六月、斯業經營の眞諦を把握し得て、獨立自營の機運到るや、當市土佐堀船町に堂々たる店舗を構え、茲に新興塗判の

氣鋭を以て業界雄飛の槍舞臺に登場せり。爾來神籌機敏の商略を揮して、能く機宜に善處し、着々業運を發展せしむる一方、常に信用を重んじ、奇利を追はず、専ら堅實無比なる取引態度を以て、古陶器及び書畫骨董類賣買に従事する處、信望頓に高まり、果敢頭角を現はすに及び、殊に同業者間に博する信用甚大なるは、容易に他の比肩を許さざるものあり、蓋し業運一路躍進の道を辿り、遂に今日の盛大を獲得せるも、必然の歸趨と稱す可きなり。資性濃厚にして誠實、而かも烈々不退轉の勇猛心を有し、其の渾然玉成せられたる人格は、斯界一方の權威を以て推稱さるゝ非凡の鑑定眼と相俟ち、同業者の信賴尊敬を受くる事頗る厚し。因に家庭には温雅淑徳の譽れ高きこぎく夫人ありて、其間一男一女を擁し、長男清君は東京茶道具商界の曉星、八田富雄商店に勤務し、長女繁子嬢は大阪高女に在學中と聞く。

（住所 大阪市東區淡路町五丁目）

事業家

平野幸太郎

として、明治十三年十一月十四日の生涯。幼にして慧敏、長じて大志あり「人間、不屈不撓、鐵石の志を以て事に當らば、何事か成らざらん、點滴能く石を穿つ、我が力正に何物をも穿つ可し」と軒昂たる意氣を以て進んだ明治四十年、若松市の草分として、安政二年以來の舊家たる石炭商「平野屋」平野勝之助氏の懇望に依り養子となり、平野姓を肩すこととなつた。才氣縱橫、達識の士たる氏は、時代の進運に伴ひ、それに適應せる、將來性を有する事業に携はるの有利なるに着眼し、明治四十一年石炭商の傍ら、石炭採掘上の必需品たる坑木商を獨力創業した。爾來營々として事業に精勵し、遂に今日の大成を見るに至つたのである。事業に對する氏の眞劍味はあらゆる方面に成果を擧げ、堅實なる地盤自ら成り、信望亦隆々たるを見るに至つた。斯の如くして、歐洲大戰に依る不景氣の襲來も昭和二年の財界パニックも、氏の事業に對しては何等の影響なく、年と共に益々發展を來たし、坑木商として單なる若松市に於ける平野商店に止まらず、全九州に於ける巨商として、その存在は、燦然たる光を放ち、賣上高に於ても、斷然同業者をリードしてゐるのである。この店の取引先は主として一流大手筋の鑛山で、其重なるものは、貝島炭鑛、麻生商店、日本製鐵、日産化學工業、東邦炭鑛の



諸會社で、更に滿洲事變當時から、滿洲の滿洲鐵業、及び臺灣の臺灣鐵業兩會社にも歴倒的多量の坑木納入を爲してゐる。而かも坑木産地の各停車場には、何れも出張所を設置して取引に便してゐる。出張所の所在地を示せば、山陽線は島田、米川、厚保。大分縣は立石、中山香、向井原、小野屋、中判田、坂之市。宮崎縣は、都城、財部、五十市、山ノ口谷頭、高崎、新田の各驛である。今や同店の年商内高は百萬圓に達し、従業員六十五名、常備仲仕百餘名を使用して業務の拡大を誇り未曾有の石炭好況時に際會して、現に坑木の不足を告げつゝある、各會社の需要に應ずべく、全力を傾けて活躍してゐる。氏はまた若松市商業會議所議員として二期當選し、若松市々會議員として連続三期當選の榮冠を擔つてゐる。政治方面は常に嚴正中立を標榜して過去十數年來、若松市民の爲めに活躍し、正論の士として知られ、現に市參事會員として重きを爲してゐる。資性豪放磊落、而かも仁慈の念に富み、身を捨て、正義に殉ずるの風あり。多額納税者として非常時日本の經濟にも貢獻する所亦頗る多い。稀に見る高潔の士、仁侠の士として市民敬愛の的となつたのである。蓋し若松市の至實の人物と推稱する所以である。

(住所) 福岡縣若松市西本町辻ヶ谷)

### 春樹堂主 入江熊吉

東洋古美術品鑑定の一權威として、雅名風に噴々たる己ならず、出で、斯業を經營すれば新銳潑刺、洵に華々しき發展振りを顯示して、今や藝文界に一領域を劃せるもの、即ち我が入江熊吉氏の本邦美術骨董商界に扶植せる信用は、牢固として容易に抜く可らざるものあり。氏は明治二十八年七月二十八日を以て大阪に生れ、幼にして聰明、稍々長ずるや志を美術品商に抱き、小學校卒業後年少にして斯界の重鎮春海商店に入り、爾來鏗骨奮勵、只管業務修得に抜群の精進を累ね、而かも献身同店の繁榮隆昌を庶幾して、健闘之れ務むる處、賦稟の英資と相俟ちて頗る重用せられ、後年同店の株式會社となるや、率先取締役の要椅に選任せられて、在職する事九ヶ年、或は其後組織を變更、合資會社時代に在りては、出資社員の重責を擔ひて縱横無碍の活躍を擅にし、背景の強力雄大なると共に、其の存在は同業者の齊しく畏敬する處となれり。斯くて同店に勤続する事、實に二十有五星霜の久しきに及び、其間上海、南京、奉天等巡遊、能く支那美術に關する智囊を豊富ならしめ、爰に斷然鑑定眼の至妙を稱揚する



入江熊吉氏

技術既に玄人の域に達す。因に一惠夫人は温雅貞淑の譽れ高く、長男富雄君は家業に従事し、次男勤二君は天王寺商業に在學中なり。(住所) 大阪市東區瓦町三丁目)

### 片倉製絲紡績取締役 森谷彦太郎

轉々たる片倉製絲紡績株式會社には、素より業界の重鎮を以て推稱さる俊魁古豪の士渺なからずと雖も、夙に現社創設以前より其の業務に献身的精神を傾け、終始一貫、社業の發展と共に令名を斯界に馳せ、今や同取締役工務部長の重責を擔ひて、功績拔群なる我が森谷彦太郎氏の如きは蓋し他に類を求め難き忠勤熱誠の至實の功勞者と稱す可きなり。即ち古來一業達成の蔭には、必ずや大柱石たる可き人物の存在あり、其の挺身奮闘の結實克く覇業を成就したるは、之を青史に徴する要なき程明白なる事實にして、氏の如きこそ實に斯る主家興隆に處せる偉功者と稱讚するも敢て過褒の言には非らざる可し。抑も氏は明治十二年九月を以て、隸系王國長野縣に呱呱の聲を挙げ、父君金三郎氏二男として幼時早くも聰明穎智、其の天稟の敏才を以て前途を囑望さるゝ事多大なりき。斯くて稍長するや決然勵志を製絲業界に致し、同社の未だ株式組織に發展せざる播種時代に入社、以來眞摯熱誠只管業務に忠勤を抽んじ、名實共に儕輩間に垂範の實を示せるは勿論、更に刻苦勉勵孜孜として斯業の技術的部門に切磋砥礪の功を積みたり。斯くて社業發展を圖りて畫策努力、常に昭々たる功績を擧げし結果、大正九年三月社容擴充せられて現社誕生するや、率先工務部長の要椅に擧げられ、其の深造非凡

の識見手腕は斷然、斯業界の一權威を以て目されるに至り、或は多摩製絲株式會社、片倉製絲株式會社等の取締役に推されて、専心我國製絲業の進歩發展に献替し、其功勞遂に洩す可らざるものありき。而して今や片倉製絲紡績取締役の樞樞に在る一方、長崎製絲株式會社專務取締役として巨腕を遺憾なく發揮し偉名益々斯界に顯然たり。資性濃厚謹直にして人格圓滿たる一方、烈々不憚の勇猛心を有し、熱誠努力、克く初志貫徹の一路に勇往邁進して、遂に今日の成功を贏ち得たるは偉とすべく、正に當代立志傳の一頁を飾るに相應しき人物と云へむ。因に家庭には長男啓三郎氏及び同令妻千春女あり、其間一彦君、要君保昭君、廣文君等の四令孫を擧げ、尙ほ長女さか江嬢は長野縣鈴木喜一氏に、二女もりお嬢は同縣佐野康治氏に夫々嫁し、三女靜江嬢は同縣橋本信子女の養女となれり。(住所) 東京府南多摩郡小宮村西中野)

### 硫安販賣株式會社

支那事變下に於ける新國策遂行の一顯現として、曩に臨時肥料統制法發布せらるゝや、之が實施機關の大任を擔ひて肥料販賣界に登場せるを、硫安販賣株式會社とす。即ち昭和十二年十二月二十三日、該法第一條第一項の規定に依りて全國硫安アンモニアの製造業者(法人)より其の製造に拘る硫安の全量を買入れ、之を一系系れざる統制下に需要界に販賣し、或は輸出入、移出入取扱にも總對的偉力を發揮して、硫安需給の圓滑並に其の價格の公正を期し、以て該品の豊富低廉なる供給を爲す可く、翌十三年一月十五日を以て營業開始の緒に就けるものなり。而して其の重要使命達成上、社礎の堅固不搖なるは勿論、加盟株主の如き實に本邦肥料需給界の一流團體たる新鴻硫酸、日本窒素肥料、日本製鐵、日本化學工業、東洋高壓工業、宇部窒素工業、矢作工業、合成工業、旭ペンベルグ、昭和肥料住友化學工業、全購聯、全國肥料商業組合、三菱商事等の首腦役員を網羅し斯界最高峰の組織要素を擁し居れり。一方、事業實際の經營として前記目的の下に、需給關係を考慮し、豫め買入及び配給計畫を樹立、即ち買入業務規程に關しては、配給計畫に基き數量、受渡區域、受渡限月等を製造業者に通知し、以て買入契約を爲すものとし、又販賣業務に在りては、其の販賣品を總て、當社硫安としてマークを統一し、尙ほ包装には當社名及び製造工場名を併記、保證票は製造業者に於て添附する事となし、買入價格に經營費其他を加算せる價格を以て、指定販賣店に賣

渡す等の規程を設け在り。更に之が販賣事務處理に就きては本店を現地に設置せる外、大阪支店を設け、其の管轄區域を本社に在りては北海道區、東北區、北陸區、關東區、臺灣區等となし、大阪支店に在りては東海區、近畿區、中國區、四國區、九州區、朝鮮區等となして、首腦部の遺憾なき指導統制下に全社員一致協力、常に國策線に沿ひて、銳意社業に盡せし居れる處、其の儼然たる偉容と相俟ちて創業日淺しと雖も、業績昭々たるものあり。而かも第七十三議會に於ける確安増産及び配給制法に依り、更に確安の豊富低廉なる供給實施されんか、當社は茲に日本確安會社と改稱して、現存組織を擴充し、現在進行中の事業なる確安の買入、販賣、輸出入、移出入等を繼承する他、一般確安會社の製造を以てしては、到底該品供給を確保すること困難なりと認めらるゝ場合に於ては、政府の認可を得て自ら確安製造を行ふ可き豫定なり。而して今や銳意新法實施に伴ふ新會社設立に即應し得る如く準備態勢を執り居れり。蓋し前途の一大飛躍こそ正に刮目に値す可し。因に現有資本金一千萬圓にして、重役陣には取締役會長子爵織田信恒、取締役社長森島和、専務取締役若米地義三、取締役長澤一夫、同近藤誠次、同矢崎徳治、同國吉省三、同田淵敬治、同鈴鹿和三郎、同柳瀬篤二郎、同今井富

### 日邦工業株式會社

近代交通文化の發展隆興は眞 目覺しく、陸に海に空に、無限の躍進を顯示し居れるも就中路面交通界の龍兒、自動車の進歩發達たるや、正に劃期的壯觀を呈し居れり。従つて其の必要附屬品の如きも、各種類に亘りて新精巧を誇る逸品が陸續製作發賣せられ、國產自動車工業界の一部門に凱歌を奏すると共に、亦た自動車運轉者の利便を増大せりと雖も、苟も方向指示器、パツクミラー、グアキユムホーン等に關しては、日邦工業株式會社製品を以て、我が國斯界の代表的製品と推稱すべきならん。即ち當社は昭和十一年三月三日、資本金十萬圓（内拂込金三萬五千圓）を以て創立せられ、爾來未だ年處多からずと雖も、既に特許ニツボ式方向指示器、新型パツクミラー「ミリオソ」等、何れも體裁優美性能優秀、更に操作簡便なる斯界の最高權威品を完成發賣し、全國需要界に白熱的絶頂を博すると共に旋風の賣行を示せる結果、社運隆盛發展の一途を辿るに至れり。亦た各種自動車用品及車輛用品或は特許醫療器等の製作販賣を營み、兩々相俟ちて斯業界に卓然傑出せる優秀品を製産、以て社名頌に聲價を加へ、

之助、監査役榎並直三郎、同福澤駒吉、同長瀬貞一等の諸氏なり。

（所在地 東京市麹町區丸之内千代田ビル内）

### 雜選堂主

### 圓井徳太郎

氣韻高雅なる雜選堂の屋敷を揚げ、關西美術骨董商界に斷然重きをなせる、圓井徳太郎氏は、兵庫縣人同姓編五郎氏長男として、明治二十八年九月五日に誕生せり。夙に郷黨を卒ふるや、青志を斯界に致し、若冠十四歳にして敢然郷黨を出でて、當市東區岡田太郎商店に入り、爾來同店に勤務すること、實に二十有餘年、其間誠心誠意主家に忠勤を抽んずる一方、孜々として古美術品の研究に没頭し、其の識見手腕卓抜なるに至りし已ならず夙に業界の垂範的優良店員として表彰されし事故舉に追なく、令名内外に噴然たりき。斯くて登壇の功成るや、昭和七年を以て獨立開業し、多年培養せる信用に立脚して、銳意業陣を進むる處、其の積極的營業方針と相俟ちて業績頗る擧り、今や創立日尙ほ淺きにも拘らず、斬然斯界に頭角を拔んずるに至れり。是れ實に氏が永年主家に精勤勵し而かも眞摯熱誠なる態度に一貫して、只管業務修得に

今や斯界有数の新興優良會社として前途を期待すること多大なり。

因に當社重役氏名を掲ぐれば、社長藤原清司、取締役不死原重夫、同藤原庄作、監査役西畑守造諸氏なり。

### 社長 藤原清司

我が藤原清司氏は、明徹なる頭腦の所有者、即ち文化の向上發展に隨伴し自動車工業の前途洋々たるに着眼、斯くて翹然業を換え更に一事業一會社を設立經營なして、克く今日の榮冠を贏ち得たる奮闘成功傳中の一偉材なり。氏は明治二十九年六月十四日の誕生、兵庫縣藤原吉氏三男にして、夙に氣才縱横、而かも頗る進取の氣象に富み、學業を卒へるや、奮然實業界雄飛の翻志を抱きて、颯爽實業界に身を投じたるも、其後神崎自動車株式會社に入社常務取締役となれり。爾來天性の英才に加ふる、不撓の努力を以て、社務を總攬卓腕を縱横に發揮する處、同社興隆に獻骨寄與すること多大、斯くて社内外に名聲噴々たりしも、生來獨立不羈の念に富み、且つ先見の明を有する氏は、敢然自動車用品製作業に矚目し、茲に當社を創立、其の社長の樞樞を占めるや、只管斯業報國の大信念に燃えて拮据經營し遂に今日の隆昌盛大を招來するに至れり。資性剛放調達にして小事に拘泥せずと雖も、事業上の諸企畫

邁進せる賜と云ふべく、其の過去半生に及ぶ努力力行は、蓋し業界後進子弟に好固の範を示すものと稱す可きなり。而して現在販路は洽く内地全土に亘り、同業者間は勿論、得意先たる大家名門の絶大なる信用を博して、前途洋々たること、正に他店の企及し得ざる處たり。因に當店所有に拘る書畫骨董中、嘗て重要美術品に選定されたるもの數種あり、以て取扱品に珍品奇物多々あるを窺知するに足らん。資性敦厚朴直にして典雅なる風格を顯はれ、且つ識見手腕の高邁なるは素より、殊に燃ゆるが如き公共心を抱きて至誠一貫、克く居町民の利福増進を圖りて、欽仰さるゝこと多大にして、その功勞没す可らざるものあり。家庭には温雅貞淑なる君子夫人ありて内助の譽れ高く、其間長男孝一君、次男忠雄君、三男謙三郎君、長女富子嬢、二女慶子嬢、三女千鶴子嬢等の三男三女を擁して一家團樂たり。



圓井徳太郎氏

（住所 大阪市東區北濱三丁目）

審細周倒にして些事をも苟くせず、而かも社交的態度頗る洗練され、人格圓滿、識見豊富なる處定に典型的實業家と推稱すべく、且つ不惑を超越すること未だ僅少、其前途の一段たる雄飛發展こそ、正に刮目に値すべきものならん。因みに趣味は多趣多藝にして非凡の稱あり。

（所在地 大阪市此花區上福島南三丁目）

### 下關米穀取引員

### 有吉幸熊

人材翹集せる下關米穀取引業界には、素より卓腕明識を賞讃せられ、或は努力奮闘を推稱せらるゝ士勢なからずと雖も、二者渾然融合して光輝燦たる成功を招き、而かも挺身公其の利福を計りて盡瘁奔走を惜しまざる立志奮闘傳中の偉材に至りては、恰も曉天の星の如く寂寥々、斷じて多く求む可らざる處なり。

然るに我が有吉幸熊氏の如きは、實に斯の如き稀觀の偉材として瞻仰に値する存在たり。

氏は山口市下金古會根の出身、明治五年十月十九日を以て有吉源一氏四男に呱呱の聲を發し、幼にして才氣煥發、出藍の譽れを讓はれたり。斯くて長ずるや勃然たる大志を實業

界に抱き、同二十四年、奮然下關市に來りて肥料海産物商河善商店に入り、爾來精勵能く主家に仕へて忠實を致し、信望噴々たりしも同店主急逝するや、勤続七ヶ年に及ぶ同店を辭して米穀問屋澁谷商店に轉じ、格勤努力、凡ゆる困苦艱難を克服しつゝ、只管業務に精勵する處、異數の成績を擧げて手腕豁然騰躍を凌駕せり。即ち擧げられて支配人の要職に就き、同店の實権を掌握して雄飛活躍すること



有吉 熊氏

縱橫無碍、爲めに同店をして動搖波瀾常なき業界に卓然設立せしむるに至れり。是實に氏の功績に負ふ事多大なるは論を俟たざる處、從て同店不可缺の至寶的人物と尊稱せられ、令名内外に燦たりき。其後同四十四年を以て氏の親戚、有吉彦三郎氏經營に拘る米穀取引店の支配人に就任し、専心店容の強化擴大を圖りて貢獻寄與する處甚大、而して手腕識見愈々圓熟の境に入り、獨立自營の好機至るや、大正九年現地に店舗を構えて創業せり。以來

終始一貫、堅實なる營業方針を以て遂に臨み且つ卓絶不羈の商才を發揮して遺憾なき處、業運着々隆昌發展して遂に今日の盛大を築くに至れり。今や斷然斯界に重きをなし信望隆々たる他に匹敵を見ず。即ち取引所會計の重責を擔ひ居れるを以て親知するに足らん。

質性濃厚篤實にして人格頗る圓滿、而かも閃發する穎智の光芒時に衆人を驚嘆せしむるあり、且つ謙見豐富にして卓腕の所有者たるは歎言を要せざる處なり。是實に青年時代より苦闘精勵の裡に人物を純磨し、常に向上の一途に精進せる不撓不屈の賜と云ふ可く、蓋し其過去半生に亘る奮闘史こそ、正に懦夫をも感奮興起せしむ可き發奮劑にして、後進子弟に好箇の範を示すものと云はざるを得ず。

尙ほ氏に感ず可きは烈々たる敬神崇祖の念に燃え、居常力めて神社佛閣に寄附するを怠らず、或は社會事業に深甚なる理解を有して巨額の淨財を投じ、至誠一貫、公衆の利福増進に獻替する篤行あり。是れ正に氏の如きを稱へて世の龜鑑と稱する所以なり。

(住所 下關市王司町)

### 機業家

## 細岡作左衛門

秩父機業界の重鎮として飛ぶ鳥を落す勢望

は著しく強化さる。その一の實證として炭聯の送炭方針が一大轉換を來し事實上自由出炭となりしは特筆すべき一痛快事なり。殊に日支事變を繞る國際間の緊迫、滿洲國の經營等は膨脹軍事費を中心として益々國家の財政を増大せられ、之に伴ふ一般産業界の好調發展は、益々石炭の需要を更に激増せしめつゝあり。かゝる好條件に恵まれ業界の先達となり其偉力を顯揚しつゝあるは、我が三井鑛山なり。周知の如く當社は三井家直系の事業會社にして創業以來五十有餘年、所有の時運に超越して儼然微動だもせず、其資本、實力、信用、規模に於て斯界の太陽的存在たり。而して當社の創業に遠く明治十九年、三井家が北海道雄登硫磺山を買収開發せるに始まり、同二十二年三池炭鑛の拂下を受けて業礎の確立を期し、同二十五年三井家より分辦資本金二百萬圓の合資會社の組織と爲し、同四十四年に追んで更に資本金二千萬圓の株式組織に變更と同時に現稱號に革めたり。此間中本野湯本、砂川其他の諸鑛山を買収し、發展に伴ひ増資を累ね現在の資本金一億圓内拂込八千五百五十萬圓、所有鑛區實に三百數十ヶ所、其傘下に北海道炭鑛汽船、東洋高壓工業、太平洋炭鑛、三成鑛業、釜石鑛山、神岡水電、日本製鋼所、輪西鑛山、北海道曹達其他二十八會社を措き、之れが地資額實に五千四百六十

あり、その營む事業規模宏壯にして、機業活況を呈し、同地方首座を爭ふ機業家に細岡氏あり。

現在、内地物織機二百臺、内地物一ヶ年の生産高三萬五千疋に達す。又先年より輸出織物にも手を染めて、工場の増築をなし、三十臺の織機を設備し、爾來着々として優秀なる成績を擧げ、その製造に拘る廣巾織物は海外市場より多大の歡迎を受け、一ヶ年輸出物二十數萬ヤールに上り、昨今に至りては更に増加の趨勢を辿れり。殊に當工場に於て製造せる模様銘仙は柄感觸共に優秀にして、東京方面にても關西方面の間屋筋に於ても多大の絶讚を博し、一流品の榮冠を獲得せり。その製品の優秀なるのみならず、製品の産出高に於ても亦た秩父地方高位の地位を占む。氏は明治十四年六月富山縣中新川郡西加積村上梅澤に於て細岡作藏氏の男として生る。幼名を菊次郎と云ひしが後現名に改む。幼時より進取の氣性に富み、早くより父母の膝下を離れて他郷に出稼ぎに出で、轉々して秩父郡に來り秩父機業界の先覺者として知らるゝ先代荒船清十郎氏より見出され、同家に於て機織りの業に従ひ、幾何もなく染色主任、男工監督等に拔擢せられて大いに重用せらる。爾來十有餘年淬勵勉主家の興隆に盡瘁して非常なる貢獻あり。後に至り獨立して機業を經營し、

餘萬圓を計上す。而して當社は石炭以外に金、銅等の産出製煉を營ね、石炭事業地は三池、田川、山野、砂川、美唄、川上、内川等にして、金屬事業地は中本野、神岡、瑞、佐野の諸山あり。其他三池製煉所、三池彦島工場、三池染料工業所、三池製作所、三池港務所、大泊埠頭事務所、目黒研究所等何れも榮然大規模の聞えあり。尙大牟田市に三井工業學校を開演して、斯界學徒の教育に盡瘁する等絶對他の隨從を許さざる陣容たり。

當社の營業科目は石炭、金、銀、銅と大別するが、之れを細別せば、

- 一、石炭、コークス、煉炭
- 二、亞鉛、亞鉛末、亞鉛板、ポイラー、ジン、鉛、金、銀、蒼鉛、白金箔、黒鉛、カドミウム、硫化アンチモニー、碲素鐵、碲石、螢石、重晶石、クロム鑛、銅鑛
- 三、硫化染料、直接染料、鹽基性染料、酸性染料、酸性媒染料、媒染料、建築材料、顯色染料、酸化染料、アニリンオイル、アセトアニリド、フェナセチン、サツカリ、石炭酸、サリチル酸、ピクリン酸、トリクレン(トリクロルエチレン)エチレンクロルヒドリン、メチルクロラド、ミケゾール、ヂクゾール(パラヂクロルベンゾール)クロルピクリン、ミイケ殺菌劑、ニチレングリコール、ニトロペンゾール、パラニトロトルオール、

拮据勉勵してこれに没頭す。氏の多年の経験とその信望、卓抜なる手腕と努力に依り、僅々數年を出でずして事業は非常なる躍進を遂げ、秩父地方機業界屈指の事業家となるに至れり。氏は剛毅果斷、努力奮闘の士にして、手腕卓効、智能俊敏たり。業界の難局をも見事に乘切り、歴年業礎鞏固に事業發展を加ふるに至れり。氏は教育の一助に資せんとして高篠村小學校に二宮尊徳翁幼少時の立像を寄贈す。身を持つること堅く、報徳の教義を體して實踐躬行し道境より身を起して徳望近隣に洽き氏の如き、まさに尊徳翁を彷彿せしむるものあり。氏の濃情に悅服せる工場従業員は一致協力して能率増進に品質向上に力を盡くし、他工場に見ざる麗しき美風あり。氏は現在秩父機物工業組合理事に列し、秩父機業界の爲めに奔走して寄與する所鮮少ならず、その勢望赫々たるものあり。

(住所 埼玉縣秩父郡高篠村山田)

## 三井鑛山株式會社

機近の炭界は時局を反映せる重工業、化學工業、電力業を中心として飛躍的進展を示現し、然かも此間需給の逼迫と炭價昂騰の急速より増産問題を擡頭せしめ之が對策の爲統制

クロルベンゾール、パラトルイチン、安息香酸、チニトクロルベンゾール、ベタナフトール、モノクロル酢酸、オルソトルイチン、アルファナフチルアミン、ベタナフチルアミン、

四、硫酸、硝酸、鹽酸、酒粉、苛性曹達、亞硫酸、硫黃、アンモニア水、メタノール、液體炭酸、液體アンモニア、クロム明礬、炭酸加里、硫化曹達、硫酸亞鉛、石膏、ベニガラ、リトボン、炭酸アンモニア、硫化促進劑、老化防止劑、ボーキニン(安息香酸エステル)液體鹽素、鹽化アンモニア、鹽素曹達、鹽素酸アンモニア、金屬曹達、ハイドロサルファイド。

五、硫酸アンモニア、クレオソート油、コイルタール、ピツチソフトピツチ、ピツチコトス、ナフタリン、トルオール、ソルベント、重油、ペンゾール、モートリン、クレソール。

六、珪石煉瓦、シヤモツト煉瓦、カーボモンド煉瓦、アラモンド煉瓦、其他各種耐火煉瓦及び耐酸煉瓦、アラングダム珪石、カーボラシダム珪石。

七、鑛山用機械類、唧筒類、送風機類、運搬機類、蒸氣汽機、瓦斯發生裝置、煉瓦煉炭製造機械、化學工業用機械類、選鑛製煉用機械類、電氣機器類、ギター鐵板製品、船用

機械、分留器。

當社最近の營業狀態を述ぶるに昭和十二年下期の諸積立基金繰越金は實に三千八百七十八萬四千圓を計上し、支拂手形三百九十五萬九千圓、鑛山及附屬物件六千七百九十四萬五千圓を算し、總資産は一億九千二百六十二萬八千圓にして、當期の總收入六千九百九十八萬七千圓、總支出六千六百六十三萬二千圓差引純益金八百三十五萬五千圓、利益率二割五厘配當依然として一割二分(内四分は特別配當金)を踏襲し、後期に二百九十八萬三千餘圓を繰越し、堂々たる餘裕を呈現せり。

堅陣無双の重役諸氏は

代表取締役會長常務取締役尾形次郎、代表取締役常務取締役西村小次郎、常務取締役高島基江、同片山眞五郎、同松田範房、取締役三井守之助、同三井邦藏、同島田勝之助、同生島暢、同川島三郎、同林新作、同有田靖太郎、常任監査役辻俣一郎、監査役三井高陽、同岡本達三。

代表取締役會長常務取締役 尾形次郎

心身を工業界に捧ぐる事半生、今や三井王國の樞樞に參與し、其の行履燦たるものあり、噴々の聲譽斯界に著聞する他、三井王國下唯一の達筆家にして斯道に光芒を放つ轉々たる太陽的存在たり。明治七年福岡縣士族尾形善

六翁の二男として出生、同三十一年東京帝大工科電機科を卒ふ。後三井鑛山に入社し、同社所屬の三池炭坑技師として永年彼地に恪勤其頭賢と多識は所内外を歴す。其間大正六年工学博士の學位を授與せらる。次で取締役を経て疊に現重職に推舉せらる。學憲時代の絶倫深思の勉強振りは知る人ぞ知る、一生を我が鑛業界に投じ、餘蘊を東洋獨特なる象徴藝術の精華たる書道に馳す。書風瀟灑として冒し難き孤相の筆致を焔燻し、脈々として人生の心魂に徹し、後輩の針黹に任じつゝ、鑿鑿たり。

(所在地 東京市日本橋區室町二丁目)

本間正雄

石巻港は藩政時代東北に於ける唯一の貿易港にして、千石船の出入頻繁を極め、その殷盛なること古くより全國に名あり。大江戸の市場を賑はせし本石米と芳醇の銘酒は凡て當港より積出せしものなり。當家は石巻に於て酒造業を營み、その規模宏大にして、多額納稅者として著名たり。先代半兵衛翁明治初年に酒造業を始む。醸造に就いては種々と苦心研究をなし、幾多の改良を加へたる後に醸造されることとなりし「福の玉」は美味芳醇を

以て非常なる好評を博し、東北屈指の銘酒として謳はれ、全國の博覽會、品評會等に出品して金盃銀盃、表彰状等を受くること數知れず、一ヶ年の醸造高二千石に上り、その販路は三陸地方を始め、其他各地にして需要頗る多し。先考半兵衛翁は東北電燈、東北送電各社の重役として事業界に活躍せり。昭和十年に長逝せらる。長男正雄氏遺志を承繼して家業に従ふ。夙に東北學院に學び、俊秀にして學識深く、明朗調達の好紳士たり。

酒造業に就いては熱心に研究なしつゝあるが故に今後大いに躍進するに至るべし。尙ほ本間家は仙臺市に貸家八十ヶ所を有し、東京新宿にアパート春葉莊を經營し、土地家屋の所有多額に上り宮城縣下有數の資産家たり。當主正雄氏は明治三十九年八月に生れ、その前途春秋に富む、今後事業界に大に驥足を伸すに至らん。夫人との間に三男三女の子寶ありて家庭和氣瀟々たり。

(住所 宮城縣石巻市立町)

丸五商店

戰雲東亞の天地を掩ふ事變下に在りて而も戰時體制下に於ける我が機械工業界の躍進的活況は實に目覚しく従つて斯業の持つ使命を

そ國家興隆の樞樞を形成したるものとして重大なる責務ありと言ふべきなり。然かのみならず迎年世界文化事業の發達に伴ひ斯業の使命は益々廣範圍を加へたる秋、之れに附隨する機械器具の優秀又斯業促進發展上欠くべからざる存在なり。就中鐵管附屬たる鐵手は使用範圍最も廣く、燈房に浴房に水道に瓦斯に近代建築物に必須缺くべからざる必需品と



野口三五郎氏

なり機械工業の中に在りて國家的事業の一員たるのみならず文化事業の側面的重大なる存在と言ふべきなり。我が株式会社丸五商店又斯業の使命達成へ孜孜として歩武をかためつゝある顯著の一員にして鐵手専門を以て堂々斯界に躍進を續けつゝあり、創業以來二十數年、其の永き經驗に基き良質材料の嚴探、機械の優秀化、技術の熟練を誇り「洩れない鐵手」「強い鐵手」「廉い鐵手」の同店製品は日産平均五噸の黒製品と純亞鉛鍍金鐵手五噸合計十噸餘の優良製品を内外に送りつゝあるに

徴しても契知し得る如く、今や鐵手の存在として信用の絶大を以て隆盛を極めつゝあるものなり。而して當社は大正九年現社長野口五三郎氏の創業に係り、昭和十一年之を株式に變更資本金二十五萬圓全額拂込となしたるものにして、現今斯業界に於ける内容設備の充實と製品の優良とを以て、我が國鐵手界の霸王たる外、各種ポンプ及工具類製造販賣を營み世の絶讚を博しつゝあり。

社長 野口五三郎 氏は大阪府野口五郎兵衛氏の三男にして明治二十二年五月を以て三島郡に生れ大阪商業學校卒業後志を立て、實業界に身を投じ大正九年現地に於て現業を創業、幾多の時代的衝擊を受けたるも克く抗し、巧に商才を發揮遂に今日の丸五商店を建設したるものにして、同地に於ける同業界の巨星的存在なり、資性剛毅にして恬淡天賦商才に富み、機局才略縱横、膽大にして周到なる手腕は等しく業界人の知るところなり。然も人格高潔にして衆庶の信望頗る高し、宗教は眞宗にして家庭にはナツ夫人との間に實君一子あり、金剛會高女出身の夫人は専ら内助に之れ勵み、貞淑を以て聞ゆ。因に氏は東洋藝術の華たる長唄に深趣あり、枯淡の伎を以て知らる。

(所在地 大阪市西區新町通五丁目)

箕浦徳次郎

凡そ人の世に出で一藝一業に秀でんか非常なる辛勞努力を要すると謂ふ。又梨園の不分行に依れば藝道の名匠既に十歳にして大器を成すと謂ふ。之實に一藝一業に秀でんとするに如何に専心積行の努力と天才との微妙なる關係を證左するものと謂ふべきなり。況や未知の世界に一業を成さんとする至難の技と謂ふべきなり。然れども世は常に平等を許さず幾多の異例を社會に投映せしめつゝあり。我が箕浦氏も又この異例組の一人にして然も能く未知界に一家を示したる傑才と謂ふべきなり。氏は代々名古屋市の名望家たる箕浦松郎氏の四男にして明治二十三年十二月三日同市に生る。幼少より非凡兒として近隣を驚嘆せしめたる逸話多かりき。名古屋中學校卒業後、東京國學院漢文專攻高等師範部卒業の秀才なり、後母校たる名古屋中學校教諭となり三ヶ年間教育者として國民教育に精勵せしが其間一年志願兵として歩兵第六聯隊に入隊、大正九年歩兵少尉に任官同時に正八位を賜る、同年氏は突然として日本共立火災保險株式會社名古屋出張所に入社す。正に昌達ひ中の昌達ひと謂ふべく、當時近親者はその謹直なる

氏の急轉向に愕然たりしと謂ふも之實に氏の天賦と自認未知界に進出したる冒險なれど一面氏の體內に奔流する先天的要素發現の然らしむるところなりき。入社以來遂時その才腕は認められ今日同社の中堅社員としてその將來を期待されるに至れり、氏は資性濃厚、然も明朗快活なる好紳士にして上下の信望風に高く、業務に精勵勤勉なること人の知るところなり。又氏は刀劍、寫眞を好み、殊に刀劍の造詣深きことは餘りに有名なり。氏の實兄は從五位勳三等功五級豫備陸軍中佐にして現に當市東區山口町に於て悠々自適の餘生を送りつゝあり。幸子夫人は當市中區鐵砲町の舊家馬田忠義氏の四女にして名古屋市長第一高女出身の才媛なり、長女美智子嬢在りて和氣霽々たり。

(住所 名古屋市中區南武平町)

株式池貝鐵工所

我國軍需工業界の彩華にして五大メーカーの隨一を爲し、多年の研鑽に於ける技術と最新鋭の生産設備を以て他の比喩を許さざる數多の優秀製品を産出し、國益の増進、産業界の發展に寄與すること甚大なるが株式會社池貝鐵工所にして、近時製品需要多大の激増

を見、社業愈々殷盛を加へ、業績躍進の一途を辿りて驚異的發展をなし、世人をして大いに矚目せしむる所となれり。當社は明治二十三年十一月先代池貝庄太郎氏に依りて創始せらる。當初個人經營として營まれたりしが、同氏の經營方針克く時代の進運に副ひ、事業は歴年發展して大正二年に至り之を資本金五十萬圓の株式會社に改組せり。爾後愈々社業は躍進を告げ、數次の増資に依りて現時公稱資本金一千萬圓、内拂込資本七百萬圓たり。相次ぐ擴張計畫に依りて其製品頗る多岐に亘り、旋盤、フライス盤、ボール盤、齒車等の各種工作機械、各種工具、内燃機關、各種高級印刷機械、活字鑄造機械、ダイヤル自動車等にして、高級精密機械の製作に成功し、製品規格に多大の信用あり。特許七十餘件、實用新案四十數件を有し、國産機械製作界の翹者として事業界に重きをなせり。近時の軍需景氣の昂揚以來その活躍殊に目覺しく、内容外觀共に面目を一新せり。工場設備の全面的擴張と共に、別働隊として昭和十年株式會社池貝鑄造所を設立して製品の主要資料たる鑄物類の自給自足をなし、次で池貝自動車製造會社を創立し、更に滿洲工廠と提携の上滿洲機械工業會社を創設せり。昭和十二年十一月末現在投資額二百七萬八千圓に達し、各會社何れも多大の好成績を挙げ當社の収益に資

する所僅少なからず。當社は既に業界に定評ありて、機械學會の一般品に規定せられ居るを以てするも、その優秀なるを證するに足るべし。殊に内燃機關の製作に於ては他の追隨を許さざる所なり。需要先の八割は陸海軍その他の官署にして、支那事變以來受託著増し、晝夜兼行して操業に當れり。軍需關係以外の製品にしても各種産業の基本機械の製作多く生産力の擴充に伴ひ受託は益々激増すべき筋合にあり。十一月末締切の昭和十二年下期決算に依れば、總收入二百十五萬八千圓、總支出一百二十四萬五千圓に達し、差引當期利益金九十一萬二千圓となれり。對拂込資本利益率三割三分四厘に相當す。

右利益金中より二十萬圓を資産償却に當て三十八萬圓を各種積立金に計上し、株主に一割配當を附せり。以上の如く、利益金の大部分を内部に保留して、内容の充實に努めつゝあるを以て、資産内容頗る堅實たり。十二年下期末貸借對照表に依れば固定資産三百三十六萬六千圓に對し内部負債八百九十七萬三千圓、又外部負債六百萬五千圓に對し流動資産一千一百六十一萬二千圓となりて資産構成甚だ優秀なるものあり。當社の今後に對しては更に期待すべきものありて、曩に擴張計畫に着手せし標準型工作機械専門工場は、多摩川畔六郷町附近に一萬二千坪の地に第一次工事

完成して、中型マシントール月産五十臺の製作をなせるが、引續き大型マシントールの製作に進むことなれり。又三田本工場の發動機部を川崎に一萬三千坪の土地を購入してその地に移轉することとなり。目下工事中なるが、更に本工場に燃料ポンプの製作を始め、その他の生産設備の新設擴張計畫あり。その他池貝自動車製造、池貝鑄造所、日本鍍金工業、滿洲機械工業等の投資會社に於ても、それら擴張計畫ありて、今後の躍進には大いに期待すべきものあり。之を要するに當社の事業は益々好調を辿り、擴張増設相次ぎ、每期業績は躍進に次ぐ躍進をなし、而も受託高は現在二ヶ年分に相當する量に達し、更に激増なしつゝあるに依り、將來の發展こそ眞に刮目して俟つべきものあり。

當社重役には以下の諸氏あり。社長池貝庄太郎、副社長千葉恒次郎、取締役今井四郎、同寺井雄一、同千葉胤吉、同池貝秀雄、同柏倉吉三郎、同早坂力、同池貝杉二、監査役千葉龍太郎、同池貝三郎、同坂田三一郎。

専務取締役社長 池貝庄太郎 資性温恭謹格にして俊英聰敏を以て斯界に信望噴々たる池貝氏は、明治三十八年六月を以て生る。當家は元安房加知山藩主酒井家の家臣にして、嚴考池貝庄太郎氏卓學豪放にして卓勁の才腕

阪神築港株式會社

阪神間に一大工港を建設し以て我國海運界將來の發展に寄與せんとする大計畫の下に奮闘する事多年、着々その壯舉を實現しつゝある斯業界の雄たり。當社は過ぐる昭和四年七月、山下汽船及び滿鐵兩社共同出資の下に、土地埋立、港灣諸設備建設、土木建築工事請負を目的として、資本金一千萬圓を以て設立せられ、爾後之れが達成の爲兵庫縣武庫郡鳴尾村地先海面約六十二萬坪の埋立及び港灣建設に邁往し。既に第一期工事第二區約四萬五千坪の竣工検査は終了し、第二區八萬五千坪は目下護岸工事進

(所在地 東京市芝區三田四國町)

行中にして、埋立地は運河を以て縦横に區分し、一萬噸級の巨船の航行留置を可能ならしめんとす。而して將來阪神間の一大工港を建設するに止まらず、武庫川を利用する水道敷設計畫及び火力發電所設置設計畫を有し居れり。故に當社は目下之が建設途上に在りて、未だ収益を見ざるも、昭和十二年下期に於ては請負工事部門にて幾分の利益計上を示したり。尙前述の如く四萬五千坪は既に工事完了し、本年秋頃には早々登記を了し、分譲賣出しを行ひ得る状態にあれば、利益の計上も目睫に迫りつゝあり。而も來期は更に第二、第三の施工區の完成を見る爲、その將來は刮目するに充分にして、逐次収益も濃度化すべき筋合にあり。同期の總経費は四萬二千九百餘圓、支拂利息四千餘圓、雜損二百餘圓にして、雜益三萬三千餘圓、收入利息二萬五千三百餘圓、差引利益金二千五百餘圓を擧げ得たり。而して當社の請負に依る利益金は、當社創立の目的に従ひて鳴尾埋立工事に投資する事となり居れり。當鳴尾埋立工事は完了期日迄、損益計算を明示されざるなり。

- 因に當社大株主を擧げれば
- 山下汽船 八五、一〇〇株
  - 南滿洲鐵道 七九、二〇〇株
  - 二宮須治 二〇、〇〇〇株
  - 山下龜三郎 一一、〇〇〇株

昭和興業 二、〇〇〇株

之れを要するに當社は、所期通り着々計畫を實現しつゝあり、その將來を矚目するゝこと多大なるものありと謂ふべし。

尙任當社の人的要素左の如し

取締役社長山下龜三郎、常務取締役伊澤道雄、同磯村正次、取締役坂田尊太、同内田敬三、同清水賢雄、同諸富鹿四郎、同兼支配人湖文一、同田村義正、監査役隅田虎二郎、同渡井敏治

(所在地 大阪市東區伏見町五丁目)

### 川村徳太郎

東京は躍進日本の首都として政治、經濟、文化の中樞部をなし、商工業發展を極めて激刺たる活氣横溢し、街衢宏壯華麗にして諸施設完備し、各種文化的諸設備充實して陸離たる光彩を放ち、眞に世界有数の大都市として内容外觀共に堂々たるものあり。日本の國際的地位の躍進と共に歐米諸國より貴顯紳士の來遊する者年と共に多きを加へ日本固有の風俗美の次第に失はれつゝある時に今日依然として日本古來よりの風俗を傳へ、その幽麗美麗にそれ等外人の嘆賞措く能はざらむるものに藝妓あり。近時一流の花街に於ては當

投するに至れり。表面華かなるが如き舞臺生活も、その裏面に立至ればまことに陰慘を極め、その間氏の管めし辛勞まことに絶大にして、天性聰敏なる氏はこの勞苦に依りて顯材大いに砥礪せられ、人情の機微を知りて現時見るが如き人情家となり、更にその八面玲瓏たる人格育成せられるに至れり。氏は俳優として熱心に演技研鑽に精進せしが、後感する所ありて梨園を去りて藝妓置屋を現地に於て始む。家業の發展に盡瘁する傍ら業界の爲に八方馳驅して貢獻する所多し。その高潔なる識見と卓犖豪放の材質は斯界に絶大なる信望を受け、新橋藝妓屋組合の頭取に推される。時に大正二年にして、當時組合内部に紛争頻發し、遂に警察沙汰惹起せしが、氏一度頭取に就任するや同業者何れも氏の人徳に悦服し、紛議は忽ちに拂拭せられ相協力して斯業の發展に力を盡くすことゝなれり。氏の業界に寄與せる功績枚擧に遑あらざる所なるが、藝妓屋組合に傳標制度の確立をなせるが如きは尤なるものにして、まさに斯界に一大革命を齎らせるものとして特筆大書せらるべき事績たり。更に又新橋演舞場の設立は氏の功業を永遠に飾るべき好箇の金字塔といふべく。

向上に資する所多大なるものがあるが、帝都に於てはその施設なきを氏大いに遺憾となし、寢食を廢して同業者の間を奔走して説得に努め、遂に豪華絢爛たる新橋演舞場の建造を實現するを得たり。即ち、一年二期に「東おどり」を興行し、組合藝妓の藝を競演せしめて之が向上を圖ることゝなし、今日に於ては帝都の名物の一として數へられるに至れり。或は又檢査制度の確立をなし、藝妓の素質の向上の爲めに藝妓學校を設置する等その貢獻せる所まことに多大なるものあり。氏は資性温籍謹恪にして襟度頗る宏大、義氣任侠の士にして好んで人の難に赴き、私財を割きてこれを救恤する等氏の温情に浴せしもの夥しとせず。謙讓にして敦厚、人格清潔潔白にして名利に恬淡、その高風は衆庶の深く景仰する所たり。氏の功勞を顯揚すべく銅像設立の議起りしが、氏は固くこれを拒否してその資金を現金にて受領し、折半して陸軍に愛國川村號海軍に報國川村號の飛行機を各献納して、氏の報國の至誠と謙虛恬然なる人格には何人も嘆服せざるはなかりき。滾々として盡きざる温情と春風胎蕩たる温情は接する者之に魅せられざる者なく、衆庶より慈父の如くに瞻仰せらる。氏は現在森川家の經營を爲す傍ら新橋演舞場株式會社、新橋保全株式會社各社長新橋藝妓屋組合頭取、全國藝妓屋同盟會顧問、京橋區家屋調査委員等の要職に在りて、全國業界の耆宿として絶大なる聲望あり。

### 昭和礦業株式會社

我が炭界の好調は眞に刮目に値し、時局以來各種産業の全面的活況は支那事變勃發にて一層拍車を加へられ、重工業中心の生産力擴充は必然的に石炭需要の激増を刺戟しつゝあり。其間に在りて跳躍的進展を遂げつゝあるは我が昭和礦業株式會社なりとす。

由來當社は過ぐる昭和七年十一月、日支炭礦汽船株式會社より鑛區を譲受けて資本金百五十萬圓を以て設立され、爾後昭和十一年増資を取行の結果資本金五百萬圓となり引續き好調を辿り以て今日に迄ぶ。而して鑛業所は北海道石狩區空知郡三笠村幌内字奔幌炭山に接し、所謂「幌内炭田」の中軸に在り、鑛區總面積は百十餘萬坪に亘り、其埋藏量は實に六千八百餘萬噸と稱せられ、現従業員一千數百名を擁し、職員百五十餘名なり。尙坑所より省線唐松驛迄は僅か二百餘間、積出驛たる同驛より主要各地に至る距離は岩見澤驛十八軒四、札幌驛五十六軒、小樽驛八十八軒五、室蘭驛百五十五軒、留萌驛百三十一軒にして

積出の至便なる事著聞す。而して出炭高は創業以來遂次増大し來れり。茲に實績を見るに昭和八年一萬一千噸、同九年六萬七千噸、同十年十六萬噸、同十一年二十九萬噸、同十二年三十五萬噸と累年跳躍的進展を示現し、同十三年の豫定は四十萬噸、同十四年の夫れは四十五萬噸、同十五年は五十萬噸に増産豫定とせり。炭名は「新幌内」と稱し、微粘結性炭にして漆黒の光澤を有し、灰分極く少量にして發熱量高く、炭質頗る硬く五割六分の塊炭率を有せり。其主なる用途は製鋼、瓦斯發生爐、汽車、汽船の諸燃料並に工場用汽爐燃料にして家庭用にも適せり。尙販賣は出炭の三分の一は道内需要に當てられ、三分の一は鐵道省納入と爲し、殘三分の一は道外移出として山下鑛業會社一手販賣と爲し居れり。

茲に當社昭和十二年下期の業況を概記するに、同期出炭は前期同様三番層、四番層にして十月一日より更に一番層を開始す。尙坑内外設備を擴充し増産準備の完壁を期する爲、職員住宅六十戸、坑夫住宅百戸、鑛夫浴場一棟、職員浴場一棟、鑛夫集合所一棟を増築し選炭場増設改築工事として原炭ボケツト手選機を完成せしめ、水洗機据付工事中なり、發電所附屬設備に於ても期末一千五百キロの假認可を受け發電開始も日度迫り、本期販賣高は旺盛依然先高を示現せり。而して同期總收

入は百七十七萬五千餘圓にして、總支出百四十五萬九千餘圓、差引利益金三十一萬五千四百餘圓を擧げ、内固定資産償却に十五萬圓を差引、純益十六萬五千四百餘圓を得。之を處分するに法定積立金八千五百圓、役員賞與金一萬五千圓、株主配當金十三萬九千三百餘圓（年八分の割）後期に七萬七千餘圓を繰越し、餘裕神々裡に堅實決算を了したり。

當社の現重役主職を列記せば、取締役社長白石元治郎、專務取締役高久馨、常務取締役鶴田勝三、取締役田中榮八郎、同岸田政太、同石倉新、同香田五郎、同足立盛夫、監査役高久敏男、同白石琢二、同間島三三、支配人渡邊有坪、賣炭部長柳澤貞三の諸氏あり。

**專務取締役 高久馨** 本邦炭礦界に其名洽聞する顯著なる存在たり。明治七年九月群馬縣士族高久逸象翁の長子として生誕す天賦俊器にして醇厚、同三十年東京高商を優等を以て卒業し、直ちに大倉組に入社、倫敦支店員、横濱支店長、本社輸出部長、營業部長、總務部長と榮進を襲ね、大正六年十月白石元治郎と相謀りて日支炭礦汽船を創立せしめ、其專務に就任今日に迫る。曩に日本遠洋漁業、華川無煙炭礦各重役たり。

**支配人 渡邊有坪** 天分俊敏の支配的

才腕を有し、終始一貫意を社業に潛め、心魂を碎きて不退轉の熱情を捧ぐ賢材たり。明治二十七年四月岡山縣人渡邊清通氏の長男として出生。資性發顯にして熱腸、長じて大正七年慶大法科を卒業、同年日本鋼管に入社し格動せしが、同十四年同系日支炭礦汽船に轉じ昭和七年十一月當社創立と同時に支配人に推舉され、今や兩社支配人を兼ね、速衝工作に眞摯努力せり。其手腕力量を以て支配人的人格の軌範たり。

**正本家 平尾塗工店**

奈良平安朝以來の文化を繼承し、優美典雅の技術を揮ひて宮殿、堂塔、有職器具の塗匠並に彩色を業として、令名高きが當平尾家たり。當店は京都に於ける塗匠店としては最古の歴史を有し、その祖は奈良朝時代に始まり代々御所の御用命を拜せしが、桓武天皇京都御遷都を仰出されると共に京都に轉じ、塗匠師として帝室に奉仕し、代々現在の地に居住し來れり。實に當家は千有餘年の久しきに亘りて連續として血統續き、まことに由緒深き家柄なるも、往時の職亂に依りて幾度か兵火に罹り、系圖を始めその他の貴重なる書類は

何れも灰燼に歸して、當家の事蹟を詳細に知るよしもなきはまことに遺憾と云ふべきなり。

寛政年間今より十三代前の七郎右衛門翁の時御所各宮家等より重用せられ、特に朝廷より代々藤原安道泉椽の稱號を賜りて世々これを繼承することゝなれり。桃國天皇以來御大葬靈車製作の御用を拜し、安政二年孝明天皇御鳳輦・薔花・御腰輿等を御造營申上げて御褒めの御沙汰を賜る。又安政二年には皇居御造營の御用を勤め、その功により安部伊勢守より金五十兩の金子を賜る等幾多當家の榮譽を語る記載殘れり。最近に於ては嚴君七郎右衛門氏明治二十七年明治天皇大婚、二十五年の御祝典に黒燦色繪袴繪履を献上同 三十三年 大正天皇大婚を壽ぎ奉り菓子菓子一個献上して多大の光浴に浴す。續いて當主七郎右衛門氏は昭和三年 今上陛下御即位の大典に高杯一組を献上して、大いに家門の名譽を博す。

以上の如く當家は千載の後まで子々孫々に傳ふべき數多の榮譽に輝ける家柄たり。又當家には高さ二寸の椅子に座せる弘法大師の尊像を秘藏せり。初代七郎右衛門翁の時忽然として同家に現れたるものと傳へらる。爾來家寶として秘藏せられ、戦亂の際にも尊像のみは無事なるを得たりと云はる。當家は果代弘法大師を信仰すること深く、毎年四月二十一日

日には盛大なる供養を營めり。

**當主 平尾七郎右衛門** 當主平尾氏は資質濃厚篤實、至誠至直の人にして、頗る謙讓を以て人に接し、その身邊より春風飄蕩たるものを發散して深く人より敬仰せらる。その業に精勵して眞摯、當家の卓抜なる技術は他の比肩を許さず。業界に多大の勢力あり。神佛を信仰すること深くその高潔なる人格は一に氏の信仰に依る大悟に負ふ所なるべし。家庭には母堂、夫人の外二男二女ありて和氣堂に充ち、近隣の羨望する所あり。

(所在地 京都市中京區堺町通丸太町南入)

**村井啓助商店**

支那事變の戦局は我に有利に展開し、北支中南支の明朗化は着々として達成せられつゝある所なるが、國際政局の前途まことに遊賭し難く、現に我國に於ては戦時體制下に精神物資共に如何なる事態の發生にも即應なし得るの態勢を整へつゝあるは、刻下の時艱の如何に重大性を帯びるものなるかを示すものと云ふべし。今後暫くは國家財政の膨脹は避け難く、軍需インフレは必至の趨勢にありて、低金利、高物價は當分持續すべく、大勢は依

然「金から物へ」の時代を迎るものと見ざるべからず。斯くて今後國民各階級の國債・社債・株式等の有價證券投資熱は更に昂揚せらるべく、又大衆の放資をなすに有價證券の如き有利にして安全確實なるもの他に非らざるべし。勿論有價證券投資には投資の對象物と取引店の選擇を誤らざること肝要なるが、當村井啓助商店の如きは證券取引商店中その業礎の鞏固にして信用の堅確なる新界屈指にして、廣く世上に推奨するに足るべし。

當店は東京株式取引所々屬長期、短期・實物・國債の取引員を兼ね、堂々の業陣を張りて、商況頗る殷盛を極めて業界に重きをなせり。當店に於ては取引業の多分に公共機關たるの特性を具備するに鑑み、顧客に對しては共存共榮を主義となして經營に當れり。顧客の奉仕には力を盡くし、經濟界・銀行會社或は證券市場に關して時に機關を設けて調査をなし、顧客にはこれ等の調査を一切公開し、如何なる質問に對しても懇切丁寧な答へ、顧客の投資に關しては助言を惜しまず、宛然財產運用上の良き相談所たるの觀あり。當店の經營は何事にあれ公明正大を旨となし、收支計算の如きも一切公開主義にして、銀行の出入の如きすら進んで明示するの風あり。その取引はまことに堅く、自店の信用を擁護する爲めには如何なる犠牲をも甘受し、徒らに宜

傳して客を招くが如きことをなさず、堅實に實業に經營を行ひつゝあるが、その信用を知りて有力會社を始め大小の堅實なる投資家争ひて當店と取引を開けり。年と共に商況は販販を加へ、村井啓助商店の名は證券界に多大の異彩を放てり。

### 店主 村井啓助

資性温籍謙厚にして思慮固熟し、人情の機微に通ずること深く、寛容なる操度と清高な品性兼庶の景仰すること厚き村井氏は、業界に於ける信望まことに赫耀たるものあり。氏は明治八年八月三重縣鈴鹿郡龜山町に於て呱呱の聲を發す。龜山町高等小學校卒業後宇治山田市拓殖塾に於て漢學を學ぶ。幼少より慧敏にして頗る學才あり。夙に事業界に身を投じ八方馳驅して勵志を伸ばせしが、明治四十二年に至り朝鮮龍山水産株式會社取締役に擧げらる、賦稟の才腕を揮ひて同社の業績多大の進展を見るに至れり。又多忙なる業務の寸暇を割きて社會公共の爲めに活躍し、京城民團議員、同衛生組合長、同稅務委員等に數次に亘りて選出せられて貢獻する所尠しとせず。大正四年に至りて上京し、東株所屬仲買人中島卯三郎氏の事業に參畫して俊敏の智略を發揮せり、中島氏の長逝後三協商會を創立し、東株現物組員となる。次いで昭和二年十一月三協商會は萩原

六三郎氏の名義を以て東株一般取引員の免許を得て開業す。超えて昭和九年七月三協商會より分離して、氏は東株短期取引員の免許を受け獨立創業なし、同年十月一般取引員の免許を得。茲に於て氏は多年砥礪せられたる巨腕を揮ひ、縱横の機略を示して獨創の業陣を布き、周匝緻密の對策と顯敏透徹せる洞察力は商機を把へて逸するなく、斯界の鬼才として仰ふがれるに至れり。斯くして事業は歷年發展し、業礎大いに固きを加へ、業運隆々として勃興するに至りたり。氏は業に拔んづる才腕を有すると共に業界には稀に見る人格を有し、名利に對してはまことに恬然、常に顧客との共存共榮を唱へ、得たる利益は時に社會公共の爲めに寄附し、或は店員に分配して決して私せず。仁情に富みて部下の調育に力を盡くし、氏の諄々として説く時、その言々句々眞情に溢れ、何人にも人生の鑑戒として遊奉するに足る珠玉の如き光彩を放てり。高風浴く業庶の畏懼する所にして師父の如くに瞻仰せらる。傍ら吉田實業取締役たり。

(所在地 東京市日本橋區兜町一丁目)

### 株式會社 範多商店

關西財界に於て貿易商として最古の歴史を

章飾版を賜はる。たか子女は兵庫縣土族湯本善太郎氏の長女にて淑徳高き賢婦人として知らる。範多龍太郎は我財界に多大なる功績を残し昭和十一年に長逝せらる。當主範多龍平氏直ちに祖考の遺志を繼承し、當社の經營に當ることゝなれり。當商會の營業品目は諸機械器具、諸材料、塗料、木材、保溫工事請負等にして、外國輸入品は勿論、内地製品の販賣をもなし、その商品の優秀にして價格の低廉なるは夙に定評のある所なり。内地の各省官衙府縣廳・滿洲・朝鮮・臺灣等の各官廳、三菱重工業・川崎造船所・大林組・清水組その他各種事業會社に納入し、絶大なる信用を博せり。近年の事業界の好調に好り、商況愈々繁忙を呈し、業陣又多大に擴大せられるに依り、昭和十二年五月一日株式會社に組織の變更をなせり。近來愈々目覺しき發展を遂げて、事業界注目の的となれり。

山口縣阿武郡明木村に於て多年同地方の自治の爲めに奔走して著名なる故瀧口吉良翁の長男に生れ年齒弱冠と雖、敏腕英智の譽高く今や故翁を凌駕せんとするの威望あるが、我が瀧口吉良氏なり。實實剛健にして子女の調育に萬全を期する嚴格なる風を有する瀧口家に、明治三十五年に生る、中學を経て山口高等學校に進み、大正十五年三月、東京帝國大學獨法科を卒業す、同志生は何れも學位を振翳し、前途の榮達を夢みて競ひて職業を求め氏も亦、官界に實業界に將又中央政界にと、勸誘頗る多かりしも一顧だに與へず、忽然歸郷して父の業を繼げり。

社長 範多龍平 資性温恭謹格にして俊秀高才を以て事業界に信望を博せるが範多氏にして、明治三十二年十二月先代龍太郎氏の長子として生れ、大正十四年慶應義塾を卒業し、昭和三年英獨各國に遊び、二ヶ年間實地の研修をなして歸朝す。歸朝後家業に従事して才腕を揮ひ、斯界に大いにその英材を認められしが、先考の卒去せられるに及び、

家業繼承して事業界を八方活躍せり。明朗調達にして才氣煥發少壯敏腕の實業家として關西財界に多大の推尊を受く。現時保熱板製造株式會社社長、大阪海上火災保險、大阪機械工作所、東洋鑛山各監査役の要職にあり。趣味に運動ゴルフあり。尙ほ田鶴子夫人は素封家東京府人藤倉五一氏の長女にして山脇高女出身の才媛たり。

(所在地 大阪市西區川口町一六)

### 名望家 瀧口吉良

山口縣阿武郡明木村に於て多年同地方の自治の爲めに奔走して著名なる故瀧口吉良翁の長男に生れ年齒弱冠と雖、敏腕英智の譽高く今や故翁を凌駕せんとするの威望あるが、我が瀧口吉良氏なり。實實剛健にして子女の調育に萬全を期する嚴格なる風を有する瀧口家に、明治三十五年に生る、中學を経て山口高等學校に進み、大正十五年三月、東京帝國大學獨法科を卒業す、同志生は何れも學位を振翳し、前途の榮達を夢みて競ひて職業を求め氏も亦、官界に實業界に將又中央政界にと、勸誘頗る多かりしも一顧だに與へず、忽然歸郷して父の業を繼げり。

推されて明木村々長に就き村政に洋勵する

有し、商況頗る殷賑を極め、業礎甚だ堅確なるを以て噴然たる信用を馳せるが當範多商店なりとす。黒船の渡來に依りて國論愈々紛糾を見、勤王佐幕の兩派の抗争一段と激成されし慶應元年に當商會は創立せられしものなり當社の初代は英國人イー・エツチ、ハンター氏たり。氏は日本に渡來後歸化し、日本婦人愛子女と結婚す。歐米方面より各種機械諸材料の輸入をなし、その傍ら大阪鐵工所或は大坂商船等を始め各種の事業に、陰に、陽に援助を與へ、我國事業界の發展に絶大なる功績あり。長き邊に於ても氏の功勞を嘉せられ、勳五等を下賜せられたり。尙ほハンター氏は老來愈々矍鑠として八方馳驅せしが、七十六歳を以て神戸に於て永眠す。二代目龍太郎氏は明治四年一月を以て呱呱の聲を擧げ、明治二十六年絶家範多才助氏の跡を再興せり。先是十九年獨逸に赴き、同地の中學校を卒業して英國の大學に學ぶ。歸朝後嚴父を扶けて家業に精勵し、大いに才腕を揮ひて事業一段と發展をなすに及び、業務に多大の刷新を加へたるに依り、事業は愈々發達の一途を辿るに至れり。氏は尙ほ大正製酒株式會社、大阪海上火災保險會社の取締役に選出せられ、關西事業界に頭角を拔んで、事業界各方面の爲めに奔走して貢獻する所多し。その功勞に依りて勳五等に敘せられ、次いで昭和四年紺綬章



故瀧口吉良翁

と共に傍々青年調育に力を盡くし、或は山口縣産業組合青年聯盟を組織して之れが理事長となる等、只管地方開發、青年子女調育に専念し業績頗る顯著なるものあり。これが爲めに庶民の絶大なる信望を博せり。我が國に於ては人材中央に偏在する傾向あるの時、氏の如き逸材地方に在在して其の發展に資するは、地方の文運興隆の爲めに裨益する所多大なるものあるべし。國家内外多事多難の秋、氏の活躍は愈々その意義を加ふるに至れり。



し常に地方自治の發展を以て國家興隆の基となし村を以て自ら生命となす我村翁を以て治り村民翁を以て範となす町村副實施の頭初翁全村の信頼を荷ふて村長の職に就き後辭して明治二十年村會議員となり勤績實に四十有三年の長きに及ぶ又青年團壯年團軍人分會の三團體總理として村内の事細大漏れざるはなし村廳舎の改善圖書館の創立忠魂碑の建設小學校の改築登記官吏の駐在等我村の今日あるは悉く翁の指導に俟つ之れを外にしては二十四年の久しき阿武郡會議員たり又山口縣會議員に當選する事四回其の間議長の重職に推される更に貴族院議員衆議院議員として國政に參與すること前後十二年又或は山口縣農會長或は防長銀行頭取として社會公共に盡す等其の功績眞に枚擧に遑あらず昭和十年八月十八日病を以て遂に逝く享年七十八學村悼惜恰も慈母を喪ふが如し之れを葬するに村翁の禮を以て翁墓に正六位勳四等たり其計 天賦に達するや特旨を以て從五位に陞敘せらる皇恩の優渥翁應に地下に感泣すし今翁の三回忌辰に當り村民舉りて建碑の事あり茲に翁が功徳の概要を誌して以て後世に傳ふ」とあり。之れ松林桂月氏の書する處にして、松林氏は翁の指導訓育を受けたる人にして其の遺徳を偲びて追懷の念に堪へずして草せらしものと云ふ。まことに翁の遺徳は今日も尙ほ當地

方の人を暗黙の間に指導しつゝありて、その高風の如何に偉大なるかを知るに足るべし。  
(住所 山口縣阿武郡明木村)

### 大阪トヨタ自動車販賣事務 北村謙二郎

關西に於ける自動車業界の覇者としての地位は自他共に許すところにして其の特異の存在を諷はれ、現に國際自動車、安全自動車、大阪トヨタ販賣各株式會社の事務取締役として其の一舉一投は斯界の前途を暗示し業界を指導するところなれり。氏は明治三十三年を以て滋賀縣犬上郡彦根町に北村兼吉氏の二男として生れ大正十四年分家して一家を創立す、十七才の時父の急逝に遇ひ縣立彦根中學を中退、廿五才にして大阪大阪信用組合に勤務後神戸に移りゴム具販賣業を經營せしが、其將來性に倦き足らず再度大阪に於てガソリン販賣業を開始したり、之實に氏をして自動車業制覇の今日あらしめたる端緒にして、爾來盛業の餘力を行くところを知らず昭和二年には相互安全自動車商會を創立し當時斯業界の競争激甚の中において克く辛勞努力を嘗めたれ共、一意専心精進せし効ありて漸く活況を呈するに至り昭和六年四月之を株式會社に改組し基礎愈々鞏固となるや百業に近き乗合

バスを購入し、大阪市民の經濟的要求に容れられ郊外ドライブ旅行用として近郊勝景地二十餘ヶ所を選んで斷然好評を博したり、同年十一月之を安全自動車株式會社と改稱して専務となる、其の間同七年六月創立したるゼネラルモーターズサービス、ステーションは同八年二月之も株式組織となし國際自動車株式會社と改稱、以て其の専務取締役として縱横の活躍をなしたり、而して英智明敏機を掴むに敏なる氏は、時局趨向の波動に乗り國家非常時の完備を期するの見地より自ら進んでトヨタ自動車販賣會社を起して専務となり、國産自動車の普及充實に獻身的努力を傾注國産工業の爲萬丈の氣を吐きたるは躍進日本工業の爲洵に欣快に堪へざるところなり。今や同地自動車業界に輝々たる地盤を築き上げ且つ少壯實業家としての氏の信望は風に高く、氏今後の活躍こそは各方面の大いに期待するところなり。

天性渾厚篤實にして而も霸氣縱橫、高雅なる情操は等しく尊仰さるゝところにして、又仕事に熱心なることは餘りにも有名なり、以て現時關西自動車業界の雄となすも敢て過言に非ざるべし。  
宗教は眞宗にして語曲は既に素人離れの境地に達し一家を爲す。家庭には母堂うた刀自を中心に賢夫人の譽れ高きい子夫人、大阪

府人木島良吉氏の長女にして尾崎高女出身との間に、剛子博君(昭和二年生)、二男勉君(昭和四年生)、長女豐子嬢(昭和八年生)の二男一女を擧げて一家は和氣瀟々として四隣羨望の的たり。尙ほ大阪トヨタ自動車販賣の人的要素には、社長本尾多嘉助、専務北村謙二郎、取締役豊島正夫、同飯田新三郎、監査役三浦勉、同深見實、サービス部長林田民男の諸氏あり。  
(所在地 大阪市此花區下福島一ノ四)

### 事業家 堀江精輔

事業家にして且つ在家の僧として教を垂るゝ氏は、當代稀に見る人格者にして、福島地方人士の崇敬を一身に集むるも故なしとせず。抑々當堀江家の中興の祖たる堀江蓋氏奥州二本松丹羽侯に儒者として仕へ半峰と號して和學を以て開ゆ。夙に勤王の志を抱き、作新塾を設けて藩士に漢學を授けると共に、大いに勤王の大義を唱へて、一藩の青年を指導す。又氏の嚴父は社會公共に奉仕するの念厚くして、藩の産地たる福島近在が兎角作業の不統一に流れ、爲めに稍もすれば事業の發展の阻害せられる傾あるを見て、資本金百五十萬圓を以て共同荷造所の會社を起せり。その

事業は利益を省みずして一切奉仕的となし、嚴父は献身的に經營に没頭せり。然るに大正八年我財界は未曾有の恐慌に襲はれ當社も又深刻なる打撃を蒙りて再び立つ能はざるまでに蹙跡を來たせり。此處に於て嚴父は株主を説服して會社建直しと、株主救済の目的を以て資本金五萬圓の丸共製鐵會社を創立す。當主堀江精輔氏は専修大學に學び、北雷田尻稻次郎博士に就いて師事せり。卒業後百七銀行に奉職せしが、卒然として父の素志をば貫徹せんことを決意し、職を捨て、共同荷造所の整理に當る。爾來三十七年、僅少の報酬に甘んじて營々辛苦して今日に至れり。氏は實業家にして實業家に非らず、社會事業界にして宗教家といへば稍々氏を評するに適切ならんか。氏の念願は事業を通じて國家社會に奉仕せんとするに盡く。事業を經營すと雖も私利私慾の爲めに非らず。現に會社の中に共生學園なるものを設け、「共に生きて求むる處なく、働く處にのみ利益生ず。隨處に主たれ」の觀念をば學園の精神となして、子弟の調育をなせり。又會社の内部に莊嚴な 佛間を設け、善光寺如來の分身を奉安し、朝夕の食事前に一同は佛前に於て禮拜す。即ち會社の實質は共生學園にして、産業の宗教化、宗教の産業化を實踐して人間の完成と信仰の道をいそしみつゝあり。會社は信仰の道場にして佛

の教をば生産の上に表現すると共に生産を通じて菩薩行を營むといふが共生學園の精神とす。まことに氏の事業たるや現今の指導的地位に立つ人に身を以て教訓を示すと共に、又その社會教化の事業としても多くの示唆を含むものといふべし。氏は毎朝五時に會社に出て、仕事をなし、その熱烈なる信仰と作業振りは多數従業員に多大の感化を及ぼせり。人物柔和にして慈悲心に厚く、菩薩の如くに人に仰がれつゝあり。  
(住所 福島市曾根田)

### 株式 鎌倉ハム富岡商會

終始一貫國策を堅持して國民の體位向上に専念し、斯業界の元勳的存在と讃はるゝこと永年、今や「榮養報國」を目指し、その發展眞に刮目するに充分なり。周知の如く當社は業界の巨頭富岡氏が永年の個人經營を時勢に鑑みて、昭和五年三月資本金 十萬圓を以て株式組織に改革せるものにして、ハム、ベーコン、ソーセージ、罐詰類の製造販賣を目的とす。ハムと謂へば「鎌倉ハム」を聯想する如く、「鎌倉ハム」は、我邦文化生活上に不可欠の食料品たるは暇を要せず。この製造元たる當商會が我が國民の體位向上に盡す

る功績たるや大なるものあり。其營業目的の如く富商會はハムの他、ベーコン、各種ソーセージ、罐詰の製造に從事し、何れも其獨特の美味を證へられ居れるが、輸入統制の結果國産獎勵、國際貸借の改善、國民の體位向上等、大國策の線に沿ひて益々精進し、最近新製品ハムローフ、パテントスライスドハム、スライスドベーコン、富岡の純ラード、鎌倉煮の五種の高級品を製造しつゝあり。而してハムローフはハムを挽肉とし、バター其他調味料を以て、製したるものにしてバターの代用品としてパンに附けてよく又サンドウィッチ等に最適品なり。パテントスライスドハムは特許の方法により製造せるものにして風味卓絶の高級品なり。スライスドベーコンは特異製法に依るものにして獨特の味覺を有する高級品なり。尙ほ富岡の純ラードは衛生的設備の下に精製せる純粹ラードにして揚物は勿論、和洋料理用として最適品なり。尙從來一般市販品の如く硬化油等を絶對混入せぬ爲に惡臭等無し。鎌倉煮は新鮮なる鶏肉及び野菜を主として製造し美味且つ栄養豊富なり。尙富商會製品の販路は内地は到らざる所なく近年南領印度、佛領印度、シヤム、ハワイの各方面に輸出を行ひ好成績を収めつゝあり。因に當社は東京、大阪、名古屋に出張所を設置して販賣網の統制を期せり。

取締役社長 富岡 周藏 名にし負ふ録倉ハム」の創始者として令名を馳するのみならず、嘗ては東京石川島造船所監査役として事業界にも馳騁せし士たり。翁は文久二年七月、神奈川県に於て出生。資性濃厚にして智略縱横、商才に富む。夙にハムの製造發售が將來有望なるに着眼して之を開始し、爾來名狀すべからざる艱苦と戦ひつゝ、晝夜の別なく精勵健闘し、遂次異様の業績を擧げて遂に今日の盛業を成し遂げたる、立志傳中の士たり。曩に神奈川県多額納税者にして、今や、風眉隆準温容を以て當社を統率する傍ら、富岡家の動産不動産收得利殖を目的とする富岡合資會社代表社員たり。

取締役副社長 富岡 貞吉 天賦頭腦明晰にして醇厚たり。而も豪放膽大にして清廉の逸材。營養報國を堅持して當社の統理に任ずるのみならず、國民精神作興に挺身するの道の人として周回する俊傑たり。明治十九年十一月、東京府富岡小太郎氏の令弟として誕生す。長じて當社社長富岡周藏翁の養子となる。岳父の良佐として能く今日の事業を達成し、今や新製品を續々發賣し、以て國策の線に沿ひて國民體位の向上に資すこと多大なり。氏は傍ら富岡合資會社代表社員たり。(所在地 神奈川県鎌倉郡大船町小袋谷)

取組むべきに當り招聘されて同社に入り精勵格勤社務に携はり特異の手腕を發揮大いに活躍したりき。斯くて五ヶ年の後には早くも非凡の俊腕を認められて同十三年六月庶務課長に、昭和三年五月秘書課長に更に同九年二月には事務部長に累進敏腕を發揮し



高 津 啓 一 氏

日本電力事務取締役  
高 津 啓 一

本邦電業界に於ける五期の一として堂々二億一千万圓の日本電力會社の事務取締役として、將又池尾社長の副將として斯界に臨める我が高津啓一氏の名は餘りにも有名なり。氏は明治二十二年十月十七日に呱呱の第一聲を擧げ、大正三年慶應義塾大學を卒業次で京都帝國大學法學部に進み大正八年六月學業成るや宇治川電氣株式會社に入社同年末日本電力

つゝありしが、其の才幹は遂に全面的統率者たるの實績を發揮し、同十三年四月事務取締役の要職に就任するに至りたり。

此の間社運は遂年發展の過程を辿りたりと雖も幾多の懸案は山積し、かの金再禁止の如き圓貨暴落を招來して外貨社債を有する大電力會社は軒並に打撃を蒙りしも同社は克く健闘更に低利金時代に依る好轉を機會に財政整理二十年計畫の樹立等を巡り氏も又同社幹部として重要な社議に參畫し敏腕を揮ひ社長の信任を深めたる多大にして、斯くて二十年一日の努力苦闘の結果は、多士濟々たる同社に於て手腕と才幹を唯一の身上として今日を築ける一事を以て氏が常麟凡介の士に非らざるの證と爲すべく、氏の啓發の敏腕は早くも我財界に重きを爲すに至りたるなり。

天資剛毅にして思慮周密果斷、事を處するに快刀亂麻を斷つる剛氣と剛志に満ち、而も一面快活明朗にして何人にも隔壁を設けず抱擁力甚大なる快男子にして、郷土愛の熱情篤きは有名にして電氣に關する幾多の新刊書籍雜誌を郷土の中小學校又は役場等に寄贈して郷土人をして事々進展の文化知識の向上誘發に資すべく盡力するところ多大なるにより郷土民の信望絶大なり、今や氏は國家的事業遂行の日本電力の専務として赫々非凡にして卓犖密なる得意の手腕により益々事績を顯揚

株式會社 川崎造船所

しつゝある外、日電證券専務、庄川水力電氣日本電解製鐵所、笹津土地興業、大牧温泉、日本拓業各取締役、關西電力、因幡水力電氣、大阪陶業各監査役として、快腕を揮ひつゝあり、趣味は旅行、讀書等にして、家庭には貞淑の譽高き靜子夫人との間に、寛治郎君、正祐君、秀剛君の三男あり、堅實訓育主義を以て而も和氣満々たり。(住所 大阪市外千里山桃園町八三)

株式會社川崎造船所は浴開の如く、我が造船界の元勳にして過去六拾餘年に亘り斯界の先覺として國運發展に寄與貢獻せること頗る著大なり。今や當社は本社工場に造船機電氣の三部門を、葬合工場に製鐵部門を、兵庫工場に飛行機製鋼の二部門を、各務原工場に航空部門を有し、全設備巨大にして技術の優秀なる天下無双、しかも光榮なる哉、皇族殿下の台臨を仰ぐこと屢次にして、終始海軍當局と密接の關係を保持し、併て製鐵獎勵並に造船獎勵金を下附せられ、其國製は川崎汽船川崎車輻、靜狩金山等々の輝々たる精銳を收め、他面日本鋼管其他の投資に馳騁し、宇内民間最古最大の軍需工場にして、其聲望隆々

乎として世界を壓する存在なり。

而して當社の既往を叙するは汨々たる長江を溯源するに等しく、その據りて來るところの遼遠にして経履の多様多彩なる、到底一朝一夕に詳述し得べきに非ず。左に記するところは、其粗枝大葉に過ぎざるなり。抑々當社の濫觴は遠く明治三年にして、當初は官營たりしが後ち個人經營に移り、故川崎正造翁それを主宰す、翁は天保八年鹿兒島の郷土の舊家に生誕、性獨往不羈、凌雲の志を抱きて東上し業界の發展に資せる巨人たりき。次で明治二十九年十月に迫んで資本金二百萬圓を以て之れを株式組織に革め現稱號と爲す。爾來逐次業務を擴大し、數度の増資の後、昭和七年十二月八千萬圓(金額拂込済)に増資以て現今に至れり。其間六十有餘年の星霜を経て今日の隆盛を見るに至れるが、無論此の間順風滿帆の勢のみを以て終始せるものに非ず、一般財界の情勢に伴ひて浮沈を免れず受難の幾春秋を體験す、就中大正九年に突發せる世界的財界大恐慌は急轉直下慘憺たる光景を現出し、爾來拾數年に亘り當業界もその餘波を蒙りて不況裡に呻吟せざる餘儀なきに至れるが、昭和九年上期より突如好轉の機轉りて茲に一大飛躍を爲し、殊に較近に於ける驚異的進展は將に隆々たるものあり。而してこの好轉の基因は金再禁止以來海外貿易の急激たる

進展に依る海運界の好轉、軍事豫算の膨脹、更に政府實施に係る船質改善助成施設等、彼此相俟ちて好材料たる折柄、支那事變の勃發は更に夫れに拍車をかけ、爰に斯業界の黄金時代を顯出するに至れり。

當社の現營業種目は、各種船舶、陸用及船用機械、彈筒及汽罐類、瓦斯工場用機械類、油槽、發電所及水道用鐵管及門扉類、セメント工場用機械、水道用鋼管、鐵橋、鐵骨、鐵塔鐵構其他鐵工事、電氣機械器具、製鐵、飛行機、兵器等々なり。

而して十二年下期の船舶其他の注文引受高は九百七十件の多數にして、之を前期に比すれば、二百八十五件を増加し、又受注金額に於ては約一倍半の増加を見、前期以上の好成績を挙げたり。而して造船界は引續き好調を辿りつゝありしが、支那事變の突發は我が海運界に急激なる變調を齎らし、且つ鋼材及諸材料の騰勢は依然として持續し、其結果船價は暴騰を來し、爲に新造船の注文は一時見送りの已むなき状態を呈するに至れり。然るに當工場は既に事變前に於て五洋商船株式會社九千噸型貨物船二隻、川崎汽船株式會社五千七百噸貨物船一隻、極洋捕鯨株式會社二萬一千噸型鯨工船一隻計四隻の新造注文を引受けたる外、海軍省より更に軍艦二隻建造の受注あり。現在手持の艦船は合計二十七隻なり

亦造船以外の一般工事に於ても前期以上の好況を示し、殊に時局柄軍需品に對する多量の注文を引受け工場は之が製作に一段の繁忙を招來しつゝあり。尙艦裝中の艦船、即ち海軍省二等巡洋艦熊野、大洋捕鯨株式會社二萬一千噸型鯨工船第二日新丸、川崎汽船株式會社九千六百噸型貨物船君川丸及國川丸、山本汽船株式會社五千八百噸型貨物船影丸の五隻は何れも完成の上に既に引渡を了せり。

造船界の活況に伴ひ造船用厚板の需要は依然旺盛にして、市價概ね強調を保ち良好なる成績を收め、薄板は電氣鋼板及特優鋼板と共に取引順調に推移したり。尙ほ飛行機工場は今大事變の爲當期に於ける受注額は頗る激増し、それが急遽製作を計るため當工場の設備擴張は人員の増加を爲すと共に極力下請工場を活用し、以て全能力を發揮し軍部の要望に對應するに努力したり。尙川崎ドレーガー式酸素器具も亦事變の影響を受け、注文殺到し益々多忙を極めたり。過般竣工せる各務原新工場へ移轉中なりし神戸在來の機體工場は八月を以て全部其移轉を了せり。次に我國航空機工業現下の趨勢と、將來の重要性とを考慮の上十一月當飛行機工場を當社より分離獨立せしめ、新たに川崎航空機工業株式會社を設立の上今後益々工場設備の改善擴張並に人員の増加整備を計り以て非常時必需品生産力の

擴充と、刻下最緊要なる軍部の要求に應ずることゝなれり。

而して當期の利益金は五百六十三萬圓にして、前期に比し百九萬圓の増加なり。これと議理以來の好成績にして所定の控除金を差引き四百四十萬圓を剩せり。而して優先株六分、普通株二分の配當を行ひ、尙二百十餘萬圓を殘すに至りし爲、和議債務を二回分繰上げ償還を行ひたり。前期は一回分の繰上げ償還なりしが、當期は規定の償還を加へ、三回分共額三百二十萬圓を返還せしなり。當社の和議債務は毎半年期百六萬六千圓宛四十回に分割返済するものなるが、それにて今日迄の償還は規定分七回、繰上分三回合計十回となれり。後三十回を殘すが假りにこの下期、同様三回完償還するとすれば十期間即ち五ヶ年にて皆済し得るなり。斯くの如き顯著なる業績の向上は全面的の増益に基因せるが、その傘下の川崎汽船が六分配當復活の業績に負ふところ蓋し甚大なり。

尙前叙の如く當社の整理は三年乃至五年にて完了の筋合にあり。しかも完了後の資産内容は一舉に充實することは明にして、熾然たる光茫を放つも近き將來に在り。充實せる首腦部の偉容左の如し。取締役會長社長鑄谷正輔、專務取締役川崎芳熊、同吉岡保真、同松村守一、取締役倉造

俱、同三輪小十郎、同菅川多三郎、同植村實監、同岩崎恒二郎、同寺田善吉、同坂田幹太、同井出謙治、人事課長川邊昌徳、庶務課長兼秘書阿部市助、營業課長瀧山正巳、同北部正雄、會計課長神馬新七郎、東京出張所長野村千助

(所在地 神戸市湊東區川崎町二丁目)

### 武藤春治商店

東京株式取引所は我國有價證券取引界に於ける指導的地位にありて、全國株式取引所の首班に列し、經濟界の燈明臺として日々果しつゝあるその役割の重要性に關してはまことに測り知れざるものあり。東株取引所は明治十一年五月に發布せられたる株式取引所條例に基づきて、同年五月資本金二十萬圓を以て創始せらる。爾來我國運の勃興に伴ひて顯著なる躍進をなし、現時公稱資本金五千萬圓、(拂込資本四千二百五十萬圓)に上り、昭和十二年上半期に於ける株式取引高、長期三千四百五十三萬八千餘株、短期四千八百二十二萬餘株、實物九百八萬五千餘株の巨額に上り、頗る盛況を極めつゝあり。當武藤商店は東京株式取引所々屬の短期取引、實物取引の取引員にして、その營業方針頗る堅實たると共に

業範又甚だ鞏固なるを以て業界に多大の信用あり。株式取引には取引店の選擇肝要なるが當店の如くに基礎の堅實にして堅確なる信用を有せる商店は、廣く投資家に推奨なし得るなり。株式の賣買には經濟界に對する該博なる知識と周匝綿密の觀測眼を必要となすが、當店には調査機關を特設し、不斷に事業界株界各方面の諸事情に就き調査研究をなし、投資家の請に應じて資料を提供し、或は懇切に指導をなして、斯界に知識經驗淺き人も當店とは安んじて取引をなし得るなり。その故に投資家の間に多大の好評を博し、店頭には常に顧客雲集して商況頗る殷盛を呈し、毎期多大の成績を挙げつゝあり。當店の今後の發展には大いに刮目すべきものあり。

店主 武藤春治 武藤氏は明治十九年一月新潟縣に生る。郷黨を卒ふるや直ちに實業に従事し、後東株仲買人高橋信雄商店に入る。大正九年二月獨立して株式現物業を開始し、業界を八方馳驅して獨創の商軌を張り、卓抜の異策をめぐらして斯界に大をなすに至れり。大正十二年五月東株實物取引員の免許を得、翌十三年五月には短期取引員となり、株界に覇氣を張ることゝなれり。氏は頭腦緻密にして機略縱横、剛柔不届にして素志顯る望剛、業界に於てその材幹は多大の推敬を受

くる所なり。

(所在地 東京市日本橋區小網町二丁目)

### 大宮 平安神宮

皇室を始め奉り、衆庶萬民の崇敬深厚なる平安神宮は、人ぞ知る平安城都の祖神、桓武天皇の御神靈を奉祀せる官幣大社なり。其の發祥を尋ねれば、即ち天皇の恩澤を追慕し鴻業を瞻仰し奉り、京都市民が、幾都千百年記念祭執行を企圖するや、夙に請願總許を得て社殿造営に着手し、明治三十八年三月模造大極殿を以て拜殿に供し、清穆の神宮を創建、斯くて同月十五日勅使掌典子爵竹屋光昭氏御靈代を奉じて參向し、茲に嚴肅を極めたる鎮座祭舉行せられたるに發す。爾來英靈永へに淨地に鎮り給ひ、神驗奕々として遠近の賽者年と共に加はれり。本殿は屋根切妻流造、檜皮葺にして建坪十六坪餘、亦た拜殿は往昔の大極殿に模し、桁行百十尺梁間四十尺、高さ五十五尺、礎坪百四坪餘にして全體の構造寢殿造となし、中央を身舎とし其の四周を廊とす。而して五十二の朱塗圓柱整然として立ち、天井なく化粧屋根裏とし、周圍に朱漆勾欄を設け、屋根は入母屋造、碧瓦本葺にして、棟の兩端に金色櫻欄たる金銅の鴟尾あり。其他彫詞舎、神庫、

神饌所、蒼龍樓、白虎樓、應天門大鳥居等の社殿及建造物は宏壯雅麗、克く平安京朝堂院の輪奐を偲ばしむ。



境内は三萬八百九十餘坪を占め、地形平坦にして鎮座以來茲に四十有餘年、周邊の樹木鬱蒼として社殿の丹楹と相映發し、森嚴の氣

自ら襟を正さしむるを覺ゆを神城を廣表一萬坪の神苑ありて、東神苑中神苑西神苑に區分

あらんや。

尙ほ各種恒例祭中官祭は四月十五日にして尙ほ十月二十二日に執行さるゝ時代祭は、京都全市民を以て組織する平安講社の事業にして葵祭、祇園祭と共に京都三大祭の一に擧げられ更に天下の名祭として著聞するに至る。

即ち明治二十八年十月二十五日に舉行せるを濫觴とし、爾來年々歳々、京洛の山河秋色將に闌ならんとする時、畏くも皇室より幣帛を奉り、寶祚の無窮、國家の平安を祈請せらるるを始め、京都市長其他關係貴顯紳士參列して神饌幣帛料を奉獻し、茲に豪華絢爛たる時代行列を先行に嚴肅無比なる盛儀執行さる。而して該時代行列は維新勤王隊、三箭組、徳川公上洛列、城南流鏑馬列、藤原文官參朝列、延暦武官出陣列、延暦文官參朝列等にして、延暦以降千百年間我が民族傳統の日本魂、武士道の精華の綾をも織り交ぜ、當時の文物姿態を髣髴たらしむる而已ならず、一面風俗史及び一般歴史上の教育資料として權威あり、且つ海内無双の偉觀にして古雅瑰奇なる衣冠鏗鏘より威風凜凜たる甲冑、旗幟、端正なる神姿、さては幕末を偲ばしむる陣羽織、火繩銃隊に至る迄、恰も走馬燈の如く連々として眼前に現はれ、其の規模の雄大華麗なること驚嘆すべきなり。即ち當日の觀者道塗に魚貫

雜沓して股肱其極に達す。

(鎮座地 京都市左京區岡崎町)

### 醫師 雨谷達三

「醫は仁術なり」とする我國古來より傳承せられ來りし醫道は、歐米より駁々乎として入り來りて唯物思想と近時に於ける社會相の複雑化より漸く大地を拂つて消滅せんとしつつある時、雨谷氏の如き存在を帝都醫界に於て見るを得るは、功利主義的時代相に一抹の涼風を送るものと云ふべきなり。氏は資性溫恭謹厚にして質實堅確、名利に超脱して磊落恬淡、天性仁情に厚く、社會公共の爲めには獻身的に奔走し、各方面に盡せし貢獻僅少なからざるものあり。その人格廉直を以て知られ道念堅固にして品性清高、世人より多大の敬仰を受くる所となれり。寸暇を惜しみて學理の研鑽に没頭し、更らに臨床の診察にも銳意研究に勵精して、その該博なる學殖と神技の如き施療は斯界に名聲ある所たり。氏の患者に接する態度たるや甚だ懇切にして、貧富に依りて差別を設くることなく、秘蘊を傾けて療治に當るを以てその本復頗る速かなるものあり。現時葛飾區本田澁江町に内外科の醫院を開業せるが、氏の名聲を傳へ聞きて遠近を

間は予治療を乞ふ者踵を接し門前市を爲すの盛況を極めり、氏は曩に葛飾區本田町小學校醫並びに同幼稚園醫を補任せられ、寄與せる所多大なるものあり。その學殖及び人格は醫界よりも非常なる推敬を受け、葛飾區醫師會理事に選出せられ、斯界の爲めに東奔西走して活躍大なる貢獻をなして氏の名聲大いに揚れり、氏は雨谷馬之丞氏の三男として、明治十六年四月茨城縣東茨城郡長岡村に於て呱呱の聲を發し、後分家す。夙に東京醫學專門學校を卒業して、後林醫院に入り斯業の研究を爲せり。大正五年に至り現在の地に於て開業し、多大の好評を得て歷年繁榮をなすに至りたり。尙ほ氏は日露戰役に從軍し軍功に依りて勳八等に叙せらる。園藝音楽を趣味とし、たか子夫人との間に正俊君、艶子嬢、満里嬢の一男二女ありて、家庭まことに和氣瀟々たるものありて、近隣羨望の的となれり。

(住所 東京市葛飾區本田澁江町)

### 堂ビル割烹學院

料理は家庭圓滿の鍵にして、家庭圓滿こそ我が國力發展の重要な推進力と言ふべく、故に、割烹の研鑽は國力の増進、國家の榮榮を意味し、現時非常時局は益々深刻化し、内

外共に多事ならんとする秋、女性の文化貢獻は男性のそれに比肩して國家社會の進運に協力するを以てその本分となすべきにして、非常時家庭をあげたる主婦として、眞に文化を理解し、家庭生活を圓滿ならしめる女性の出現を待望せらるゝ所以なり、我が堂ビル割烹學院は此の主旨に則して生れたる特異の存在にして料理を通じ經濟、營養、實益、趣味之れに修養の生命を吹き込むことを第一義となし、眞の日本婦人を養成し以て料理報國を顯現せんとして我が國割烹界の最高權威徳光氏を校長とせる特殊學校なりとす。當學院は現校長橋本喜造氏の割烹報國を目的として昭和八年四月、堂島ビル六階に堂ビル專修學院割烹專門部を設立したり。大阪目抜のビジネスセンターに之は又悠長たる料理學校としてソロバン高い大阪人士を刮目せしめたるに始り、而して翌九年に第一回卒業生十名を出すと同時に新入生二百五十八名を獲得、橋本辻兩氏の努力は報ひられて大阪府の認可となり、堂ビル割烹學院と改稱したるなり。内容は家庭科、研究科、夜間科の三科に分類され現在生徒数は五百名にして令嬢あり、奥様あり、教員あり、職業婦人あり、凡ゆる階級の婦人を網羅して校勢は日々月々隆盛を極め、今や特異の校風と快刀入神の料理技術を以て全國に盛名を馳せつゝあり。

校長 徳光 氏は我國割烹界の第一人者として、其明朗調達なる人格と入神の技能は餘りにも有名なり。大阪府辻岩松氏の三男として明治二十五年五月を以て泉北郡北松尾村に生る。大正六年東京に開創されし日本割烹講習會を修業したる後本邦有数のホテル及割烹業者に就き料理の蘊奥を極めること九年、爾來農林省畜産科全國指定講師、愛知県各高等女學校、京都府教育會料理研究會各講師、舞鶴、佐世保海軍囑託として活躍、就中大阪陸海軍糧秣支廠の如き前淺野支廠長以來六氏に亘り其囑託を受け信任厚く、斯界の指導者として料理法を精神的に教育しつつあるは氏を於て全國に其の類を見ざるところなるべし、尙氏は當校々長として斯界の爲に盡瘁さるゝのみならず、傍ら家庭料理新聞を發行して「家庭と料理」と題し精神營養と肉體營養は單なる技術のみに非ずして成育の根源を探究せざるべからざるを高唱して精神的に料理の技術を教授されつゝあるを以て氏の人格を物語るに足る處なり。曩に近畿地方に襲來せし暴風雨に際しては僅か七十餘名の學院生徒を指揮して築港方面罹災者二千家族の焚き出しに奉公し市民の絶望を博したる外軍隊演習に於ける接待に夫々「眞に役に立つ女性、飽まで實力本位で進む女性」の學院の校是を發揮したる氏は眞に偉大なる功績と云ふ

べきなり。資性濃厚篤實にして、烈々たる愛國心に燃へ、而も敬神の念篤く、今や業世の信望を一身に集め、夙夜斯道啓發の爲勵精しつゝあり。家庭には鳥取縣奥井常義氏三女の千代子夫人との間に長男勲氏あり、常に和氣満々たり。追而當學院家庭科目は日本料理、西洋料理、支那料理、菓子製法、飲料水製法等なりと。

(所在地) 大阪市北區堂島落通り一丁目堂島ビル内)

### 株式 横濱正金銀行

暴戻軍閥を膺懲して無辜の良民をその歴政より救ひ、更に東京・伯林・羅馬輻輳を結成して防共の聖戦を展開し、正義星師の進む所皇道八紘を被ふて、東亞の天地に新しき黎明訪れ、東天紅を告げつゝある所なるが、我國戰時體制下に於ける重要機關として横濱正金銀行の帯ぶる任務こそまことに重且つ大なるものあり。即ち、政府に於ては眞に外國爲替管理法、輸出品等に關する臨時措置に關する法律、貿易組合法等の各種戰時立法を制定し各種重要資料の輸入の便宜を圖る反面人超増加之抑制に乗出すこととなりしが、茲に於て外國爲替の賣買を以て主たる營業となす我國

唯一の特殊銀行たる當行こそ、正に國策の最尖端に位するものと云ふを得べし。國際政局は愈々險惡化しつゝある際、國策遂行上必要なる爲替相場維持、其他に必死の努力を拂ひつゝある當行首腦部の苦心は多とせざるべからず。非常時局下の爲替政策並に金融政策の萬全を期する爲め、横濱正金銀行條例改正に依りて副頭取も二名に増員し、内一名を日本銀行理事の兼任となせるが如きは、當行の役割の益々重大化しつゝあるの事實を示すものといふべし。當行は明治十三年二月資本金三百萬圓を以て創立せらる。創業以來外國爲替の賣買、その他一般銀行業務を營み、國策の線に沿ひて經營を行ひ、貿易に産業に或は文化に之が進歩發展の爲めに寄與貢獻せる所まことに没すべからざるものあり。歴年事業は發展し、相次いで増資せられ、行運隆々として勃興し、現時資本金一億圓達済たり。今や支店の數内地に於ては東京の外五ヶ所、海外に於ては倫敦の外二十七ヶ所、又出張所數東京、巴里の外各地に五ヶ所を設け、業陣を全世界に布き、躍進日本の前衛としてその活躍まことに精進たるものあり。昭和十二年に於ては年初以來多大の入超を見、次で七月初旬支那事變の勃發するありて、當行の業務は非常なる繁忙を呈し、同年下期業績は頗る好成績を擧ぐ。即ち期末に於ける各種預金合計五

億八千八百十四萬三千圓、再割引手形二億五千四百四十四萬一千圓、賣爲替手形二千四百六十七萬六千圓となり、他方債權勘定に於て注目すべきは貸付金七千九百四萬四千圓、利付爲替手形二億一千二百七十三萬二千圓、割引手形一億六千七百五十六萬一千圓、買爲替手形三億九千四百二十二萬一千圓等あり。尙ほ同期間に於ける賣爲替十八億六千八百八十二萬二千圓、買爲替二十八億三千六百十五萬五千圓となれり。損益計算書に依れば總收入は四千九百二十九萬九千圓、總支出四千二百七十七萬三千圓に達し差引當期利益金六百五十九萬六千圓、擧ぐ。株主配當には恒例の一割を踏襲せり。資産内容又頗る堅實にして期末諸積立金並に準備金合計一億三千八百二十二萬二千圓に上り、所有内外公債債類四億三千六百四十七萬二千圓に達す。内容業穩固として搖ぎなく、當行の發展まことに顯然たるものあるを以て、今後國際政局に如何なる變動あり、世界經濟に如何なる變化あればとて、當行は堂々國策遂行の重大任務を達成するに間然する所あらざるなり。因に當行重役以下の如し。頭取大久保利賢、副頭取水津彌吉、同山内靜吾、取締役男爵岩崎小彌太、同男爵森村市左衛門、同兒玉謙次、柏木秀茂、矢野勘治、同渡邊禮、同野原大輔、同西山勉、同有馬長太郎、監査役杉塚磨、同大塚仲次郎、同

侯爵池田仲博、同山崎秀太郎の諸氏。

### 頭取 大久保利賢

氏は明治維新の元勳大久保利通氏の二男にて、大久保利和、伯爵牧野伸顯、侯爵大久保利武氏の令弟たり。名門の良系を承けるは争はず、幼少より頭取の才を具へ、資性頗る質實剛健たり。明治三十六年東京帝國大學法科獨法科を卒業して、直ちに横濱正金銀行に入る。早出退社して業務に格闘し、大いに銳鋒を現して多大の功績を擧ぐ。簡拔せられて倫敦支店支配人となり、常務、副頭取と歷勤して後現職に就く。經驗深くして蘊蓄頗る該博、高邁なる識見と遠大なる抱負を備へ、我金融界の代表的巨材としてその信望噴然たるものあり。戰時體制下に於ける正金頭取として實に英材の士を得たりと云ふべし。明治十一年十月を以て生る。

(所在地) 横濱市中區南仲通五丁目  
(本社事務取扱所) 東京市日本橋區本石町一丁目

### 名 望 家

### 佐々木 正太

名跡世襲の習俗は我が家族制度に伴ふ長所なるも、一面父祖の遺産に徒食して、獨立自營の信念を忘るゝが如き缺點あり。故に古來

往々富家に凡庸の子弟多く、清貧の家に逸材の出づるを見る。然るに我が佐々木正太氏の如き、所謂名門素封家に生を享け、順境なる家庭に育成したりと雖も、超凡の才識と不撓の精神を有して益々家名を高揚せしめ、眞に官職に在りて功績赫々たりしのみならず今又地方金融界の雄として令名煥然たる偉材、蓋し當代稀に見る人物として推稱すべきなり。氏は福岡縣三井郡味坂村に於て明治十年九月に誕生し、生家は土地師々の名門舊家として



氏 太 正 木 々 佐

名望噴々たりし家柄、即ち明治維新に際し主家有馬藩の朝幕何れに歸するや、其の去就の論議されし時克く勤王の大義を説き、遂に同藩をして勤王方と爲さしめたる永劫不滅の功績を有す。福岡縣民政黨の元老たると共に、筑後選出第一回衆議院議員の榮冠を擔ふ。後年紫濱と號し詩、書を良くし、其徳望近郷に響けり。而して父祖傳來の英血を繼承せる正

太氏は幼時既に聰明頭智を顯はれ、將來の大成を囑望さる。斯くて官界に躍足を伸ばさんと決意するや、上京東京帝國大學法科政治學科に學びて登雪の功を積み、明治三十六年七月、優秀なる成績にて卒業後、更に東京大學院に入り應用經濟學を攻究克く斯學の蘊奥を把握し、翌三十七年十一月、文官高等試験に見事登第せり。翌年稅務監督局事務官を擧出しに立身出世の道程を精進す。即ち同三十九年札幌稅務監督局長兼札幌廳務局長に任ぜられ、同年十二月には統監府書記官兼大藏書記官を拜命、次いで翌四十年一月在官の儘韓國政府の聘徴に應じて韓國政府財政顧問付を補囑せられ、以來同年四月統監府財政監督官、同九月統官府書記官、同四十二年全州財務監督局長、同四十三年一月平壤財務監督局長、同十月朝鮮總督府遺事務官及び慶尙北道財務部長、同四十五年四月慶尙北道内務部長、大正三年八月慶尙南道内務部長、同十年二月全羅南道内務部長等に夫々歴任し。同十年三月一級俸を賜はり年俸五百圓を加賜せられ、亦た同年七月勳任官待遇となり、更に翌年三月叙勳四等授瑞寶章の榮譽を擔ふに至れり。其後同十二年二月朝鮮總督府監察官を拜命、高等官二等に叙せられたるも疾病の爲め依願免本官となり、爾後日本赤十字社朝鮮本部事務官、愛國婦人會朝鮮本部相談役等を囑託せら

れ、至誠奉公克く功勞を現はし、同年三月二十四日多年の勤功に依り、從四位に叙せらる。斯くて功成り名遂げ、榮光燦として歸郷す。時に大正十二年十一月なりき。爾來居村に本店を有する株式會社明十銀行に入り、非凡の識見手腕を縦横に發揮して業務に精勵し、今や其の取締役頭取の樞樞を占めて斷然當地金融界に重きを置かれつゝあり。傍ら雲煙野鶴に親しみ、就中詩書畫に閑を充て、書道に於ては幼時より愛著深く精進著しかりし爲め技能卓絶、その清雅恬淡の筆跡稀に見るものあり。而して人格素より高潔、衆庶の尊崇信服措く能はざるは既に論を俟たざるところなり。

(住所 福岡縣三井郡味坂村)

### 上田辰卯商店

我國經濟機構の樞軸の一をなす東京株式取引所は、明治十一年五月に發布せられたる株式取引所條例に依據して設立せられたるものにして、爾來我國經濟界の驚異的躍進と歩調を一にして發展し、明治・大正・昭和の經濟史に巨大なる足跡を印し、一般事業界の發達に陰に陽に至大なる貢獻をなし來れるは衆説の要なき所たり。上田辰卯商店は東京株式取

引所々屬取引員にして、長期取引・短期取引・實物取引・國債取引の各取引員を兼ね、業礎頗る固くして牢固として動かす、その取引は専ら堅確を旨として飽くまで信用を重んじ、斯界一の優良店舖としてその名聲噴然たるものあり。當店は大正九年に開業し、翌十年十月東株一般取引員の免許を得て始めて斯界に業陣を張ることゝなれり。創業以來經營方針には堅實主義を堅持し、有價證券の取引買賣には顧客の立場に立ちて當り、營業上の信義を全ふる爲めには損失を顧みずして業務を遂行する等、その經營振りは同業者間に於て一異彩を放ち多大の信用を博するに至れり。當店には、一般事業界の大勢、銀行會社の内容、證券界の趨勢に關しては權威ある調査機關を有し、顧客の質問に對しては自由に應答し、懇切丁寧に説明を與ふるを以て非常なる好評あり。取引業には公共機關たる本來の使命あるを以て、利益を追求するは第二義的となし、極力内容の充實に意を注げるにより業礎愈々堅く、如何なる波瀾財界に勃發するこゝとありとも當店の營業狀態は微動だも來ざるなり。經營方針極めて實質にして虚名を博するが如き手段方法は努めて之を避けつゝあるが、業礎の鞏固なるは廣く事業界に知られるが、一流事業會社よりの大口取引甚だ多し。一般投資家に對してもその取引の多寡を問はず懇

篤親切に遇し、その利益の爲めに種々斡旋奔走をなし、恰も證券投資上の私設相談所たるの觀を呈せり。終始變らず以上の如き經營方針を遵守し來れるに依り、顧客より多大の讚辭を受けて商勢歷年隆運を見つゝあり。將來益々躍進の一途を辿ることなるべし。

#### 店主 上田辰卯

天賦渾厚にして心性高潔を以て業界稀有の人格者と仰がれ、尙敏の智能と群抜の才腕は斯界有数の韻材と謳はれ、東都財界に聲望赫耀たる士に上田辰卯氏あり。氏は上田與三吉氏の二男として東京市芝區柴井町に於て、明治二十四年九月呱呱の聲を發す。嚴考上田與三吉氏素志健剛にして俊秀英邁を以て知られ、同氏は大阪の人にして青年時代勵志を抱いて上京し、洋服業を營むこと幾春秋、奮勉砥礪して活躍し、五十三歳にして株界に轉じて株式仲買人となり、拮据經營して遂に斯界に名を成すに至れり。後長男上田厚吉氏に家督を譲りて隱居せり。上田辰卯氏又嚴考に優る材幹にして、天資穎脫の才に恵まれ、頭腦明晰にして周匝緻密、賦稟の顯才を發揮して、角逐場裡を縦横に馳驅し、その慧眼衆に先んじて財界の趨向を洞察し、人の意表に出で、獨創の商陣を布き業運多大の發展を遂げて、業界有数の大店舖として上田辰卯商店の名譽隆々たるものあり。氏

は又天資頗る渾厚にして敦厚、道念堅固にして行往座臥甚だ謹嚴を極め、操行極めて端正たり。名利に淡然とし、小事に拘泥せず、その心境まさに鏡の如くに明澄にして、胸中一片の邪氣を止めず、清白高朗の人格は何人も景仰せざるはなし。慧心に厚く、人情の機微に通じ、思慮頗る練熟して、氏の諄々として道を説く時、その言辭は眞に珠玉の如き貴重なる人生の鑑戒、爲すものにして、測々として聞く者の胸底を貫くものあり。氏は信仰心に厚く、日蓮主義に共鳴し、常に佛典を寸時も離さず、ひたすら教義の體得に精進して凡俗の窺知し難き悟道の領域に達せり。店員に對しては懇切に指導訓育を怠らず、店員よりは師父の如くに崇敬せられつゝあり。尙ほ氏は明治四十年大倉商業學校を卒業し、後一年志願兵として赤羽工兵隊に入り、工兵少尉に任官し、正八位に叙せらる。後嚴考の經營せる上田商店に入りて株式仲買業に従來せり。多年斯業の研修に精勵し、三十歳にして獨立し、東株取引員の免許を受けて、上三上田商店を開業す。次で大正十四年農商務省の囑託を受けて米國に渡航し、紐育株式取引所を視察して歸朝せり。氏の熱誠熱直の經營と高雅明堂の人格とを以て多大の信望を博し事業日覺しき發展をなして、斯界に不拔の基礎を築くに至れり。業界の信望甚だ厚く、取引

員組合委員、東株商議員に選出せられること數次に及び、昭和十年六月實物取引員組合委員長に推されて今日に至る。大日本證券投資會社外數社の重役を兼ね、俊秀の材器と、清高の人格とを以て衆庶より多大の長編を受つけ、あり。

(所在地 東京市日本橋區茅場町一丁目)

### 株式會社 高田アルミニウム製作所

アルミニウムは美麗なる色澤を有し、輕量にして衛生上無害なり。斯くて近來之が需要大いに激増し航空機その他の兵器を始め各種の機械器具、又家庭の日用品、裝身具等、その用途益々擴大せられるに至れり。當社はアルミニウム及各種金屬の製造加工並びに販賣を營み、大阪事業界に異色ある存在として注目せらる。その創業はまことに古く、當社長高田市松氏明治四十年斯界に進出して獨立創業せしに始まる。爾來その經營方針時代の進運に合致して順調なる發展を遂げ、需要年を逐ふて増進し、業績飛躍的向上をなし、遂に今日の如くに業運隆々として勃興するに至れり。事業の膨脹に依りて、昭和十二年二月從來の個人經營を改めて株式會社となし、事業に多大の刷新を加へ新時代に適應せ

る合理的經營方針を採用せしが、之に依りて更に一段と躍進をなせり。現在資本金一百万圓にして内拂込資本五十万圓たり。需要の増大に依りて社業非常なる股盛を極め、毎期多大の好成績を挙げつゝあり。尙ほ製品の改善には常に非常なる苦心を拂ひつゝあるを以て品質の優秀なるは夙に令名ある所に於て現に海軍指定工場なり。従業員は四百餘名に上りその設備完備し、資産内容又堅實にして、將來の發展大いに期して俟つに足る。

#### 社長 高田市松

資性勁格渾厚にして素志堅確、眞實業務に傾倒して大いに才腕を揮ひ、大阪事業界に信望高きを高田氏とす。明治十三年五月石川縣人高田清三郎氏の長男として呱呱の聲を揚ぐ。明治三十八年始めて斯業に携り、早起晚寝して研修に没頭し大いに蘊蓄を積む。明治四十年獨立して決然業界に進出し、拮据經營に當りて、遂に今日の成功を見るに至れり。創業當初幾多の難關に逢着せしも、不撓不屈、百折撓ゆまず努力し、更に又天賦の才腕を縦横に揮ひて輝かしき躍進を遂ぐるこゝなれり。令閨とく夫人は明治二十八年に生れ淑徳高き賢婦人として知られ、内助の功多し。嗣子勝治氏は明治四十二年に生れ、頭腦明晰にして商才に長じ現に當所取締役に列して手腕を揮へり。將來事

業界に頭角を抜くものと期待せらる。  
(所在地 大阪市西成區西四條)

### 新潟電力株式會社

新潟縣下屈指の大會社として基礎鞏固にして事業茂盛を極め、その信用實に牢固たるものある當社は數多の電力會社の合併に依りて成立したるものにして、明治三十九年七月新潟電燈以下數社相合して資本金三十萬圓を以て新潟水電設立せられ、大正九年九月五社合併して資本金二百五十萬圓の新潟電氣出現す。續いて昭和四年十二月新潟電氣と新潟水力合同して新潟電力生誕せり。電燈電力の供給を目的となし、その供給區域は新潟縣下二市百八十八ヶ所町村、福島縣下五郡に及ぶ。現時公稱資本金三千七百萬圓、拂込資本三千四百七十八萬八千圓に達す。最近新潟港を中心とする工場の新増設著しく、近來大口需要激増せり。元來當社の主要地盤は農村なるが、近年農村の景氣恢復と共に電燈並に小口動力の需要も亦増進す。更に工事費約七百萬圓を投じ、伊南川發電所の從來の出力一萬八千キロワットを二萬四千キロワットに變更することゝせるが故に、將來の業績向上に資する所多

大なるものあるべし。當社の存會社は何れも業績優秀にして、中央電氣化學、中央電氣工業等あり。前者はカーバイド、後者は合金鐵シリコン鐵、マンガン鐵等を製造す。兩者ともに需要旺盛にして、毎期何れも好成绩を挙げつゝあり。當社の成績向上に資する所多しとせず。當社は年と共に成績上昇し、最近に於ては利益率一割三四分を挙げ、八分配當に愈々餘裕を加ふることゝなれり。今後の躍進には大いに期待すべきものあり。當社の重役陣左の如し、社長白勢重作、専務山縣浦一、常務加藤時雄、常任監査役飯村俊二氏等諸々の材幹第一線に立ちて活躍せり。

### 實業家

#### 谷田一定

氏は明治二十八年八月十日福井縣坂井郡丸岡舊城下に呱呱の聲を擧ぐ。大正六年帝國飛行學校を優秀なる成績を以つて卒業す。後ち醫學の研究に意動き眞摯なる學究は其効を奏し、大正十二年九月遂に植物よりネオピターミンBの採取に成功し京都府製藥者の免許證を授與さる。次いで洛北松ヶ崎に於て摺糸工場を經營し、相當の業績を挙げしも都合上之を中止し、桑梓の地福井市に於て北陸信託株式會社を興して事業界と信託業との啓蒙を拓きて功あり、昭和二年に迫りて近江瓦斯株式

會社設立發起人となりて之を設立して現にその取締役たり。

氏天賦篤實寛厚にして霸氣に溢ち、物事に眞摯なる點に於て亦鋭敏なる點に於て著聞すしかも頭腦飽くまで明晰にして終始學徒的態度を持って研究心に燃ゆ。ネオピターミンBの採取も此の研心の厚きを證し、人物識見非凡たり。現に近江瓦斯會社取締役、二本松糸工場支配人の傍ら京都生産輸出協會理事に



氏 定 一 田 吉

推舉されて常に海外輸出に留意し、帝國飛行協會員として我國航空界に貢獻するところ亦多し。尙氏は各種社會公共事業に能く盡瘁するところあり、日本赤十字社其他に捧げし美事善行は枚擧に遑なく、人に接するに寛容應接者その仁徳を尊ぶ。氏はその私的關係に於ては頗る趣味豊富の士にして植物の愛用栽培には殊に造詣深くして就中蘭、萬年青の培養に獨特の手腕を有し、野球、弓術等の運動に親しみ、一面蔵する書畫骨董に珍重物多く、其

鑑識眼に肥ゆ。音楽方面に於てはヴァキオリン、ピアノ、マンドリン等の洋樂、尺八の吹奏に至りては全く素人の域を脱して有名なり。益榮夫人亦趣味女性にして一般婦孺に長じ加ふるに淑行の譽れ高く、子女の教育に頗る熱心なり。目下長男正一君は京都第三中學校に在學中にして秀才を以て稱はれ、令嬢定子嬢は同志社高等女學校在學中、次男定保君は小學校に在りて一家は常に和氣霽々として近隣羨望の的たり。

(住所 京都市上京區小山下總町五三)

### 宮城縣電氣局

電氣供給事業の最も公益性に富み、文化進展の推進力たるは、燈用としての普通化は勿論、都鄙萬般の事業施設に動力を與へ、或は日常生活の安全簡易化並に經濟化に絶大無比の寄與をなすつゝあるに鑑み、既に喋々の贅言を要せざる處なり。此の點我が宮城縣電氣局が、創設以來著々業績を挙げ、以て縣下一帶文化の進展、産業の發達に資せるは、當縣隆昌繁榮の爲め慶賀すべきなり。

抑も當電氣局は大正十年一月、宮城縣臨時電氣經營準備事務所を縣廳内に設置企畫し、同十二年二月、縣内務部に電氣課を設けて縣

營業を開始せるに發し、次で、同年山三カイバイト株式會社電氣事業を繼承、更に仙臺市部及び大崎水電株式會社電氣事業を譲受け漸次業務を擴大せしめ、同十五年四月、宮城縣内務部電氣課を宮城縣電氣事業所と改稱なし、爾來昭和四年八月に至る間、宮城清瀬電燈株式會社、齋川電氣株式會社、定義電氣株式會社、仙北電氣株式會社、氣仙沼電氣株式會社等の電氣事業及び二本松電氣株式會社、仙南電氣工業株式會社、東北電燈株式會社、福島電燈株式會社、氣仙水電氣株式會社等の本縣内に於ける同事業を繼承し、同五年四月一日宮城縣電氣事業所を宮城縣電氣局と改め、翌六年三月宮城送電興業株式會社電氣事業を譲受け、益々規模を擴充なしつゝ、現今に及ぶ。今や縣下一帯に亘りて出張所十二發電所二十二、變電所十九、變壓塔二を設置す、而して最近に於ける事業概況を見るに、電燈取付數三十八萬九千三百六燈、需要家數十五萬三千三百一十一、動力契約口數三千六百五十九、契約KW數一萬一千五百五十五、需要家數三千五百二十五、電熱及其他動力契約口數千六十、契約KW數五百五十六・八五、需要家數三千三十五、並に電氣事業者及自家用工作物施設者に對する供給合計九千八百六十五・三等にして、其の發受電々量に於ては發電總量九千三百三十五萬二千四百七十六、受

電總量二千五百七十七萬九千三十七を算し、昭和十年度実績に比較せば、發受總計千七百九十九千四百九十の増加をなせり。亦同年度即ち自昭和十一年四月至昭和十二年三月第十四期利益金處分は、純益金百十六萬八千九百二十九圓餘に、之が一般會計繰入金十八萬五千圓、更に前年度同處分は、純益金百四萬四千二百四十二圓餘にして一般會計繰入金十八萬五千圓、公債元金償還六十一萬圓、災害復舊準備積立金二千七百三十七圓、恩給基金積立金二千八百六十四圓餘、純益留保額二十四萬三千六百四十一圓餘なりき。尙ほ昭和十一年度末公債未償還額は二千七百四十六萬六千六百圓なりき。

### 局長 歌田忠藏

氏は山梨縣北巨摩郡下黒澤の出身、明治二十五年十一月を以て誕生し、夙に官界に嚆望せる處、切瑛琢磨克く大正十二年高等試験行政科試験に登第するや、翌年福井縣屬を振出しに學務課長、社會課長、地方課長、工場課長等を歴任し、昭和六年和歌山縣勤務を命ぜられ同縣會計課長、社寺兵事課長、秘書課長、庶務課長、學務課長等を経て同十一年宮城縣に轉じ、以來社會教育課長、教育課長、人事課長等に就任して卓腕を縱横に揮ひ、同十二年十一月、前局長熊田孝太郎氏退職するや、後任局長として、要

情に推され。人格識見共に非凡なるを識はれ、令名煥然たり。

### 總務課長 菅原卯一

氏は明治二十四年三月を以て石巻市に呱呱の聲を擧ぐ。資性濃厚謙直にして頭腦明敏、而かも識見手腕儕輩を抽んじ、大正元年宮城縣鹿野郡書記を奉職、爾來同十五年三月縣屬會計課勤務を命ぜられ、其後文書課長を経て昭和七年宮城縣參事に陞進せる努力奮勵家、現に參事兼總務課長の重責を擔ひて局業務を總攬す。

(所在地 宮城縣仙臺市)

### 事業家

### 關山延

三國鋼帶社長、國產放熱器代表取締役、高砂鐵工常務、理研輕合金、大東工業各監査役、日本放熱器工業組合理事長等々の時局色彩濃厚、諸會社並に斯界の鉅頭に推されて威名鳴る一方、青年教育に多大の關心を有し自ら青年學校を主宰貢獻しつゝある異色ある存在として知られ、事業に社會公共に猪突の飛躍を續けつゝある蓋し實業界稀に見る硬骨漢なり。明治二十八年八月を以て茨城縣木村寅次郎氏の三男として水戸に生れ、絶家關山家を再興す。幼にして才氣煥發、夙に實業界に雄

年學校を主宰して青年教育の爲め努力しつゝあり。曩に東京日日新聞紙上に其の卓見を披瀝し、世上謗者の嗟嘆を博したるを以て氏の一家をなせるを知るところなり。

資性豪毅調達にして而も威ありて猛からず、温情流露の半面を有し、而して頭腦は飽くまで明晰にして鞏固不拔の信念の下に行動を取てし、一度着手すれば萬難を排して之れが貫徹を期せずんば止まざるの慨あり、其の玲瓏玉の如き人格と相俟つて紫虛の信望は絶大にして、今や青年實業家關山延氏の向後こそは期して俟つべきものありと言はざるべからず。宗教は他力本願眞宗と言ふも、氏は自力奮闘を以て活動の根本精神となす。趣味多くスポーツを好くす、家庭には萩原辰五郎氏の五女にして三輪高女出身の才媛美代子夫人との間に吉彦、輝彦、共子の二男一女あり。何れも健康快活なり。才色兼備の賢婦人の譽高き美代子夫人は専ら子女の教養に身を以て盡瘁されつゝあり、春風堂に満ち圓滿なり。

(住所 東京市品川區五反田五丁目)

### 朝日化學肥料株式會社

「磷肥工業報國」の旗幟を掲げて過燐酸肥料製造研究に躬身する事茲に十有餘年、今や

其の煥然たる業績は幾多業界の先達を畏怖せしめ、驚異的發展は正に業界の刮目するところとなれり。

抑々當社は大正十二年現專務取締役佐古田政太郎氏が個人經營の合資會社朝日肥料製造所を設立せるものにして創業以來あらゆる難關を突破し逐年向上進展し來り昭和十年八月に及んで郡是製糸株式會社肥料部と條件折半にて合併し現在の朝日化學肥料株式會社と改稱せり。而して當社の最も誇りとすべきは原料たるアンガウル燐礦石が過燐酸肥料に製せらるまでの過程が悉く機械設備に依りて行はれ、正に東洋一の工場設備として其新進氣鋭の概を示せり。元來本邦過燐酸製造工場には斯かる機械的操作に依る生産工程を持つ會社は稀無にしてそれだけ當社の將來に於ける活躍は大いに期待して可なりと云ふべし。尙當社の強味は郡是製糸肥料部所屬養蠶組合一萬(組合員一十八萬)、作付段別(桑園)六萬町歩に對して供給するの豊富なる販賣地盤を有し内地、沖縄、臺灣、朝鮮方面にも益々其販路擴大しつゝあり。經營課目は過燐酸、一般配合肥料、重過燐酸及び化成肥料に亘り居れり。當社は豫てより新築中の尾崎市東初島町の新工場は昨秋竣工すると共に移轉せしが新工場の敷地は一萬五千坪にして内建坪五千坪の宏大なる地域に及び同市西松島町の舊工場

飛せんと奮勃たる霸氣を護し、神戸高等商業學校を優秀技群の成績を以て卒業するや、直ちに高砂生命に入社次いで高砂鐵工株式會社に轉じ、爾來奮勵精勵、其の閃發する睿智才幹を認められて陞進し支配人に進み、更に榮進して取締役兼支配人として重役の地位に列したり。蓋し異數の事に屬するものなりとす其後高砂と同系なる國產放熱器會社代表取締役となる外、前記數社に樞樞を占め益々活躍しつゝあり。今や少壯實業家としての氏の信望は噴々として往くとして成らざるなき盛名を發揮しつゝあり、而して氏は夙に日本放熱器房器共同販賣組合の成立に寢食を忘れて盡力し、圓滿之れが結成せらるゝや推されて其の組合長となり、現に斯業界に貢獻するところ著大なり、又一方學憲時代より政治、經濟方面に通曉せしが、特に勞働問題に關しては一方の權威たるの貫祿を有し、去る昭和七年二月第十六回國際勞働會議の開催せらるゝや其の識見手腕は推されて之れに出席のため渡歐、縱横に活躍して我が國の爲め萬丈の氣を吐きたるを以て氏の如何に熱血卓抜の事業人たるかを窺知するに餘りあるものと云ふを得べし。斯くして氏は夙夜寸暇なき活躍を續けつゝあるに拘らず常に「一國の隆盛は青年に俟つもの至大なり」の信條の下に自ら青年を以て任じ、卒先して青年運動に奔命し現に青

は分工場として配合肥料を生産しつゝあり。人も知る我が肥料界は昭和十一年十一月重要肥料統制法の實施を見、「肥料の需給の圓滑及價格の公正を圖る」こととなれり。該法の實施は肥料界の王座を占有せる確安、石炭、窒素、過燐酸の製造業者に相當なる衝動を與へたり。由來過燐酸の如きを統制せんとする其精神たるや洵に結構とするも實際問題として果して效果を得るや否やは頗る疑問視せるが本年四月以降公定價格が設定されし確安に於ては最高四圓餘、最低三圓五十二錢を示し石灰窒素も九月より公定價格の設定を見たり而して過燐酸に就ては、原料礦石の輸入値段暴騰のため未だ公定價格を設定され難き事情にあるが、市場相場は著しく値上りを示現しつゝあり。斯くの如く市場相場の昂騰する所は窮極のところ需給の不均衡乃至原料昂騰の結果なるが其處を是正されずして只製品の公定價格のみを内輪に於て決定するが如きは不合理の譏を免れずと思料す。而して現在十九社の設備の全能力を發揮せしむれば少くも幾十パーセント内外は過剩とならむ。従つてまづ需要の總數を決定して更に公平なる生産割當てこそ緊要條件にて是れに出荷統制を計り依つて公正なる價格が生ずる順序が常軌ならむ。また割當てなるものが頗る難問題であるが幸に此關門を無事突破



するものとしても過燐酸の製造は方法に依りては小資本を以てするも設備可能なるが故に、極端に云へば無制限に増産する事を得、茲に於て統制を權威あらしむるには新しき製造業者には許可制と爲すまでに強化せざるべからず。而も今や肥料統制法實施せられし爲に肥料界に於ては此統制から免れる爲に近來に至りて配合肥料、化成肥料への進出が顯著となり。恐らくかゝる傾向は今後一段と相手をかけらるべく當社は幸にして從來配合肥料、化成肥料、過燐酸を主として年産三十萬尾の生産を行ひ來れる爲此潮流に倣して指導的立場に置かれたり。然し統制の精神は農村經濟の繁榮更生にある以上何時かは來るべき問題にして殊に肥料に支拂ふ支出が農村經營資本の四割にも及ぶと云ふ事實はそれを一層理由に附ける。當社は夙に肥料經營の改善に努力し極力その販賣價格と從て生産費を低下せしめんと常に工場設備を改め且つ擴充し而して技術研究を遂げ來れり。殊に當社が郡是製糸株式會社と姉妹關係にあるため内地及び朝鮮を通ずる五十萬戸の養蠶家、十萬五千町歩の桑園に肥料を供給しつゝある故、生糸國策の立場よりも一段と肥料の低廉且つ圓滑なる供給を圖り來れる事は絶讃すべくこの意味に於て當社は曩に第三期擴張計畫を完成し以て生産能力を三倍化し一意「肥料報國」に貢獻し

つゝあり。因に當社取締役社長は奥村鹿太郎氏なるも、事實は専務取締役佐古田政太郎氏統轄し居れり。

専務取締役 佐古田政太郎 「燐肥の研究家」として氏の名は朝日化學肥料會社と共に業界に周く令名を馳せ居れるが、氏今日の名聲は決して一朝一夕に築き上げしものに非ずして血の滲むが如き努力と辛苦の賜物に外ならず。茲にそれを評述を許さぬを遺憾とす。氏は京都府佐古田力松氏の長男、その明敏なる頭腦を顯便すること多年、遂に燐肥研究を以て奉公を決意し、凡ゆる苦難を征服し大正十二年に及んで朝日肥料製造所を獨立創業し遂に今日の地位を獲得せる立志傳に編まるべき人物なり。其間昭和九年朝日機器株式會社を設立し自ら社長たり。氏齡未だ四十五歳の壯年、今後の活躍こそ刮目すべきなり。

(所在地 尼ヶ崎市東初島)

### 事業家 廣瀬久彦

名古屋市を本據に建築土木及設計請負業廣瀬會社を經營し、或は各種事業に關係して、業界に多大の勢力あり。氏は愛知縣土佐廣瀬

り。事業日に月に躍進しその規模又頗る大を成すに至りたるより、昭和七年一月令資會社廣瀬會社を組織し氏は其代表社員に就任す。爾來愈々發展をなし、廣瀬會社の名聲益々揚るに至れり。當社の築造せし建築物の優良なるを以て、各方面より褒賞及感謝を受けること數知れざるものあり。氏頭腦頗る明敏、思慮又周到、視野廣く、時代の動向に注視を怠らず、常に新知識の攝取に傾倒す。温籍恭謙卓犖豪放。事業經營に卓抜の才腕あると共に謙虚にして大いに温情に富む。磊落坦白、高義正節の士。器局宏量、人格清廉衆庶の深く悦服する所なり。學社一致その事業發展の爲めに盡瘁し近時事業一段と發展を極む。氏はその傍ら名古屋新世界尾三土地各監査役等に列して、廣く事業界に活躍す。尙ほ名古屋商工會議所議員に選出せられて、斯界發展に努力し、或は在郷軍人清水分會顧問として種々と貢獻する所あり。

(所在地 名古屋市中區西五町一九)

### 法人 生命保險會社協會

本邦生命保險事業の躍進は、まことに驚目すべきものあるが、之には社團法人生命保險

會社協會の多年に亘る活動に負ふ所多大にして、保險思想の普及徹底、保險學の研究助成、保險事業關係法令の改正の爲めの運動、或は斯業經營上の幾多の研究を爲して業界の爲めに没すべからざる貢獻をなし、世界に誇るに足る保險事業の發展を招來したるなり。我國保險事業は明治三十年頃に至りて多大の發展をなし、當時生命保險會社の數三十を超えたるが、斯業の發達の爲めに各社相提携するの要ありたる所より期せずして明治三十八年三月常設機關生命保險會社協會の設立を見る。超えて同四十一年十二月、十六生命保險會社發起して、主務大臣の許可を得て、茲に社團法人生命保險會社協會の生誕を見るに至りたり。同四十三年五月、東京市麹町區有樂町に會館の建築に着手し、大正元年十月之が落成を見た。創立以來保險業法その他の法令に關して政府より諮問を受け、或は意見書を具申し、模範的約款の制定をなし、事業方法書、財産利用方法書記裁例を定めて實務上の便宜を圖り、帝國大學に保險學の研究費を寄附し、或は又全國各地に於て生命保險宣傳大會を備す。その他幾多の方面に於て活動して今日迄幾多の事業に遺あらざるなり。當協會の定款は再三改正せられたるが、其第一條に掲げたる當協會の目的には以下の如きものあり。一、生命保險事業の進歩發展を圖るに

正益氏の長男にして、明治十年五月を以て生る。愛知縣尋常中學を経て東京工學院造家學科に入學し、明治三十年同校卒業と共に東京帝國大學本部に奉職す。後一年志願兵として入營し少尉に任官、除隊後岐阜縣廳、東京市役所に歴勤し、更に明治生命保險會社に技師として招聘せられ、京都、金澤兩支店の建築工事を擔當す。明治三十七年日露戰役の勃發と共に召集せられて砲兵第三聯隊に入營し南田・沙河・奉天等の激戰に参加して勳功あり。その間砲兵中尉に任ぜらる。凱旋と共に功五級金功勳章及勳六等單光旭日章を授けらる。明治三十九年五月、畏友志水正太郎氏と共に、土木建築請負業を開業す。廣瀬氏の卓抜なる技術と該博なる知識を以てするその建築物頗る優秀にして、註文主何れも口を極めて推賞せり。これを聞き傳へて註文相次いで來り、幾多の大建築の建設をなし。事業頗る活況を呈し收益又著るしく、その信望隆々と共に、大正六年八月志水氏と分離獨立を爲し、斯界に縱橫の手腕を揮ひて斯界驛目する所となれり。氏は時代の進運に目を注ぎ新機軸の創始、新技術の採用等に研究苦心を怠らず、常に新機軸を拓きて業界の驚異的的とせらる。一流銀行會社・病院・學校・其の他の公共建築物或は邸宅等氏の手になるもの多く、設計に工事に頗る優秀なる技能を示せ

必要なる諸般の方法を講究すること、二、生命保險の學理及實務を研究し事業の改善に資する諸般の設備を爲すこと、三、生命保險業者相互の交情を温め且社交を擴むる機關を設くること、四、生命保險に對する世人の認識を高むる爲に必要な方法を講ずること、五、以上の目的を達する爲めに會館を建設すること、の五項目あり。以上の目的を達成する爲めに各種の機關を設置し、幾多の事業を營みつゝあるが、保險業務の調査研究の爲めに調査部、保險思想普及の事業を營む宣傳部、保險業務の調査研究を目的とする醫務部、保險數理の研究をなすアクチュアリー部の各稱を置き、又圖書室を設け保險に關する内外の書籍を備へり。明治四十三年農商務省商工局より保險年鑑の印刷發行を引受け、爾來毎年之を刊行せるが、尙ほこの外生命保險會社協會々報、診査と醫學その他各種の印刷物を出版し、更に保險史料の刊行を行へり。又官私大學の保險學、保險演習その他の研究に對して毎年多額の寄附をなし、保險思想の宣傳或は各種保健に關する備に寄附援助をなす等、社會公共方面に寄與せる所まことに多大なるものあり。當協會は我國に於ける保險會社をその傘下に網羅し、各種經濟團體中の最も有力なるものの一にして、政治的に經濟的に將た又社會的に頗る多大の勢力あり。生命保險事

業の監督が商工省並びに厚生省との共管となりしを機会に、時局多難の折柄國策の一翼を擔ふべく、當協會に於ては各生保會社の共同

出資の下に全國主要都市及び地方に醫療施設を置き、被保險者並に其家族に限り無料又は實費を以て醫療の需に應ずる等、國民體位の向上の爲めに今後大いに力を傾注するに至るものと見らる。生命保險事業の近時の發展にはまことに目覚しきものがあるが、昭和十二年內國三十三生命保險會社事業成績を見るに、年始現在契約高一億四千九百九十九萬九千九百九十九圓、新契約三億四千九百九十九萬九千九百九十九圓、保險金支拂高由二億三千六百九十一萬圓解約消滅十億二百七十二萬四千圓、年末現在契約高、一億六千八百八十八萬九千五百九十九圓、純增加二十二億四千六百一十一萬六千圓、又支拂保險金一億九千五百八十一萬六千圓、收入保險料六億四千七百四十六萬四千圓に上り、各社共に何れも業績頗る好調を示せり。斯る保險事業の發展には多年に亘る當協會の活動に依ること絶大にして、更に學理の研究に、保險思想の普及に、或は國民保健の向上に貢獻せる所又まことに洪大なるものあり。因に當協會の役員には理事會夫、長成淵達、専務理事玉木爲三郎、理事金光庸夫、同根津嘉一郎、同今井利喜三郎、同名取夏司同山下恒雄、同野依辰治、同樽道文藝、同吉

田秀人、監事石坂泰三、同平澤眞、同丹治三三の諸氏なり。

専務理事 玉木爲三郎 資性温恭にして敦厚、品性亦た高雅にして教養高く、内に竊々たる温情好紳士にして、業界に於ける信望噴然たり。頗る緻密なる頭腦の持主にして、保險に關する學識蘊蓄頗る淵博たると共に秀抜なる才腕を有し、業界屈指の俊魁たり。氏は明治二十七年東京帝大法科を卒業し、後明治生命保險會社を経て農商務省工務局會社課囑託となる。踵で退官辯護士を開業す。懇望せられて仁壽生命保險會社の理事に就任す。常務・専務を歴動して、同社の發展に貢獻する所僅少ならず。昭和五年當協會より聘徵せられて専務理事の要職に就き、業界の發展の爲めに心血を注ぎ勞績たる功績あり。傍ら現に滿洲生命保險理事、生保土地管理、協榮生命再保險各取締役に推され、曩に東京帝大、東京高商、慶應義塾等の講師たり。因に氏は京都府士族玉木正興氏の三男、明治三年四月に呱呱の聲を擧ぐ。

(所在地 東京市麹町區丸ノ内三丁目)



高橋文三氏

八木文商店主 高橋文三

言なるも文化の進展、世相の複雑化に伴ひ、道心日に危き今日正に玩味すべき選調たり。我が石井保氏は自ら處するに毅然、人に對するに譎然、而かも清廉潔白の資質を有し、風格氣韻頗る高く、氣宇瀟灑にして克く人を容るの雅量に富み、接するもの齊しく其の洋々たる宏量襟度に自ら敬仰の念を禁じ得ずと云ふ。寔に氏の如き、私利私欲を圖りて汲々たる所謂實業家と全然軌を異にし、卓然毅立毫も惡風に染まず、而かも多年官界に馳驅せりと雖も、些も官僚的臭味なく、至誠一貫、常に帝都瓦斯業界の進歩發展を念頭に献身努力する處多大、而かも其の高風玲瓏たる人格と高邁卓抜なる識見手腕とは相俟ち、當代稀有の人材として聲名斯界に噴々たるものあり。

氏は東京府を搖籃の地として明治二十年を以て呱呱の聲を擧げ、幼時既に聰明伶俐、出藍の譽れ高く、學序を経て東京帝大法科獨法科に入るや、研鑽勉勵、孜孜として撓ゆまず克く最新法學に通曉し、明治四十五年優秀なる成績にて卒業後、官吏萬能なりし當時なれば氏も亦た敢然官界に身を投じ、以來天賦の才幹卓腕を縱横に發揮して轉働恪勤に一貫せる處、着々上司の信頼厚きを加へて階進、遂に臺灣總督府警務局長の要職に就任せり。斯くて同島治安維持の大任を究りし、民衆の絶對的信頼を博して信望年と共に藉甚たりしも

して事業は旭日昇天の勢を以て興隆す。その商品の優良なると、その信用の堅確なるを以て、名聲大いに起り、商況發展を極めて巨富を積むに至れり。氏は濃厚篤實幾多の經驗を重ねて圭角とれ、その人格まさに玉の如くに輝く。悠揚迫らざる高貴の態度には長者の面影あり。氏愈々元氣旺盛家業は嗣子秀一氏に譲り、現在名古屋莫大小タオル商組合會計に推戴され、業界の爲めに活躍せり。その豊富なる經驗蘊蓄、練達堪能の手腕、清白高朗の人格に對して業界に於ける感望鬱然たるものあり。尙ほ子息秀一氏は嚴父の後を繼ぎて業務一切を處理せり。氏は明治四十三年十月に生れ、夙に名古屋商業學校を卒業す。温籍實實にして事業に精勵し、近隣の名望頗る高し。現時使傭人數十人を擁し、東海地方に於て八木文商店の名大いに高まる。又六男嘉三氏は大正四年の生れにして、養に名古屋高等商專卒業をして現在家業に従事す。兄秀一氏の片腕として活躍せり。

(住所 名古屋市中區鐵砲町一丁目)

東京瓦斯株式會社調査課長

節義、廉恥を失して國を維持するの道決してあらずとは、維新の英傑南洲翁の道破せる

其後實業界雄飛の霸氣抑ふるに由なく、昭和八年驍然轉職して活躍舞臺を變換、即ち同年東京瓦斯株式會社に入社し調査課長の要職に座せり。爾來星霜を閉すること多からずと雖も、其間卓腕一度業務執掌に當れば宛然快刀亂麻を斷つが如き牙えを見せ、多數課員の心服尊敬を聚めつゝ、克く錯雜多岐に亘る調査事務を完遂、以て異數の事務を擧ぐると共に、同社一般業務に、生氣潑刺たる躍動を興えしめ、社運の一段たる興隆發展上に獻身奮闘する處渺ならず。而して他面、同社子會社たる鶴見瓦斯社長の樞機に推され、更に東京瓦斯副産取縮役、東洋化成工業監査役を兼ねて社務總攬に精勵、而かも常日斯業の公益事業たるを痛感せる處、單に社業の隆盛繁榮を圖るのみならず、亦た社會民衆日常生活の利便、或は生産事業の發達隆興に資すべく、銳意貢獻を怠らず、只管文化の進展に處して瓦斯事業の偉力を顯揚し居れり。

(住所 東京市荏原區中延町一〇三二)

鑄物製造業

永瀬吉五郎

荒川を隔て、大東京に接し、埼玉縣の表玄関をなす川口市は、地の利を占むる已ならず亦た特種産業に依りて近年飛躍的發展を實現

今年年産額八千萬圓、鑄物工業を以て天下に鳴る新興工業都市として、賑々本邦工業界に登場せり。されば當市内には既に大小幾多の鑄物工場設立せられ、各々独自の地盤を擁して活氣瀟々、遂に目覚しき一大鑄物工業界を展開し、以て益々斯業の發展進歩を促進しつゝあり。

我が永瀨吉五郎氏は即ち此間に處し、夙に父業を繼承して業界に驥足を伸ばし、當市有数の鑄物業者として聲名赫々たる偉材の土なり。氏は明治三十七年十月を以て先代吉五郎氏の長男に生れ、幼少既に頭腦明晰にして才氣煥發、其の前途を囑望されしこと多大なりき。而して長ずるや中學校に入りて致々勉學克く優秀なる成績を収め得て卒業後、父君經營に拘る鑄物工場に在りて、率先従業員に垂範の實を示しつゝ、努力勵精を怠らず、只營業務の修得、技術の練磨に精進研鑽の星霜を果ね其後先考の遺業を承けて經營主となれり。以來、天賦の鋭鋒愈々光輝を加へて嶄然斯界に頭角を抽んずるに至り、而かも至誠一貫、常に鑄物報國の大信念を把握して銳意優良品の製出を圖り、工場施設の改善擴張、或は技術の研鑽等に善處研究する一方、更に販路の開拓に腕力を發揮せる結果、當工場諸製品の品質優秀にして機能構造共に秀れ、國産鑄工品の最高峰に位する逸品たるを誦はれ、需要

界に噴々湧くが如き好評を博し、年々注文激増の趨勢を齎せり。即ち信望年と共に高まり、業績發展を果ねて隆榮となり、殊に滿洲事變を契機とせる本邦工業界の躍進的膨脹に伴ひて業運飛躍發展を擅にし、遂に斯界錚々たる有力工場として活氣旺盛せる現況を獲得するに及べり。是實に氏が居常克く業務に精勵努力し、而かも卓犖不羈の手腕を遺憾なく揮ひて拮据經營せる賜と云ふべく、刻下非常時局に於ける急激なる斯業變遷の間に立ちて之に順應し、能く父業をして益々盛大ならしめたるは、遂に偉とすべく、其の守成の功績傑出して光輝を發するものなり。斯くて現在當所に諸設備完全なる理想工場を構え、多數優秀職工を指揮督勵して、銳意裁到する註文に對應し、日夜繁忙活況を呈して其の業勢の激烈躍動せること近隣に比肩するものなし。

責任濃厚篤實にして頗る人情味に富み、衷心従業員の福祉増進を圖りて渾然融合せる勞資協調の實を擧ぐる一方、亦た時に剛毅不屈の半面閃發し、際乎所信に邁往するの烈々たる氣概あり、而かも人格圓滿、識見高潔なるに至りては、正に斯界稀に見る人物と稱すべく、且つ年齢未だ少壯三十有歲、前途尙ほ春秋に富む處、其の將來の一大活躍たるや、期待待つべきものあり。

(所在地 川口市本町一ノ二〇〇)

### 丸菱婚儀社

公卿の都京都に在りて婚儀社の存在は餘りにも有名なり、流石に儀式の都と謂はれるだけあり同店の信望は京都第一の稱あり。現在京都の同業者三十有餘の中斷然頭角を現はしたるものと謂ふべし。本店の營業は西日本一帶より遠く米國サクラメント洲に及び年額廣告費七、八千圓と謂はる、この人生最大の儀式に與る當社は先代威章氏死去（昭和十年）の後を享けて當主三男氏の經營に移りたるが氏の營業手腕と斯道の造詣の深きに依り業務隆々として旭日の觀あり。而して氏は一見二十七、八歳に見えるも本年二十三歳、眉目秀麗の青年紳士なり。然も若冠よく同業者間に伍して堂々店舖經營に新手腕を發揮するところ流石に人格者を以て聞へたる先代の血を享けたるものと云ふべく、その言語動作の風爽たるは人の知るところなり。

氏は常に「東京は武家式、大阪は町人式、京都は公卿式にて婚禮儀式を重んずる事に於て京都は日本隨一にして、而もこの京都に在りて殊に自分のやうな營業にある以上、儀式の崇嚴を尊重するは勿論儀式は古來日本の傳統に鑑み、而も新時代に適應すべく努めた

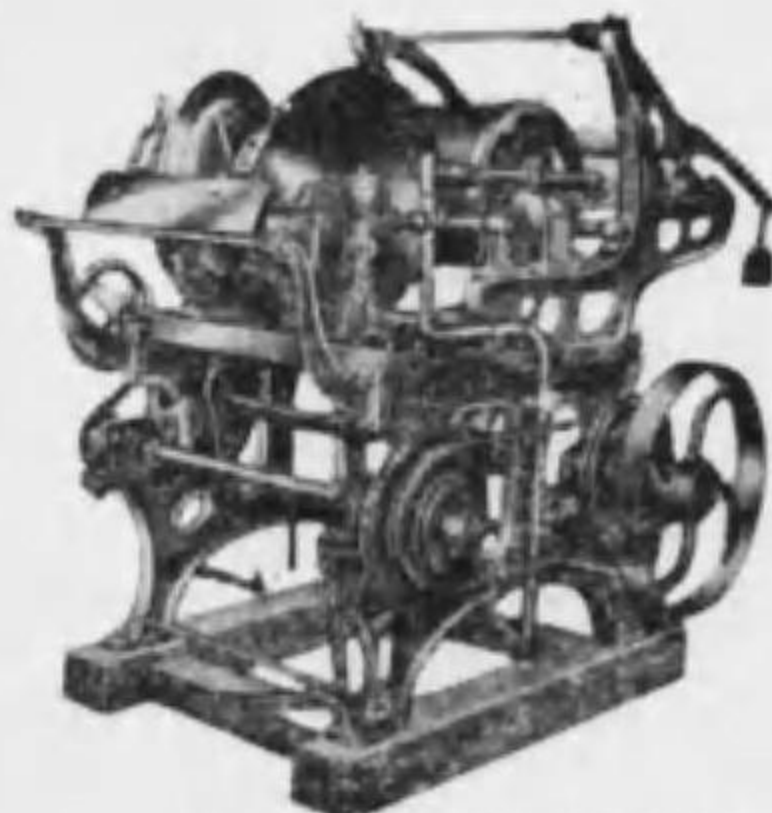
い」と、語るを以て徴するも、氏の如何に識見の豊かなるかを窺知し得べし。

斯くて氏は斯界の新人として又大衆的儀式に適應したる手腕家として名聲一日と高まりつゝあり。斯業界に一エボックを劃するものと謂ふべきなり。資性明朗活達して精氣に富む、若冠にして一業を切り廻す近代人としてその將來は大に期待するものあり。家庭は母堂クニエ刀自、君代夫人の他に令弟妹あり。

(所在地 京都市三條通り堺町一四)

### 鈴木商會

織布整理機械界に一新紀元を劃したる鈴木式湯熨斗機の發明は鈴木富次郎氏發明に係る專賣特許機なり。從來各大小工場にて使用される織布整理機械の總ては其構造の複雑なると附屬品の多き爲常に破損と修理に時間、勞力、經費を要し遂には加工の遅延を招致し能率不振の嫌あり。鈴木商會は永年織布整理業を經營せるが、其傍ら之が改良に研鑽を續け遂に其効能ひられて數年前より特許湯熨斗機を發賣し、今や其價格の低廉なると破損、修理の絶無、据附面積の狭少にして且つ絶大なる能率を擧げ得る事に於て他機の追従を許



鈴木商會製作湯熨斗機

さず擴く海外にまで好評を博するに至れり。之れ當商會主鈴木富次郎氏の堅忍不拔の懸命の努力の賜たり。而して本機の構造概要を述べれば機質は最も精良なる鑄鐵及び鑄鋼製大小二對の針輪を有する湯熨斗機にして乾燥ローラー、木製ローラー齒車及び皮車、チェーン等に依り驅要部分を構成せる機械なり。本機の装置は最初鑄鐵板喰込みに依り布は小針輪より大針輪に移り機械の廻轉に隨ひ木製ローラーの壓迫に遇ひ巻取り及び振落つる装置なり。本機の種類は動力式足踏式の二種あり。尙並幅巾幅ヤール幅の各種あり。需要方面は染織、織物整理、張物、捺染洗滌、練物、湯熨斗各業に最適なり。而して用途は絹綿毛布總てに對する織伸し幅出耳摺へを完全になし光澤を有する整理を爲すを主眼とす。尙本機の特筆すべき特徴は前面の針輪は多年の苦心にして巧妙なる作用によりて何人たりとも見習はず容易に使用し得らる。價格低廉にして而かも完全無比の耐久力を保

臨濟宗北山

### 金閣寺鹿苑寺

金閣寺は畿内に於ける名跡中の白眉冠冕として古來天下に著聞し、其輪輿の美は林泉の布置の妙と相俟つて本邦古建築の精粹として尊重せられ、參詣遊覽の人をして恍然として俯仰低徊去るを忘れしむ。同寺所在の地域は往昔西園寺公經卿の別業なりしが、應永四年足利三代將軍義滿此地の景勝を慕ひ此を請ひ得て新に風閣龍池を築し、逝去の後其遺命に

依り禪利として夢窓國師を請して開祖とせるものにして、當初寺領三千五百石、境域實に三里の廣きに及び其結構の豪壯にして規模の宏大なる、史に傳ふる泰皇の阿房宮をも凌ぐばかりの状態なりしといふ。世俗一般に「金閣」の名を慣稱せるも、もと是れ佛閣として建てられたるものに非ずして義滿が世務を謝して臺居せし北山御殿の遺物なり。應永十五年、後小松天皇行幸の頃までは境域廣大にして多數の堂宇完備し、特に天皇御座の殿宇の如きは八棟造りの極めて莊嚴なるものなりし由、爾來幾多の變遷を経て當時の殿宇は廢滅又は改造せられ、ひとり此閣のみを遺すに至れるが、此建物を通じて往時の北山御殿の形狀を知り延いて室町時代最盛期に於ける精神の結構をも考究し得るを以て歴史上の貴重な資料たるのみならず、建築學上の見地より觀察して現存の古建築中美術的要素の豊富な點に於て此の右に出づるもの無しといふ。

當寺は由來皇室との縁深く屢々天皇及皇族行幸啓の事あり、又著名の武將にして歸仰せしもの渺からず、秀吉、家康の兩雄が西宮承兌和尚に歸依涇田秀家が當山不動尊を信仰せしが如き其著しきものなり。此等の歴史的關係に依り諸種の事跡の傳ふべき渺からず、又考古學上の有力なる參考となるべき稀觀の寶物、古記録の遺存せるもの頗る多し。歴代の

住持中幾多の偉傑を出せるが、中にも前住持貫宗長老は謙德並び備はれる非凡の巨器にして衰頹の極に在りし寺門の復興に殊功あり、當山中興の傑僧と仰がれ、明治四十一年二月七十三歳を以て溘焉として示寂、遺風脈々今に傳はりて人心を薰染するところ大なり。

**現住職 村上慈每** 貫宗老師の跡を承けて法燈を繼げる村上慈每師は慈眼愛屬の人にして寺務の總覽、後進徒弟の指導誘掖に精進するの傍ら社會事業に盡瘁し、内外監旋熱心の狀、多數壇越の讚嘆するところたるのみならず、一般世人をも感字せしめ、先師を辱めざる高德として譽望隆々たり。  
(所在地 京都市北山)

### 名望家 高良宗七

西日本に於ける新興工業都市宇部市が持つ財界の巨頭高良宗七氏の存在は餘りにも有名なり。宇部商業會議所會頭を筆頭に、宇部銀行頭取、宇部鐵道、宇部紡績、日本發動機油各社長、沖ノ山炭礦、宇部セメント製造、宇部窒素工業、東初見炭礦、宇部曹達工業、宇部鐵工所、宇部電氣鐵道各取締役として、其の颯爽たる敏腕の向ふところ同地財界を双肩

に擔ふの概を示し、其の繁榮懸つて氏の動行運の機微に在ると謂ふも過言にあらず。又氏は同時に財界のダイク、ホースたるのみならず、政界人として其多彩なる政治的手腕は同市今日の繁榮に多大の貢獻を收めたるものと謂ふべし。明治五年一月を以て生れ、同二十三年、山口黒城義塾卒業の逸才にして、夙に實業雄飛を志し研鑽苦勞幾多の難關を突破して今日に至りたるものにして其の間、昭和三年、宇部市會議員に當選、同四年山口縣會議員に當選、同年宇部市會議長就任、同八年、同市會議長再選、同九年宇部市商工會議所議員に當選副會頭に推さる、後會頭渡邊祐策翁の死去に依り同所會頭となる。昭和十一年には衆望を擔ひ中央政界に進出、見事衆議院議員に當選し同市開發の爲め偉大なる貢獻を爲す。蓋し氏の人物手腕を知り得べし。氏の實業家としての信望は既に定評の存する處にして、其取引の手固さは有名にて、而も一度約束せる事は飽迄實行するといふ堅確なる一面には衆庶の敬服するところなり。又氏の事業家として偉大な點は絕對に部下を信頼する點にて自らはと信じたる事は、決然資金を投する一方、一度決定したる方針は決して容喙を許さざるのみならず總てを任せて悠然たる太つ腹の襟度を示す、之實に氏の豪腹を立證するものにして小人の爲し能はざる藝當なり。

資性剛毅測達にして而も温厚、人情に篤き事は人の知るところにして、其の誠私奉公の至誠は數々の功績を世に送りたるを以て知る如く、當世稀に見る傑士にして、徳望を一身に擔ふ、今や宇部財界の重鎮たるのみならず、社會公共の恩人として、氏こそ宇部市が誇る蓋世の代表者と謂ふべきなり。  
(住所 山口縣宇部市小串)

### 湯村温泉 常磐ホテル株式會社

千歳の謎を煙霧に包む金峯山に源を發する荒川は、奥千丈に瀾源を有つ板敷川溪谷と合流し、大瀧等々大小幾多飛瀑の岩に碎け岸を噴み、仙峨瀧より天神平迄春は躑躅、山櫻、初夏の深緑、錦繡燃ゆる秋の紅葉に、蟬蛩里餘の溪谷美を讀ふる大自然の仙境、就中、秋の昇仙峽こそは四季を通じて最優の眺めならんも、唯この美觀たるのみならず、新鶴泉の湧出せる湯村と幾多の神祕と傳説を織り込みし大自然の幽玄味の加はれるこそ新興湯村温泉郷の眞の姿ならん。然かも帝都より僅かに二時間餘、電化の中央級甲府驛より一哩餘、甲府市外「湯村温泉郷」こそは、眞の都座を拂ふ極樂境たりと稱すべし。尙且つ泉質は食鹽含有アルカリ性硫酸泉にして湧出の豊富に



湯村温泉郷代表旅館常磐ホテル

して高温なるに於て特異性を有つ。就中「常磐ホテル」は湯村温泉宿中の鼻祖にして白眉冠冕と稱すべきなり。抑々湯村温泉郷は現常磐ホテル取締役兼支配人笹本忠次氏が過ぐる

議して資本金十萬圓を以て當社を設立し、踵でホテルを建設す。以後遂次盛業を招來せしため、之に倣ふ者續出し、爰に一大温泉郷を現出するに至れり。而して常磐ホテルは宏壯にして總有る設備を完結し、而も宿泊料の低廉と、親切丁寧なる接待を信條となせる爲め、浴客著増し、來杖する者近年一萬數千名を算し、今や鐵道省、ジャパントウリストビューロー指定旅館として信用を博しつゝあり。

**取締役兼支配人 笹本忠次** 氏は明治十二年十月、與兵衛翁の令息として中巨摩郡西野村に生る。長じて同三十年甲府中學を卒業日露戰爭に出征し陸軍一等看護長たり。戦後功に依り勳七等を賜ふ。後日本赤十字社山梨支部會計主任、山梨縣立病院庶務課長に歴職して其の敏腕を顯はる。天分温厚實朴にして義氣に富む。昭和三年湯村温泉郷を私財を投じて開發し、以て峽中の開發に努力し其奇篇を敬仰する。現に常磐ホテルを総理する傍ら、擧げられて湯村温泉旅館組合長たり。  
(所在地 山梨縣西野郡千塚村)

### 事業家 米谷信男

事業界を八方馳驅して倦むことなく卒勵勉

勉して寧日なき米谷信男氏の眞摯なる態度は世人に多大の教訓を與へ、その人格は人の深く嘆服する所なり。氏は明治十九年五月岡崎市好忠氏の次男に生る。長じて笈を負ふて上京し、逕信省講習所に入學して鋭意研修して學業頗る優秀なりき。職を逕信省に奉じ只管精勵格勤して、氏の眞摯なる態度は上司に深く愛せらる。後東京電燈より懇望せられ同社に轉勤す、それより更に帝國瓦斯、村上水力秋田電氣の諸會社を経て、大正十五年、東邦電力に入社し一意専心業務に精勵して十年一日の如し。其の功績は遂に顯揚され同社首腦部の絶大なる信託を得るに至れり。同社の、兒玉變電所、菊井變電所、新川變電所、水主町變電所各所長として重責を擔ふに及び、此處に愈々氏の手腕力量の眞價發揮せられて、斯界に於ける基礎確立せられるに至れり。嘗て氏は昭和三年頃、金城警備機製作所の創立に際し懇望せられて同所の取締役に就任し、氏の蘊蓄を傾注して業績向上の爲めに活躍し、社業の開拓に貢献する處多く、同社の社礎磐石の上に置かるに及び、同社を辭したり。斯くて以來、東邦電力各變電所所長として専心の努力をなし、傍ら後進の指導に又留意して、恰かも骨肉の如き氏の懇なる訓育には人々深く崇敬して措かずと云ふ。人格清廉潔白にして、資性又温籍、人倫の大道を説き自ら亦之

れを實踐す、氏の行住座臥能く衆庶の典範たり、當代稀に見る人格者と云ふべし。令兄米谷信義氏亦勤勉家として知られ、現に中央水力會社所長たり。

圓滿なる家庭には令室花子夫人あり。賢婦人の譽高くして夫妻間に、日本大學機械科在學の長男信之君、福山第一高女卒業の長女登子嬢金城高女在學中の次女米子嬢一男二女あり。

### 經濟 雜誌 **ダイヤモンド社**

全国各地に於て發行せられる新聞雜誌の數まことに夥しき數に上るとは雖、その論說の一世を指導し、その發載せられる記事の衆庶を啓發爲すに足るべき權威あるもの、まこと寥寥たるものあり。近時我國操縦界の不振頹廢はその極に至り今日の重大時局に際して朝野の識者をして眞に傾聴せしむるが如き論策なく、大衆の胸底を衝くが如き警世の文字なく、多くは陳腐なる論說の反復然らずんば低調卑俗なる記事を羅列して大衆の嗜好に迎合し、専ら營利のみ重きを置く所謂悪ジャーナリズム跳梁擧歩せり。斯る操縦界の風潮に超然として、穩健着實なる筆を以て派閥

に組せず極門に阿諛せず、終始嚴正中立の立場を堅持して、我國經濟界の發展の爲めに時に堂々の筆陣を布き、時に別裁のメスを揮ひ我國經濟界を指導するの謀計整として仰がれ、操縦界に重きをなせるものに經濟雜誌「ダイヤモンド」あり。同誌は大正二年五月に創刊せられしものにして、以來眞摯熱直經濟界の發展を祈願して椽大の筆を揮ひ、他面着實に現實に重きを措き、徒らに理想に耽らず犀利緻密に事業界各分野に亘りて分析解剖して、一般事業界並びに學界方面にも多大の寄與を爲せり。特に本誌によりて創始せられたる銀行會社の資産並びに決算の解剖の方式は斯界に没すべからざる貢獻を爲せるものにして、銀行會社の内容業績を檢討するに一定の標準を與へられるに至り、各方面に於て何れも當社の方式を採用するに至れり。本誌は毎幾多の銀行或は事業會社の解剖を掲載せるが、その論評は微に亘り細を穿ち、更にあらゆる角度よりして批判を加へられ、正確に適切な筆を以て多大の權威あり。世の投資家は何れも本誌を以て投資の指針となし、銀行會社に於ては本誌に依りて信用調査をなすこととせり。當社は昭和八年六月資本金三十萬圓の株式組織に革む。記者には知名の士を鍾め、専門の人材を聘發し、専門知識を具備せる士に各部門を擔任せしめ、内容の整備と記事、正

確に力を盡せるに依り、我國經濟界の時々刻々の變動、並に將來の歸趨は本誌に於て餘すことなく把握せられ、我國經濟雜誌の最高峰と仰がるゝも故なしとせず。同誌は月三回一日に發行せらる。同誌の躍進と共にダイヤモンド社は多大の發展をなし、その他に數種の定期刊行物を發行せり。即ち、日刊「ダイヤモンド日報」、週刊「ダイヤモンドレポート」、同「ダイヤモンドウィークリー」あり。充實せる編輯部の陣容と事業界各部門に配備せられたる記者に依りて、その記事正鵠にして解剖の犀利たると共に而も頗る迅速たるは他の類似出版物と同日に論ずべきに非ず。何れも各方面より噴々たる好評あり。尙ほ最近月刊雜誌「經濟マガジン」を發行せるが、その記事の平易にして、而も時事問題を逃がさず粗上に上し、經濟雜誌に新生面を開拓せるものにして、毎號發行多大の増加をなせり。尙ほ當社は種々の名著を刊行して好評噴々たるが、その他附帶事業として優秀なる洋服を安價に提供し、サラリーマン階級より湧くが如き絶讃を博せり。最新式にして規模大なる印刷設備を再へ、更にその社員従業員の數百名を算するの大規模の設備、正に我國を代表するの大業誌社にして、社礎の鞏固にして業運の隆々たる眞に斯界の雄鎮と稱すべきなり。當社の役員以下の如し。取締役社長石

山賢吉、同副社長阿部留太、同副社長野崎龍七、取締役相澤周介、同菅川省三、同酒井又治、同石山哲男、同原裕三、監査役安田與四郎、同濱口龍二、同西尾正吉の諸氏。

**取締役社長 石山賢吉** 我國出版界の重鎮と仰がる氏は品性清高にして思慮圓熟す。明治三十九年慶應義塾を卒業し、後操縦界に入りて大いに頭角を拔んじ、後ダイヤモンド社を創立す。創業以來拮据艱難經營に當り、大いに手腕を揮ひて、當社今日の發展を齎せり。頭腦明哲にして識見高邁、事業界を馳驅して非常なる推敬を受く。ダイヤモンド事業社長、理研紡織、理研電機、理研自動車改造東京寶塚劇場各監査役等に擧げられ、東京市會議員に推擧せらる。

**取締役副社長 阿部留太** 明治十六年四月長岡市に生る。同三十六年郵便電信學校を卒業して後逕信省に入る。大正七年退官して當社に入社し、推されて現職に就く。俊敏秀才にして非常なる手腕家たり。

**取締役副社長 野崎龍七** 經濟評論家としてその名聲は論壇に赫耀たるものありて、氏の執筆に拘る論説は博く江湖の注目する所たり。學識該博にして蘊蓄頗る深遠、風操界の重鎮たり。資性温恭謙直。心性清白斯界に

### 株式會社 **國方商店**

抑々同店の創業は大正四年三月現社長國方新吉氏に於て創始され當時東區北新町二丁目に於てメリヤス雜貨卸販賣を營みしに業運よく加ふるに氏の天賦の商才は巧に商機を把握し事業の擴大を計る爲め同十一年四月東區道修町五丁目に移轉、更に昭和五年に至り現地に移轉したるものにして以來業運は隆々として進展の一途を辿り遂に同十二年十二月、資本金三十五萬圓全額拂込済の株式組織に變更今日に至れり、今や商都大阪に於ける異色の繁榮と絢爛の内容製品を以て絶讃を博するのみならず國産レースの爲め萬丈の氣を吐きつゝある鮮々の存在として知られるところなり



國方新吉氏

尙同店の重役陣は取締役社長國方新吉、取締役原田次郎、同國方恒吉、監査役川上秀夫の諸士なり。

### 社長 國方新吉

當社今日の隆盛を致したるは實に之れが創立者たる國方新吉氏の不撓不屈の勇猛心と、時代の趨向を洞察するの慧眼に、加ふるに顧客信用第一主義を信條としたる努力の結晶にして古来より言ふ「精勤退かず一念天に通ず」とは將に至言なり。氏は明治十七年十月を以て香川縣大川郡長尾町に於て呱呱の聲を發し、夙に郷校を卒へるや霸氣蔚勃として制し難く永らく偏郷に跼蹐するを厭しとせず、遂に機を掴みで奮然上阪、明治三十三年船來雜貨輸入卸商川延商店に入り數年にして偶々日露の役起るや騎兵として出征、赫々の武勳と共に凱旋するや勳八等及一時金を下賜され除隊後再び同家へ勤務刻苦奮闘すること十五年、斯業の眞髓を習得するや、大正四年を以て莫大小雜貨商を經營獨立の第一歩を踏みたり、爾來辛苦艱難と拮抗しつゝ巧みに天賦の機略と不斷の努力とを以て業績を擧げ、擴張に擴張を果ねて遂に今日の大を爲すに至りたるなり、其の間昭和五年には北米合衆國及英領加奈陀に、同十一年には佛領印度支那及シヤム、シンガポール、ジャワ、マレイ、フィリピンに商業視察の

爲め渡航し、大いに見聞を収めたり。資性温厚篤實にして才氣縱橫、進取の氣象に富み、堅實なる營業方針と、獨特の機略膽勇を以て邁進し、而も顧客本位を旨として粗製濫造を避け、飽く迄信用主義を以て店是とする處。常に私利私慾に汲々たる一介の實業人と類を異にするものなり。而して居常謙遜の美德を發揮して、圓満高潔なる人格を講はれ、信望を一身に聚めつゝあり。向後の飛躍は期して俟つべきものあり。

(所在地 大阪市東區備後町五丁目)

### 株式會社 栗村鑛業所

各種鑛石の採掘賣買、製鍊鐵工を業とし、又土地建物の經營を行ひて、關西財界に特殊の地歩を占むるものに栗村鑛業所あり。資本金百萬元を擁し、社業盛況を呈し、業礎頗る鞏固なるものあり。現在山口縣玖珂郡北河内村喜和田に喜和田鑛山、京都府南桑田郡神田野村に大谷鑛山、朝鮮黃海道金川に天惠鑛山并に仙巖鑛山を所有し、何れもその豊量にして質又優秀を誇れり。而して第一工場を大阪府東淀川區中津南通、第二工場を大阪府西淀川區佃町に設置し最新式の設備を備へ、操業又甚だ繁忙を呈しつゝあり。當社は現社長栗

村敏家氏の先代敏顯氏が明治四十一年斯業に進出せしを淵源となす。其經營方針堅實にして、創業以來順調なる發展を遂げ、業界に牢固たる地盤を築けり。タングステン鑛、モリブデン鑛各種鑛石の採掘は業界獨歩の地歩を占め、その品質の優秀なるを以て好評を博し業績逐年躍進して社業隆々たり。次で合金、金屬酸化物、鐵工等の各種事業に榮着し、何れも好成績を擧ぐるを得たり。合金に於てはフエロタングステン、フエロモリブデン、フエロクロムを主とし、金屬製鍊は金屬タングステン、酸化物は酸化タングステン、酸化モリブデン又鐵工事業は栗村式打抜、金網、押物、抜物その他の加工品を取扱ひ、何れもその技術の優良にして品質の卓越せるを以て嘖々たる定評あり。事業の發展に依りて大正五年には合資會社に改組し、現社長栗村敏家氏専ら經營に盡瘁して多大の好成績を擧ぐ。又設備の改善、技術の研鑽に大いに意を注ぎ當社の製鍊法並に製作技術の優秀なる他の追従を許さず、海軍指定工場として斯界に重きをなせり。創業以來財界に幾多の波瀾ありしも微動だにせず、日進月歩着々と發展す。昭和十年五月には資本金一百萬圓の株式組織に變更し、その目覺しき躍進には世人の矚目する所たり。時局景氣の昂揚に依りて當社の今後こそまことに期して俟つべきものあり。

當社の首腦部には代表取締役栗村敏家、取締役栗村高根、同三馬富士雄、同原源六、監査役黒木逸作の諸氏あり。

### 代表取締役 栗村敏家

調達豪放にして氣格俊邁、群技の才腕を揮ひて大阪財界に名聲昭々たり。明治十七年故栗村高顯氏の長男として新潟縣佐渡町に生る。夙に京都高等工藝機械科を卒業し、直ちに京都川島甚兵衛氏の經營せる川島織物所に入る。然るに嚴父の經營せる鑛業の大いに繁榮に赴きたるにより同所を辭し、山口縣喜和田流山に至り、嚴父を輔佐して事業に精勵し、多大の好成績を擧ぐるこゝなれり。大正五年事業の發展によりて合資會社となし、以後専ら氏が經營に没頭し、昭和十年之を株式會社に改組せられるに及び代表取締役に就任す。頭敏の智能と超凡の手腕は世人の深く畏仰する所たり。壽衛夫人は海軍造兵少將渡邊欣三氏の長女にして實踐女學校出身たり。淑徳高き賢婦人として令名あり。家庭には剛子敏綱氏外三子あり。

(所在地 大阪市東淀川區中津南通四丁目)

### 電光社

### 大都ネオン電機工業所

最近思想界の紛亂と財界の不況に伴ひ實業

界の風潮著しく險惡化し道心日に薄く奸商各地に跋扈して奇計奸策を弄し衆目を瞞着して密かに暴利を貪り國民生活の安定を脅かし諸多の弊害を醸しつゝあるの事實は都下新聞紙の屢次の報道に徴するも其一班を想像するに難からず、識者の夙に憂慮するところなるが古來人心の混濁を以て聞えたる京都市の如きも近來如上の弊風滔々として商工界に浸潤し商業道德の弛廢驚くべきものあり。就中ネオン界の混濁殊に著しく、或は表面を糊塗し、或は羊頭狗肉の猪手段を弄して需要者の期待に反して難聲を招きつゝあるのとき、獨り電光社經營者高橋達治氏は毅然として自己の本領を保持し、製品の優美、技術の精巧、製作の迅速、價格の低廉を四大モットーとして共存共榮の誠心を示せるを以て工場の整備充實と相俟つて隆々として聲價を高め、販路日に日に擴大し、創業後幾くなくして旭日昇天の勢を示すに至れり。當社に於ては常に文化の趨向及商工界の實狀に順應して製作及装置取扱ひ上に新機軸を出すに努め居れるが、露に發明製出せる「走るネオン」の如きは當社獨特の優出品として多大なる好評を以て需要家より迎へられつゝあり。

經營者 高橋達治 氏は京都の人にして少時栗村電機株式會社に入社し、同社の解

散に際し京都電燈株式會社に轉じ、技術營業兩方面に亘りて大に研鑽するところありたるが、嚮物たる壯志は氏をして一従業員として終るを肯せしめず、幾くもなく退社して昭和十一年一月獨力を以て現業を創始、刻苦精勵遂に今日の成功を致せるものにして其堅忍不拔の意志と濃厚なる爲人は優秀なる技術と相俟つて愈々信望を高め、隨つて業績益々擧り今や京都事業界に牢固たる地歩を占むるに至れり。氏年齒僅に三十餘、其迅速なる成功は眞に異數と謂ふべく、一般より大に其の將來を囑望されつゝあり。

(所在地 京都市河原町通佛光寺電停前)

### 機業家 丸山和藤治

機業の草叢として其の名を天下に宣傳する秩父の地に、綯繩を競ふ業者もとより尠からずと雖も、此の間に處して大衆と共に業を興すの信念と信用を以て、他の比肩を許さざる聲望を博するものは氏にして個人克く斯界の第一線に伍して堂々海外にまで製品を送りつゝあるは、正に驚異すべき人力の偉大さと謂ふべきなり。氏は明治十四年十月を以て埼玉縣秩父郡吉田町に丸山俊藏氏の長男として生る、當時貧農の極致に育ちたる氏は高等小學

校卒業後父を扶けて辛酸苦悶、寢食を忘れて家運の挽回に精勵するところありしが、明治三十七年偶々日露の役起るや勇躍出征して輝やかしき武功を樹て、同三十九年三月、凱旋するや御下賜の恩給三百八十圓を以て、敢然家運挽回の必勝を期して翌年、秩父織物製造業に乗り出せり。氏は創業當初賃機の組織を以て業に臨みたりしが、事業は幾度か危期に遭遇したれども悪戦苦闘而も不屈不撓の精神旺盛にして力闘を續けたり。此の間にありて氏はよく大衆共存共榮の信念に燃え、益々賃機組織を擴大して大々的組織に變更して秩父銘仙眞立織の擴張宣傳に健闘すると共に家運の伸張を計りたれば、其の努力は遂に酬ひられて茲に確固不動の業礎は築かれたるなり。然りと雖も氏の闘争心は尙ほ罷まず、事業繁榮の燭光を見出したる氏は更に昭和八年より需要の内地のみの狭隘なるに鑑み、之が世界進出を企圖し未だ衣服なき六億の人類への供給化するの偉遠なる計畫を樹て、更に數十臺の機械を購入、工場を擴大して優良品の生産増加に盡瘁せしかば今や氏になる製品は遠く海外に多量の進出を具現せしめつゝあり、使用男女工二百有餘名を擁し、其の輝々たる存在を同業界に知らるゝに至りたる正に立志傳中特筆すべき商傑なり。氏は資性豪放にして謹直、堅忍不拔の精神力あり、一面寡言にし

て華美を好まず、誇張を避け、謙讓の美德に富み、而も父君の勞苦を肝に銘じて忘却せず鴻業を盛大に赴かしむる外は念頭何物もなしと云ふほどの孝心を抱けり。又信仰の念強く、殊に人情に重厚なるは人の知るところにして、衆庶の信望風に高し、之れに依つて氏の玲瓏玉の如き人格を窺ひ知るに足れり。  
(住所 埼玉縣秩父郡皆野町)

### 株式 石井鐵工所

抑々當社は現事務取締役社長石井太吉氏が、遠く明治三十三年、現月島工場に於て獨力を以て所謂町工場を設け微々たる鐵工業を創めたるに其緒を發す。爾來石井氏は化學工業機械製作の自主自給確立と、國際收支適合に資せんとする牢固たる信念に基き「鐵工技術報國」の信念達成に致々營々躬身し來れるが、其間の努力力闘は能く筆舌の盡すところ非ざるが、その苦闘力行は自ら報ひられて逐次優秀なる機械を製出し、堅實なる營業は業礎の確立を遂ぐるに至れり。即ち當初は瓦斯製造機械装置の製作に努め、次で化學工業機械製作に成功し、石油工業機械製作にも進出して眞摯なる研究、熱心なる經營は確認せられて發展し、大正八年に迨びて時勢に

順應全經營を擧げて資本金一百萬圓の株式組織に革め、事業の擴張進展を期す。爾來好調を辿りて昭和十年九月一百五十萬圓、同十一年八月更に三百七十五萬圓に増資し、同十二年十月一舉八百萬圓に増資、今回其傘下の日本化學機械株式會社を合併資本金一千萬圓を擁するに至れり。而して資本の膨脹に伴ひその製作方策も漸次擴大され前叙の外水素瓦斯採集装置、石炭液化装置、低溫乾燥装置、輕金屬製煉装置、硫酸、硝酸、アンモニア製造装置、硬化油、グリセリン製造装置、重輕油並瓦斯貯藏槽、人織人絹製造機械、セメント製造機械、各種輸送装置等に進出し、就中水素瓦斯、完全瓦斯、コークス瓦斯の發生装置並貯藏槽は只に一般工業のみならず製鐵可能の重要工業に於て基本設備として必須缺く可らざるものにして既に此等に關し四拾數種の特許、實用新案等を獲得し我國に於て獨占的地位を把握せり。斯くて當社の月島、龜戸兩工場の増設工事に完成し、最早や擴張の餘地なきに至り、而かも受註高は一ヶ年半を擁せる盛況にて且つ事業の性質上受註高は今後益々激増の情勢にある爲に前述の如く日本化學機械株式會社を合併増資するに至れり。斯くて生産能力は最新優秀なる生産設備の綜合的運用に依り一千五百萬圓に達する爲、當面の能力不足は緩和されるも、現在既に第二期

計畫たる鑄物工場、建築事務所の建設工事に着手し、近く更に倍額程度に工場の擴張を爲す豫定なれば、年産三千萬圓に達するも目途ならん。當社の近況を觀察するに、現在手持受註高の内容は石炭液化關係二百八十萬圓、石油工業關係二百十萬圓、輕金屬工業關係百二十萬圓、製鐵事業關係百二十萬圓、破安工業關係百七十萬圓、油脂工業關係九十萬圓其他一般工業、電力關係等に合計一千三百餘萬圓を擁せり。この受註高を見て、當社が我國資源工業の第一線に如何に重大の役割を演じつゝあるかを窺知し得らるべし。斯くて我國今後の時局に對應し、滿支資源開發と相俟ちて化學日本建設發展の上に當社の果すべき偉力は蓋し大なるものと云ふべく、尙且つ當社は直接軍需製作に依りて斯くの如き好調を續けしに非ずして、多年の堅實經營と、蓄積の結果、今日の興隆を招來せしめたることを附言し、社運の前途を祝福して擧筆す。確乎不動の布陣を記せば、事務取締役社長石井太吉、常務取締役富永文吉、取締役高橋保同野長瀨忠男、同坂井定吉、同工學博士石井悅朗、同我孫子駒吉、同鈴木英正、監査役大塚榮吉、同石井寛、同森谷鶴造の諸氏

熱腸の精神克く融和し、性來の事業的才腕を縱横に驅馳して着々業礎を固めたる新業界の長老たり。四十年前微々たる町工場に於て數名の職工を相手に、ハンマーを敲りて日夜勤勉努力し、遂に今日輝々たる大石井鐵工所を築き上げたる立志傳中の士たり。氏の人生行路を評すならば、之れ正に「進軍難微今爲成山」と言ふべし。現に當社を統帥の傍ら日本化學機械社長、東洋酸素機械取締役其他數社の重役を兼ね、東京鐵工組合副組長、工政會東京支部長等に擧げられ、業界のため盡瘁しつゝあり。  
(所在地 東京市麴町區丸ノ内南藥館内)

### 不易糊工業株式會社

卓上用糊の鼻祖として、其の名を知らるゝ「不易糊」は今や必須缺くべからざる机上の必需品なり。當社は人も知る本邦最初の事務用糊製造業者として明治二十九年足立商店個人經營を以て創業す。當初安價なる糊のみにして防備完全能率なる事務用糊の價値を知らざる世人は之を冷笑を以て迎へ爲に一般需要は遅々として進まざる状態にありしも創立後十年を経て日露戦争の勃發するや軍需品として多額の納入を契機とし以來各國の驚異の的となれる日本文化の進展と共に「不易糊」

の需要は逐年激増し類似品の輩出さへ招來するに至れり。其間當社は永年に亘る貴き經驗を基礎として日夜研鑽に研鑽を重ね、鋭意製品の改良と價格を低廉たらしむべく腐心研究し其品質他品の到底企及すべくもなく不易糊の聲價愈々高く諸官廳、學校、銀行、會社等に納入の指定を受くるは勿論遠く外國に輸出せらるゝに至る。斯くて澎湃たる需要の増大に添ふべく將又優秀機械を増設し生産並に經營の合理化を圖るべく大正十三年一月に及んで個人經營を株式組織に革め以來業績大いに上り次で新製品不易墨汁の製造、相踵で萬年筆用筆記用ABCインキの發賣を見、不斷の研鑽に依りて其品質は頓に向上し先進國たる歐米の製品を凌駕するに至れり。「不易糊」の諸官廳、學校、會社、工廠等に永年引續き納入せられつゝある事は其品質の卓越せる儼然たる證左に外ならず。次で輸出向の寫真用事務用クリーム糊の製造に成功し、輸入品を遙かに凌ぐ良質は海外より大量の注文を呼びつゝあり。最近萬能接着劑ペンケイ糊の創製に當り近代科學の粹を鑄めて研究努力する所あり、其効力ニカワの二倍以上にて家庭經濟の一助たるのみならず大にしては國益の増進に寄與する所多大と云ふべし。當社は現に二十萬圓(拂込済)の資本金を擁し大阪府下豊能郡庄内村に整備せる分工場を設け、本分

兩工場相呼應して不易糊、クリーム糊、不易  
ゴム糊、不易果汁、ABCインキ、不易イン  
キ、ペンキの製造増産に邁進しつゝあり  
而して主なる納入先は各陸海軍公署、關東軍  
吳、佐世保、廣島各海軍工廠、南滿洲鐵道株  
式會社、鐵路總局、臺灣總督府、臺灣各官公  
署、朝鮮總督府、朝鮮各官公署、各府縣廳、  
各市役所、關東軍天津派遣軍、上海陸戰隊、  
各大學專門學校、大阪、名古屋、廣島、門司  
鐵道局、八幡製鐵所、三菱造船所、三池鐵業  
所、川崎造船所等なり。因に當社の現役員を  
述べれば代表取締役足立磯一、取締役吉野奈  
良治郎、同足立恒治郎、同足立米輔、監査役  
足立市兵衛の諸氏なり。

(所在地 大阪市南區東飯町六)

#### 合資會社近吉精練工場

### 森田正三郎

氏は京都府先代森田吉兵衛氏の四男、明治  
三十二年九月に誕生す。長じて令姉てい女の  
分家先たる先代森田吉之助氏の養子となり、  
大正五年養父歿後に家督相續す。氏生來俊魁  
の質にして才識拔群たり。現京都市立工業學  
校の前身たる京都染織學校に入り優秀なる成  
績を以て之を卒へ以來家業に従事し今日に及  
ぶ。由來生家森田家は「近吉」と稱して胡布

精練業を営み、其創業は實に天明年間の事に  
屬し、京都業界屈指の老舖を以て目され當主  
吉兵衛氏(氏の實兄)に至るまで連綿七代を  
算し現に近吉精練場と稱して業況頗る茂盛を  
極めつゝあり。而して氏は學成りて直ちに先  
代創業に係る絹布精練業に従事せるが當時未  
だ若冠にして實務に慣れざりしを以て分家森  
田清七氏を支配人として經營の術に當らしめ  
着々業界の發展に資するところあり、後清七  
氏退店後は自ら經營の術に當り拮据經營茲に  
十數年遂に今日の盛業を招來せしめ同時に能  
く父業恢宏の功を完ふせり。現に近吉東精練  
場と稱して京都同業中屈指の精練業者を以て  
知られ市内忠吉商店其他問屋筋より委託さる  
ゝ羽二重、錦紗等の精練に當り「近吉張り」  
の個有名詞を冠されて技術の優秀、設備の充  
實共に、同業者の容易に追従し得ざるところ  
にして一路向上の發展を辿れり。氏は京都同  
業界の逸足として各關係方面の信望を一身に  
擔ひ市内問屋筋は勿論、地方より加工委託す  
る者遂時増加し居れり。偶々福井織物組合に  
於て京都精練業者の中優秀なる技術と確實な  
信用を有つ業者を撰び専ら生産品の加工を  
依頼せんとする所謂指定練の議興るに當り氏  
は勇頭之が交渉を受けたるが、同業者の一部  
頑迷なる反對運動激化するに及んで氏は謙讓  
の美德を發揮し之が辭退を決心せしめ氏の信

用と技術とは、凡ゆる反對運動も攻ずる能は  
ず、一面該組合に於ても氏の出馬を再三懇請  
せしかば茲に於て氏は同業者の意の存する所  
を察し、同業者の合同よりなる一大精練工場  
の設立に盡力し其成果を收めしめたるは氏の  
人格の反映たり。指定練受諾を契機として新  
工場設立を急ぎ洛北西京極工業地帯をとし廣  
大なる土地を買収し五階の高層建築成り偉觀  
を添へり。同建築は舊來の域を脱し設計設備、  
機械器具の充實の完璧を期し今や業界唯一の  
大工場たり。現に百餘名の従業員を具備し新  
興の意氣物凌く隆昌を辿りつゝあり。君年齒  
尙洋々、名實共に京都業界の代表的逸材とし  
て向後益々その活躍を期待されつゝあり。

(所在地 京都市右京區西京極池田町九)

### 村雲瑞龍寺

法燈燦々として久遠の輝きを加ふる村雲瑞  
龍寺は、日蓮宗本國寺所管に係る由緒深き名  
刹なり。茲に其の緣起を尋ねれば、豐太閤の  
姉、三好武藏守の室、即ち關白秀次公の母君  
瑞龍院日秀大尼が、文祿四年秀次公高野山に  
限せらるゝや、從者某密かに公の首級を携へ  
來りて母君に告ぐ。母君哀悼止まずして之を  
洛西嵯峨野に葬り、草庵を結び落飾して尼と

なり、専ら其の著提を弔す。遠近聞きて流涙  
せざるものなく、事遂に後陽成天皇の敕聞に  
達し、特に上京村雲の地を賜ふ。時に文祿五  
年同地に一寺を建立するに及び、勅して瑞龍  
寺と號し、勅願寺に列せしめらる。而して豐  
太閤亦た高祿を寄附して永く法華の道場とな



寺 龍 雲 村

し、更に徳川幕府寺領五百石を寄せたるも、  
殊に三代家光將軍二條城内の一宇を寄進して  
當寺の客殿となす。其の結構善美を極めて頗  
る壯麗なりしが、惜哉天明八年祝融の災に罹  
りて烏有に歸せり。即ち現今の堂宇は後年の  
再建に係はるものなり。一方二條家の息女入

りて當門生に往持し給ひし以來、代々金枝玉  
葉の王女或は名門貴族の女相續で比丘尼御所  
に列し以て今日に至る。其間星霜幾變轉世の  
推移に遇ふて寺門亦た舊寺の如くなる能はざ  
りしも、先師瑞龍院宮、門跡第十世の法燈  
を擎けらるゝや、外親しく全國に巡錫して大  
法の宣布に励め、内専ら門跡維持に督勵せら  
れたるを以て、寺觀大に備はり、殊に故小松  
宮殿下の大本願に依りて門跡保存會を創立し  
或は本管長亦た番外達を發して地方寺院、檀  
信徒の協賛を諭せる等、門跡維持の實着々  
舉り、今や堂塔伽藍舊時を偲ばしむる壯麗雅  
麗を加へ、門内一步を踏まんか、宛然佛陀の  
淨土に遊ぶの感ありて、同門宗徒は勿論、一  
般人士の隨喜渴仰して四時參堂するもの跡を  
絶たず。

門主 九條日淨 世に村雲尼公と稱さ  
れ、衆庶の尊崇措かざる御身、其の清楚雅麗  
の御風姿蓮花に譬ふべし。而かも聰明伶俐、  
溢るゝが如き慈悲の御心を有して克く山緒深  
き當寺門主たり、現に權大僧正の僧位に就か  
せられ、稀に見る石尼智識として徳望洽し。

執事長 辻信次郎 抑も當家は連綿家  
歴を開すること十三代、當村雲御所家司の職  
を奉ずる名門舊家にして、氏は明治十三年二

月を以て呱呱の聲を學ぐ。夙に専心經學を修  
め、彌陀の慈悲眞境を悟得して前職の後を襲  
ひ、執事職即ち舊稱家司の職に就きて今日に  
至る。資性潤情に富みて寛宏、而かも多年修  
養の功ありて人格益々高きを加へ、克く現職  
を完遂しつゝ、衆興の尊敬を蒙りつゝあり。

(所在地 京都市上京區西陣門前)

### 國際汽船株式會社

本邦貿易上我が海運の占有する地位の重要  
なる事は今更贅言を要せず。大藏省發表に依  
る昭和十一年度本邦貿易外收支は經常的收支  
受取超過二億三千二百萬圓臨時收支支拂超過  
二億六千九百萬圓、差引支拂超過三千六百萬  
圓にて此内海運關係收入は總收入三億三千四  
百萬圓、總支出一億四千萬圓差引受取超過一  
億九千萬圓を示し前年度に比し海運收入に於  
て三千百萬圓の激増を示現せり。殊に現在に  
在りては戰時體制の強化に依る貿易統制時代  
を迎えて海運業が國際收支の改善の上に貢獻  
するところ頗る大にして、政府に於ても民間  
業者を督勵し以て遠洋航路の進出に種々助長  
策を講じつゝあり業界の前途實に多幸と稱す  
べきなり。

當社は本邦に於ける備船運用者の大手筋に



して大量の船舶を運営し、世界に於ける日本社外船を代表せる大阪商船会社唯一の子会社たり。現に當社の資本金は二千萬圓（全額拂込済）を擁し、主要航路は東洋線、東洋北歐線、漢口日本線、紐育漢口線、西阿線、東南阿線、濠洲線、臺灣線、孟買線其他世界各地、不定期航路を有し、殊に紐育航路は昭和六年開設以來日本郵船の委託船たりしが、十二年二月以降當社の自營と決定する等、其顯著なる進展を證するものなり。昭和十二年下期現在の當社船舶代價は九千二百三十九萬圓にして、總資産は九千六百七十七萬圓にして、業界の一異彩たり。尙當社は今後優秀にして経済的なる船舶を多數建造し、一面大いに我が國防に資すると共に、他面亦不撓國際貸借の改善に資すべく舉社一致精進しつゝあり。因に主要なる役員は左の諸氏なり。

社長 黒川新次郎、常務 荒木忠雄、牧野元、取締役 住田正一、小田精吉、丸山直次、作道宗作、河上弘一、監査役 鈴木新之助、淺野良三、堀新。

取締役社長 黒川新次郎 周知の如く、財界稀有の人格者にして海運界の大功勞者たり。氏は明治八年山形縣に出生。長じて青山學院高等科を卒業、披露されて一躍同院教授となる。蓋し其才幹技藝に依る。奉職一年に

して雄圖を抱きて日本郵船に入り海外支店に在りて格勤すること數年、大正二年本社詰となり外航課主事に推され、同課長、神戸支店長を経て遂に取締役社長となる。昭和二年松方幸次郎氏の後を襲ひて當社社長に推舉され今日に及ぶ。氏天性謹厚篤實、明識遠眼、經營企畫に智慮周密而も決斷力に富む。海運界に貢獻するのみならず現に船舶改善協會理事長たる外労働保險調査會臨時委員、日本海員救済會理事等に推戴され、國家社會に盡力す。曩に巴里博覽會の折隨員仰付られて之に列し歸朝後勳五等に叙せられる。

(所在地 東京市麹町區丸の内一丁目)

### 建築業 井戸田國松

建築事業に活躍して學識淵博、技術の卓動を以て名聲高く、中京方面より東都にまでその觸手を伸し、斯界注目目的となれるが井戸田氏とす。氏は頭腦明晰にして周匝緻密、事に當りて拮据勵勵奮むことを知らず。日進月歩の學術の進歩に對し、常に寸暇を惜しみて研鑽に熱中す。その眞摯なる態度は研鑽を專業とせる學徒に劣る所に非らず。學理の探求と共に實地の技術に於ても頗る卓抜なるものありて、氏の手腕に對しては既に世間に畏敬

せられる所なり。氏は愛知縣人井戸田國次郎氏の長男として、明治三十二年六月に生る。大正十三年日本大學工學科建築科を卒業。直ちに東京府澁谷町役場囑託技師となる。誠實にその職に携り、多大の信用あり。翌十四年愛知縣警察部建築課に轉じ、精勵格勤して其人物を認めらる。不斷の熱心なる研究によりて其知識の豊富なる所より、氏は大いに重用せられたり。乍併氏は官場は九戀の園に非ずと爲し昭和六年九月職を辭して井戸田建築計算事務所を創立す。而して傍ら名古屋工學塾を經營し、子弟の教育に乘出すに至れり。氏は頗る學を好み、兼ねて帝大佐野、小林兩博士の指導を受けて、耐震構造學の研究に専念す。その方面に於ても大なる業績あり。續いて同十一年五月關東土地建物株式會社を創立し、氏は取締役社長に就任す。同社は本社を東京市芝區田村二丁目に置き、東京地方に於て土地建物業を營む。創立し尙ほ淺しといへども非常なる信用を得て、毎朝好成绩を擧ぐ。同社重役に飯倉半兵衛、高見之通、高田直吃の諸氏列せり。井戸田氏は年齒若く、今後大いに頭角を現す人として大いに期待せらる。夫人は名古屋市立第一高等女學校を経て、日本女子大學を卒業せる教養高き賢婦人なり。豐子嬢、稚子嬢の二子ありて頗る圓滿。尙ほ令妹清子嬢は愛知淑徳高女出身にして

萬國女子オリンピック選手八百米日本記録保持者として令名あり。

因に井戸田建築計算事務所は名古屋市中區廣小路仁壽ビル内に在り。

(住所 名古屋市中區天神山町一ノ一七)

### 株式 丸商商店

時局の重大化に伴ふ財政の膨脹に依り、我國金融界には未曾有の低金利を來たし、他面軍需工業を中心とする事業界の活況を見るありて證券界は近時非常なる股盛を惹起せり。證券業者中には往々にして、投資家の事情に精通せざるを奇貨として種々の欺計を弄し、多大の迷惑を與ふものなしとせざるが、當店はその創業古く、證券取引業を營むこと多年にして、斯業界に頗る信用厚し。明治二十一年の創業にして、東京株式取引所に於て取引員たること既に四十有餘年、斯界に於ける老舗の歴史を有する商店の一たり。大正九年株式會社に組織を改め、昭和三年七月法人取引員として營業免許を受けて今日に至れり。當店は株式の實物取引を始め、長期短期の兩取引、公債社債の實物取引及清算取引等東株市場に於ける總ての實買取引をなし得るの取引員として、商工大臣の免許あり。其營業振り

に就いては投資家の間に於て堅過ぎる店との定評ある程に、絶大なる信用あり。近年の證券界の活況によりて顧客は競ひて當店に殺到し、精算取引の委託或は株式公債の賣買をなす等、店頭には常に顧客雲集せり。當店は尙ほ公債債、株式の引受及賣出、募集の取扱に有價證券に關する調査及投資に關する相談に應じ、その信用の堅實なる上に顧客に對しては極めて懇切なるを以て、多大の好評を博せり。現時資本金一百萬圓の全額拂込済たり。因に當社重役には取締役社長村上文策、取締役村上濱吉、同岩田辰五郎、同加藤貞一、監査役等原愛太郎、同鈴木萬平の諸氏あり。

取締役社長 村上文策 抑も丸商商店は

社長村上氏の嚴考村上太三郎氏が明治二十二年一月、東株仲買人たるの免許を受けて開業せしに始まる。氏は明治二十二年一月を以て呱呱の聲を揚ぐ。太正九年四月慶應義塾理財科を卒業し、翌十年十一月取締役社長に就任せり。昭和三年八月東株取引員組合實物委員に推され、以來組合委員として熱心に活躍し、寄與する所多し。資性渾厚篤實にして實實堅確、その清廉なる人格を以て多大の信望あり。俊敏機才の敏腕家にして、常に獨創の奇策をめぐらして同業者を嘆服せしめり。

(所在地 東京市日本橋區肥前二丁目)

### 内田商店取締役社長

### 内田 畿助

克く時代の風雲に乗じ、一世を叱咤嚮導するは寔に快心の限りなりとするも、之は時運の扶翼に待つもの多く、何人も企て得ると云ふにはあらず、寧ろ常に勉めて懈らず、身を修め家を備へ着々として地歩を占める事こそ人間向上の要訣にあらずや、而して業餘よく社會公共の爲め盡瘁貢獻するならば、正に忠良なる模範國民として賞讃に値すべき人物ならん。茲に傳する内田畿助氏は能く家業に精勵する一方、社會公共に寄與するところ多大寔に鏡水の如き人物として尊敬するに足る偉才たり。同家五十年の家業は釘屋内田商店として洋釘鋼鐵商の名に於て帝都に重きをなせり、而も東京府多額納稅者として幾多社會公共事業に盡瘁せる慈善家にして正に忠良なる模範國民と謂ふべきなり。氏は先考畿助氏の三男にて、明治二十六年五月を以て生れ、大正二年家督を嗣ぎ、前名眞吉を改め襲名す。一意祖業を繼ぎて益々業務を擴張し、今やその販路は關東全圓を主とし、遠く全國に亘りて牢固たる地盤を開拓し遂に業界を通じて第一の巨商たり。天資明敏にして重厚着實、而かも日夜業務に格勤能く祖業を守りて益々

産を殖し家名を擧げ、曩に時勢に鑑みて株式組織に革めて自ら社長に就任す。傍ら關東實業界の紳商として名望愈々高く信用極めて厚く。葛飾瓦斯の取締役たり。趣味として将棋を好くし技は既に一家をなす。又寸暇を利用して旅行するを最も好み、生氣正々躍如たるものあり。たま子夫人は東京府廻米問屋木村徳兵衛氏の長女にして東京女學館卒業の賢婦人にて子女の訓育に専念されつゝあり。

(住所 東京市本所區石原町四丁目)

### 實業家 鎌田七兵衛

紅燈に美妓を擁して、時に浩然の英氣を養ふは蕪雜瑣激なる人生行路上、宛然茫漠たる砂漠に於ける所謂オアシスの如き觀あり。節度を失せず時を撰みて所を得れば、實社會生活に際して、却て能率の増進するは、敢て説明の限りに非ず。我が鎌田七兵衛氏は、硬軟併せて素淡たる人間生活を緩和するに妙を發揮し、當市に絢爛豪華を誇る情緒の巷、南五花街に貸座敷業を営みて、些も卑猥に流れず、克く時好の趣味に従ひて、諸客の好評喝采を博し、斯業の眞生命を遺憾なく高揚せしめ居れる業界の第一人者たり。氏は大阪増井家二男として明治十三年七月、當市船場に出生す。同四十年鎌田家の養嗣子となり家督を



氏 衛兵七田 鎌

王座を占むるに至れり。今や結構善美を盡せる宏壯華麗の不夜城に、窺窺輝輝たる美妓、百花摺亂として研を鼓ひ一度茲に歡を盡さんか。夢幻恍惚として恰も天上の樂園に遊ぶが如く、不知不識の裡に自ら精氣躍動して澄判たるを覺え、而かも實社會活動に處する元氣旺盛になると。蓋し粹客蕩兒は謂ふも更なり汎く關西人士の一大社交場として、股賑繁榮を謳はるゝも、當然の歸趨と云ふべきなり。

斯くて斯界に泰然不動の地盤を築き、南五花街遊廓取締役、南五華街土地建物取締役の要席に擧げらるゝや、至誠一貫、克く名利を超越して業者の親睦融和、或は土地の發展繁榮を圖り、亦た駒田印刷取締役、合名會社鎌田ハウス代表社員として才腕を發揮すること縦横無碍。一方、其の胸底に烈々たる忠君愛國の赤誠は、夙に精華軍人後援會長として貢獻寄與する處甚大、殊に刻下曠古の非常時局に際するや、献身盡瘁、克く銃後の守りを固めて遺憾なく、而かも人格崇高にして識見手腕亦た豁然群を抜き、衆望翕然として一身に聚る處、前記以外幾多の公職に推舉せられて功績顯著なり。即ち國土的風貌躍如たる、業界屈指の偉材として、衆輿の尊敬信賴措く能はざる所以たり。

資性濃厚篤實にして而かも剛毅果斷の反面を有し、溫容一度接すれば、靄然胎滿たる氣分に對者を浸らしむる裡にも、亦た侃々諤々の熱辯を吐露し、談論風發して構想の雄大なる、實に聽者をして魅了し去るの概あり。而かも断乎所信に邁進すれば、萬難に屈せず初志の貫徹を圖り、或は其の堂々六尺に及ぶ體軀、風貌と共に維新の英傑、大西郷に髣髴たる等、正に當代稀有の人格者にして好紳士なり。尙ほ令聞と夫人は内助の功多き賢夫人たり。

のみならず、亦た國防婦人會幹事として盡瘁貢獻し既に其の美談、佳話、善行等は新聞紙上に掲載されたること枚擧に遑あらざる女丈夫たり。蓋し、軍國日本女性の龜鑑とも推稱すべく、現に各方面の讚仰欽慕の的とされ居れり。

(住所 大阪市南區九郎右衛門町)

### 廣海商事株式會社

我が海運界の先覺にして其創業は遠邇文化年間に發す。先代廣海二三郎翁に遑んで明治四十一年五月、時運に對應して資本金五百萬圓、全額拂込済の株式組織に變更し、爾後三十有餘年、堅實なる經營を以て現今に至れる斯業界の巨豪たり。其間多少の浮沈は免れざりしと雖も、儼乎たる基礎は微動だもせず遂次異常の成績を擧げ來れり。

由來廣海家は往昔より連綿として加賀國越の聚落に居住し、文化年間に海運業を創始せるものにして先代二三郎翁は一世を盡瘁せしめたる商傑にて天稟穎脫にして若冠の頃即ち明治十九年上阪し北海物産の賣買及び傳統の海運其他諸業等諸種の事業に榮着し、豪膽にして機略縱橫、漸次貨殖に成功せしも、終始滅私奉公の義心に深く公共に挺身せる美事

善行牧養に違あらず、而も其一生は聊かの僥倖無く徹頭徹尾尋常道を苦難を以て精進せる立志の人にして其高潔なる人格を欽仰せられて大阪商業會議所議員、日本海員救済會委員、日本海運業同盟會關西支部長に推舉されて我が國海運界の指導者たるのみならず、日本赤十字社大阪支部商議員として同社の爲貢獻し一面十四銀行、携津紡績、大日本紡績等の重役に就任し、北海道拓殖銀行設立委員として奔命する等功勞多く、綠綬褒章を下賜されたる外日露戰役に盡瘁せる功に依り勳四等旭日小綬章を賜ひ、或は石川縣多額納稅者として貴族院議員に列し、昭和三年朝廷其功を録して勳三等に叙し給ふ。今や當社は翁の遺業として益々隆々駸々として其閃光業界を照破しつゝあるは洵に慶福に堪えざるところなり。因に重役布陣の現況は、取締役社長廣海二三郎、取締役濱野永次郎、取締役九吞勝太郎、監査役藤野芳造の諸氏なり。

取締役社長 廣海二三郎 嚴君故二三郎翁と多少その稟性を異にすると雖も、俊邁萬才にして秀麗高雅の氣格に於て相通じ、克明の資質に於て相似たるものあり、その義氣に於て伯仲するものあり、翁にも劣らざるの賢材たり。明治二十七年四月、先考廣海二三郎翁の長子として呱呱の聲を擧ぐ。昭和四年嚴君

の衣鉢を享けて家督相續すると共に前名四郎を改め襲名す。長じて學を慶應義塾に修め大正六年理財科を卒業、一年志願兵にして正八位陸軍主計少尉たり。除隊後廣海商事副社長に就任し、嚴君の良佐たりしが昭和四年其計に遭ひ、以來當社々長に就任する傍ら大阪商船、共同火災保險、大日本火災海上再保險各監査役を兼任し以て今日に及べり。

(所在地 大阪市西區江ノ子島東之町)

### 合名 不二家洋菓子舖 大阪支店

我が洋菓業界の重鎮不二家の今日あるは實に之の事業公理の致すところにして、人物識見手腕共に卓越せる現代表藤井林右衛門氏の下に宛ら名將を敵く忠勇無双の兵士の如く、一致協力之れに従ふ從業員を擁する當社の如き正に隆々たる發展を遂げ盛業は全國斯業界に號令しつゝある以て疑はざるところなり。抑々當舖は明治四十三年、横濱に不二家洋菓

子舖を興したるに創り、逐年營業を擴張したるものにして、今や鶴見、沼津の大製菓工場は、其規模の壯大と設備の完全とは、全國大精銳の同業者と雖も之れと比肩するもの多からず。銀座、新宿、大森、本郷、京都、大阪の各支店は堂々近代様式の優秀店舗として他の範と爲すに足り殊に横濱本店の竣工せし輪奐の美は知る人ぞ知る。各店を通じ顧客萬來の隆々たる繁榮を示し、其製品の美味絶佳なるは江湖の等しく認むる處にして、自他



氏 要 井 藤

共に我が洋菓業界の雄たるの面目躍如たり。不二家大阪支店は市の繁華街心齋橋筋に在りて、モダン白亜の二階建築にして、一階は絢爛たる同家製各種特異の洋菓子満載飾を以て滿され特に同家獨得の金貨チョコレートは絶讃を博し人目を引く。二階ホールは喫茶部にして不二家特製コーヒーの美覺に顧客は常に満員の股盛を極めつゝあり。斯くして同家店則の誠意、愛嬌のサービスは實に至れり

盡せりにて全従業員(男女)八十餘名の明朗サービスは顧客の常に満足するところなり。今や同店は断然他の同業店を壓倒、我等の不二家として愛顧せらるゝに至りたるは、又一面同店長藤井要、同支配人梅原兩氏の非凡新銳の營業方針のよろしきに俟つべきもの大なりと言ふべきなり。

**支店長 藤井要** 本年三十九歳の新進氣鋭の敏腕家にして、其の手腕は定評を以て不二家全店に聲名高く、殊に外交方面の手腕の卓越せる事は驚く可きものあり、現時不二家一統の中堅人物として必要欠くべからざる人材なり、曩に東京銀座店支配人たり、目下支店長の要の爲め北支戦線に出勤中なり。

**梅原支配人 藤井店長の名良佐役として** 敏腕風が高く、而も近代世相の推移と人心集攬の機微を掴むに敏なる氏は加ふるに天性の濃厚と高潔の人格を以て八十餘名の全従業員より絶大の敬慕を受け、爲に當店の秩序華然として一致協力の美風を捲き起し、常に和氣霽々裡に營業を爲しつゝあるは氏に負ふところ多しとせず。事業に熱心にして精勵以て専心業績の向上に心を致し夙夜精進するは店員の等しく敬服するところにして範となすに足る思慮周到にして商才に富み、理財に長ぜる

氏の將來こそ期して待つべきもの多々ありと云ふべし。明朗なる紳士なり。

(所在地 大阪市南區心齋橋筋二丁目)

### 三井物産株式会社

當社は周知の通り三井財閥直系事業の根幹にして、夙に内外物品の販賣を通じ、我が國富の増進と商工業の興振に多大の寄與貢獻を殊し、主として平和産業の指導的地位に在ること久し。今や精進の盛名は全世界の商品市場を震撼して餘りあり。抑々當社の創業は遠祖、實永の昔に屬し、當初三井家が長崎に爲替支店を開基し、之を通じて舶來雜貨の賣買を行ひしに其源を發し、踵で幕末に迫んで三井國産と改稱し、回天の資業成りし維新後九年にして三井物産會社と改稱、外商間に割込みて海外貿易に乗出し、爾來實着なる經營に業勢を擴大せしに始まる。同二十六年一百萬圓の合名組織に改組し、越えて同四十二年資本金二千萬圓の株式會社に變更す。次で歐洲大戰後の好況時代に即應して事業の擴充を圖るため、大正七年一億圓に大増資を敢行し、更に昭和十一年に至りて一億五千萬圓に増資し、全世界その覇勢の至らざる土なく、大いに帝國商權を顯揚し以て現今に至れり。

而して當社の營業種目は頗る多種多様にして物品販賣、問屋代理、運送及代理、造船、製材、製船並陸揚場、各種事業投資等にして、其取扱品も米、麥、雜穀類、石炭、棉花、人絹、羊毛、生絲、金屬、洋紙、染料、肥料、海産物、砂糖、鹽、燐、諸建築材料其他百餘の商品を取扱ひ、其屬翼下に東洋棉花、東洋レヨン、日滿亞麻紡織、徳永板硝子、東洋海運、大正海上火災保險等々諸會社を取め事業機構として本社内に營業部、砂糖部、機械部、石炭部、金物部を置く外、小樽に木材部、横濱に生絲部を設置し、據するところの支店は、内埠二十三ヶ所、臺灣四ヶ所、朝鮮六ヶ所、關東州六ヶ所、滿洲國四ヶ所、支那七ヶ所、海外十七ヶ所にして、更に海外に七ヶ所の大代理店を擁し以て營業遂行に完備を期し居れり。

昭和十二年上期末に於ける營業の概略を記せば、總資産は實に六億五千七百餘萬圓にして内外部負債四億五千四百二十四萬餘圓、差引純財産二億二千八百餘萬圓を包蔵し、之が對拂込資本割合は一割八分に當り。利益金は一千二百四十七萬五千圓を擧げ、この利益率二割三分六厘は近年の記録にして、一割五分の高率配當を行ひたり。この老なる數字を見、如何に當社の規模の壯大にして且つ内容豊として堅實なるかは窺知せらる可し。

支那事變も近き將來終幕を告げんとし、今や清麗なる亞細亞の黎明は、東天の紅する如く、歩一步と近づきつゝあり。之れと俱に我が三井物産も、平和産業の木鐸に任じ、極東の商權を更に把握するの日も近からん。因に首腦部陣容は取締役會長代表取締役常務取締役井上治兵衛、代表取締役常務取締役向井忠晴、常務取締役石田禮助、常務取締役太田靜男、常務取締役長谷川作次、取締役三井高修、取締役三井高修、取締役田島盛一、取締役中村幸助、取締役住井辰男、取締役金子堅次郎、取締役清水潔、取締役渡邊四郎、取締役赤井久義、取締役古川虎三郎、常任監査役阿部重兵衛、常任監査役犬塚勝之助、常任監査役根尾克巳、監査役三井高光、監査役佐々田彰夫

(所在地 東京市日本橋區室町二丁目)

### 山一證券株式會社

諸積立及繰越金三百八十餘萬圓を有する山一證券株式會社は周知の如く本邦證券投資並事業資金仲介機關の元勳たり。當社は明治三十年四月業界の先達故小池國三氏が山一商店を創業して東京株式取引所の仲買人(現在の取引員)となり、證券業を開始せるを以て濫

賜と爲す。當初は小池氏の個人經營にして其經營實に堅實なりしかば一般の歡迎する所となり、信用逐時加はり、從而内容益々充實せるが、當時小池氏は年來の理想たりし利益金分配の制度、即ち功勞あり且つ優良なる店員を厚遇する意味に於て事業上の利益を公平に分配し同時に事業上の責任を一般社員にも分擔せしむる制度を實踐する事に決し創業周年に相當する明治四十年四月、從來の個人經營を合資組織に革め、資本金壹百萬圓の小池合資會社を設立す。斯くて十ヶ年を経て大正六年四月に迫んで創業滿二十年に當り小池氏は豫ての素懐に依り證券界より引退し、同時に小池合資會社を解散せり。而して當時まで小池合資會社に在りて拮据格働せし前當社々長杉野喜精氏首腦となりて新に資本金壹百萬圓を以て山一合資會社を組織せるが同社は小池合資の堅實主義を堅持し、熱意ある緊張味を以て經營を續けたるが時恰も歐洲大戰景氣に際會と相俟ちて順風滿帆業績頗る好調を辿り好成績を持續せり。其結果大正八年十二月に至りて利益金を壹百五十萬圓と爲す。而して大正九年の反動に於ても大正十二年の大震災に遭ひしも何等動するなく寧ろ難關に會する如に堅實主義を推進力として遂次發展賣買取扱數額は著増の一路を辿れり。この覇勢は

一方に於て経済界の膨脹に依る我が證券界の擴充並に其普通化に負ふ所尠なからざるが、當社は此情勢に棹さして引續き發展の過程を経て資金の充實を以て時運に對處する要に迫り、全經營を擧げて之を株式組織に改め大正十五年十月資本金五百萬圓内拂込三百五十萬圓を以て山一證券株式會社を創立す。次で昭和八年未拂込金を徴收、五百萬圓全額拂込済と爲し、同十一年二月資金を更に充實して信用の基礎を鞏固にすべく倍額増資を斷行す。

しかも増資新株は一舉に全額拂込を了し資本金壹千萬圓と爲せり。昭和十一年十二月杉野社長興望を擔ひて東京株式取引所理事長の要職に就きし爲、常務取締役太田收氏其後を襲ひて社長に就任し更に副社長平岡傳章氏社長に就任して現時に至れり。斯くして上述四十餘年に亘る當社の行履を顧れば、時に多少の消長ありしと雖も大觀して順を遂ひて堅實なる發展を招來し近くは昭和十一年下期に於て記念配當三割、同十二年上期に於ては特別配當五分を増配せる等は其熾たる業績を物語るものなり。之れ偏に歴代社長並に各重役以下社員一同が當社の信條たる、顧客本位の堅實方針を旨となし以て終始一貫努力せる賜と稱すべきなり。

尙當社は東京、大阪、名古屋、岡山、新潟、濱松、京都、京城、福岡、廣島、札幌に各支

店を、神戸、横濱に出張所を設置し、經營網を確立して顧客の便宜に資する外、本社内に調査部と投資相談部を設けて業界の羅針盤たらしむる等、總て顧客本位の積極的方针を講じ居れり。因に當社の現重役は左の諸氏なり、取締役社長平岡傳章、専務取締役市川準一、同木下茂、常務取締役石川亮三、同津島久光、同安岡幸馬、同伊藤保、同大神一、常任監査役藤原正、監査役渡邊信太郎、同山根十吉、同藤田好三郎

取締役社長 平岡傳章 變轉極まりなき斯業界に幾多の波瀾を悠々乗り切つて今日斯界の最高峰たる山一證券の統帥として其名噴々たる氏は、明治四十年十二月山一合資會社に入り、理事に陞進す。大正十五年組織變更と同時に副社長兼庶務部長に推され、巽に太田收の裔を享けて現職に推遷さる。其の永年の間、氏は且幕營々として倍勤し、事務の刷新を圖り、各般の施設に改善を加へ、その不群の熱誠と、清廉なる人格とは、内外の信望を繋ぐに充分にして好評噴々たり。氏は嚴格にして實踐躬行の士なるが、一面氣宇頗る寛宏にして、人に隔壁を設けず、會ふ者をして其益々たる温情に欽服せしむ利根たり。(所在地 東京市日本橋町一丁目)

### 日進電工社主 藤本孝吉

日進電工社長の要請に在る藤本孝吉氏は、中部地方に於ける鍍金業界に威望堂々を誇り業界の巨擘として錚々たる名を馳せるが、更に其の鷹翼を伸長せしめて三菱重工業と握手し茲に相擁して躍進を爲すに至れるは、斯界の等しく瞻目するところなり。



妻 夫 氏 吉 孝 本 藤

氏は明治二十三年五月、奈良縣人藤本善一郎氏の六男として同縣磯城郡三和町に呱呱の聲を擧ぐ。長ずるに遡んで敵傍中學に登壇の功を積む。卒業後八木銀行に入行、倍勤すること十年餘にして之れを辭す。後名古屋市に來りて岡本工業株式會社に入社し、現業を修得すべく鑄造部に入り、密かに獨立の機會を窺へり。天性冷頭にして利手、而も先見の明ありて奇才なり。大正十一年十月好機來るや

同社を辭して茲に獨力を以て鍍金業を開業す

當初同業者は寥寥にして從て其技術も未だ幼稚なりき。その經營實に至難にして言語に絶するものありしが、氏は卓抜なる精神を持して見事苦闘を突破し、漸次業績の見るべきものあり、同十三年十月に及んで三菱電機株式會社が、名古屋市中工場を設置するや、その專屬工場に指定され、こゝに漸く基礎の確固の緒に就くを得たり。爾來優秀なる技術は氏の高潔なる人格を反映せしめて信賴愈々厚きを加へて業績向上の一途を辿りて名聲噴々、超えて昭和八年、三菱重工業の指定專屬工場に列し、益々業績順境に入り、今年年額十五萬圓を計上し、斯業界異数の成功者として稱讃さるゝに至れり。之れ偏に氏の獨立不羈、卓絶せる奮闘に依るは冗言を要せざるも、一面きり子夫人の内助の功没すべからざるものあり。即ち氏は終始經營に没頭し、對外に其の手腕を發揮する機會少きところより夫人は常に之を輔佐して且暮精勵、纖手克く天賦の社交術を以て販路の開拓に努力したるものにして、今日當社の繁榮も夫婦相和し兩々相俟ちて大成を爲したるに他ならざるなり。昭和十二年六月、名古屋市鍍金業組合設置せらるゝや、業者擧つて氏の出馬を請ひて副組合長に推選す。氏之を快諾し、爾來自社の發展のみに汲々ならずして斯業者の福利増進に一段

の力闘を爲しつゝあるは傳と謂ふべきなり。

(住所 名古屋市東區大曾根町二二)

### 日本レース取締役

### 平田保太郎

京阪畜業界屈指の識見家として殊に貿易業の功勞者として重きを成せる平田保太郎氏は丹後宮津の人、東京高商を出でて明治三十五年森村組に入社、夙に敏達之士として上級幹部の信託するところとなり、同四十年商事經濟研究の爲、米國へ出張を命ぜらる。少壯の英才、遠大の志望を抱いて汪洋たる文化の主流に游戈す、欣悅の感想ふべきなり。居ること三年、専門事項の外諸般の社會的施設機械工業等の方面に亘り大いに智能を富饒にして立身擡頭の素地を作り、歸朝後森村組輸出課長同助役を経て支配人に陞進、勤続十有九年の久しきに及び、貢獻するところ尠からず。大正十年退社後株式會社南洋商會を興し取締役就任、次いで大丸呉服店に入り、同店の株式組織に改めらるゝに際し専務取締役の重任に就き多年の蘊蓄を傾けて殊功あり。總て日本レース取締役に兼ねるに及び、社會的信望益々厚きを加へ、商工會議所議員に選ばるゝこと二回、其間大丸を辭して獨力にて丹神百貨店を創立、後ち之を株式會社に改め社長に

就任せしが不幸病を得て久しく藥石に親しむの身となりたる爲め已なく辭任し爾來相談役として閑地に就けり。氏は嘗に一都市に於ける畜業界の功勞者としてのみならず、更に廣汎なる意義に於て一般世人より感謝尊敬さるべき理由を爲す。他なし、商工業視察のため支那南洋方面に出張すること前後六回、行程二萬マイルに及ぶの記録を作り、本邦貿易業の開發に半生の努力を傾注せるの事蹟則ち是なり。是れ實に氏の經歷に一段の光彩を添ふるものにして、斯界の先覺者として其功勞の没す可からざるや具眼者の齊しく首肯するところなり。氏、爲人忠實平率、齡已に六旬に達せるも未だ全く世務を謝するに至らず、上記二三の事業及公務に關係せるの傍ら子弟教育の熱心家として徳望高し。端正にして温乎たる其風貌は接する者をして駭蕩たる春風裡に在るの感を起さしめ一見他奇無きが如くなるも、按々氣骨を凝はれたる學生時代及東半球を家として活躍したる當年の意氣は尙磨磨せず、時として電光影裡春風を斬る底の銳機を發し、其病間客を引いて内外の形勢、財界産業界の利弊を談するや往々にして舌端風を生じ喉唾珠を綴り、其氣魄の峻猛なる、壯者をして後へに瞻若たらしむるのあり。又以て一個の人傑と稱するに足らん歟。

(住所 京都市上京區小山堀池町)

### 盛岡電燈株式會社

盛岡電燈株式會社は、明治三十七年八月の設立にして、電燈電力の供給の外カーベイト製水等の事業をも行ふ。その供給區域は岩手縣中部、秋田縣東部及中北部に及ぶ。現に資本金一千七百八十五千圓を擁せり。當社は數年前一時業績不振に陥りしも、當業者は昭和九年前上期断乎減資を決定し不良資産を切捨て、内容の充實を圖りしに依り面目大いに改まる。逸早く四分配當を復活し、間もなく五分に増配せり。九年前上期利益率は六分七厘なりしが、同下期には九分九厘となり、爾後一割を突破す。當局者飽くまで堅實方針を堅持し、業績の伸張に邁進せるに依り、今後を期待するに足れり。

取締役社長 中岡孫一郎 夙に東京高商に學び、卒業と共に直ちに日本興業銀行に入り大いに頭角を現して披露せられ業務課長、參事に榮進す。適々盛岡電燈社長加藤清雄氏の辭職するに及び、昭和十一年七月後任社長に選任せらる。以來積弊の一掃、内容の充實、定款の變更或は電燈料金の値下等に社業に大改革を加ふると共に、社員従業員待遇改善

或は能率増進に意を注ぐ等、縦横に手腕を發揮す。氏熱心なる敬神家にして皇室を尊崇すること厚く、この精神を基として部下の指導に當る。性健剛調達、器局安量、清濁併せ吞む態の抱擁性あり。現在盛岡商工會議所會頭花巻温泉社長等の要椅にあり。

事務取締役 田島貞雄 慶應義塾大學に學び、後沖繩製糖株式會社重役として同社の爲めに貢獻する所多大なり。昭和六年に至り盛岡電燈の専務の椅子に就き、以後同社の爲めに勉勵奮闘、内部の改革社業の發展に奮闘す。斯くて業績は年と共に向上し、今日に見るが如き立直りをなすに至れり。氏圓轉滑達、肌觸りまことに穩かにして身邊は常に和かなる雰囲気圍繞せらる。福徳圓滿、社内切つての徳望家たり。眞摯辛直の人にして一度觸起すればその氣喝凛烈人の肺腑を衝くの概あり。川口荷札株式會社社長を兼務し、東北財界に信望厚し。

常務取締役 一戸三矢 曩に岩手縣土木課長を奉職す。盛岡電燈の創立せられると共に入社し、春風秋雨茲に三十有五年を閱す。精勵奮闘早出晩退十年一日の如く終始一貫努力し、盛衰興廢幾多の變遷ありしも社と運命を共にして今日に至りたるものなり。敦厚篤

### 枕 間 屋 東 德 三 郎

人生を五十年と假定せば其間少くとも十七八年は休息に要すべし。休息即ち安眠の大切なるは今更暇々を要せず。人間は適當なる安眠を得ざれば翌日の活動力に影響し睡眠不足より来る不活潑と能率の減退は吾人の常に経験するものなり。「熟睡は良い枕から」の標語こそは安眠第一條件なり。枕の博士として其名治聞する東德三郎氏が説く人生哲學には、吾人が稱讃するに餘りある多々の眞理を含み居れり。

氏は人も知る「枕の百貨店」東德三郎商店の主人なり。明治十三年十二月奈良縣東繁二氏の二男として出生す。資性機敏にして發明心に富み、長じて明治三十四年獨立をして室内裝飾織物、脇息、枕商を開始以來、終始一貫して今日に至る。東氏は語る。「人體で一番大事なもののは頭である。しかし乍ら大抵の人は衣類、装身、履物等に資を盡すが、肝心の頭の休養には一向に無關心である。頭を休養せしむるには是非優秀なる枕を用ふべきであり。かゝる信念より私をして枕界に投ぜしめたのだ。」と有見以來枕は選々として轉變せ

實、至誠謹直身を持つることまことに固し。他面人間味まことに豊かにして、部下には情を以て率ひ、當社の完璧の統制を確保し得るのも一に氏の人徳に負ふもの大なり。寡黙清節の人格者として人望高し。  
(所在地 盛岡市紺屋町)

### 昭和醫學顧問 鍋 木 忠 正

多年官界に於て頭才を逞はれ、後政界に轉じて敏腕を揮ひ、その名望頗る顯然たるものあり。氏は幼少より俊英、學業頗る優秀にして、夙にその前途を注目せらる。大正二年七月東京帝國大學農科大學を卒業す。續いて法科に入り、大正九年七月卒業、同年十月高等文官試験に合格せり。翌十年十二月岐阜縣警視を拜命、同十二年十二月群馬縣理事官に榮進し、續いて十四年五月に至り埼玉縣事務官に任ぜらる。昭和三年四月昭和醫學專門學校を創立し、氏は顧問に就任して同校の爲めに惜しまず幹旋の勞をとる。超へて昭和四年十一月商工省鑛山監督局書記官鑛政課長に就任し、五年一月正六位に叙せらる。氏は精勵奮闘熱心に職務に盡瘁し卓拔なる手腕と周到犀利の智能を揮ひて多大の實績を擧ぐ、地方行政に對する大なる貢獻と、親切丁寧の態度と

しが、急角度の進展は東德三郎氏の偉大なる功績に依る。されば當店には枕と稱する枕は如何なる枕と雖も陳列せられ、曰くミササ枕、パンヤ入枕、空氣枕、双美枕等々、四季各別用の枕も取揃へられ他脇息、絹綿掛蒲團、クワシヨン、カーテン一般室内裝飾品等總て自店製品を販賣せり。

現營業所は曩に竣工せし白雲鐵筋コンクリート地上下五層樓の堂々たる近代建築にして氏の近代的感覺と積極的營業方針が脈々と流れ且つ營業所と工場との仕事の分擔等も頗る能率的に仕組まれ店內の統制の整然たる等氏の謹直なる人格を反映せしめ居れり。當店の製品は何れも好評を博し其販路極めて廣汎にして内地は勿論、遠く海外にまで及べり。從て注文は常に強襲的に受け全従業員協力一致以て顧客の意に添ふべく精勵しつゝあり。全従業員を遇するに慈父の如き氏の態度は、店內に和氣と明朗さを加味せしめ、接する者をして讚嘆せしむ。之れ總て氏の高潔なる人格の顯らすところなり。  
(住所 大阪市東區松屋町筋常盤町角)

### 小神製織工場主 小 林 吉 之 助

八王寺機業界の音宿を以て稱せられ、我國

は地方民に非常なる信望を博したり。その材幹は上司に認められ、その前途は何人も期待する所となれり。然るに氏は朝氣横溢して高邁なる識見と遠大なる抱負あり。滿々たる闘志は官界に躊躇するを得ず、要領を政界に張らんと欲せり。昭和五年二月官界より身を引くと共に埼玉縣第二區より衆議院議員選舉に立候補して、多數の支持を得て當選す。翌六年一月立憲民政黨幹事に推され、同黨の爲めに活躍して政界に大いに頭角を現せり。決算委員、減税特別委員、蠶絲業法案特別委員、労働組合法案特別委員等に推され、豊富なる經驗と該博なる蘊蓄を傾けて國政に參畫し貢獻する所多大なるものありき。十一年十一月東京府第五區より衆議院議員の選舉に立候補して、非常なる激戦展開せられたるにも拘らず、再度見事に不群なる成績を以て榮冠を獲得す。第七十議會に於て請願委員、國民健康保險法案特別委員として活躍せり。資性卓犖豪放にして剛毅果斷、磊落清白小事に拘泥せず。時局に對しては透徹せる認識を有し、高邁なる經綸と赤誠に燃える熱情は氏の言をして何人をも聽從せしめずんば罷まず。清廉潔白の未來ある政治家たり。明治二十一年島根縣人有井常太郎氏の二男に生れ、後迎へられ

て著封家鍋木家に入る。  
(住所 東京市荏原區中延町)

機業界一方の將士としてその名を業界に輝く  
れもなきを小林氏その人とす。明治十四年三  
月神奈川縣高座郡上溝町に生る。夙に早稲田  
大學法科に學び、後中央大學に轉じて明治三  
十四年同校を卒業す。前鐵道大臣前田米藏氏  
は氏と共に机を並べて學びたる仲なり。氏學  
志を出るや法曹界にも官界にも望を斷ちて、  
只管家業の隆盛の爲めに精勵せんことを決意  
す。元來當家は往時より光明平袴地、紹羽織  
地等の製造を以て知られ、その品質の優秀な  
るは廣く人の賞讃する所たり。氏は父業を繼  
承すると共に、品質改善に意を用ひて製品  
の名を更に世に知らしめ、家道を大いに昂揚せ  
しめんとして活躍す。資質着實堅確、小策を  
弄することなく飽くまで旗鼓堂々大道を進み  
奮勉勵勵してその業に邁進す。高邁の天資に  
卓抜の氣魄は逸早く同業者の指導的地位に  
推され、自己の利益を時に捨て、省みずして  
同業者の爲めに獻身し、東奔西走して夜間睡  
眠をとる以外我家に居たることなし。その至  
誠に滿てる犧牲の活躍には業界の敬仰深く德  
望赫々として輝くに至れり。氏は現在小林製  
織工場を經營する外、八王子織物同業組合長  
八王子輸出織物工業組合理事長、大日本織物  
中央會々頭、武相甲織物同業組合聯合會長、  
生糸消費増進調査委員等數多の公職に就き斯  
業の發展に盡瘁する所多し。書畫、スポーツ

讀書等を趣味となす。尙ほ長男孝一、次男龍  
夫の兩氏は東京府立染織學校を出で、家業に  
従事して嚴父に後顧の憂なからしむ。  
(住所 東京府八王子市東町)

### 事業家 近藤賢二

京濱事業界に於てその群技の手腕を揮ひ、  
幾多の事業會社に重役として列し、その信望  
甚だ高きを近藤賢二氏なりとす。氏は明治二  
十七年同志社大學を卒業し、後臺灣總督府に  
入る。それよりサミュエル商會に入り、更にラ  
イジンゲン石油會社に轉ず。孜孜として業  
務に精勵し、天賦の才腕を發揮して大いにそ  
の存在を明らかにせり。歩一步財界に鞏固な  
る基礎を築き、横濱鐵道、横濱電氣鐵道各常  
務取締役、横濱製鐵製作所取締役等を歴任し  
横濱事業界に於て縱横の活躍をなして多大な  
る名譽を博せり。同地事業界の發展に貢獻す  
る所多く、現在横濱商工會議所常議員に推さ  
れて衆庶に推敬せらる。氏は幾多の事業會社  
に關與して天賦の事業的手腕を示し、何れも  
業運隆々として興れり。現に東洋麻絲紡績、  
日本カーボン、石綿紡績、眞崎大和鉛筆、朝  
日スレート、昭和特殊鋼各社長、日本スレー  
ト販賣、昭和電機、松尾鐵業、湘南電氣鐵道、

横濱帆布、太平運輸、木曾發電各取締役、東  
洋電機製造、監査役等に列して、財界に重き  
をなせり。資性溫恭謹恪にして襟度頗る寛容  
人材を登用し、人材を適所に用ひ、業を統率  
するの才に富めり。明治七年一月兵庫縣に生  
る。人格圓滿にして清廉潔白、氣格俊英にし  
て操志堅固、高風冷く人の仰慕する所たり。  
コマ子夫人は兵庫縣今岡義之氏の二女として  
明治十六年に生れ内助の功ありて賢婦人の譽  
高し。兩子進一郎氏は明治三十四年五月生れ  
にして、頭腦緻密にして俊敏才高、多大にそ  
の前途を囑目せらる。同氏は大正十五年慶應  
義塾經濟學部を卒業し、清子夫人は故貴族院  
議員川崎卓吉氏の長女にして、明治三十九年  
に生れ、雙葉高女出身の才媛たり伉儷睦く  
羨望の的とせらる。  
(住所 東京市芝區高輪南町)

### 山口縣會議長 田邊讓

西日本事業界の顯著なる存在にして、その  
統率する會社數指に餘り、一方社會的の權機  
にも參與し、しかも多年縣政に貢獻し、縣民  
の威望今や重厚にして、四海を照破するの概  
あり。明治二十二年八月を以て、山口縣美彌

郡大嶺の聚落に生誕す。元來田邊家は近郷切  
つての舊家に於て、累代郷黨の崇敬を享くる  
家柄なり。氏長じて山口縣立中學校を経て、  
箕を帝都に負ひ、大正二年拔群の成績にて東  
京美術學校を卒業す。嚮物たる氣魄に燃え  
て、美術の蘊奥を究むべく渡佛留學を計畫せ  
しも、突如として家庭の都合上許されず、空  
しくも雄圖に破れたり。爾來桑梓の地に歸り  
て郵便局長となる。氏爲人、極めて敢爲、事



田邊讓氏

に處して徹底的果敢の資質なると共に、公人  
としては終始熱を以て衆望の信頼に酬ゆる所  
謂犧牲的良心の所持者たり、幾許もなく推さ  
れて村會議員となり、次で大正十二年郡民の  
輿望を擔ひて縣會選鹿場裡に出馬し、初陣能  
く當選の榮冠を獲得し、爾來四期連続當選を  
遂せり。其間縣參事會を経て、大正十四年  
縣會副議長に就任更に昭和五年再任す。その  
手腕力量は清高至純なる人格と相俟ちて、逐  
次信望を昂揚し、克く縣民の素志に和す。昭

和十二年遂に縣會議長に當選し以て現今に迫  
べり。由來山口縣は本州と九州を繋ぐ關門縣  
として重要なが、今や日本産業文化發達の  
世界的飛躍と共に、縣下各地に生産企業の大  
隆著大にして、産業縣としての内容と、形態  
を完成せしめつゝあるが、縣政の宰相たる氏  
は、縣民の信頼に對し、一身を滅して酬ゆべ  
きなりとの決意の下に拮据精勵、不斷の努力  
と活躍を續け居れるは欽仰するところにして  
氏は他而事業的逸材にして、事業經營に獨自  
の力量手腕を有し、現に日産化學工業、日本  
石灰工業、大嶺有ノ木炭礦、大嶺無煙炭礦、  
大嶺酒造、秀芳洞自動車各取締役に就任し、  
産業界發展の爲邁往する傍ら大嶺村長、日本  
赤十字社山口縣支部商議員、大日本消防協會  
代議員、山口縣産業組合理事、山口縣山林會  
副會長、大嶺産業組合長に推選され居れり。  
斯くの如く氏の偉業快擧たるや、將に理念と  
現實との公正明暢なるを實證せるが、現時曠  
古非常の戦時に際會し、新裝議事堂の威容の  
内に、連日議政の事を勵みて、まさに異情な  
る國民の覺悟を具顯せしめんとするの秋、氏  
の渝ることなき愛縣愛國殉公の至誠一貫を希  
求すると共に、中央政界への飛躍も近き將來  
にあるを斷言し、其の健闘を祈りて、 擲筆

曠古の時局に際會したる我が經濟界は、戰  
時體制の財政策に依りて特色附けられ、戰時  
豫算の増大に伴ふ財政の膨脹と、列強重擔の  
情勢に鑑み、近衛内閣は所謂三原則を中心と  
して對處の斷を固め、舉國一致それが目的達  
成に堅忍持久の努力を盡しつゝあるが、この  
三原則中の生産能力擴充部門の衝に當れる工  
作機械業界の活躍こそは眞に目覺しきものあ  
るが、斯業に優良なる材料を提供し、終始一  
貫諸金屬の生産に躬身せる我が湯淺伸銅の業  
績こそは眞に昂揚さるべきものあり。當社は  
元來湯淺家の個人經營たりしを、時運に即應  
して大正八年九月資本金一百萬圓の株式組織  
に變更したるものにして、株式二萬株中一萬  
四千九百五十株は其一族に依り所有せられ居  
れり。營業種目は銅管、彈帶、銅環、捺染用  
銅ロール、銅線棒板、眞中管、コンデンサー  
チューブ、輕合金管、建築用異型管、眞鍮棒  
線板の製作にして、之れが販賣機關は同系資  
本金一百二十五萬圓(全額拂込済)を擁する  
株式會社湯淺商店をして行はしめ、創業以來  
實業主義を信條と爲し、毎期八分乃至一割台  
の株主配當を餘裕裡に行ひ、龍蟠の好調を廻

### 湯淺伸銅株式會社

(住所 山口縣美彌郡大嶺村奥分)

り以て今日に至れり。而して當社の近業を、昭和十二年下期決算に於て見るに、主要原料たる電氣銅は、期初水曜會建値百疋當り百三十圓揃みにして、九月に入り一時百圓を下廻りたるも、期末亦反騰し、需要激増と輸入制限との影響に依り、市場は品薄を告げ、内地に於ける現物値段は水曜會建値と隔絶の觀を示し、尙相當期間繼續の情勢に在り。此間當社は軍部方面の受註量相當多額に上り、軍需工業たるの故を以て、一般には輸入統制等の關係にて精糖底の觀ありし原料の手當も至極順調に運び、工場設備も全能力を發揮し得て、生産量の著増を見たり。從而確實なる操業に依る利益の向上を來したるは洵に慶福に堪えざる所なり。尙當社は此の順調なる環境に乘じ、緊張せる時局に對應すべく、且つ又業礎確立の爲、更に生産能力三倍化の目標の下に、隣接地二千坪に設備擴張増設の計畫を樹立し、十月中より實施、年内に完成せしめたり、故に十三年上期の業績は更に一段の向上を期待し各方面より注視されつゝあり。同期の總資産は二百二十九萬七千餘圓にして、對拂込資本に對し實に四倍六分の膨脹を見たり。尙諸経費並に固定資産償却金(三萬五千圓)を控除したる純益金は八萬七千二百圓、之に前期繰越金三萬四千七百餘圓合計十二萬一千九百圓を處分するに、諸積立金一

萬五百圓、株主配當金二萬五千圓(年一割)役員賞與金六千圓と爲し、後期に八萬四百圓を繰越したり。この餘裕綽々たる決算に依りて當社内容の確乎たるを窺察するに足らん。因に當社現重役は左の如し、取締役社長湯淺讓、常務取締役吉井義正、取締役我喜屋宗信、同川原榮次、監査役湯淺二郎

取締役社長 湯 淺 讓 父君元十郎氏は夙に事業界に入り、精勵汝々當社の根基を築き上げし商傑なり、氏はその長子として明治二十四年九月を以て大阪府に生る。天分英敏にして活動家、能く父業を輔け今日の隆興を爲す。現に當社を統帥すると共に湯淺商店、日本金屬加工兩社長をも兼ね居り。

(所在地 大阪市西成區辰巳通三丁目)

### 高知商工會議所副會頭

仁 尾 進 才と徳とは夫れ一致せざるものか。即ち茲に人あり。其の才智因發して克く衆に超え、事に當るや機先を制して果斷決行、眞に世の範となすに足るも、一度其の性行を窺知せんか。醜狀紛々正視するに耐えざるものあり。更に人あり、恭謙仁慈能く人に厚く、德行常

### 大日本製糖株式會社

氷冷蔵各取締役等の要職に在りて才腕を揮ふ事縱横無碍、而かも常に堅實主義を標榜し、關係事業に異數の業績を擧ぐる處令名風に斯界を風靡し、且つ謙敏明才、稀に見る徳望家たるを讓はれて遂に高知商工會議所副會頭の權椅に擧げられ、亦た多額納稅者に列して斷然業界の重鎮たるに及べり。而して一方大正十四年の交、市會議員選舉に際するや、有志の推薦する所となり、輿望を擔ひて見事當選の榮冠を贏ち得、爾來政治に深湛なる興味を抱くに至りて至誠一貫、克く市政發展に對する抱負經綸を披瀝し常に公明正大を旨として貢獻寄與せる處、即ち同志の懇請歎し難く一躍當地民政黨支部幹事に迎へられたり。當時同黨總裁故濱口雄幸氏と大いに共鳴する處あり、政界に馳驅する事定に華々しきものありしが、同氏長逝後茲に心境に一大變化を來たし、其後全く斯界を隱退せるの態にありと雖も、其の剛直にして大膽而かも周到卓頭、頗る財政經濟に通じ、經綸極めて豊富なる一面、誠實熱誠にして人格康潔なる等、實に世の範たる長者の風格を具備し態度風采亦た堂々として悠容迫らざる處、其の再飛躍時代の到來せん事、一般人士の齊しく待望の的たらざるはなし。蓋し才徳兼備、人物として衆庶の欽慕敬仰する所以なり。(住所 高知市外形町一)

當社はその歴史の古きと、地盤の堅確なるを以て業界に不拔の基礎を有し、専ら臺灣分密糖に主力を置き精糖事業を經營せるが、外に沖繩大東・爪哇の糖業にも手を伸し、生産設備の最新最大なると共にその經營方針まことに進取積極的にして常に業界の先鞭をつけ、我國糖業界の彩華を以て顯はる。専ら粗糖・耕地白糖・精糖・酒精等の製造、アルミナ採取をなし、工場は粗糖工場を虎尾第一・虎尾第二・斗六・北港・月眉・島日・龍岩・大東島・大林・彰化・爪哇ゲタレンに、精製工場を東京・大里・朝鮮の各地に、更に酒精工場を虎尾・大東島・彰化に設置せり。その生産能力は粗糖一萬一千四百七十六噸、精糖七百七十噸、外に爪哇工場一千二百噸あり。當社最近の營業狀況を見るに昭和十一年一十二年間に於ける臺灣支社の作業狀況は原料壓搾斤量三十二億五千三百三十四萬一千斤にして製品出來高四百二十四萬五千擔に上り、歩留一三・〇五といふ好成绩を收め創業以來の新記録を作れり。昭和十二年一十三年間に於ては應國の收穫豫定甲數二萬七千七百七甲にして生育狀態甚だ良好なるに依り、相當の好

成績期待せられ、收穫原料三十四億六千餘斤産糖四百三十餘萬擔を豫想せらる。昭和十三年一十四年期は植付申込狀況は非常なる好成绩にして、植付計畫甲數を遙かに突破し、植付作業も順調に進捗せるに依り、前年を凌ぐ好成绩期待さる。又大東島製糖所に於ては昭和十一年一十二年期成績は颯風の襲來渺く天候又概ね順調なりし所より、原料甘蔗も良好なる生育をなし、製糖作業も當製糖所創始以來の最高歩留を示せり。即ち、原料壓搾斤量七千九百四十三萬斤、製品出來高十萬擔となり、歩留一二・六六%となれり。昭和十二年一十三年期に於ける原料甘蔗頗る成育狀況良好にして、昭和十三年一十四年期原料甘蔗の植付も例年に比して遙かに進捗なし、發育亦好調たり。内地及び朝鮮に於ける精糖工場も設備の改善と技術の研磨に力を盡くし、能率大いに向上を遂れり。十二年度の糖界は國際砂糖協定の成立に依りて外糖は強調を示し、これが影響を受けて内地糖價は堅實なる足取を示したりしが、關稅附加稅の撤廢或は支那事變の勃發等に依りて勢から波瀾を見たり。併しながら爲替管理實施に伴ふ先行外糖輸入禁止氣構と北支明朗化に對する期待より次第に活況に向ふこととなれり。當社の昭和十二年下期決算に依れば總收入五千三百七十八萬九千圓に達し、差引利益金九百二十九萬五千

に世の儀表たり得るも、一度事を爲すに當りては、邊巡姑息、恰も鈍刀を以て裂くが如く到底事業經營の先鋒に立つを得ず。世に人間多しと雖も前者に非ざれば後者、後者に非ざれば前者、寔に才徳兼備の士に至りては泥砂に眞珠を求むるが如く、曉天に星を數ふるが如く、寥寥として容易に得難き處たり。然るに我が仁尾進氏の如きは、實に此才徳兼備の材幹にして而かも胸臆烈々たる霸氣に燃え、常に至誠獻身、克く當市自治産業の發達を圖りて功勞多大なる模範的人物なり。蓋し氏の如きを稱して稀觀の偉材と謂はずして何んぞや。氏は明治二十二年十月五日を以て同本大吉氏二男に出生。夙に剛毅不屈の資質を有し、才氣亦縱横なるものありて前途を囑望さるゝ事厚く、幼年の頃親族仁尾家の養嗣となれり。斯くて大阪商業學校を卒業するや、家業に就きて汝々奮闘、克く其の紙文具業の發展を圖ると共に、更に時勢の進運に隨伴して洋紙製造印刷業を開始し、養家傳來の家運を益々隆昌ならしめたる奮闘家。爾來只管印刷設備の改良及び技術の向上を圖り、今や凡百の點に於て高知市隨一の業者たる定評を博し居れり。斯くて鋭氣潑刺、土佐實業界に驕足を伸ばすに至るや、恰も旭日昇天の概を示して卓然たる實勢力を扶植し、單に斯業の王者たるのならず、亦た四國自動車、清水製

圓となれり。對拂込資本利益率三割三分に當る。前期に比して三十萬一千圓、前々期に比して六十七萬圓の増加にして、未曾有の好成績を擧ぐ。右利益金中より二百五十萬圓を固定資産の償却に當て、各種積立金に一百九十五萬圓を計上し、株主配當に割二分を踏襲し多額の利益金を内部に保留せるに依り、内容益々充實を見ることとなれり。當社の投資會社に大成化學、東邦炭礦、浪花ビルディング、内外ビルディング、日東化學工業等の各社あり。その投資額六百二十四萬圓に達す。過般創立せられたる日東化學工業はアルミナの生産を目的とするものにして、北大東島の燐酸礬土を青森縣下の工場に運び、其處に於て自給に依る硫酸と石灰石にてアルミナ年産五千百噸、硫酸二萬六千噸、過燐酸五萬噸、化成肥料二萬噸の製造をなすものなり。その前途多大に囑目せられつゝあり。之を要するに當社は年と共に内容は整備充實を加へ、産糖高大いに著増して、業績の向上著しく、常に我糖界の指導的地位に立ちて、斯業の發展に寄與せる所多大なるものあり。當社の創立は明治二十九年一月のことにして、當初資本金は三十萬圓なり。爾來幾多の迂餘曲折を経て業礎は次第に確立せられ、同三十九年日本製糖を合併して始めて大日本製糖と稱し、資本金一千二百萬圓の大會社に躍進し、堂々斯界に

君臨せり。而して當社を今日の大に發展せしめば一に前社長藤山雷太氏の手腕に依るものにして、四十二年氏は業望を擔ひて社長となり、社業に根本的改革を加ふるに及び、當社は劃期的飛躍を遂げ俄然天下の注目を集むるに至れり。即ち、大正五年六月一千八百萬圓に増資し、同八年一月朝鮮製糖を併合して資本金二千五百萬圓となり、十二年六月内外糖を合併して二千七百二十五萬圓に増加し、超えて昭和二年十二月東洋製糖を傘下に收めて一舉に資本金は五千一百四十萬六千六百圓の巨額に達せり。この間工場の新設擴張、設備の改善、新設等大に行はれ、内容外觀、著しき發展をなし、世人を瞠目せしめたり。次いで昭和十一年四月六千一百九十七萬圓、(拂込資本五千六百三十三萬二千五百圓)に増資す。藤山雷太氏は當社の顯著なる發展を見たるに及び嗣子愛一郎氏に社長の椅子を譲り、昭和九年四月第一線より退けり。現時當所の重役には社長藤山愛一郎、常務金澤冬三郎、同藤山九一、同秋山孝之輔、取締役月岡一郎、同永井清次、同内山虎雄、監査役名取和作、同二宮貞、同鷹見五郎、同土井昌逸、相談役藤山雷太の諸氏あり。

て明治三十年五月を以て生涯せし氏は、幼少より聰敏にしてその鋭鋒早くより現れ、夙に人を嘆服せしめたり。大正七年慶應義塾を卒業し、直ちに事業界に身を投じ、金錢登錄簿その他の事業會社の經營に當り、英才を揮ひ多大の業績を擧げ、一躍事業界に頭角を拔んでたり。嚴君雷太氏當社長を引退するに及び、氏は直ちに後任を襲ひて業務を執掌し、社業に勵精して多大の成績を擧げしむ。現に集成社、日本金錢登錄簿社長、共同信託、國華徵兵保險各取締役、東京株式取引所理事その他數多の重役に列し、更に東京商工會議所常議員に推され、事業界に卓抜の才腕を揮ひて聲望隆々たり。資性温恭謙厚にして氣宇寬潤、教養高くして品性高潔、少壯の實業家として前途を囑望さる。

崇敬を受く。

(所在地 東京市城東區北砂町)  
(本社 事務取扱所 麴町區丸ノ内二丁目)

### 株式 松浦商店 平野鋼業株式會社

株式會社松浦商店並に平野鋼業株式會社の兩社は、未曾有の盛觀を呈せる鐵工業界に在りて、新興發達たる業勢恰も旭日昇天の如く、容易に他の企及し得ざる關西業界の雄社なり。抑も兩社は其の前身たる松浦商店に發し、共に昭和十三年一月一日を以て設立されたるもの。而して前者は資本金二十五萬圓、地鐵及びストラップ販賣を營業となし、亦た後者は資本金四十九萬五千圓、鐵線並に伸鐵製造販賣を事業となして、夫々基礎の鞏固不搖なるは勿論、亦た既に前身商店の斯界に扶殖せる隠然侮り難き實勢力を繼承し、更に經營の合理化、諸施設の改善擴充を圖りて兩社共に舉社一致協力、巋然他に誇るべき卓抜なる營業方針下に只管生産擴充の國策線に沿ひて邁進し居れり。

斯くて創立日未だ淺きに拘らず、既に業運飛躍的發展を顯現し、製造販賣兩部門に亘り

取替役社長 藤山愛一郎 砂糖王としてその名聲一世を風靡せし藤山雷太氏の長男として

て業績見る可きもの多々あり。殊に平野鋼業株式會社製品たる「國光」印銜接棒は、各種共に品質最優秀にして需要界に絶大なる好評を博し、其の聲價顯然たる處旋風の賣行を示しつゝある國産品中の逸品なり。即ち信用隆々手として高まり、加ふるに株式會社松浦商店の異彩赫々たる業績と相俟ち、兩社前途の一大發展こそ、正に期して待つ可きものあらん。因みに其の前身たる松浦商店は、其の店主經營せる個人商店にして、其の創業は大正初期の交に發す。而して設立以來順風満帆、頗る好調なる發展を遂げ、着々規模内容を以て目されたり。斯くて昭和六年府下中河内郡平岡村に地を相して、建坪二千六百坪を占むる工場を設置、之に生産諸設備を完備せしめて、鋭意鐵線及び伸鐵製造に従事し、更に同九年に至るや、業績の一大躍進に伴ひて同郡加美村に、建坪三千六百坪の平野工場を設立し、旺盛熾烈なる需要に對應すべく、堂々斯界に冠たる業容を示すに至れり。爾來發展又發展、業界未曾有の好況に乗じて躍進膨脹せる結果、遂に事業の劃一統制を企圖し、更に將來の變遷推移に處す可く前途昭和十三年一月一日を以て、同店を解散分離し、茲に株式會社松浦商店及び平野鋼業株式會社の誕生

を見たり。

社長 松浦 巖 不斷の努力は終局の勝利たること、敢て絮説を要せざるも、氏の如きも亦た努力主義の權化と云ふべく、而かも謙遜卓腕、業界稀に見る偉材たるに於てをや、蓋し今日の成功は必然の歸結なり。氏は明治三十年を以て高知市に呱呱の聲を擧げ、夙に不羈獨立の精神に富みて實業界雄飛の大志を抱くや、來阪して斯界に身を投じ、以來刻苦精勵、只管他日の成功を期して奮闘する事幾星霜、遂に獨立自營の機會至り、茲に松浦商店を創立して着々業界に頭角を抽んじ更に斯業報國の大信念を披瀝しつゝ、拮据經營せる處、業運益々發展興隆して今日に至る。今や名實共に斷然斯界の重鎮として重きをなし、其の過去半生の奮闘史は、實に業界後進子弟に好固の範を示すものとして推稱すべきなり。

(所在地 大阪市西區新町南通三丁目)

### 倉持商店社長 倉持 長吉

當家は屋敷を豐田家と稱して代々玩具商を營みその創業は遠く弘化年間に始まり舊江戸時代より聞えたる老舗なり。氏は茨城縣結城



郡西豊田村諏訪重二郎氏の次男にして、明治八年七月十一日を以て生る。同二十五年先代チヨウ女の入夫となり同二十九年に至り、豊田屋號會持商店主となりて前名の號を改名せり。氏は家業を繼承し努力してその事に當り、奮勵力闘大いに精勵す。これによりて事業頗る繁榮し、玩具問屋として斯界に覇を唱ふ。その商品の仕向地を見るに内地は云ふまでもなく、亞細亞の各地より遠くは南米、アフリカ地方まで殆んど全世界に及べり。斯くして我國輸出貿易の増進に寄與する所大なるものありて、海外貸借勘定の改善に資すること夥しとせず。氏頭腦俊秀、思慮周密にして果斷一度決行すれば、所期の計畫を容易に達成す。その手腕の卓抜なる。才略の自在なる。まさに業界切つての偉材たり。氏は明治四十一年に業界組合の爲めに職身的に活動す。爾來今日まで同組合の爲めに奔走し、その功業實に顯然たるものあり。氏人格高潔にして名利に超然たり。公共の爲めには如何なる犠牲をも惜しまず盡瘁し、その人望頗る高し。明治四十五年馬喰町一丁目町會々長に就任し、多忙のなかを割きて町會の爲めに替りする所多大なり。大正三年社団法人東京實業組合聯合會理事に選任せられ、又昭和元年には對露輸出組合監事となり、昭和二年前事調停委員に選出

せられ大いに活躍をなす。昭和三年に至り推されて東京實業組合聯合會副會長となり、同五年對佛瑞白輸出組合理事、同八年東京東亞輸出組合理事に就任し、更に十年京濱南洋雜貨輸出組合理事、東京雜貨中南米輸出組合理事、東京近東アフリカ輸出組合監事となり、續いて商工省小賣業改善調査委員會委員を商工大臣より任命せらる。昭和十年には萬國博覽會協會常務理事となりて身邊愈々多忙を加へその信望、その名聲、實に赫々たるものあり。因に當店は時流に鑑み、昭和十二年一月を以て、株式會社持商店と改稱、改組を行ひ、現に資本金二百萬圓を擁し、名實共に斯業界の鉅魁たる業陣を張るに至れり。  
(所在地 東京市日本區區馬喰町一ノ一)

### 京阪電氣鐵道株式會社

京都市大阪間に二本のルートをも有し、三十年來京阪の交通に大なる貢獻を爲し、其名聲噴々たるものあり、今や學社活々として業績の恢復顯著なる我が交通界の巨豪たり。  
由來京阪電氣鐵道株式會社は、題名の示すが如く明治三十九年一月、關西事業界の諸雄發起に依り、京都、大阪間に電氣鐵道を敷設

する目的を以て設立され、當初資本金七百萬元たりき。爾來好調の業績を擧ぐると共に、天滿橋、三條間の幹線以外に、中書島、宇治間、三條大橋、渚大津間、石山寺、坂本間、天神橋、京都間、淡路、千里山間、淡路、十三間、桂、嵐山間と支線を増設し、其間資本の膨脹も頗る顯著にして増資を斷行すること屢次、昭和五年に至りて資本金九千三百八十五萬圓と爲し、現に内拂込五千八百九十九萬四千圓を擁するに至れり。斯して營業部門も逐次擴大され、木業の外電燈電力供給、土地住宅經營、食堂並に運動場營業を爲せり。昭和十二年下期の當社の大要を見るに、鐵道軌道の全延長は百三十六千四にして、之れが所要額實に八千九百九十一萬五千圓を要し、一軒當り、工費は六十五萬九千九百九十六圓なり。供給電燈数は四十六萬四千六百六十餘燈、電力は三萬三千九百九十四馬力にして之れが施設に一千一百六十二萬五千圓を費し、土地住宅の設備費一千二百六十六萬圓、乘客誘致設備費一百九十九萬三千圓を算せり。而して大同電力其他の投資額は九百四十五萬四千圓を計上し、此の總資産一億四千五百七十二萬四千圓を擁し、内外部負債七千九百二十八萬五千圓、差引純財産六千六百四十三萬九千圓を有し居れり。近來の成績は毎期二百十八萬餘圓乃至二百四十萬餘圓の利益金を擧げ、その

の益率六分七厘乃至八分一厘、株主配當四分を復活し、近く五・六分に増配必至と觀せらる。十三年上期の運輸其他の收入を叙すれば運輸收入四百七十六萬八千圓、電燈電力二百四十八萬六千圓、土地建物二十五萬六千圓、利息三十一萬四千圓を計上せり。斯くの如き業績の好轉は財界の影響に依るは勿論にして殊に沿線の開發が主なる原因を爲せるものなり。更に一面電氣供給收入、地所建物收入等逐期著増し當社の業績を彌が上好良せしめつゝあり。尙懸案たりし京都加茂川改修に關聯し、當社の三條・七條(鹽小路)間の線路を地下線に變更の件は意外に有利に解決せり。

取締役會長太田光熙、取締役社長有田邦敬、常務取締役松島寬三郎、同佐藤一男、同喜多市松、取締役兼支配人小澤喜之助、監査役田中博、同湯淺七左衛門、同三浦英太郎

取締役會長 太田 光熙 明治七年十月山口縣士族大庭景明翁の二男として生れ、三重縣先代太田小三郎翁の養子となる。天賦英明にして利根、長ずるに及んで笈を帝都に負ひ明治三十一年東京帝大法科英法科を非凡の成績を以て卒業。仕官を志して鐵道廳に入り、後ち發展進々たる電氣、交通業界に身を挺して盡瘁し、その功勞顯著たり。曩に大同電力副社長、鐵道會議々員に推され、現に當社を

總攬する外、奈良急行自動車社長、東邦電力副社長其他阪和電氣鐵道等幾多重役を兼ぬる傍ら、帝國鐵道協會副會長に推擧さる。

取締役社長 有田 邦敬 少壯時代官界に在りて通信事業の刷新を圖りてその名著聞し大都市大阪市助役に推されて敏腕を顯はれ、今や事業界に其名聲を馳する一方の雄たり。



小澤喜之助氏

兵庫縣有田德松氏の長子として明治十六年生誕。同四十一年京都帝大卒業後、高文に合格し、逓信省に入り榮進して逓信局副事務官、西部逓信局總務監督課長として奉職す。大正四年大阪市助役に推擧され、同九年歐米各國を巡遊す。現に當社々長たる外、住友アルミニウム製鍊、國際電話、奈良急行自動車各監査役、大阪工業會理事、大阪商工會議所顧問等に擧用されつゝあり。

常務取締役 松島寬三郎 鐵道技術界の一權威にして、明治八年四月、廣島縣松島淺之助翁の三男として出生。同三十二年京都帝大理工科土木工學科を卒業、爾來鐵道事業界に入り優秀なる技術を顯はるゝや久し。現に當社常務取締役の他、愛宕山鐵道取締役、鞍馬電氣鐵道監査役たり。

取締役兼支配人 小澤喜之助 我國逓信事業に砕心すること多年、京阪電氣鐵道の發展に資すること亦多大にして一面文教に貢獻せる賢材たり。氏は明治十四年八月和歌山縣中野吉兵衛翁の八男として呱呱の聲を擧ぐ。後小澤家を繼ぐ。長じて笈を帝都に負ひ明治三十五年東京郵便電氣學校を卒業し、逓信局に入り榮進して大阪逓信局人事課長として敏腕を馳す。次で大正六年當社に入り文書係主任を経て庶務課長に推され、曩に重役に列し支配人を兼ね。資性濃厚謹直、堅忍卓抜の意志は能く今日の地位を確保す。駭々乎たる當社の隆榮今日在らしめたる資材たり。現職に在る傍ら伊丹住宅土地取締役會長、京阪デパート取締役、京都自動車監査役に就任し、大阪齒科醫學專門學校、大阪女子高等醫學專門學校各監事に推擧さる。  
(所在地 大阪府北河内郡枚方町)  
(事務扱所 大阪市北區天神橋筋六丁目)

土木建築業

### 志水正太郎

中京土木建築界の總師として斯界に儼然たる威勢を示し、聲望並ぶものなき志水正太郎翁は業界を馳騁斡旋して能く其功を収め、老來愈々矍鑠として斯界に盡瘁し、業界擧げて翁の功績を賞讃せる處にして誠に衆庶の典範たるべき偉材たり。氏は、愛知縣人志水太吉翁の次男にして、萬延元年十二月を以て生る幼時より嚴考太吉翁に就き建築業の實地の研修をなして多年に及ぶ。明治十六年二月、土木建築請負業を創業し、爾來近郷は勿論關西關東を通じ、翁の建築に成れるもの、諸官衙學校を始め、會社、商店、工場等、獨創の建築法を採りて之れが竣工せるもの枚擧に遑あらず名古屋市中區南大津町一丁目に堂々たる店舗を有し業績頗る旺盛を極めり。

誠に我が土木建築界に絶大なる足跡を印し之れが貢獻せる所頗る多大なるものあり。その非凡の才幹は夙に顯揚されて事業界に推轡され、名古屋鐵道其他の重役の任に在り。近來老齡の故を以て養子準平氏に其の全權を委ねて郊外閑雅郷東山の麓に隱居して、悠々自適閑鳴の日を楽しめり。準平氏は愛知縣知多郡半田町榊原由一氏の次男にして、明治十八

年八月を以て生る、夙に慶應理財科を卒業し大正二年翁の二女八重子女と結婚し、志水家に入りて精勵働勤せり、長男太郎氏は三十七年九月を以て生れ、名古屋高工を卒業後、父業に義兄準平氏と共に従事しつゝあり。曩に家督を相続して襲名せり。資質濃厚篤實にして其の行藏翁に髣髴せり。四女、壽子女の夫君茂夫氏又父業を輔佐し一家眷族擧げて一致協力の精勵奮りは業界羨望の的となれり。

(住所 名古屋市中區區田代町宇新地)

### 千葉縣 松戸町

松戸！坂川と上合川との合流するところ、水温み、若蘆芽ぐみ、葦切貝くふ春日の長閑なる眺めは、實に水郷の名を蓋しめず。江戸川の本支江の清冽の流れに澄りたる金鱗銀鱗の閃光は、大公望の血を沸騰せしむるに足れり。水郷情緒横溢の街松戸！、まこと氣品の水郷にして水都なり。人情濃かにして、散策に頗る快適、來訪者の足を止めて彼等の旅程を變更せしむる誘惑の水都たらすんば非らざるなり。松戸の名稱は由来不詳に屬すと雖も、今を去ること遠逝一千八百九十年前、景行天皇の皇子日本武尊東夷御鎮征の御道すが

ら從臣吉備武彦、大伴武比等を此地にて待ち遣せ給ひし所なれば、後世「まつ」と謂へりとの口碑を殘せり。更叙日記に鏡の瀨、松里の渡しとし、義經記に、松戸の庄市川云々とせる等より觀すれば其の名稱の古きを知る可し。故に斯かる口碑に徴しても往古夙に開宏されし所たるは論を俟たざるところにして、八百餘年前、即ち鎌倉時代に遡んで千葉氏に屬し、常胤の所領として東氏所管せしが、常胤の四男胤常が胤早の庄司に任じ松戸もその領域の一部たりしが相模の北條長時が相模臺に居館を築きて以來義宗、久時、宗時の四世に亘り北條家の直轄領地となれり。而して明治元年縣知事支配、同二年小菅縣、同四年印旛縣の所管を経て同六年千葉縣所屬となり、第十二大區小二區に編入せられしが、隨で同十一年葛飾郡役所を松戸に設置されて其所管となる。當時小山村（現小山區）と組合ひて松戸驛（現省線驛に非ず）に戸長役場を置き三矢切並に栗山村は聯合して丁矢切村に戸長を措かれしが、同十七年松戸驛外四ヶ村戸長役場を松戸に置き（栗山村は分離して市川村組合に編入）漸次自治の基礎を擴充して市川村二年町村制施行と共に再び栗山村を加へて松戸町を構成し産業教育施設に特に意を注ぐ、爾來五十餘春秋、文運の發達に伴ひ、或は郡政治の中心と成り、或は商工業の大衆源流地

と成り、町勢頗る隆昌を告げ、縣下屈指の市街地を構成し、昭和十三年四月に至りて東京市設八柱鐵道にて知らるゝ隣村八柱村を吸収合併し、今や諸般の機構に新面目を一新し、町勢の前途春波洋々たるものあるは洵に慶福に堪えざるなり。

### 町長 門 六朗

天賦頭腦明敏にして極めて謹厚の人材。東京府に生誕して關西立沼津中學校を卒業、早稻田大學政治經濟科豫科を了へ、日本大學高等師範部第二部に學籍を置き研修す。後仕官を志し長野縣を振り出しに千葉縣に入り安房郡第一課長より東葛飾主席書記に榮進明村長となり、郡町村長會副會長、郡戶籍寄留研究會副會長其他幾多の要職に推せられ、明村と松戸町合併に依りて松戸町助役に就任し、曩に小林善作氏の衣鉢を繼ぎて現職に就く、八柱村合併に多大の貢獻を爲し、一面縣下異數の町村事務の精通者にして、其將來を囑望すること多大なり。

(所在地 千葉縣東葛飾郡松戸町)

### 土佐セメント株式會社

當社工場は人も知る四國唯一のセメント工

場にして高知市の咽喉たる浦戸灣内瀨江に所在す。背後に社有山林六萬餘坪を擁し、前面一帯は延長一軒餘の岸壁に臨み二千噸内外の汽船常に輻輳す。原料たる石灰石は工場の西約四軒の地點に於て採掘し、架空索道に依り運搬し、粘土は海上四十四軒の須崎方面より汽船にて運搬す。而して工場敷地は二萬三千餘坪、建物百二十餘棟此建坪一萬八千餘坪を算し、セメント焼成用廻轉窯は三・八米長七十四米のもの二基及徑三・二米長六十一米のもの一基にて何れも乾式法に依り操業し日産額計一千五百三十噸の能力を有す。而して當社は明治十九年七月の創始にして、當初セメント製造の計畫を樹て石灰業に従事せる小松龍太郎氏は故工學博士高山龍太郎氏の來縣を好機としてセメント製造の宿志を述べ、工場前海底粘土のセメント原料としての適否につき調査を囑託せし處、最好適たりしかば、茲に於てセメント製造に關する幾多の調査を遂げ同二十九年十月、堅窯セメント工場を従來經營せる石灰製造場の一部に創設し錢屋セメントの商標を附して始めて市販するに至れるものなり。同氏は更に同三十六年一月錢屋セメント合名會社を組織し爾來拮据經營に當りしが後ち同社を解散せし爲、白井鹿太郎、川崎幾三郎、宇田友四郎諸氏相謀りて前記工場全部を譲り受けて新に明治三十八年九月土佐

セメント合資會社を設立し、次で同四十一年八月現稱土佐セメント株式會社の名に於て資本金一百萬圓の株式組織に革め、大正七年十一月資本金を二百萬圓に増加、大正九年四月水力發電所を土佐郡鏡村鏡川流域に新設して自家用電力の充實を圖り、尙同十一年二月土佐石灰索道株式會社を買収して原料たる石灰石の自給自足を計り同年七月火力發電所を當工場附近に建設して水力發電の豫備機關に充て茲に諸般の設備略ぼ完成を見、同十三年四月資本金を四百萬圓に倍額増資を行ひ諸設備に一大改良を加へ内容の充實を行ひし結果頗る能力の増進を示したり。越えて同十五年資本金を一千萬圓に増額し、更に昭和七年十二月改良増設工事に着手し製造様式を最も優良なる乾式法に改め新に七十四米の廻轉窯一基を増設し同時に東工場を廢止するに至り尙在來の二百噸廻轉窯一基を改善して七十四米に擴大すると共に之に附隨する諸機械の外餘熱發電設備擴張、粘土採掘設備其他諸増設工事を施行し昭和九年三月之を完成せしめ生産能力年額四十八萬噸に達するに至れり。斯くの如く當社は需要の増加に伴ひ着々改造、新設等により常に新鋭機械を設備し他方技術の向上に専念して時勢の進運に遅退せざるやう努力し品質も著しく向上し一般需要家の絶讃を博しつゝ今日に迫り。

尙當社製品は昭和九年四月以降老犬淺野セメント株式会社に一任し、當社は一意製品の向上に専念することゝなれり。

#### 常務取締役 下元鹿之助

若冠にして將來の大成を豫約せられ、長じて任官し、縣下の實業界に寄與貢獻して、轉じて事業界に入るや其才腕を發揮して着々地歩を築き上げ今や斯界に噴々の聲譽を馳する長老たり。亦出ては政界に多年飛躍して其輝ける存在を知らるゝ堂々たる才物たり。明治八年八月、高知縣士族下元興業翁の二男として生涯。大正六年分家一家を創成す。資質敏誠にして温健、夙に東京實業講習所を卒業し、高知縣技師に任じ從七位勳四等叙せられ、後高知縣會議議員に推選されて縣治に功勞顯著たり。大正十三年以來興業を擔ひて衆議院議員に當選すること三回に及ぶ。常に事業界に身を投ずるや斯界にも其鋭鋒を顯せる縣下異數の人材たり。現に當社常務の傍ら高知實業代表、高知瓦斯藤原林業各監査役に推舉されつゝあり。

(所在地 高知市孕東町)

### 東京ミシン製造株式會社

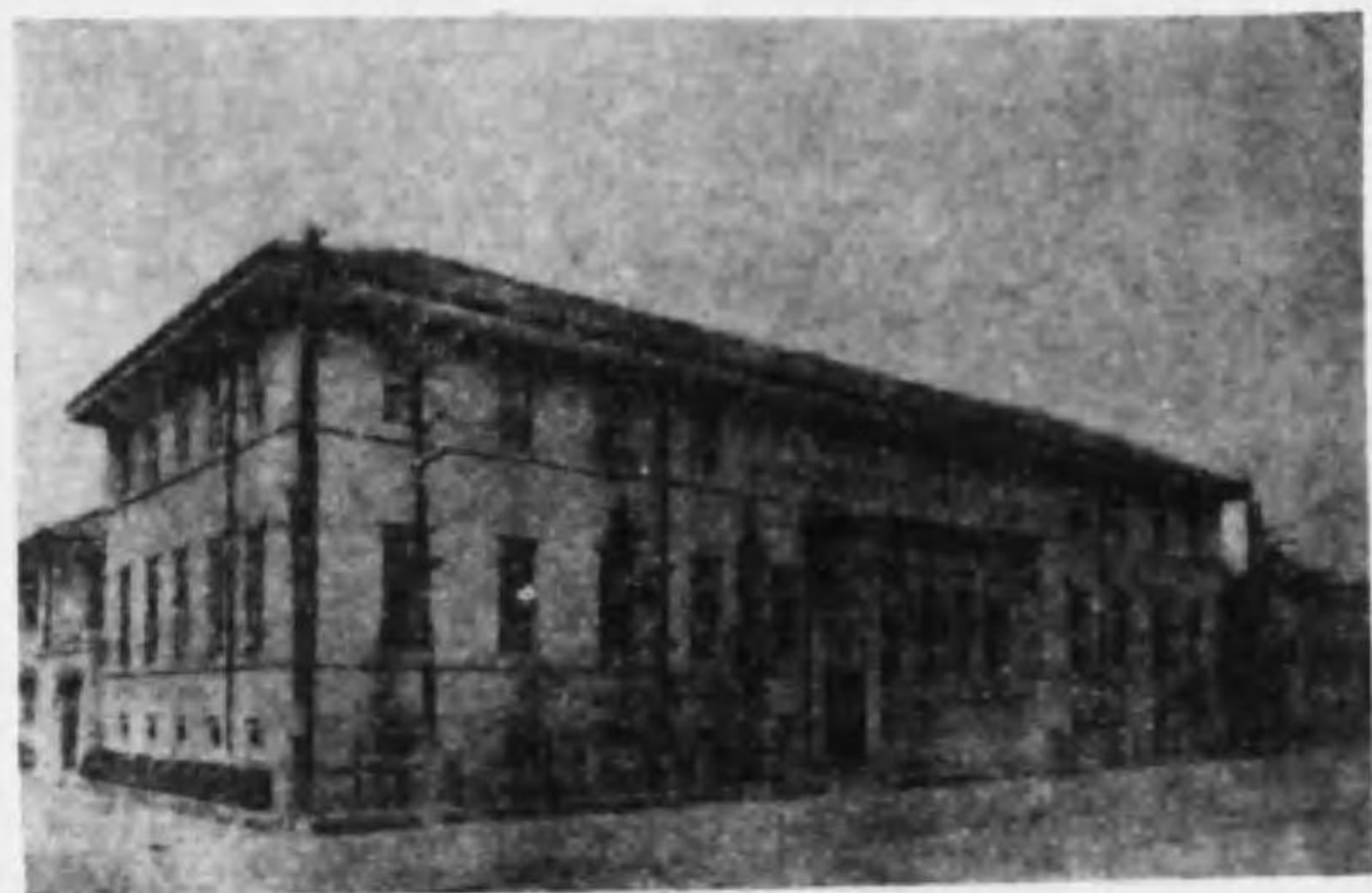
當社は昭和十一年現重役諸氏主唱の下に設

立を告げたる諸種ミシン製造を目的とせるが就中、職業用ミシンは國産品として當社のみが有する技術並に製品を誇示せるものにして今や該機は時局を反映して注文殺到し、その優秀無双の製品の聲譽は冷く認識せられ、殊に陸海軍、鐵道省等を初め各官公署、團體、學校等より大量の注文を引受け業況愈々旺盛を極め居れり。十二年度下期末に於ける成績を通過するに、當期収入は四十七萬二千九百餘圓にして前期に比し二萬六千五百餘圓、率にして五分三厘を減收せるが、之に對し支出は三十三萬一千八百餘圓にして前期に比し三萬六千八百餘圓、率にして一割強を縮少し得たる爲、差引却つて一萬三百餘圓の増收を示現せり。而して當期利益金十四萬一千四百圓の利益率は一割八分八厘強に當り、上期より一分四厘、前年同期より實に八分九厘の増益となれり。當期の製作高は四千二十七臺にして、臺數に於ては上期より三百四十八臺、八分弱減となれるも、之は事業關係に因りて國産品としては當社のみが製作し得る職業用ミシンの受注激増に追はれ自然家庭用ミシン製作遅延せし結果にして、當社の獨占的製品たる職業用ミシンの増加せし事及び前期中生産豫定の遅れし事が却而好調を齎らし一面材料部分品の在庫を多量有せしため材料昂騰に對しても有利なる時運に恵まれしに他ならずし

て如上製作臺數減少にも不拘、却而増益を示せしものなり。當社は上期に於て對前期三十二割を増收し、七分五厘の増益を實現せるに配當を一分増配の八分配當に止め、社内保留率を二九パーセントより一舉五十五パーセント以上に高めて堅實なる利益處分を行ひたるが、當期に於ても一分四厘の増益に對し配當は八分據置。役員賞與金の如きも前期同様にして社内保留に眞摯し、償却を倍額と爲し法定積立金五千圓の外、別途積立金一萬圓、退職手當基金一千圓を各増額せし結果、社内保留率は五十四パーセント強に迄高めしむるに至れり。

而して當期は第二擴張工事の完成に依りて殆んど所期の月産一千五百臺を實現し得たるが、事變勃發にて職業用ミシンの受注消化に追迫されしと、工業用ミシンの製作を鞭撻せられ其試作を完結せし等にて一般製品の製作遅滞せし爲、斯の如く總臺數は却て前期より減少せしものなり。然れ共當期末より軍需品納入を軍部直接並に某大工場より受注し大量生産を行ふことに一決せし爲、事變に因る職業用ミシンの受注増加、外國製品の輸入制限に依る家庭用ミシンの増註、工業用ミシンの完成と相俟ちて、今期収入は著増し以て好成績を擧ぐるは確然たる事情に在り。斯くて當社は今や設備擴張の緊要に迫られつゝあれば

可缺にして、生活の合理化・便利化を齎らすに至大なる貢獻あるが、之には瓦斯竝にその他の諸施設・附屬器具の製造・製作に當りたる人の多大なる苦心の注がれたるは、世人深



山岸商會國產瓦斯器具陳列所

近頃現資本金百五十萬圓を一舉四百萬圓に増資を決定せり。増資擴張完成の曉は所期の成績を擧ぐるは勿論、増資に依る配當負擔の加重を覆ひて増益を収むる事とならん。因に現人的資源は、取締役社長尾辻保、専務取締役前田郁、取締役阿部武雄、同佐藤矢一郎、監査役片岡和雄、同田中親人、相談役大實彌男二、同島内國彦、同石黒爲次郎の諸氏なり。

#### 専務取締役 前田郁

氏は古來巨人を輩出せしむる薩州の出にして、その操履、古今の大先輩と相隔つこと遙かなりと雖も、また薩州人士の美點を多分に包蔵せる一種の人傑と稱すべく、その氣骨の稜々にして俊英なる、その翹望の遠大にして眞摯なる、蓋し當代稀れに觀る異材たり。天賦極めて熱血に富み、事に當りて精悍虎豹の概ありと雖も、其反面情味義氣益々として人を容るゝの雅量あり。當社設立に當り、同郷先輩にして現社長たる尾辻保氏の良佐として専務に推舉され以て今日に至る。

(所在地 東京市京橋區京橋一ノ三)

### 山岸商會

瓦斯は都市に於ける各家庭の生活に必要不

く之を銘記せざるべからず。山岸商會は關西に於ける瓦斯器具専門店として斯界の最高峰を以て目せられ、その名聲定に噴然たるものあり。當店は明治三十年大阪市東區唐物町に於て山岸喜之助氏に依りて創始せられたるも

のなるが、當時瓦斯事業創る幼稚にして、幾多改善の餘地を殘せし所より、山岸氏瓦斯事業の將來性に着目して決然として瓦斯器具の改良に志し多額の經費と絶大なる心血を傾注して各種瓦斯器具の改良發明に成功せり。時代の進運と共に瓦斯の需要は急テンポを以て増進し、之に伴ひて當店の事業は多大の盛況を呈するに至り、業運隆々として勃興して目覺しき發展を遂ぐるこゝなれり。當店は大坂に於ける瓦斯熱用器具商の始祖をなすものにして、その商品の優秀にして信用の堅確なる斯界獨歩の地歩を有し、他店の追隨を許さざる所なり。昭和二年に至りて現在の地に營業所・組立工場を新設移轉し、事業に大擴張を行ひて一大飛躍を遂ぐるに至れり。その後相次いで擴張せられて、現時敷地總坪數一千餘坪に上り、各種諸施設業界に比倫を許さざる所なり。尙ほ當商會に於ては國產瓦斯器具の紹介、技術の改良・發明考案の獎勵を目的として國產瓦斯器具陳列所を設立し、あらゆる種類の瓦斯器具を陳列して、之を一般市民に公開せり。陳列品の種類數千種に達し施設萬端完備して瓦斯器具の一大博物館をなすものにして、實に斯界の貴重なる參考資料の寶庫をなすものといふべし。當商會の製品の優秀なる所より需要目を逐ひて著増し、生産設備に不足を告ぐるに至りたるに依り、新らた

に某所に一大工場を設置すべく、着々として計畫を進めつゝあり、當商會の今後の躍進こそまことに著しきものあるべし。創業以來經營方針頗る堅實を旨となし、且つ又瓦斯器具の改良發明に没すべからざる功績ありて、業界に精進たる名譽を博し、その信用の博大なる斯界隨一なり。當商會は從業員に對しては多大の優遇をなし、種々の福利施設を設け、眞に家族主義を以て之を過せるに依り、上下の間まことに和氣藹々たるものありて、協力一致して業務に精勵せるを以て、將來の躍進まことに期して俟つべきものあり。尙ほ當商會は店主山岸喜助氏主宰の下に、嗣子喜之輔氏總務部長に、次男喜久之助氏製作部長に、三男喜知之助氏營業部長に、四男喜代之助氏財務部長にそれづゝ就任して、父子協力して事業の發展に精勵しつゝありて、その團練の態は斯業界並に四隣羨望の的たり。

**經營主 山岸喜助** 慶應二年に生れ、幼にして穎脫の才を有し、早くより事業界に身を投じ、大いにその銳鋒を現して鷗翼を斯界に張るに至りたり。質實堅確にして素志健剛、熱誠熱直業務に傾倒し、八方馳騁して大いに快腕を揮ひ、業界の耆宿として景仰せらる。資性渾泰謹厚、寛容にして敦厚、心性頗る高潔にして風眉隆準、人品圓滿玲瓏にして、事

業界稀有の人格者にして公共精神に富み内外の畏敬を鍾めつゝあり。  
(所在地 大阪市東區唐物町三丁目)

### 機業家 福岡金次郎

優秀無比・華麗絶佳の織物の名産地として京都機業界は古來より斯界に覇をなし、管内のみならず海外にまでその名譽轟きとして製品に對する世の聲價まことに噴然たるものあり。福岡氏は京都機業界の巨擘として絶大なる信譽を博し、その事業規模頗る宏壯にして、その製品の優秀なる所より斯界の彩華として仰みがる、嚴君福岡金次郎翁は生家が福井に於て羽二重の販賣を業となせしより、翁は幼少より斯業に對して、多大の興味を抱き、明治二十八年親族の反對に抗して京都に出で、具さに辛苦を嘗めて製織の技術を修得し、後獨立して機業を創始せり。新機軸を開きて斯界に新生面を拓開せんと欲し、西陣獨特の製織法を應用して羽二重に類せる織物を製作し、海外輸出を行はんとして夙起晚寢して多大の心血を傾注せしが、その苦心の効空しからず遂に之が製作に成功し、頗る異色に富む優秀なる織物を製造して海外市場に多大の絶讃を博し、需要目を逐ひて著増して一躍

西陣機業界に頭角を抜んづるに至れり。即ちその輸出金額が常に業界の首位を占め、事業頗る盛況を極めてその聲譽赫々たるものありき。當主金次郎氏は幼名を金三郎と稱し、明治三十八年二月に呱呱の聲を揚ぐ。昭和二年彦根高等商業學校を卒業し、昭和八年嚴君の長逝するに及び、餘未だ若かりしが、氏は直ちに家業を繼承して、同時に金次郎を襲名せり。氏は精勵勉勵して經營に精勵し、家業大いに勃興するに至れり。氏の經營に拘る工場は設備最も完備し、最新式の精銳設備を備へ同業者の比肩を許さざる所たり。輸出物は主として歐米向き婦人服地にして、その他洋室裝飾織物を製作し、氏は又先考存命中より企圖せし内地向製品の製作にも手を染め、是れ又多大の成績を収めたり。内地向き製品としては婦人服地・コート并にシヨール及傘地を生産す。現在の工場設備を見るに、最新式織機六十餘臺、又從業職工二百餘名に上り、年産額實に三千万圓以上に達せり。當主金次郎氏は寡黙謹直にして素志堅確・平素多くを語らず、拮据經營に専勵して一心を之に傾倒せり。その頭腦犀利緻密にして明晰果敢以て事業に當り、その才腕は夙に業界の深く推敬する所たり。氏は常に前垂れかけにて雇人と共に働き、寢食起居何等の區別を設けず、雇人の何人をも家族の一員として遇し、雇人又氏

を慈父の如くに敬仰し、その豊かなる仁情に對して衷心より悅服せり。店內更に和氣溢れ一致協力して事業に勵精せるに依り、業運益々進展をなし、家道大いに繁榮を加ふるに至れり。氏の人格は同業者の間に絶大なる信譽を得て、その名聲大いに揚り、その前途多大の期待を以て矚目せられる所たり。  
(住所 京都市上京區上立賣通淨福寺西)

### 松下電器産業株式會社

各種電氣器具の製作會社をその傘下に抱擁して電氣器具製作事業の一大トラストを形成し、事業頗る旺盛を極めて近時關西財界に一大話題を提供せるを當社となす。主宰者松下氏斯業を創始して十數年、拮据勉勵全力を傾けて多大の成功をなし、昭和八年七月門真工場を完成して二萬坪の敷地には最新最高の設備と技術を誇る大工場、本店營業所等を設立せり。其の後更に一大躍進を遂げ現在當社は松下無線、松下乾電池、松下電器、松下電熱松下金屬、松下電器直賣、松下電器貿易、松和電器商事、日本電器製造、ナショナル滿庵製煉所、ナショナル電球の各社を傘下に擁す。その外ナショナル蓄電池、岡田電氣商會、朝日乾電池、増井電器各社とは密接なる關係に



松下幸之助氏

あり。大阪、東京、神奈川、愛知の各府縣に工場を設け、何れも設備優秀にして技術卓抜他の追従を許さず。製品又頗る優良にしてその販路廣く、東京・名古屋・金澤・福岡・京城・滿洲に出張所を設け、更に全國一流の大商店二百餘が當社の代理店となり、販賣店十萬餘を數へてその販賣網は水をも洩さず完璧を極めり。當社の老成なる生産設備は常に全日本の需要を充たすに止らず、更に海外へ多大の輸出を行へり。充實せる輸出部の手には依りて、滔々として海外市場へ進出し松下の名は今や國際化するに至れり。製品取引額は年額一千萬圓を突破して、年増加の一途を辿れり。現在全從業員は四千名に垂んとし年々大學、専門學校、中等學校等より百名内外の秀才を集め、一方店員養成所に於て優秀の少年を選抜して訓練を行ひ、これによりて當社は優秀なる人材數多網羅せられたり。尙ほ最近松下電器産業は公稱資本金一千萬圓拂込三

百萬圓なりし所、一百万圓の拂込徴収をなし一方松下金屬工業に於ては資本金を六十万圓より更に一百万圓に増資して工作機械に主力を注ぐこととなり、更に松下電器にては新たに五十萬圓の拂込を徴収して公稱資本金二百萬圓拂込資本一百万圓増加する等、それづゝ事業に一大擴張を加へ、大躍進を遂げんとせり。まことに、當社の前途こそ實に洋洋たるものありといふべきなり。

### 社長 松下幸之助

氏は松下電器産業の總帥にして、斯界の明星たり。その一舉手一投足は斯界の大勢を左右するの力あり。氏は實に立志傳の第一頁を飾るに足るの人物にして、大正七年二十三歳の弱冠を以て事業を起し、奮勉勉勵してこれに邁進する堅忍不拔全力を盡くして傾倒し、遂に今日の大をなせり。明晰果敢世才腕ありて、事業經營に目覺しき成功を齎らせり。渾泰謹密にして襟度寛容、多數從業員より慈父の如くに瞻仰せらる氏は從業員の福利施設の爲めに力を注ぎ、又は人材を拔擢する等、骨肉の如くに斡旋をなす。氏の諄々として訓戒する時從業員は心より傾聴してよくこれを遵奉す。當社は一家族の如くに上下の關係圓滿にして、和氣藹々全社内充滿して、氏の前途こそ實に洋洋たるものあり。因に氏は明治二十七年十一月大政府

松下政楠氏の三男として生る。  
(所在地 大阪府北河内郡門真村)

### 昭和産業株式會社

俊英の智能と群抜の才腕とを以て近時事業界に頗る名聲揚げる伊藤英夫氏の主宰せし、日本加里工業・日本肥料・昭和製粉・昭和産業の四社は、去る昭和十三年三月合同して資本金一千六百二十萬圓の昭和産業株式會社として事業界に堂々たる威容を現し、世人をして多大に驚嘆せしめたり。日本加里工業以下前記三社は伊藤氏の經營に拘る姉妹會社にして、何れも業界の精銳として異彩を放ちしものなるが、今回の大同團結に依りて十指に餘る多角經營を行ふこととなり、事業界に獨特の領域を開拓せり。その事業は肥料・製粉・製油・人造絹毛・毛織物・飼料・製糖・化學藥品・他商品販賣部門等なり。肥料に於ては年産五十萬疋の生産能力を有し、その内容は化成肥料チツカリン・神威・國威を始め當社獨特の重過磷酸・配合肥料・豆粕・各種油等にして、製粉は日産五千五百バレルを有して、其製品には三笠印・初穂印・昭和印・愛國印等十種類に達し、製粉界の新銳として近時の躍進顯著なるものあり。當社の製油は現

在植物油が中心をなすが、最も期待せられるは亞細亞大豆を原料とする大豆油の製造及び其副産品の處理にして、その設備は原料大豆處理能力一日二百噸に達し、我國最新式のベンチン抽出法によるものなり。大豆油を抽出せし大豆粕は有機質肥料界の王座を占め、最近にては人造絹毛・調味料・カゼイン・ペーケライト等の原料に供せらる。今同當社は人造絹毛製造に進出することとなりたるが、該事業は我國に於ける嚆矢たるのみならず、世界各國に率先して工業化するものとして多大に注目せられつゝあり。人造絹毛は原料が滿洲國に於て豊富に産すること、價格の低廉なること、保潔力強大なること、組成分子が羊毛絹と殆んど同一なること等の數多の特質を具へ、其將來には多大に期待すべきものあり。人造絹毛の製造と共に之を紡毛し、更に紡織染色にまで至る生産設備を新たに建設しつゝあり。次ぎに製粉・製油の際に生ずる燐・豆粕等を利用し、他に十數種の原料を混合して養雞用飼料・或は牛馬豚用燐の製造をなし多大の好評を博せり。尙ほ又甘藷澱粉の原料に依りて澱粉餡の製造を開始すべく、生産設備の建設を行へるが、之が完成せば日産五十噸の規模を以て操業に入るの豫定なり。現時當社の工場数は十工場を數へ、生産設備完備して斯界の雄として目され他に當社の支配下

にある任會社は十四に上り何れも内容に施設に頗る充實せり。元來當社は經營方針頗る堅實にして内容の整備充實に銳意力を盡くし來りしが、他面時流の動向に一步を先んじ、進取積極を旨として常に業界に率先新領域を開き、社業歷年躍進し業運目覺しき進展をなし、財界の彩華として謳はれたり。最近の大合同に伴ふ社業の刷新に依り、今後の躍進こそまことに刮目して俟つに足る。因に當社の重役以下の如し。社長伊藤英夫、常務安達三雄、取締役加瀬大助、同關義雄、同關根庭三郎、同森輝、同金澤重、同砂押忠八、同碓井榮次郎、同湯淺伸、同山村新次郎、同小野寺勝一郎、同木村良吉、同淺野藤、同後藤八郎、監査役岩瀬亮、同濱野佐一郎、同戸田三郎、同飯室秀男、同岡田藤太郎氏の諸氏あり。

る所あり。氏は日本加里、日本肥料、昭和製粉、昭和産業等の各社を經營し、何れも多大の収益を擧げて事業界注目の的となれり。資性卓犖豪放にして剛毅果斷、澄利たる元氣の持主にして財界場裡を縱横に馳驅して天賦の才腕を揮ひ事業愈々活況を加へり。前途春秋に富み、將來財界の巨頭として頭角を抜んづる偉材として、多大の期待を受く。

(所在地 東京市京橋區實町一丁目)

### 高知商工會議所會頭

### 入交太藏

近來各種産業の勃興飛躍目覺しく、名實共に四國屈指の雄市として市勢發展の一途を邁進せる高知市には、素より幾多實業界の巨豪俊彥參集し、各自卓腕を發揮して活躍縱横なるものありと雖も、實に我が入交太藏氏の如く少壯氣銳の澄利たる勢威を以て驚天動地の大活躍を擅にし、當市事業界を席捲し居れるものは、寧々として恰も曉天の星の如く、容易に他に見出し難き稀有の存在なり。氏は先代榮治氏の二男、明治二十九年八月十四日を以て呱呱の聲を擧げ、幼少既に聰明俊敏、穎智の閃々たるものあり、其の前途に多大の囑望を寄せられたり。而かも生來獨立不羈の精神に富み、將來の活躍舞臺を實業界に求むる

や、奮然父業を繼ぎて斯界に身を投じ、以來粉骨碎身、克く不撓不屈に一貫し、其の主宰經營せる入交商店をして一層業運盛大ならしめ、以て業界に驕足を伸ばす已みならず、亦た高知瓦斯、共同石炭等の社長に就任、或は土佐電氣、土佐セメント、土佐バス、土佐倉庫等の取締役を兼ね、縣下一流會社に關與してその發展興隆を促進せしむる一方、更に土佐石炭同業組合長に推されて鋭意専心事業の圓滿なる發達を圖りて遺憾なし。されば衆望翕然として聚り、令名愈々高く、遂に高知商工會議所會頭の樞椅に擧げられ、茲に全く當市實業界の王座を占むるに及べり。即ち土佐の生々し斯界の大御所、宇田友四郎氏の親業後繼者を以て推さるゝ所以たり。資性濃厚篤實にして謙讓に富み、幾多の功績あれども誇らず、而かも福徳圓滿の相を備へて人に接するや、恰も一見舊知の如く、春風臨瀟たる感に對者を浸たらしむるあたり、正に才にも非らず、術にも非らず、自ら具備せる人徳の然らしむる處ならん。而して人格素より高潔所謂世の實業家連の如く、私利私欲を圖りて汲々たる唯樂折す可き態度微塵も無く、常に光風霽月の心境に在りて一意實業報國に邁進し居れる模範的實業家なり。蓋し稀に見る人格者として衆庶の尊敬絶大なるも、當然の時趨と云ふ可きなり。因みに趣味として繪畫

骨董に深甚の興趣を抱き、其の造詣亦た頗る深しと聞く、以て其の風格の一端窺知するに足らん。尙ほ家庭には温雅貞淑の聞え高き庄夫人あり、其間長男太一君、二男太二郎君、長女澄子嬢、二女喜美子嬢を擁して一家和氣霽々たり。

(住所 高知市廿代町)

### 千葉市院內尋常小學校

當校は昭和三年四月の創設に拘はり、同年十一月校舍落成を見るや、同月十七日移轉二十一日を以て開校式を舉行せり。而して市内第一小學校及第二小學校より児童を收容し來りて十二學級編成となし、更に大正十三年四月二十三日設立せられたる穴川分教場を本校に屬せしめ、從來一學級なりしものを二學級に編成、其後児童數遂増に伴ひ昭和五年度及六年度に各二學級を増加し、次で同七年四教室の増築完成と共に更に二學級を加へ、本校十八學級編成となりては現在に及べり。而して一方本校備品は創立當初に於て大部分を、前記第一及第二小學校より仰ぎたるも、其後着々各種教授用具の整備充實を圖り、概略其の目的を達成せりと雖も未だ充分ならざるものあり、殊に特別教室並に講堂の竣工せざる

は、實質的教育の成果顯然たるに比較し、些か雷轟聳動を缺くの憾みなしとせず、然れども當局者の熱誠努力に依りて擴張増設計畫の進捗著しき處、近々必ずや學校待望の該建築物の竣工せらるを見ん。現在校地敷地は本校二千七百五十六坪、分教場四百四十六坪を有し、校舎敷地は本校六百二十九坪にして普通教室十八、裁縫室一、教員室及應接室各一あり、亦た分教場は七十五坪餘を算し、普通教室二、裁縫教室及教員室各一の設備を有せり而して之が收容児童数は男生徒五百二十四名女生徒五百十八名、合計千四十二名を擁し、校長以下二十餘名の教職員各自擔任學級を保持ちて、本校教育精神の本義に則して献身努力、克く智育、德育、體育三者一體となれる指導方針に銳意健全なる第二國民の養成に當りて遺憾なし。就中當校體育方面に斷然他校に誇る可きものあり、即ち體育衛生に關する積極的施設として體操科に於ける鍛練、夏季特殊施設に依る鍛練、衛生時報に依る訓練及衛生注意、榮養改善及補給、虚弱兒童夏季聚落、衛生週間、體育カードに依る家庭との聯絡等を施行、以て成果漸次顯現せらるゝ處、當市教育界注視的たるを失はず。蓋し國家益々多事なるに際し、吾人の衷心求めて已まざる理想的小學校に近きものとして、學燈煌々たるも當然の歸趨と云ふ可きならん。



白井辰次氏

校長 白井辰次 氏は當市稻荷町の出身明治二十九年五月を以て呱呱の聲を擧げ、大正五年千葉師範學校卒業後、印旛郡川上尋常高等小學校訓導を振出し初等育英界の人となり、爾來第四千葉尋常小學校、都尋常小學校、蘇我尋常高等小學校、成田尋常高等小學校、長作尋常小學校訓導校長に昇進し、超えて同八年三月本校々々兼訓導に榮轉せる縣下教育界稀に見る新進氣鋭の名校長なり責任濃厚謹直なる裡に烈々不憚轉の負けし魂に燃え、旺盛なる研究心を凝して一意普通教育の刷新向上を圖り、常に異數の成果を収める處、其の功績赫々たるものありて高等官八等を以て過せられ、正八位を賜れる外、昭和十二年二月千葉縣知事より教育功勞者として臨時計並に表彰状を授與せられ、今や學徳兼備而かも眞摯熱誠なる新時代の模範的教育家として校内生徒教員は勿論、洽く縣下讀者の尊敬信賴を聚めつゝあり。

(所在地 千葉市千葉光寺一四三一)

主配當をなして決算頗る餘裕々たり。尙ほ昭和十三年三月當行は、日本勸業銀行に合併せられ、現時日本勸業銀行大津支店と改稱せられ、不動産金融其他に關して舊に倍して活躍しつゝあり。

頭取 猪田岩藏

明治七年一月滋賀縣神崎郡北五ヶ莊村に生る。當家は聞へたる素封家にして、氏は若冠を以て、村長に推され續いて郡會議員、信用組合監事、縣農會議員等に歴任す。後縣會議員となり、同縣農會長に推戴せられ、地方自治と農村振興に勵精する所大なり。大正十三年當行監査役となり、次いで頭取に選任せらる。天資、濃厚謹嚴、且つ至誠謙讓の美德を備ふる人格者にして縣下有數の偉材なり。

取締役支配人 奥田權之輔

氏は明治七年十月滋賀縣所中庄に生れ、同二十五年縣立商業學校を卒業す。三十一年滋賀縣農工銀行の開業と同時に入行せる至實的存在たり。主計主任を経て調査係主任を兼ね、梅風沐雨職務に没頭せり。温健の思想家にして事務的才腕に非凡にして、業務の發展に寄與する所大なり。一面勤儉力行の人にして寡黙温厚の人格は衆人の厚く信望を寄する所たり。

(所在地 大津市坂本町)

高知縣電氣局

我が國縣營電氣事業の嚆矢として、光輝燦たる歴史を誇る一方、南海の雄縣高知縣下産業文化の振興發展に寄與貢獻する事絶大なる高知縣電氣局は、明治三十五年以來幾多縣會の波瀾重疊を経て同三十九年十月、喜峰疏水普通水利組合より水利權を買収し、遂に水力電氣事業の基礎を確立したるに創業の端を發す。即ち同年十二月を以て工事に着手し、更に當時縣下産業の趨勢は發電計畫を増大して之が促進勃興を圖るの要あるを認めし故、茲に當初の計畫たる五百馬力を一千馬力となし工費十八萬圓を追加して、縣民待望下に同四十二年一月竣工を見、同年二月一日以來高知市に送電を開始せり。而して當時に於ける供給區域は高知市及び土佐郡下の六ヶ村に過ぎざりしが、翌四十三年六月經費七萬圓を以て二ヶ年繼續の事業擴張計畫を樹立し、香美、長岡兩郡十五ヶ町村を供給區域に收容せるを始め、爾來數度に亘りて發電所の建設、供給區域の擴張を實施すると共に、他大正十五年二月、白髮山水力電氣株式會社の買収を第一として、超えて昭和六年大橋水力電氣株式

滋賀縣農工銀行

滋賀縣下不動産金融に盡瘁すること多年、縣下の産業振興に寄與すること顯著にして同縣金融界の王座を占むるが滋賀縣農工銀行たり。明治三十九年縣當局は設立委員を任命して創立事務に當らしむ。資本金を五十萬圓となし、總株數二萬五千株中一萬八千餘株を公募せしに、非常なる人氣を以て迎へられ到底これが希望に應ずる能はず、了解を求めて資力に比例しこれが割當をなせり。明治三十年十二月創立總會を開き、翌年三月營業を開始す。着々として事業を進め、同年日本勸業銀行代理店の事務を取扱ひ、三十二年二月滋賀縣金庫事務をとる。爾來着々として發展をなし、大正二年には倍額増資せられて百萬圓となり、同九年には更に二百萬圓に増資せられ業況甚だ繁劇を呈するに至れり。支店四ヶ所に特設せられて縣内に隈く金融網を敷設し、産業の振興と不動産金融の圓滑に全力を傾けその貢獻没すべからざるものあり。業績内容共に優良にして、年々順調なる發展を辿り來りたり。最近に於ける農工債券發行高は一千二百六十九萬圓、總貸付一千七百七萬圓、諸積立金一百二十二萬圓に達し、毎期一割の株

會社を買収、其後更に土佐東部電氣、日本紙業電氣部、香美電氣、安喜水力電氣、南海水力電氣、伊豫鐵中村出張所、四國水電、榑原村營、七郷村外二ヶ村水電組合、佐賀水力電氣、北土水力電氣等、各電氣事業の讓受を行ひて飛躍的發展を遂げ、今や其の供給區域たるや、實に土佐電氣株式會社區域を除きて殆ど全縣下に及び、總發電力二萬五千キロ、投下資本一千七百萬圓に達し、縣下各種工場の誘致に成功、以て縣産業の振興隆榮を圖ると共に、更に愛媛、徳島兩縣に送電して所謂四國文化産業の源泉を爲し、當地方一帯の發展股脈に處して功績渺ならず。而かも創業以來着々利益増加し、昭和九年度以後毎年三十二萬圓を一般縣會計に、或は大正九年度より一萬圓を特別會計育英基金に繰入れ、營業の基礎愈々強固を加ふるに至れり。現在發電、變電及び送電設備は發電所二十二ヶ所、變電所十二ヶ所、送電線路三十六本を有し、更に加枝及び野根發電所を増設中なり。而して昭和十一年度に於ける供給電力は晝間二萬五千四百餘キロ、夜間二萬三千二百餘キロ、亦た供給電燈數は十八萬五千二百餘燈にして逐次増加の趨勢に在るは勿論、其の營業收益の如きも年々増加し、今や悠に二百萬圓を突破する盛況を辿るに至れり。

(所在地 高知縣高知市)

會社 北村商店

業礎鞏固にして商況甚だ盛賑を極め、全國に廣大なる販賣網を布きて業勢隆々たる躍進をなせる合資會社北村商店は、業界の彩華と仰ぶがれ、その信用まことに噴然たるものあり。専ら酒精、エーテル・メタノール・アセトン・醋酸及各種溶劑・ホルマリン・合成樹脂・各種纖維素・軟化劑全般・專賣特許無臭無味の製造販賣をなし、その製品類の優秀にして他の比倫を許さざる所なり。當社の創業は明治二十五年のことにして先代北村長三氏個人經營として創始せり。常に堅實を旨とし眞摯經營に精勵したる所より事業歷年發展を見るに至れり。即ち、大正六年九月、北村傳次郎、北村省三、北村芳郎、支配人中川林藏諸氏相圖り、一百萬圓の資本金を以て合資會社に改組し、社業に一大改革を加へて、一大飛躍をなすこととなれり。斯くて代表社員たる北村傳次郎氏の頭才と、其他の諸氏の活躍とに依り社業は愈々好調の一途を辿り、昭和十二年四月には資本金を二百萬圓に増資して事業一大膨脹を遂げ業界驚異的とせらる。當社の工場は布施市長堂三丁目及大阪市旭區鴨野町に設立せられ、前者を株式會社大八化

學工業所、後者を大日本エーテル工業株式會社に於てそれ／＼經營をなせり。何れも最新最優の設備を有し、斯界の追隨を許さざる所なり。當社の販路は頗る廣汎にして、内地一圓臺灣・朝鮮・滿洲・支那に及び、内地に於ける主たる需要先は陸海軍・諸官省・造船所・病院・セルロイド製造・染料・塗料・化學工業・製藥各會社・コロジオン商・酢造家等多方面より需要あり。その一ヶ年の販賣高平均六百萬圓に上り、毎期の利益配當率一割を超ゆるの好成績を挙げ、事業頗る盛賑を極めり。基礎鞏固にして取引の堅實なる所より非常なる信用を博し、野村・住友・三井・三和第一百等の一流銀行と取引せり。時局關係よりして近時商品需要益々著増しつゝあるを以て今後の發展こそ眞に刮目して俟つに足る。東京に支店を、名古屋・門司に出張所を設置せり。現時當社の代表社員には北村傳次郎、北村省三、北村芳郎の諸氏あり。

代表社員 北村傳次郎 資性溫恭にして勤嚴、眞摯熱直業務に没頭して多大の實績を擧げ、當社の柱石として仰ぶがれる氏は、夙に大阪藥學校を卒業し當社の業務に執掌すること既に三十年の久しきに及べり。氏の熱心なる努力と天賦の才腕に依りて、當社今日の發展を齎らされたるものにして、その清高の人格と相俟つて業界有数の材幹として多大の推敬を受けつゝあり。

代表社員 北村省三 氏は棚池恒二氏の令弟にして明治二十五年兵庫縣に於て呱呱の聲を擧ぐ夙に北村商店に入り、業務に従事すること三十有餘年、東奔西走して大いに敏才を發揮し、當社の發展に貢獻する所僅少なからず。俊英の智能と卓動の手腕を以て業界の彩華として畏仰せらる。

代表社員 北村芳郎 才氣煥發にして少壯敏腕の事業家として大阪財界に名聲高き氏は夙に神戸高商を卒業し、後事業界に身を投ず。資性溫謹謹厚にして氣宇俊邁、萬敏の智能と渾身の意氣を具へ、將來斯界に頭角を抜んずるものと多大に矚目せらる。傍ら大日本エーテル工業取締役たり。明治三十二年大阪に於て生誕す。

(所在地 大阪市東區平野町二丁目)

株式會社 第一相互貯蓄銀行

當行は過ぐる大正十一年二月、第一生命保險相互會社社長矢野恒太氏發起の下に、設立を遂げたる貯蓄銀行なるが、創業以來第一生

日本紙業株式會社 伊野工場

日本内地及び鮮滿地方は勿論、遠く支那、南洋、北米、南米、歐洲各國等に廣汎なる販路を有し、世界的飛躍を擅にする本邦紙業界の雄、日本紙業株式會社の有する斯界に誇るべき三大工場の筆頭に屈指せられ、紙業王國土佐に偉大なる存在を顯はるゝ當伊野工場は明治十九年伊野精紙合資會社時代に發し、爾來合資會社土佐紙工業部、土佐紙工業株式會社、土佐紙株式會社伊野工場等、幾多の變遷推移を経て大正十五年茲に現工場名に改稱するに至り、其後更に從來施設に擴張充實を加へ、或は技術の向上、製品の改良に鋭意研鑽努力を累ね、遂に名實共に堂々斯界に君臨する偉容を示すに至れり。今や工場敷地九千九百二十七坪、工場建坪二千九百五十坪及び所有山林其他四町七段歩を占め、各種機械の整備充實せるは素より、職員二十名並に男女工二百五十名を擁して活氣旺盛なる操業狀況を呈し、生産高の如き年々増加の趨勢を辿りて昭和十年度には十七萬五千貫、百二十九萬五千圓に及ぶ産額を擧げ、其の主要製品たる各種コッピ紙、帽子原紙、金箔用原紙、醫寫版原紙、複寫用薄葉紙、内地向半紙、書院、

命保險相互會社の偉力と、矢野社長の人格識見を遺憾なく發揚して逐期異様な成績を擧げ、業礎の確立を期して現今の隆昌を招來せしめたり。而して昭和十二年下期業績を通過するに、預金は相變らず極めて順調なる増加の一路を辿り、前期に比し實に百九十九萬四千圓を著増して三千二百四十三萬四千圓を計上したり。尙周知の如く當行は預金者に對し一定の利率以外に、終始若干の配當金交付を實行しつゝある爲、常に資金の運用に腐心せるは推服するところなり。尙ほ當期純益金は行員退職慰勞基金戻入三百三十九圓を加へ十二萬九千二百二十九圓を得、之れを準備積立、基金に二萬五千圓、役員賞與金六千四百四十五圓、株主配當金一萬五百圓（年六分を踏襲）に處分し、殘餘八萬七千二百八十五圓の中、一萬七千四百五十七圓は株主第二配當金とす。（この中年二分に當る金額支けを配當し、兩餘の一萬三千九百五十七圓を株主第二配當準備金として後期に繰越せり）。六萬九千八百二十八圓は預金者配當金に充當せるが、その内譯左の如し。（單位圓）

- 普通貯金配當金 四一、八四四
普通貯金配當準備金 三、六七八
定期積金未持配當金 二二、四三二
定期積金配當準備金 一、八七三
因に當行現資本金は一百萬圓（内拂込額三

專務取締役 本間 好茂 新潟縣土族本間好兼翁の嫡男として明治五年十一月に出生。長するに及んで東大英法科を同三十二年に卒業す。同四十一年第四高等學校教授に任ぜられ後之れを辭し、日本銀行文書局調査役に就任し敏腕を以て名を馳す。昭和七年當行專務取締役に推選され、以來精勵以て今日に至り。傍ら貯蓄銀行協會監事たり。天賦冷頭快手にして謹直、要領壯者を凌ぐ概を以て當行の爲奮命しつゝあり。

專務役員兼支配人 桑原 安二 明治十九年四月和歌山縣桑原五郎兵衛の五男に生る。資性頭腦明晰にして溫厚、同四十三年早大政經科を卒業す。後ち函館貯蓄銀行支配人、愛知銀行東京支店長代理に歴職せる銀行界に深詣の士たり。大正十一年當行設立爾來格勤實に二十年に垂んとす。本間專務の良佐なり。

(所在地 東京市京橋區京橋三丁目)

青宮眞及陽畫感光紙、習字用紙等は何れも品質優秀にして國産紙の代表的逸品たり。されば世界需要界に日本製紙の眞價を高揚し、洽く好評噴々たる一方、亦た社運の興隆發展に獻替せること多大、即ち業績昭々として舉り勢威當地業界を風靡するの概あり。

### 工場長 土居政之助

土佐紙業界の重鎮として聲望隆々たる氏は、其の卓絶不羈なる性格と、犀利鋭敏の手腕とを父子相傳に顯示し、以て紙業王國高知縣人の美點を遺憾なく發揮せるものと稱すべきならん。即ち氏の父君土居喜久彌氏は遠識卓見、克く斯業の發展興隆に獻替し、手漉製紙法を機械漉法に轉換して一大改革を齎らせるのみならず、更に國産紙を海外市場に雄飛發展せしめ、本邦紙業界に一新紀元を劃せる先覺者、其の偉功は辨々として永久不滅の光輝を發し、殊に最も關係深甚なりし土佐紙株式會社の沿革發展史に特筆大書す可き大功勞者なり。是實に氏の多年に亘る苦心研究、絶大なる犠牲を拂ひて獻身紙業報國に奮勇往せる賜にして、業界の大恩人として尊敬瞻仰を一身に聚めしも、蓋し當然の歸趨と云ふ可きなり。而して政之助氏は其の英資を承けて明治二十六年九月、伊野町に呱呱の聲を擧げ、夙に市立商業學校を卒へるや、直ちに土佐紙株式會社技術部に入

り、茲に將來大紙業家たるの萌芽を發せり。由來當地は斯業の黄金境を以て鳴り、幾多人物輩出せること論を俟たざる處、即ち氏の才幹年と共に鋭鋒を加へ、既に卓然斯界の麒麟兒として名聲を馳せること久し。斯くて大正十五年當工場長に拔擢せられ、爾來十有餘年専心工場の擴充發展を圖りて、更に本社業運の盛大に貢獻し、偉名益々光輝を發し居れり。資性豪放磊落にして斗酒猶ほ辭せざる酒豪家、而かも諸般の運動に卓技を有し、剛毅健全なる思想の所有者たり。

(所在地 高知縣吾川郡伊野町)

### 山梨貯蓄銀行

山梨縣唯一の貯蓄銀行として堅實なる發展を遂げつゝある山梨貯蓄銀行は、過ぐる大正十年十月の設立に屬し、現時資本金一百萬圓(内拂込額五十萬圓)を擁せり。設立以來二十年、専ら縣下中小商工業者並に農民の手輕なる金融機關として多大の貢獻を賦與し來れるが、其反面間接に山梨縣下の各種郷土産業興隆に盡せし功は容易に没すべからざるものあり。

茲に最近即ち十二年下期業績を観るに、當期間は支那事變の裡に終始し、地方農村は遠



山梨貯蓄銀行

因に現人的要素は、代表取締役名取忠愛、取締役寺田喜平治、同細田武雄、同堀内啓治、同小野美太郎、同矢島榮助、同大木喬策、同兼支配人仲澤次太良、監査役河西豊太郎、同山本仁作、同横澤三九郎の諸氏なり。

### 取締役兼支配人 仲澤次太良

北巨摩郡駒井村の舊家に呱呱の聲を擧ぐ。第十銀行に入るや、その明敏なる頭腦と超凡の手腕は確認されて預金課長、公金課長の要職に就くに至り、後ち陞進して支配人代理を兼ね。格勳實に二十年、偶々大正十年十月、山梨貯蓄銀行の創立を見るや、重役會議の推薦に依りて當行支配人として推戴せられて入行す。爾來銳意當行の發展を策し、昭和九年一月、取締役に就任し以て支配人を兼務し、精勤精勵統理の術に全智全能を挺す。過ぐる昭和五年の縣下金融界未曾有の大恐慌に際し、大藏省検査官の監査に當りて讃辭を享くるところありし一事に徴しても、氏の人格手腕と相俟ちて當行の業績確固たるを證左するに餘りあり。

(所在地 甲府市相生町)

### 土佐電氣重役

### 島中義雄

時代の趨向に善處して堅く節操を持し、敢

て利のみに趁らず、名の爲めに動かさず、常に社會公共の福祉増進を念ひ、殊に縣下産業の振興發達を圖るを以て其の使命となし、努力熱誠、克く昭々たる實績を擧ぐる模範的實業家に、島中義雄氏の光輝燦たる存在あり。抑も氏は土佐實業界の大御所宇田友四郎氏と生地を同うし、紀貫三の土佐日記に著聞せる香美郡岸本村の出身、即ち明治十三年二月を以て同村に呱呱の聲を擧げ、其生家は土地紳々の名門舊家として古來、同地方一帯に家名赫々たりし由緒深き家柄なり。而して氏は夙に縣立第一中學校に學びて切磋琢磨、能く優秀拔群の成績を保持して卒業したる秀才。後年其の烈々旺盛なる公共心と、非凡の才幹明識を顯はれ、居町民の信望頗る厚き爲、遂に町長の重職に推戴せられたり。爾來誠私奉公、只管自治の啓蒙産業の發達を圖り、専心町民の利福増進を念願に盡瘁献替を怠らず、而かも其の功績顯著なりし功勞者たり。斯くて名聲愈々高きを加へ、衆庶の尊敬信賴を受くる事絶大なりしも、其後爾然大志を實業界に轉じ、土佐電氣支配人として才腕を揮ひ、更に土佐電氣支配人を兼任以て、同社専務上田保氏と戮力能く社長宇田友四郎氏を輔佐して社運興隆に献身的努力を傾注せる處、同社内外の信望一段と高まり、遂に取締役を経て昭和十一年六月、専務取締役の樞樞に推さるゝに

至れり。以來社業總攬の大任を双肩に擔ひ、土佐唯一の私設電氣會社たる特色を遺憾なく發揮せしめ、需要者の利便増大を圖ると共に地方産業の振興發展に貢獻せしめ、社本來の公益事業を益々隆盛ならしめたる同社の至寶的人物なり。現在土佐バス社長、土佐セメント監査役等の要職に在り、亦た高知商工會議所議員に選ばれ、斯業の進歩發展を圖りて功勞渺なからざる處、今や名實共に土佐實業界の重鎮として名噴々たるものあり。

(住所 高知市與力町)

### 大阪機械工作所

當社は纖維工業機械量水器、ダイヤルエンジン、軍需品、電機類の製作をなし、就中纖維工業機械は全製作高の六割を占む。綿毛・麻・絹・人絹の紡機の製作をなし、その製品はT.N.式と稱し、斯界屈指の優秀品として名あり。ダイヤル及びその他の工作機械にも永年に亘る研鑽に依りて、製品甚だ優良を以て多大の好評を博し、我が國機械工業界に卓拔牢固たる地歩を築けり。最近の産業界の興隆に依りて人織製造機械、各種紡機の單獨運轉裝置、内燃機關、電動機、工作機械に力を注



ぐと共に、時局の影響に依る紡機需要の減退に依りて新たに諸兵器製作に本格的に進出せず。既に内務機關、兵器専門製作工場は昭和十二年春竣工して操業を開始せるが、更に先年末買収せし加島工場隣接地三千坪に海軍用機器類の製作工場を建設し、獨逸へ注文せしギア、グラインダー、フライング・ボーリング到着して、部分品のみならず航空用發動機の製作に着手せんとしつゝあり。當社は大正四年十一月の創立にして、當時日本兵器製造と稱して、専ら兵器の製作をなせしが、後紡機その他の各種機械に主力を注ぐことゝなれり然るに最近に至りて紡機需要の減少と軍需關係品の需要増を見や、諸兵器の製作に主力を注ぐに至れり。これが爲めに資本金を五百万圓より一千二百萬圓に増加し、工場の大擴張を行へり。十二年下期の營業成績は頗る好調を辿り、擴張工場の運轉開始に依る製品引渡高の増加を見て、上期より二百二十萬圓増の六百八十五萬圓に達す。六十八萬七千圓の利益を挙げ、一割配當を踏襲せり。當社は尙ほ今後航空機、自動車工業に大々的進出をなすに決し、大阪府某所に四萬五千坪の敷地の買収をなせり。多年の研鑽による秀抜なる技術と豊富なる経験を有せるを以て、この種の新事業は當社にとりてはまことに機宜に適合せる發展政策にして、前途大いに期待すべき

ものあり。當社は時局景氣の如何に拘はらず和戦何れの態勢にも直ちに編成替へなし得るが故に、將來に關しては聊かも懸念なく、今後共に業績益々好調を辿るものと期待せらる重役として社長原清明、取締役渡邊節、同木村貞造、同土屋藤丸、同兼支配人星住鹿次郎、同監査役範多龍平、同森井俊三の諸氏ありて經營に參畫せり。

**社長 原 清 明** 氏は學殖淵博にして蘊蓄深達を以て關西事業界の雄鎮と仰ふがれ幾多の事業會社に關與して、卓動の巨腕を揮ひ、その轉運たる聲望他に並ぶものなきものあり。明治三十八年東京帝大工科を優秀の成績を以て卒業し、後支那四川省成都川漢鐵路公司の事業に關與して、俊英の智能を發揮して同公司の爲めに貢獻せし所多大なるものあり。歸朝後官界に入り、大分、埼玉等各縣技師に歴任し、地方の開発に盡瘁してその功績鮮少ならず。次で久原鐵工所技師、滋賀、栃木各縣技師を奉職、後官途を去りて實業界に身を投じて、保熱板製造、鋼生金山、尼崎化學工業所等の重役に推され直擊業務に没頭して多大の實績を挙げ、嶄然事業界に頭角を抜んづるに至れり。温恭謙厚にして操守嚴正、心性甚だ皎潔たると共に玲瓏圓滿の人品を具へ、その舉措悠揚迫らざる風骨を有し、關西

事業界に重きを爲せり。

**取締役兼支配人 星住鹿次郎** 明治四十一年大阪高工機械科を卒業し、直ちに神戸鐵道局應取工場に入り、大正七年大阪電燈會社より機械部モーター技師として招聘せらる。大正九年當社に工作課長として招かれ、營業部長に累進し、昭和九年取締役に選任せらる。資性濃厚篤實、人格又清廉潔白、謙讓にして敦厚、社の内外に多大の信望あり。將來大いに頭角を抜んずるものと囑目せらる。

(所在地 大阪市淀川區豊崎西通)

**左官工事請負業**  
**林 彦 吉**

我國建築物は本邦固有の和風様式に歐米の各種様式輸入せられ、兩者の渾然たる融合の中に新手法新らたに創成せられんとし、壁、天井等の裝飾にも新感覺の籠もれる意匠創案せられ、我國建築物は漸次一大轉換を遂げんとせり。氏は東京市四谷に於て左官工事請負業を營み、その技術の卓抜なる所より、業況頗る繁榮を呈せり。明治十六年三月愛知縣渥美郡野田村に於て林浪藏氏長男として呱呱の聲を挙げ、郷費を了ふるや直ちに先考に就きて家業の左官業を研修す。二十二歳の時上

京し、當時斯界に於て著名なりし四谷區傳馬町一丁目左官業吉田龜五郎氏に就きて、技術の練磨に専念せり。五ヶ年の間々々として切磋琢磨の研鑽に没頭し、遂に斯界有数の技術者として認められるに至れり。二十六歳にて獨立して新業に進出し、爾來一流建築請負業者の下請工事に従事し、その卓越せる技術と堅實味に富む工作とは多大なる好評を博するに至る。氏は時代の進運に伴ひて各種の新様式を採用し、技術の研鑽に一段と力を盡くすと共に、工事は飽くまでも堅確を旨とせり。斯くして、その事業は飛躍的に大をなし、多大の信用を博すると共に、大工事續々氏に依頼せられるもの亦著増す。即ち、大正九年中には農商務省商品陳列所及び大正製糖株式會社工場を始め各種の大工事に當り、大正十年には工業試験所等の大建築の工事を請負ひ、何れもその工事の堅實にして技術の優秀なるは専門家の激賞して罷ざる所なりき。大正十二年に至りて、久通宮家御殿の工事を奉仕して大いに面目を輝せり。その後幾多の大工事に従ひ、名聲大いに高まり、牢固たる地盤を獲得して業界に重きをなすに至る。資性濃厚にして謙格、人に對しては謙讓にして懇切丁寧なり。事を爲すに泳動奮闘し、意志頗る強靱なり。一般建築請負業者並に民間方面を得意とし、當時三十數名の使用人を擁して活

況を呈し業績顯調を辿れり。家庭には初枝夫人との間に一男三女ありて頗る平和なり。園藝を趣味となし、又頗る妙手なり。

(住所 東京市四谷區右京町)

**野村自動車株式會社**

近來躍進發展目覺しき四國の雄都、高知市に本據を構え、當地方自動車交通界を席捲するののに、野村自動車株式會社の異彩鮮々たる存在あり。抑も當社は大正十二年十二月の創立に拘はり、現在資本金三十五萬圓を擁して所有自動車の斬新優美、頗る乗心地の快適なると、全従業員の懇切丁寧なる態度とを以て、一般乗客の好評を博する事甚大、而も傳統的堅實なる營業方針を保持して業績見る可きものあり、十二年下期収入金は乗合部四十六萬五千餘圓、貸切部四萬七千餘圓、其他合計五十五萬五千餘圓を算し、該期利益金六萬三千餘圓を挙げ得、株主配當の如き年一割即ち一萬七千五百圓の好配當を爲して、業礎愈々強固なるを顯示し居れり。

**事務取締役 野村 儀一** 氏は縣下安藝郡奈半里の出身、明治十九年五月を以て生を享け、社長野村茂久馬氏と親族關係にあり。風

に縣立第一中を卒へるや、社長經營に係る通運會社に入り、其の薫陶下に一介の沖仲仕として粉骨碎身、只管斯業修得に精進し、而かも不撓不屈、能く萬難を克服して異数の成績を擧ぐる處、其の才幹卓識、非凡の人材なるを囑望せられ、一躍同社清水出張所主任の要席に推擡さる。爾來一層才腕を發揮して間然する處なく、次で中村出張所に轉じ、更に播多商船組主任に榮進して其職に在る事十星霜其間該地方に隱然たる實勢力を扶植せる已ならず、亦た野村組、野村自動車各取締役に擧げられ、茲に土佐海陸運輸業界に驍足を伸ばすに至れり。其後時運に對應すべく野村王國の刷新改革斷行さるゝや卒先、衆望を擔ひて當社事務取締役の樞樞に就けり。以來多年練磨せる實際的巨腕と、豊富多彩なる智識を傾倒して只管社業の繁榮を圖る處、業績昭々として擧り、其の聲價を一段と發揚せしめたる同社の至寶的偉材なり。

(所在地 高知市帶屋町)

**永瀬鐵工所**

鑄物工業を以て全國に著名なる川口市に於て、その規模宏大にして事業發展を極め、同市屈指の大工場として信用絶大なるを永瀬鐵

工所とす。その創業まことに古く、享和年間  
に創始せられしものにして、既に百三十年の  
歴史を閲せり。現在の地へ移轉して既に四十  
有餘年を経過して、歴年事業發展せり。當所  
は幕末の頃鑄造として銅製硬貨の鑄造を命ぜ  
られ、頗る盛大を極めしが、維新の際には官  
軍の命にて彈丸製造に従事す。明治二十年に  
至りて蒸氣機關、送風機等を製作し、同二十  
五年東京市の上水道起工に際し、輸入大口徑  
鐵管の代納をなせるが、其製品優秀にして外  
國品に劣らず頗る賞讃を博せり。次で日露戰  
争勃發するや、この未曾有の大戦役に對し砲  
兵工廠は全能力を擧げて武器彈藥の製造をな  
せしも到底これが需要を充たすを得ず、當所  
はその設備の完備せるに依り砲兵工廠の分工  
場として借上げられ、専ら七センチ及十二サ  
ンチ砲彈を製造して絶讃を受く。當所は各種  
鐵管の製作及び彈丸の製造に優秀なる技能を  
示し、砲兵工廠を始め各地上水道組合より賞  
状又は感謝状を授與せられたること屢々あ  
り。設備の充實に意を用ひて新式設備の採用  
に力を盡くし、技術の向上進歩の爲めに研鑽  
を怠らず。優秀工場として斯界に甚だ名聲高  
し、即ち當所は既往鑄物工業の進歩發達の爲  
めに貢獻する所著大にして、川口鑄物の名を  
滿天下に高からしめ、川口市の發展に寄與せ  
る功績定に没すべからざるものありて、産業

上の功勞は廣く世人の認むる所なり。昭和九  
年十一月、大演習に際し、同月十六日侍從武  
官の御差遣あり、更に十八日所主永瀨吉吉翁  
貴くも單獨拜謁の光榮に浴せり。超えて翌十  
年十一月二十五日には産業功勞章を賜りて大  
いに面目を施せり。現在工場敷地六千坪、うち  
建坪二千三百坪にして第一より第四鑄造場  
まであり。其固定資金約五十萬圓にして、最  
大能力一ヶ年一萬五千トンに優に生産なし得  
る大規模の設備を備へり。當所は現在熔解爐  
四基を設備せるが、更に昭和十三年八月迄に  
大電氣爐三基を増設して燃料消費對策に資す  
る一面、特殊合金の増産並に鑄鋼界への進出  
することに決せり。當所は特殊輕合金、銅合  
金その他一般鑄物、諸機械製造を以て業界に  
獨歩の地歩を築けるが、更に鑄鋼の將來性に  
着目して該方面へ積極的に進出せんとする當  
所の將來こそまことに洋々たるものありと云  
ふべきなり。當所はその歴史の古きと製品の  
優秀なるを以て業界に多大の信用を博し、  
受注高年と共に激増し來れるが、近時時局關  
係よりして注文相次いで殺到し、晝夜兼行操  
業頗る繁忙を呈せり。業績年を遂ひて向上し、  
澄利たる好成绩を収め、設備逐年擴張せられ、  
業礎愈々強固不動たり。當所今後の發展こそ  
眞に刮目に値せん。因に當所は永瀨家の個人  
經營にして現在工場主は永瀨寅吉氏、工場長

永瀨光吉氏なり。

**工場主 永瀨寅吉** 當家は舊家にして、  
名望高く、舊幕時代には幕府より貨幣鑄造の  
命を受けて、家業大いに榮ゆ、先考庄吉翁は  
川口町長に推され、事業經營の傍ら町政に盡  
瘁して非常なる貢獻あり。氏は明治二十三年  
十一月庄吉翁の長男として生る。夙に東京高  
等工業機械科を卒業す。後家業に従事し、技  
術の研鑽、設備の改善に意を傾け事業の發展  
に絶大なる殊勳を現せり。資性濃厚にして情  
誼に厚く、内外の敬慕を集む。昭和十年市長  
に選任せられ、川口市の發展の爲めに献身的  
に活躍す。その信望甚だ濃厚なり。  
(所在地 埼玉縣川口市本町二丁目)

**名望家**

**柿原萬藏**

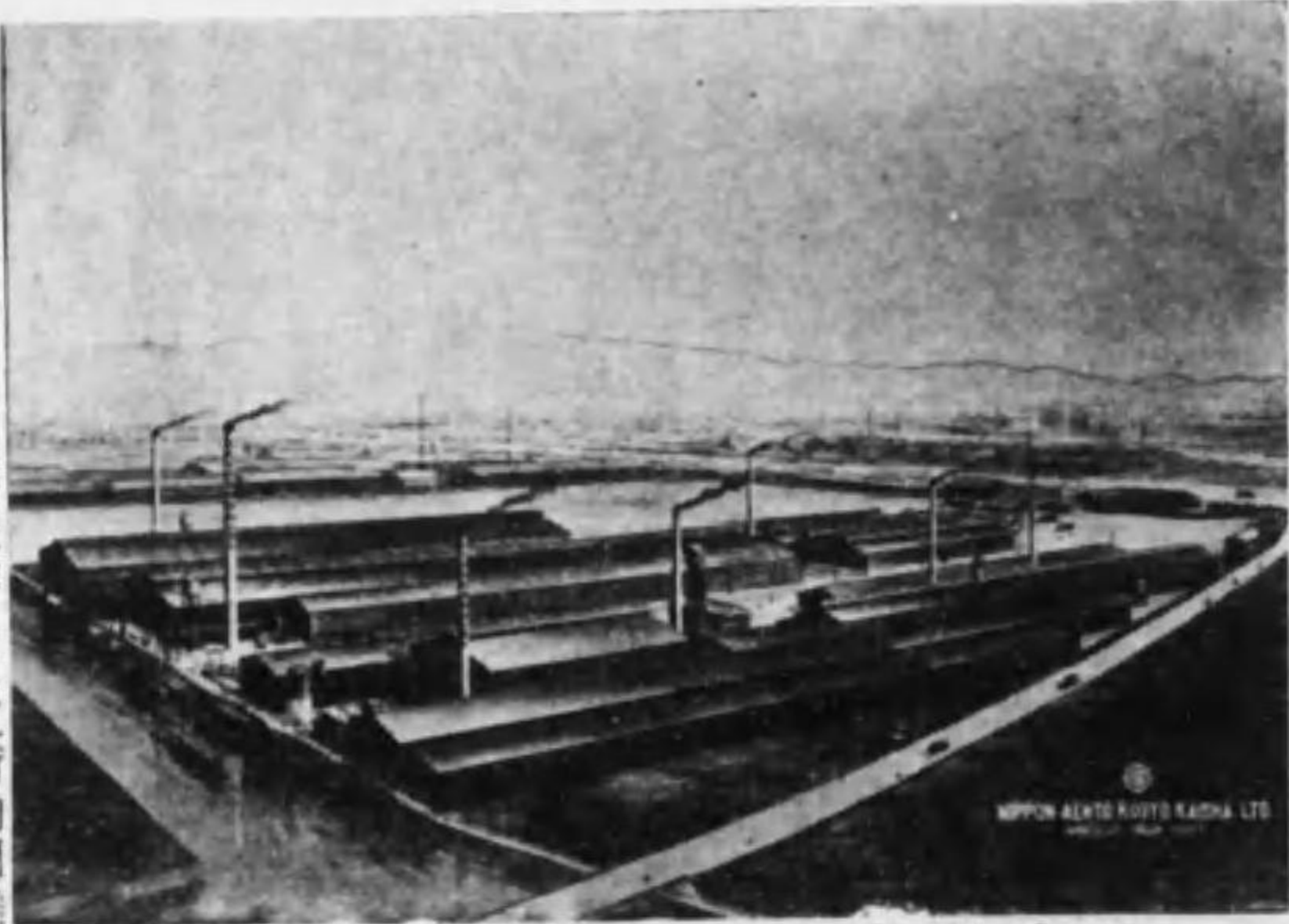
元來柿原家は武藏國秩父地方に於ける屈指  
の素封家にして、連綿として累世秩父絹織物  
買糶商を營み來りて今日に迫る。先考柿原萬  
藏翁は萬延元年六月六日を以て秩父郷に生誕  
す。豪服放膽にして偉大なる卓見家たる反面  
終始皇國享生の感銘を以て滅私奉公の念に醇  
厚、現秩父町開發の大恩人たり。翁一たび其  
業に就かぬか、勇猛果敢にして龍雲の氣概を

以て其の衝に當り、一として可ならざるはな  
し。秩父織物が明治時代に於て斯界を席捲せ  
し霸勢と聲譽を、顯現せしは之れ偏に翁の形  
身の努力に他ならざるなり。然かも翁は餘力  
を幾多公共事業に傾けて舉措を怠らず、即ち  
秩父銀行、西武銀行、埼玉農工銀行の設立に  
奔命して金融機關の完壁を期し、或は秩父鐵  
道の敷設、電話開架に挺身して以て之れを開  
闢す。この行履總て公正眞摯、報本反始の道  
念を闡明にせしものにして、徳化四隣に周く  
名望年と共に宣揚さるゝも故なしとせず。徳  
川二百有餘年の星霜、徒らに秩父武士發祥の  
光輝ある歴史を暗々裡に葬り去りて天下稀れ  
に見る平々凡々なる野趣と未開なりし秩父に  
皎々たる明月、旭光の榮光を與ふべく天はこ  
の憐むべき秩父土民の野性を教化善導せしむ  
可く將に朽ちんとする秩父の救世主として、  
我が柿原萬藏翁を使はしめ給へるものと謂ふ  
べきなり。若し夫れ不幸にして翁在らざらん  
か。秩父の富源と傳統の秩父魂は、現時の秩  
父町建設に更に十年、二十年を聞し遅れしな  
らん。嗚呼偉大なる哉。柿原萬藏翁の大足跡  
大正十年五月、龜齡を完ふして中有の旅に逝  
く。墓地は秩父町東町宗圓寺に在るが碑面に  
記せらるゝは即ち、崇嚴院隨樂齋常念大居士  
と。まこと翁生涯の心境を彷彿するに足る  
釋と謂ふべし。明治十一年諸井恒平氏主唱の

下に、柿原萬藏翁翁徳會を興して全縣衆庶一  
丸となりて銅像の建設、柿原公園開設の美舉  
あり。釐金算するに二萬八千金に達し、銅像  
建設され、其の周圍一圓を柿原公園と名付け  
られ、園内に諸設備を施工し以て巨人の偉功  
を表彰し、欽仰追憶の對象と爲すと共に、其  
の赫耀たる遺徳を萬代不易たらしめたり。  
現主たる柿原萬藏氏は即ち翁の嫡男、明治  
二十四年七月出生。大正八年家督を相續して  
資業を繼承し、後ち前名萬三を改め襲名す。  
氏資實行藏令府に彷彿し、敏誠、膽大、義氣  
不群にして清純高潔の風格は衆庶の信望を繋  
ぐに餘りありて好評噴々たり。現に資業に孜  
々營々たる傍ら、推轂さるゝに秩父林業取締  
役社長、秩父鐵道取締役の要職に在り。埼玉  
縣多額納稅者たり。  
**加藤支配人 自強不止精勵寸時も怠らず、**  
主家柿原家に恪勤すること二世に迫る。天稟  
濃厚にして謹嚴なり。奉公献替の意志終始一  
貫たるは卓然たる氏の精神力の顯現に外なら  
ざるなり。  
(住所 埼玉縣秩父郡秩父町本町)

**日本亞鉛鑄鋼業株式會社**

本邦鋼業界に於ては東西の總ゆる文化を取



日本亞鉛鑄鋼業株式會社全景

入れ、加ふるに我が國獨特の技巧を以て今日  
にては殆んど之が製作不可能なるものなしと  
云はれるの時、獨り帶鐵のみ是れに取殘され  
たるは我が鋼業界のため一抹の寂寞を感じざ  
るを得ず。元より之が製作には技術的困難伴  
ひ容易ならざるものありと雖本邦鋼業界の名  
譽に懸けてもと思惟し、同社が敢然之が製作  
に着手せるは同慶の至りといふべきなり。願  
るに毎年自轉車用其他八九萬盾の輸入を餘儀

なくされ居たるが、昭和十二年四月より當社は之れが製造を開始してより完全に之れを防禦するに至れり。その製品は毫も外國品に遜色なく、殊に帯鐵の如きは外國品を遙かに凌駕し、その優秀なるを以て噴々たる好評あり。中十八ミリより九十三ミリ、厚さ〇八三ミリより二・五ミリの製品を年産七萬越の製品能力を有し、既に神戸税關より帶鐵製造の保税工場の特許を得、海外市場に雄飛の準備全くなれり。曩に蘇聯邦に對し千三百越の輸出契約成立し、内二百越の輸出完了せり。斯くの如く多年輸入を仰ふぎし帶鐵が、當社の努力に依りて内需を充たし更に輸出をなすに至りたるはまことにその功績を多とせざるべからず。當社は曩に日本亞鉛鐵を改めて日本亞鉛鐵鋼業となし、兵庫縣下大庄村に營業所を大阪市西淀川區傳法町に本社及工場を西區立賣場南道に出張所を設置し、生産設備營業陣の充實を圖り、爾來社業は一段と躍進をなせり。昭和八年には川崎造船所と提携して、他而大刷新を加へ眞價の發揚に力め、殊に海外各市場に於ては其製品の優良と價格低廉を以て歐米品と競争なして益々販路を擴大し、滿洲、支那、シヤム、海峽殖民地、爪哇、南洋各地、印度阿佛利加、中米等に及ぶ盛況なり。因に當社現在資本金五百萬圓を擁する斯界の權威なり。

社 長 田中徳松 我が國銅業界の爲、夙に其發展に留意挺身し、殊に國産品製作には最も熱心にして、此の熱意今日能く帶鐵の製品として表はれたるものと云ふ可きも氏の抱負の一片に過ぎざる處にして、一度氏の注目着手する處必ず之れを成就さすの氣概は、正に稀に見る逸材なり。前途多難を思はしむ我が銅業界のため折角の活躍を切望す。

常務 井坂彦治 氣宇俊爽にして闊達、志操堅硬にして高尙、而も進取果敢の精神を藏し、其の操履圓融無礙にして高潔、恰も水の物に隨ひて形を成すの趣あるところ既往幾多の難關に遭遇し、幾度か人生の風霜を透過して、所謂和光同塵の悟きたる士たり。

(所在地 大阪市西淀川區傳法町南二丁目 (營業所 兵庫縣武庫郡大庄村))

#### 清酒醸造業

### 伊野部恒吉

抑も當家は銘酒「瀧風」醸造元として夙に縣下に聞えし屈指の豪門名家なり。氏は即ち其の當主にして明治二十九年七月、先代吉次郎氏長男として呱呱の聲を擧げ、年少既に俊敏英邁の資を現はし、暖衣飽食の裡に育成せりと雖も、毫も裕福に狎れずして常に剛毅發

刺、而して郷費を卒へるや、更に遠大なる志望を藏する處敢然上京し、早稻田大學專門部政治科に學びたる俊才。斯くて歸郷後家督を繼承するや、天賦の敏腕卓才を遺憾なく發揮し、既に傳統的光輝燦たる該銘酒に更に品質の改良を加へ、材料の精選、風味芳香の吟味は勿論、醸造行程凡百の點に銳意研究を重ね或は販路の擴張を圖りて全力を傾倒せる處、果然業運一層發展して驚嘆に値す可き盛況を呈せり。而かも其の品質優秀にして美味絶佳或は其の造石高の多大なる等、巋然縣下業界に群を抜き、各地の共進會、品評會等に出品するや、毎回優等賞を獲得せざるはなく、茲に「瀧風」の眞價噴然として全國を風靡し、左黨萬人の好評絶讃を博するに至れり。

是實に氏が多年抱懐せる醸造報國の一顯現とも稱す可く、且つ識見高邁、手腕非凡にして人格亦た玲瓏高潔なる處、衆望翕然として聚り、敢然政界に進出すれば、人氣湧くが如く高まり、現に高知市同志會並に民政黨支部屈指の少壯政治家として名聲縣政界に洽く、更に市會議員の要職に在りては至誠一貫、只管市民の利福増進、市勢の發展膨脹を圖りて功績紛なからず一方、當市會十五日會の中心人物として隱然侮り難き實勢力を把持し居れり、而して他面素より當市實業界に雄飛活躍すること縦横無盡、即ち家業を盛昌興榮なら

しむる已ならず、大高醸造、土佐漁業各取締役に就き、更に商工會議員工業部副部長、市水産會々長、縣水産會々員等の重責を膺ひ、献身産業の振興發展に處して功勞萬大なり。然かも前途尙ほ春秋に富む所、其の將來の一大活動は正に矚目に値す可きものあらん。資性濃厚篤實にして典雅朴直の好紳士、家庭は令閨清志夫人ありて賢夫人の譽れ高く、其間長男昌一君、二男健二君、三男淳吉君を擁して清福圓滿なり。

(住所 高知市通町一四三)

### 株式 千葉合同銀行

産業の昌榮興隆は金融機關の整備充實に依つこと多大にして、金融の疎通は産業發展の路を開くものと云ふべく、之に依りて殖産興業の盛衰興頹の岐る所とす。株式會社千葉合同銀行は千葉金融界に覇を稱すること久しく縣下産業界の發展には赫々たる功績を樹立し行穩の鞏固にして業績向上の燦然たる地方銀行中の錚々を以て稱せらる。當行は明治二十九年の創立にして、爾來縣下産業の發展と一般經濟界の進展には著大なる寄與貢獻をなし特に資金の運用に關しては専ら縣民の福祉増進に力を盡くして全縣民の絶大なる信頼を博

る金融機關の任務益々重大性を加へ來り、縣下金融界の重鎮たる當行の任務愈々重きを加へつゝあるが、從來よりの當行の經營方針に徴するも世の期待に反することなく、經濟界の爲めに多大の寄與をなすことならん。尙ほ當行重役には頭取古莊四郎彦、専務關澄龍尾取締役萩原甲太郎、同吉田丹次兵衛、同倉倉源善、常任監査役吉田敬三、監査役高橋無三相談役川崎甲子男の諸氏あり。

#### 取締役頭取 古莊四郎彦

頭腦緻密にして用意周到、群抜の才腕と縱横の智略を以て金融界を馳騁する古莊氏は、千葉財界の巨擘を以て稱され、その信望まことに赫々たるものあり。氏は明治四十五年東京帝大法科を卒業し、後帝國商業銀行に入る。その額材を認められ、簡拔せられて支配人の要職に擧げられ、次いで川崎銀行に轉じて千葉支店長に推され、その才腕を揮ひて同行の發展に寄與せし所尠しとせず。昭和九年懇請せられて當行の頭取となり、尙ほ曩に總武銀行専務、安房銀行常務に推されてその功績まことに顯著なるものありき。資性濃厚篤實の心性頗る峻潔にして名利に超脱し、磊落落の人格廉直の銀行家として多大に景仰せらる。明治十七年七月熊本縣に生る。

(所在地 千葉市本町二丁目)

谷松屋戸田彌七

我が谷松屋戸田家の古事來歴を詳述するは... 恰も濛々たる長江を廻りて其の依りて來れる...

を以て東西を區劃し、其間に道具商(唐物屋)を住居せしむ。故に一名松ノ町とも稱せり。

家に生誕し十二歳にして當家に入家す。幼名晋一と稱し一二郎とも云ひしが何れも相續の上襲名して彌七と改む。

現主 戸田彌七

祖業に意を潜め心魂を碎き不退轉の熱情を揮げ、今や斯界鑑定...

中と爲し中止せしも、近き將來に如何なる躍動を爲すかは業界一般の刮目するところなり。

山梨水晶株式會社

創業以來茲に十年、映中甲斐に於ける特産物中の特産物として往古より天下に其の名を馳する水晶加工に不退轉の努力を盡し、今や...



米澤良知 氏 前 洋々

社長 米澤良知 山梨縣西八代郡大河内村の産。年少にして向學の志厚く上京後、...

てし、各種印材を始め、男女裝身具、文房具美術品等々の高級品の大量生産に邁進し、今や斯界最優最大の工場を完成せしめ、日産七千本の印材の製出は正に神技に等しく、其販路も既に海外諸國へ擴大する現況たり。

江口定治

奮闘努力は處世の妙諦にして、忍耐勤勉、亦た成功獲得の一大要素たるは、實に萬人齊しく是認する處なるも、之を實踐躬行なすに於ては、到底凡庸俗徒の容易に爲し能はざる處たり。

亦た隆昌盛大にして絶對他の企及し得ざるも當然の歸趨と云ふべきならん。

氏は大分縣西國東郡香々地町の出身、明治十八年九月四日を以て誕生し、父君を江口健吾氏と呼びて其の長男なり。夙に俊銳敏才、且つ霸氣冲天の概あり、若冠十六歳の折、奮然立志郷關を出づるや、男子學生の事業として米穀商に志し、當下關に來り其米穀商店に一介の使用人として入店せり。爾來刻苦奮勵克く世路風霜の辛苦を克服し、只管業務修得に邁往する事滿十星霜、其間常に忠實熱誠以て能く主家の興隆發展に盡力せる處、主人の信託を博する事頗る厚く、且つ儕輩間に垂範の實を示して卓然たり。斯くて明治四十二年二十五歳にして獨立創業、一店經營の主宰者となるや、茲に過去十年間血涙の結晶たる尊貴の體験信用を基礎となし、敢然業界雄飛のスタートを切れり。以來誠實主義をモットーとし、良品廉價の顧客奉仕を信條に拮据經營而かも堅實なる營業政策を以て不撓精勵する處、日露戰後に於ける經濟界變動の渦中に孤軍奮闘克く業礎を確立せしめ、其後業界幾多の推移風波に遭遇するとも、泰然微動だにせざる店礎の堅固を謀はれ、更に躍進又躍進、業運順風滿帆の勢を以て隆盛し、昭和七年に至るや、下關米穀商界を斷然リードするの盛況を贏ち得、其の年額總賣上高三百萬圓を突

破するに至れり。

斯くて當市斯界の王座を占むるや、更に雄圖勃然として事業の擴大強化に全力を傾倒、即ち同九年釜山支店を設け、次で翌年吳支店を設置、更に同十二年神戸支店を開設し、關西、九州は勿論、遠く朝鮮地方に迄獨翼を張り、今や其の所有せる米穀専用運搬船、デゼルエンジン最新型優秀船六隻、其の總噸數二千噸を以て釜山、下關間を晝夜間斷なく往復運行し、合理的販賣網の整備擴張と相俟ちて業運更に一大飛躍を實現せり。而して昭和七年以來、星霜を閲すること僅か五年に過ぎざる今日、賣上年額實に千五百萬圓の巨額を算するに及び、其の業容の豪華雄大たる、將又業勢の隆昌盛大なる、正に斯界に巋然一頭他を抜き驚嘆の的たらざるはなし。

是實に氏が多年に亘りて不撓不屈、而かも非凡の商略を傾注して奮闘努力に一貫せる賜と云ふべく、以て業界に志すものが好固の範と推稱すべきなり。資性剛毅剛直なるも一面温情流露たるものあり、且つ人格識見共に高潔、常に烈々たる公共心を抱き、獻身克く社會事業に多大の淨財を寄附し、然かも些も功を誇らざる稀に見る人格者なり。されば衆與の尊敬追慕を受くる事甚大にして、名實共に斯界の第一人者たるを失はず。

而して父子協力、常に斯業報國の赤誠を披

瀝實踐して遺憾なく、殊に現在戰時體制下に舉國一致、益々生産擴充の要望せられるや、銳意國策線に沿ひて一層業運の飛躍を圖り、其の重要任務を完遂すべく驚天動地の活動を顯現し居れり。

(住所 下關市西南部町二九)

### 高知市役所

高知縣廳を始め官公衙、會社、銀行其他の近代的建築物比し、當縣の行政、經濟の中心をなす高知市は、山内一豊公入國以來、茲に傳統三百年の歴史を誇る土佐文化の中心地なり。而して從來地勢の關係上、交通機關の恩澤に浴する事淺く、單なる消費都市として着々發展を招來し、其の生産總額の如き僅々千五百萬圓に過ぎざりしも、昨昭和十二年三月、縣民待望久しき土讃鐵道全通を見、更に大阪高知間定期航空路開通するや、舉市一致協力の下に銳意生産事業の飛躍的發展を企圖し、所要施設に凡ゆる努力献務を續行する一方、浦戸港の門戸決定、或は市を圍繞する一帯の名勝、舊蹟に富み、觀光都市として光輝輝たる未來を豫想せらるゝ處、向後に於ける市勢の一段たる發展膨脹こそ、正に期して俟つ可きものあらん。而かも本年時局益々多事

多端なるに際し、市は政府の趣旨に準じて縣當局と戮力協心、克く産業振興に意を注ぎ、市勢總動員の徹底を期すべく、機會ある毎に各種會議を招集、市民一體の協力奮起を圖りつゝあり。即ち前述目的に基きて銜後産業の遂行に萬遺憾なきを期し其の實績著々舉れるは、定に衷心慶賀す可きの現象なり。

### 市長 川淵 治馬

氏は本縣宮崎次氏二男として、明治十六年八月十五日に出生、後正三位勳三等川淵龍起氏の養子となれり。夙に英明俊敏の譽れ高く、學序を経て東京帝大獨法科に入り、同四十年優秀なる成績を以て卒業したる秀才。其後宿望を達成すべく奮然官界に入り、警視廳警視を出世双六の振出しに内務監察官、臺灣總督府警視、山形、廣島各縣警察部長、警察教習所教授兼内務省參事官、京都府警察部長、警視廳警務部長、福島、廣島、福岡各縣知事等を歴任し、其間至誠努力、而かも克く天賦の卓腕を發揮して職責を完遂せる處、警名頗に斯界に聞え、稀に見る材幹たるを謳はれたり。而して當時以來前民政黨の重鎮故川崎克氏の知遇を蒙る事厚く、福岡縣知事を最後に官界に袂別するや、其後昭和七年衆議院議員選舉に際して敢然角逐戰場に馬を進め、胸底烈々たる愛國の赤誠を、高過絶倫なる抱負に托して開陳せる處、

其の人物手腕の非凡なると相俟ちて衆望集り遂に見事中原の鹿を射止めて代議士の榮冠を贏ち得、茲に郷黨禮讚の的となりたるも、其後雖然感ずる處ありてか再出馬せず、斯くて悠々自適の生活に入らんとしたるも、有志の懇望黙し難く、同十一年迎へられて現職に就けり。爾來至誠一貫、益々市民の利福増進を圖り、市勢の伸展膨脹に全力を傾倒して功績甚大、今や全市民の渴仰措く能はざる名市長として聲望隆々たるものあり。資性剛毅不屈の硬骨漢たる一面、土佐人特有の人情味に厚く、親切にして仁侠の義心に富み、而かも人格學識共に一點批議する處なき錚々たる人物なり。

(所在地 高知市帯屋町)

### 株式會社 天滿小森鐵工所

正義星軍の進む所暴戻支那軍閥は忽ちにして潰伏し、今や北支中南支の天地暗雲霽れて日滿支三國提携の爲めに我國の極東に於ける任務益々重きを加え、我國事業界に於ても戰時體制下に於て設備を充實し、全能力を發揮して生産に當り、業者相率ひて國力の増強に邁進しつゝあるは心強き極みといふべし。當社は夙に羊毛織機、人絹織機等の製作をなし

專 務 古川善見 氏は明治二十三年十月に生れ、夙に北野中學校に學を收む。頭腦緻密にして才略に富み、その手腕は業界に多大の推重を受ける所たり。從七位豫備陸軍騎兵中尉の軍籍にあり。人格清廉潔白にして磊落恬淡を以て財界に信望頗る高し。

常 務 小森元治 氏は資性濃厚篤實にして思慮圓熟し、圓滿玲瓏なることまさに玉の如きものあり。人に對して隔壁を設けず仁情に富みて部下の指導に力を盡くし、部下より師父の如くに推敬せらる。

戸田康務主任 氏は當社に勤続すること實に二十有餘年の久しきに及び、温恭謹直の資實を以て上下に多大の信望あり。精勵格勤して業務に當り、小森社長復心の良佐たると共に當社の柱石たるの存在なり。  
(所在地 大阪市北區空町一丁目)

### 甲府電力株式會社

抑々甲府電力は明治二十五年、峡中有力者が甲府市を中心として電燈電力の供給事業を目論見たるに端を發せるものにして、爾後八ヶ年間發電所、送電線等の實地測量並に事業

設計に費して、同三十二年一月に迄んで資本金僅々九萬八千圓を以て生運を見るに至れり。爾來電氣の至便と經濟的にして安全なる認識は、一波萬波を生ずるが如く喧傳さるゝと共に、需要家遂次著増し、其反面業績漸次好潮を辿り、大正八年五月甲府瓦斯を合併、同年十月甲府電化工業を合併、更に同九年十一月甲陽カーバイトを吸収合併すると共に、資本金の増加も屢次敢行せられ、昭和四年四月資本金一千二百五十萬圓に増資し以て今日に及べり。而も當社は前叙の如く諸會社を合併せる爲に其の事業も多角的にして即ち電燈電力瓦斯の供給、コークス、コールドール、製氷冷蔵事業を兼營しつゝあり。

而して當社近年の成績を見るに、利益率九分乃至一割を維持し、十二年下期には純益金三十五萬五千餘圓を擧げ、株主配當は七分を餘裕俾々裡に行ひたりて其前途波洋々たるものありと謂ふべし。  
取締役社長 平原庄兵衛 東山梨郡富士見村河内次郎氏の令弟として明治十年二月出生。夙に笈を東京に負ひ慶應義塾を卒業す。同三十三年先考庄兵衛翁の養子となりて平原家に入る。後ち家督を繼ぎ前名莊吉を改め襲名す。由來平原家は甲府市に於ける舊家にして米穀肥料並製糖製造業を營み來れるが氏も其資業を

承けて銳意精勵し、令府の遺業に數倍する業績を擧げ夙に多額納稅者たり。  
天分冷頭快手にして頗る放膽、而かも義氣を藏し、公德を重んず。明治四十五年以來推されて甲府市會議員たること二期、其他幾多の公職に起用されて市政自治公共に盡瘁し、徳風四隣に周し。現に當社々長の傍ら甲府食品市場取締役社長、有信銀行、甲州電力各取締役等に推戴され峡中事業界に威望噴々たり。  
庶務課長 竹下幸内 年少にして仕官を志し、榮進して山梨縣警部に任ぜられ、司法行政事務に精通して令名を馳せ、在職中文字勤精勵の故を以て勳八等瑞寶章を授與せられたる如き、其の非凡の人材を物語る證左たり。官界を惜まれて辭するや、當社に入りて庶務課長に推舉せられ以來且精勵以て平原社長の良佐として今日に迄ぶ。昭和十一年四月主事に拔擢せらる。氏の面目躍如たるものあらん。資性膽大にして而も質實、恬然として淡泊、部下の信賴頗る厚し。  
(所在地 甲府市櫻町)

### 水原豊次

關西羅紗界の彩華として豪壯の商陣を布き

濠洲濱地の業勢を呈せる鷹岡商店は、その創業まことに古くして、明治十八年先々代鷹岡覺之助氏の創始に拘り、創業當初は主として輸入羅紗の切賣りをなし、その經營の堅實なる所より多大の好評を博して事業歷年發展を辿り來れり。大正十年新に卸部を設けて一大飛躍を期せしが、昭和二年に至りて國産羅紗の取扱に轉じ、同四年之が品質改良をなさんとして兵庫縣に合資會社關西整絨所を設立し毛織物の整理仕上を試みて多大に成功せり。現時同社を愛知縣に移轉して更に擴張をなし株式會社に改組して營業を繼續しつゝあり。

又鷹岡商店は昭和八年四月先代鷹岡覺之助氏の没後株式會社に改組し、水原豊次氏專務取締役役に就任して經營の全部面を執掌せり。同店は現時資本金二百萬圓に上り、商勢頗る好調を呈して毎期多大の好成績を擧げつゝあり。水原豊次氏は幼少にして鷹岡商店に入り、眞摯その業に勵精したるに依り、模範店員と激賞せられ、先考鷹岡覺之助氏より多大の信賴を受く。年若くして支配人に簡拔せられ、經營の全權を託せられたるが、氏は十年一日の如く格勤し、多くの店員の先頭に立ちて店務に没頭し、その熱誠とその氣魄は何物をも貫かずば止まざるの迫力ありき。而も氏の飽くまでも正直を第一義とする態度は、内外に於ける氏の信望をば一段と高めたり。昭和八年

先代覺之助氏の逝去によりて同商店の實權は擧げて氏の双肩にかゝり專務取締役の椅子に就く。その事業經營の方針は飽くまで進歩的にして、積極果敢何人も追隨を許さざる所なり、手腕の俊敏且つ尖銳を以て關西財界に鳴り、近時めき／＼と頭角を拔んず。才略縱横に動き相次いで新興事業に着目してこれを企畫し、世人より多大に注目せらる。即ち、關西シミールン紡績會社を創立、社長に就任



水原豊次氏

し、人絹ウエスタの再製或は人造羊毛の製造に先驅し、又東洋に於ける最新事業たりし昭和クレター會社を創業して「電氣防水鐵道建築材料の製造」に着手しては、事業界の尖端をきる等その活躍まことに目覺しきものあり。更に又滿蒙開發事業として東蒙貿易股防有限公司を設立して取締役に列し、或は山保毛織會社の取締役として參畫するなど、幾多の新興事業に關係して東奔西走日なき有様なり。氏の絶大なる努力と秀拔なる才略は各會社の

業績を何れも多大に向上せしめ、何れも隆々たる發展をなすに至れり。氏はこれまで大阪府實業功勞者として、或は大阪市模範従業員として表彰せられしこと數回に及べり。その識見に、その人格に、或はその手腕に對して多大の信望を得て、現に大阪羅紗商業組合、日本毛織物輸出組合各理事、大阪羅紗同業組合相談役等に推されて獻身的に活躍せり。因に氏は明治二十八年三月石川縣人沖余三吉氏の二男として、生たるの男盛りにして、その前途大いに囑目せらるゝ業界の新銳たり。  
(住所 大阪市東區淡路町一ノ一九)

### 千葉中學校

中等教育は一國教育の基幹をなすものにして、之が制度の整備如何に依りて文運の興亡に至大なる關係を有し、之が效果の如何は國力の盛衰の岐路をなすなり。當校は千葉縣中等學校中屈指の優良校を以て名聲高く、創立以來數多の駿英を育成し、其文勳まことに勳耀たるものあり。當校の創立は明治十一年八月のことにして、千葉縣師範學校構内に創設せられ當初修業年限は三ヶ年たりき。明治二十年以降修業年限を現制五ヶ年となし、三十二年四月千葉縣中學校と改め、同年七月

現在の地に移り、爾來校運隆々として勃興するに至れり。明治三十二年七月現在の地に校舎を設置して以來、大正五年には御大典記念館、昭和二年には講堂、翠年圖書館、同五年五十米プール、六年本館及附屬建物等の建築を行ひ、輪奐の美甚だ壯麗なると共に内部の諸施設亦頗る整備充實せり。大正三年三月定員を七百名と定めしが、大正十一年三月定員を一千名に増員し、他に昭和三年補習科設置せられたるに依り同科の定員五十名あり。當校は校訓として五ヶ條を掲げ、校訓の基礎として實業剛健、和衷協同の二者となし、之れに基きて團體觀念を明確になし、敬神崇祖の精神の涵養に力を盡瘁せり。知育に於ては特に自學自習の學習態度を養成し、實驗實習を重んじて學習の作業化を圖り、各學科全般に亘りて道德教育の徹底を期せり。又體育に於ては生徒の保健養護に留意して體位の向上を圖り、實業剛健規律節制の精神の陶冶に努めり。當校の卒業生は昭和十二年三月末現在に於て總數三千九百四十三名に上り、數多の優秀の人材輩出して社會各方面に於て活躍し、當校の名譽を大いに顯揚せり。設備の充實せりと生徒の優秀なるとを以て世上に多大の信用を博し、縣下の各家庭は擧つて當校に子弟を託せんとせるに依り、春季の入學試験には入學志願者殺到して、競争頗る激甚を極めり。

校長 津田 清三 學殖頗る該博にして人格清高を以て衆庶の敬仰を受くること深くその經驗蘊蓄の深遠なる縣下教育界屈指を以て稱せられる津田氏は、東京府人津田清長氏の長男として明治十三年十二月を以て呱呱の聲を發せり。明治四十四年東京帝大哲學科を卒業し、盛岡・山形各中學教諭を歴職し、丸龜・大分各中學校長を経て、昭和七年現職に推される。智能俊敏にして高邁なる識見を具へ玲瓏圓満の品性と、濶大なる襟度とを以て教職員・生徒より慈父の如くに崇敬せらる。教育の爲めに夙起晚寢して獻身的に盡瘁し、その貢獻せる所まことに甚大にして、縣下教育界の信望を一身に集め、父兄間に威望噴々たり。

(所在地 千葉市葛城町)

### 政治家

## 芦田 均

近時我國は未曾有の重大時局に遭遇し、内外共に多事多端、頗る逆語すべからざる状態にあり。然るに、今日我國政を處理して時艱克服の任にある政治家に人材乏しき感あるは寔に遺憾至極と云はざるを得ず。我國策が外交と内政との聯關今日程に密接なるはなし。されば現今要望せられる政治家は内政に關す

る深き達識あると共に國際事情に關する廣き知識ある所謂練達堪能の士たらざるべからず。芦田氏こそはまさに現代が要求する最も理想に近き政治家なり。氏は明治四十五年京都帝大法科を卒業し、在學中外交官試験に合格し大いにその敏才を顯れ、大正三年外交官補となり、露西亞を始め各國に在勤す。材幹を認められて大使館三等書記官兼外務省書記官、同事務官、同參事官、大使館一等書記官、大使館參事官等に歴任せり。土耳其、白義耳に在勤して手腕を揮ひ將來を囑目せられしが、政界へ進出せんと欲して昭和七年二月官を辭す。幾何もなく衆議院議員に當選し爾來政界に活躍して特殊の地歩を占め政友會内に於て重きをなせり。尙ほ氏は曩にジュネーブ國際聯盟總會第一、二回會議に於て代表職員として畫策し、海牙會議專門委員として活躍する等、國際舞臺に於て才腕を發揮し、大いに其名譽を海外に喧傳せり。氏は頭腦俊敏にして博學多識、國際事情に精通せると共に時代の動向に對しても深き認識を把握せり。その執筆に拘る論文は新鮮發刺として時流の尖端をきり、中正妥當の論旨は何人をも首肯せしめ國民各階級就中青年層に多大なる歡迎を受く尙ほジャバパンタイムス社長の椅子にありて英字新聞を發行し、歐米人に眞の日本を認識せしむるに多大の貢獻あり。支那事變の勃發す

るや極東の事情に通ぜざる歐米人中、支那の巧妙なる宣傳にかゝり、日本の眞意を解せずして日本を非難する者夥しとせざりしが、氏が一度國民使節として歐洲に派遣せられ各國有力者と會談し、或は大衆を集めて講演會を開き、滔々として極東の大勢より日本の立場を闡明せしに、氏の理路整然たる論理と流暢明快なる辯舌に依りて始めて日本を理解し、我國國際關係の好轉に没すべからざる功績を遺せり。氏は資性清白高朗にして心性頗る高潔教養高く、人品典雅の實に洗練せられたる紳士の典範たり。政界屈指の智識人にして、視野廣く、蘊蓄淵博たると共に識見又高遠にして、殊に海外事情に精通せると外交に通達せる所を以て次期政界を背負つて立つはまさに氏を措いて他になかるべし。明治二十年十一月芦田鹿之助氏の二男として生る。

(住所 東京市牛込區中町二八)

### 高知縣會議長

## 井上 熊 兄

正義人道を旨とし、權利の擁護者を以て自己の天職となし、節操を變へず、名利を趁はず、常に國家社會の健全なる發達を希求し、終身一貫、只管公衆の利福増進を圖りて斷乎勇往、いかも識見手腕の高邁卓拔なるは勿論

人格亦た崇高廉直にして名實共に縣下法曹界の第一人者たり、將又政界の重鎮たる土佐紳士鐵筆頭の人物に、我が井上熊兄氏の偉大な存在あり。氏は木縣士族井上良敏氏の長男、明治十四年一月を以て呱呱の聲を擧げ、幼にして俊敏長じて大志を法曹界に致すや、奮然爰を負ひて上京し、日本法律學校に入りて切磋琢磨、克く登雲の功を積み卒業せる後、更に研鑽最新法學の蘊奧を究め、見事辯護士試験に登第したる秀才、斯くて斯界に第一步を印するや、情理併せ得て妙味旺盛せる快辯を揮ひ、加ふるに豊富深遠なる學殖を傾倒して法廷に英姿を現はし、常に辯護依頼者に利益を齎らす處、信用隆々として高まり、殊に民事訴訟に對する快刀亂麻を斷つが如き手腕の冴えは斷然他者の追隨を許さずして令名頗る光輝を發せり。而かも識見非凡にして態度公明、其の正義を往くには敢て死をも辭せざる烈々鐵火の如き氣概を有し、至誠一貫、克く衆庶の利福増進を圖りて功勞尠なからざる處、即ち縣會議員選舉に敢然出馬するや、衆望を擔ひて見事當選の榮冠を獲得し、以來縣政自治の刷新向上に努力献替を怠らず、或は地方産業の振興發達に貢獻して功績顯著を極め、常に縣會の中心人物として活躍繼續なりし結果、遂に推されて高知縣會議長の要椅に就任せり

而して一方土佐の生みし近代政界の傑物、故濱口雄幸氏を崇拜私淑する事厚く、夙に當市民政黨に關係し、憲政發達の理想に燃えて奮闘邁進する事多年、今や在野法曹界は云ふも更なり、當縣政界稀に見る偉材の士として衆輿の尊敬信頼を一身に聚め、其の聲望隆々乎として、容易に企及し得ざるものあり。抑も當土佐は由来熱血鐵腸の快男兒を輩出せる事尠ならず、殊に氏の出生地たる高岡郡須崎の地は、明治維新の風雲兒吉村寅太郎、或は間崎滄浪の永く停まりし事あり、其の歴史的因縁に依りてか、郷土氣質頗る剛健潤達にして所謂土佐魂に燃え、氏の如きは即ち其の美點長所を遺憾なく繼承せる典型的土佐人とも稱すべく、亦た烈々たる國士的風格の所有者とも云ふべきならん歟。

(住所 高知市升形町)

## 江戸川石油株式會社

抑々當社は元網野銀行頭取にして映中の高傑故網野善右衛門翁(當社現社長網野善右衛門氏の岳父)が、其の豊富なる財力を以て石油精油界に進出し、江戸川製油所の名の下に個人經營を以て創業せるを溯源と爲す。而して昭和六年十月に追んで時運に即應して全經

營を擧げて株式組織に革め、現稱號と改稱せしものなり。周知の如く當時我油界は何等の統制準備すらなく、恰も群雄割據、弱肉強食の文字通りにして、資本家の跳梁跋扈眞に眼に餘るものありしが、當社は斯かる渦中に在り乍らも凡ゆる辛儼を嘗め盡し克く拮据經營に耐へて善處し來れり。昭和九年に至りて石油業法の實施は恰も早天に雲霓を望むの感ありて、茲に永年の自重は酬ひられて面目躍如たるを得たり。爾來時局の好潮に掉すと共に首腦部諸賢の眞摯たる協力は益々業況好轉し其の名を馳するに至れり。昭和十二年下期の商況を通覧するに、同期は支那事變發生以來重工業關係の事業界活況を呈して需要激増する半面、業界の統制宜しきを得て市價は堅實に維持され、期末に至りては爲替管理強化に因る輸入製品の入手難は忽ち國産品代替を餘儀なくされ、懸案の重油、燃油の統制強化も愈々具體化せんとする等ありて業界は至極明朗化して、當社の成績亦所期を全ふせり。同期利益金は十二萬四千餘圓を擧げ、内機械器具、建物其他の銷却金五萬五千餘圓を控除し差引六萬五千四百餘圓の純益金と、前期繰越金一萬四千三百餘圓合計七萬九千七百餘圓を得、之れを處分するに諸積立金一萬圓、役員賞與金四千圓、株主配當金四萬四千四百圓、後期繰越金二萬一千百餘圓と爲し、頗る堅實

にして餘裕綽々の決算を遂げたり。因に當社役員の数多は、俸俸を生む缺中甲斐出身の少壯家なり。即ち  
取締役社長 網野善右衛門、常務取締役 石原正美、取締役 穴山春夫、同小北忠夫、監査役 佐々木長治、同加藤直次

取締役社長 網野善右衛門 明治二十七年二月、山梨縣下異數の素封家廣瀬家に、久政氏の二男として呱呱の聲を擧げ、長じて峽中の商傑故網野善右衛門家に入りて養嗣となり前名勝丸を改む。天賦明智なる頭腦を有し、博識多識なり。現に當社を統理する外、甲州銀行取締役、山梨證券監査役に推擧され、山梨縣多額納稅者に列し、其の前途を嚆望されること多大なり。

警務取締役 石原正美 夙に日本大學を卒へ仕官を望みて逕信省に入る。幾許もなく同郷の實業家先代網野善右衛門翁の姻縁に違ひ、翁の出資に拘る江戸川製油所に支配人格として入所す。冷頭熱腸而も快手の實は益々翁の信託を高め、昭和六年に追んで同所が株式會社に改組するや、擧げられて常務の任に就く、然るに當時我が經濟界は不況の眞底に在り、殊に石油は世界一低廉なる日本なるが故に、如何に力闘するとも術なかりしが氏は

牢固たる信念と、凌雲の氣魄を以て之に臨み致々營々部下を督勵して業礎を築くに専念せり。昭和九年に至りて斯界は一視同仁の慈光周く遍照する石油業法は布れたり。北冥の鯤化して鵬となり、將に萬里の碧漢を飛ばんとす。今や油界は正に非常時、氏の任や極めて重し、切に健闘を祈る。

(所在地 東京市深川區常盤町一ノ二)

### 日本畫家 菅 楯 彦

「巖をも通す柔の弓」と。寔に熱誠努力の赴く處、力山を抜き水を射るも亦宜なりと云ふ可きか。關西畫壇に異彩赫々たる存在を顯はれ、独自の畫境に彩管の妙を發揮する我が菅楯彦氏は、即ち天性の畫才に加ふるに、意氣と元氣と覇氣とに終始一貫し、懸命なる畫道精神の實果を結びて、遂に日本畫壇稀に見る大和繪の大家として偉名を擧ぐるに至りし努力精勵の畫人なり。  
氏は鳥取縣士族盛南氏の長男、明治十一年二月を以て呱呱の聲を擧げ、夙に繪畫に深甚なる興趣を抱きて、將來の道を畫界に求むるや、奮然斯道の名家山本憲氏及び木居派の學者鎌村春岡氏等の門に投じて鑄骨研鑽、晝夜を分たざる努力精進の結果は、其の潑刺縱橫

の氣才と相俟ちて、早くも畫筆の活々に一段たるものあり、同門下屈指の逸材として光輝燦たる未來を約束さるゝに至れり。

斯くて典雅優麗、師の畫法を學びて克く之に追隨すると共に、更に獨自の心境に立脚せる構圖彩管の妙趣を添え、茲に從來の大和繪に一層絢爛多彩の精緻を現はし、觀る者をして感嘆賞讃、容易に畫面より去らしめざるの至妙の域に達せり。即ち各種展覽會に出品するや、周く江湖の絶讃を博し、専門家亦た讚辭を呈するに吝ならざるの名畫として、卓然斯界に獨歩の地位を築くに及び、今や名實共に現代畫壇一方の重鎮たり。資性濃厚にして謹直、其の玲瓏些かの邪心もなき心境を以て益々斯道に精進し居れり。

(住所 大阪市住吉區天王寺)

### 下部溫泉 古湯坊 源泉 館

下部溫泉郷は峽中山梨の山水明美の仙境に在り。中央線にて新橋を發し甲府驛に着し直ちに富士身延線に乗換へ下部驛下車、驛より八町の地點にして交通至便なり。  
而して下部溫泉の源泉は實に古事に屬す。即ち景行天皇の御宇狹穗彥王なるものあり其三世の孫臣知津彦の子鹽海足尼甲斐國造を賜

はり領内巡視の際五郎峯西麓湯山に於て滾々湧出する源泉を發見し喜悅禁する能はず直ちに其姓を取り鹽海の湯と名附く。降りて仁明天皇承和三丙辰年甲斐國主藤原真雄の次子修理太夫正信偶々疥癬を患ひ紀州熊野本宮へ祈願し當溫泉に入浴する事三日を出でずして全治す。結願の夜熊野大神出現し溫泉より未申



源泉の館の外観

共ニ搜索せしに山頂平坦地ありし爲宮殿を造營して茲に祭り溫泉主神と爲す(此頃より鹽部を下部に改む)次で佐野新左衛門尉政隆武田晴信に仕へ馬奉行たり。天文申上田ヶ原に出陣し大に槍傷を蒙り當溫泉に浴して治すを

得たり。然れ共疵要部なるを以て陣に臨むこと能はず殊に老齡の爲隨頭を乞ふて溫泉の傍らに居を移して茲に住す。亦甲越川中島之役武田晴信上杉謙信の爲刀傷を蒙り當溫泉に入浴日ならずして癒ゆ。晴信大に効顯著なるを欣び家臣穴山伊豆守梅雪をして熊野大神の宮殿並に浴場等の修繕を命ず、依之以來武田家の臣僚入浴する者絶えずと(世に信玄のかくし湯の稱あり)。政隆君臣の入浴ある毎に周旋を其間に執る、晴信其功勞を賞し殊に政隆に湯守を命じ姓を石部と賜ふ。爾後佐野氏を廢して石見守石部氏と號す。政隆數十代を経て慶應二寅年十月廿日偶々火災に罹りたるも幸にして古籍珍寶今に存し、現源泉館主石部孝氏に追へり。  
當溫泉質は無色透明にして弱鹽類泉に屬し微に硫化水素臭を有し居り、ラジウムエマナチオンの外に硫酸ナトリウム、重炭酸ナトリウム、クロールナトリウム、硫酸カルチウム、硼酸、遊離炭酸を多量に、クロールカリウム、重炭酸ナトリウム、硫酸其他を少量に含み溫度華氏九十五度なり。尙ほ當館の股脈なるは春夏秋冬の季節にして病氣療養避暑の浴客充滿し頗る繁盛を極むるも冬期は雜沓漸く減じ客室浴室共に自由に獨占靜養することを得れば眞の浴療は此期節を以て適切となす。近年冬期の浴客益々増加し四時浴客絶へざるなり。



前述の如く石部氏の源泉館は下部温泉の開祖にして今日同温泉郷の股幹を極めしは石部氏累世の寄與貢獻に依ること論を俟たざるなり、今や客室五十數室、鏡に新館を竣成せしめて十數室を増し、娛樂室其他萬般の設備整然たり。

前山 藤樹天書 如玉川流添細明 聞說樓山公  
浴湯 土人慕古動至情 藤前山水愛天然 則覺  
精神任自然 正是人生長壽樂 古來湯元世依然  
山間風景似眉山 山水明細九夏間 綠樹陰深情  
奧足 靈泉奇絕景難圖

の詩は即ち本泉を欽慕するの念九戀たるものありとす。

### 石坂 孝

奇蹟的特效と由緒深きを誇る下部温泉の源泉を汲む古湯坊源泉館の當主たり。明治二十一年十二月、先代實翁の嫡男として現所に出生す。長ずるに及んで甲府商業學校を卒へ、令府の良佐たる傍ら下部郵便局長に就任し、村會議員、下部温泉旅館組合長等に推選され名望著々たり。

(所在地 山梨縣西八代郡富里村下部)

### 柳松 次郎

風味絶佳にして滋養豊富、萬人の垂涎措く

## 東京可鍛鐵鑄工所

鑄物事業の首都としてその名聲全國に冠たる埼玉縣川口市に於て、技術の拔群なると、製品の優秀なると、果た又業礎の鞏固なるとを以て業界に重きをなせるが、東京可鍛鐵鑄工所にして、専ら諸機械附屬品・自動車附屬品の製造をなして、斯界に追隨を許さざる獨自の業陣を布けり。當社は昭和六年大場眞十郎氏に依りて現在の地に於て創始せられ、業勢頗る順調なる發展を辿りしが、後ち現代表社員たる福永吉雄氏の經營に移り、昭和十年十二月に追んで資本金三萬一千圓の合資會社に改組せられ、社業に一大刷新を加へられて爾來更に飛躍的發展を遂ぐることゝなれり。技術の研鑽と設備の改良に、銳意力を注ぎ、その製品の優秀なるを以て絶大な好評を博し、需要大いに殺到して業況多大に繁忙を呈するに至れり。最近一ケ年に於ける製品製造高二十五萬圓にして、その金額必ずしも大なりと云ふを得ざるも、歴年目覺しき激増を示して業界注目的とせらる。工場敷地七百坪にして従業員七十名、生産設備頗る整備して斯界の新銳として重きを爲せり、時局關係によりて當社の製品は今後一段と著増するの筋

能はざる土佐名産中唯一の銘菓「大つぶ」餡を始め、「ケンピ」「土佐名所煎餅」其他パン、カステラ等各種和洋菓子の逸品を製造販賣し、四國菓子業界の王座を占むる合名會社一柳豐榮堂こそ、實に我が一柳松次郎氏の主宰經營に拘るものに他ならず。抑も當店は先代助太郎氏が明治二十一年、若冠十七歳の折嚴父榮次氏に伴はれ、愛媛縣三島より來高し當市細工町に規模小なる餡屋を開業、大粒の餡を賣出したるに創業の端を發し、爾來苦心慘澹、輸入糖の變遷と共に製法及び材料の改善を加へ、殊に榮養並に風味に就きて多大の努力を拂ひ、常に病弱者或は幼少兒の體質向上に資すべく留意精選し、色粉其他粉色を排して榮養價の増加に努める一方、更に絶對古來の地方色を出すべく、工夫を凝らす等、専心品質改良、風味絶佳を期して腐心製造せる結果、既に確固不搖の定評を博して聲價顯赫たるものあり。即ち業績次第に擧り、當主祖業を繼承するや、益々繁榮興隆を齎して今日に至れり。氏は明治二十七年先代の地に生れ、夙に盛岡高等農林學校に學びて切磋琢磨、大正五年同校を卒業後は、只管父君を扶けて家業に従事し、努力勵精克く菓子製造法の研究修得に努め、其後先代長逝さるゝや、代表社員となりて經營一切を執掌するに至り、以來菓子業界報國の旗幟を一層高く揚げ、該大粒餡

合にあるを以て、將來の社業の躍進こそまことに期して俟つに足るものあり。最近の受註の激増よりして設備の一大擴張を行ふべく、着々として準備を進めつゝあるが、これが爲めに組織を株式會社となし、近々業界に一大雄飛を遂ぐる豫定なり。當社の前途こそまことに洋々たるものありと云ふべし。

代表社員 福永吉雄 氏は頭腦俊敏にして手腕の卓抜を以て業界の尤として稱せられ、眞摯業務に淬勵して銳鋒を示し、その材幹は世人の推敬を受くること甚だ厚し。鹿兒島縣士族福永吉之助氏の長男として、明治十七年二月を以て生る。同四十二年東大獨法科を卒業して、後滿鐵に入る。頭才を發揮して大いにその前途を囑目せられしが、更に日本國際石油、滿洲木炭湖煤鐵公司囑託等を歴職し、事業界に多大の殊功を始せり。それより後獨逸に留學し、經濟界の研究調査に従ひて大に智能を富饒にして向後の飛躍の素地を作りて歸朝す。學識該博にして蘊蓄の深遠なる業界屈指の稱ありて、資性溫恭たると共に品性典雅にして、教養高き洗練せられたる好紳士として衆庶より多大に敬仰せらる。因に嚴君吉之助氏は人も知る正四位勳二等功四等在郷海軍主計中將にして現に貴族院議員たり。

(所在地 川口市本町三丁目)

其他時代の趣向に適應せる銘菓「ケンピ」其他を製造販賣し、萬客の絶讚好評を贏ち得ると共に業態頗る好調を招來、即ち數年前より自家用自動車二臺を以て四國四縣各地に配給する一方、遠く海外に販路を開拓して日本製菓の眞價を顯揚し居れり。而して豪華絢爛たる營業狀況を顯はるゝ當店は、更に其の各種製品に斯界に誇る可き幾多の光榮を有せり。即ち「大つぶ」餡は長くも、聖上攝政宮殿下におはせし御時、大正十一年十一月二十八日高知縣行啓の御餉り、産業獎勵の御恩召を以て御買上を賜りたるを初め奉り。閑院宮殿下伏見宮殿下、久邇宮殿下、北白川宮殿下各殿上御買上の光榮に浴し、尙亦た皇太子殿下御降臨に際して侍從武官鈴木貫太郎大將を通じ御誕生記念として、銘菓献上御嘉納を賜りたる他、各種製品と共に全國菓子品評會、全國特産品博覽會、高知開市記念博覽會其他品評會、展覽會等に於て賞狀、褒狀、賞牌を授與されたる事故擧に遑あらず。

因みに氏は穩健淳朴の美質を有し、而かも牙籌を握れば綿密周到、非凡の商略を按じ、當店々主たる他方、亦た豐榮土地株式會社々長として令名頗る高し。尙ほ家庭には内助の功多き喜久惠夫人との間、七子を有して子嗣者の聞えあり。

(住所 高知市細工町角)

## 岩崎炭礦株式會社 木曾重義



木曾重義氏

我が國重要産業の基礎をなし、將又國防上必須缺く可らざる重要資材たる石炭の増産計畫着々實施され、特に最近非常時局の進展に伴ひ、其の使命は愈々重大性を加ふるに至れり。而して今後採炭礦業は單なる營利事業に非らず、實に國家の使命を制する國策的事業と稱するも敢て過言には非らざるべし。此間に處して我が木曾重義氏の主宰經營する岩崎炭礦株式會社の如きは、其の一糸紊れざる統制下に全従業員一致協力、克く銛後産業人たる認識覺悟を堅持し、銳意生産擴充を圖りて邁進すると共に、災害防止に一段たる注意を傾倒、以て産業報國の昭々たる實績を擧げ居れる斯界屈指の優秀採炭會社なり。是實に氏が天賦の膽略才幹を縱横に發揮し、努力奮闘

能く震天動地の活躍を擡にせる賜と云ふべきならん。抑も氏は福岡縣遠賀郡中間町を搖籃の地となし、明治三十一年四月二十五日を以て呱呱の聲を發せる少壯氣鋭、當代稀に見る典型的礦業家なり。夙に剛健澄利、才氣煥發なるを漏はれ、京都の中學校を卒業するや家業に従事して汝々精勵する事二星霜、其後若冠二十歳にして業界雄飛の大家を抱き、奮然岩崎礦業所に入所せり。以來凡ゆる困苦艱難を克服しつゝ、努力健闘に終始し、而かも天稟の鋭鋒遺憾なく光輝を發する處、早くも所長岩崎氏の信認を得る事厚く、茲に一躍拔擢せられて同炭坑々長の要職に就き、銳意専心只管事業の發展興隆を圖りて努力獻替する事多年に及べり。斯くて同社業運の隆盛と共に其の手腕力量の非凡なるを喧傳せられ、令名夙に斯界に鳴り、信望隆々たりしも、更に活躍一層業界に驥足を伸ばさんと霸氣勃々たる處、昭和九年同炭坑を岩崎社長より買収し、以來營業一切を掌握して益々努力奮闘、遂に炭界未曾有の好況に乗じて業運發展に拍車を加へ、今や飛耳張目に値すべき躍進途上を一路奮進し居れり。而して其の年産出炭總額は十五萬噸を超え、當地に本社並に礦業所を設置する一方、亦た山口縣宇部市外中原に採炭精煉所を有し、現在兩炭坑の労働者總計千二百餘名を算すと聞く。他而販路は阪神を中心

とせる關西一帶に廣汎多大の得意先を擁し、堅實不搖の地盤に立ちて信用籍甚なる事、又斯界有數のものたり。資性剛毅調達にして後々たる仁侠の義氣に富み、常に全従業員の利福増進を圖りて間然する處なく、而かも人格高潔、識見高邁殊に現下世界情勢の一大轉換期にあるを痛感し、夙に政治形態の改革刷新を希求、以て眞に國利民福を念願と爲す進歩的健全なる思想の所有者たり。且つ胸底政界進出の雄圖に燃え、只管好機到來を翹望し居れる處、他日念望達成、英姿風爽として議政壇上に卓見を吐露する日も敢て夢想には非らざるべし。

(所在地 福岡縣遠賀郡香月町岩崎)

### 角田研磨機製作所

當製作所の製造販賣に拘る「ヨミス」印油壓式研磨機は、機構精密にして性能優秀なる事雖然國産研磨機の水準を抜き、既に需要界の好評賞讃を博すると共に、更に海軍指定工場たるの榮譽を獲得し、聲價愈々顯然たる稀有の逸品たり。

而して當所は角田嘉正氏の拮据經營に係はり、創業以來常に國産優秀品の製出を念頭に鋭意製品の改良に腐心研究を累ね、或は生産

設備の改善擴充を圖りて着々發展を招來、遂に現在の如き斷然斯界の雄たる名實を具備するに至れり。今や第一工場並に事務所を當地に構え、更に第二工場を市内横曾根農林省試験所前に置き、職工及び徒弟六十餘名を擁して業務隆々たる、正に旭日昇天の概ありき。而かも現下未曾有の非常時局に際し、生産力擴充の澎湃たる叫びと共に、機械工業異數的發展を見、研磨機の需要益々増加の趨勢にあるに鑑み、當所前途の發展飛躍こそ、實に刮目に値するものあり。

所長 角田嘉正

若年にして墳墓の地を去り、孤立無援の地に奮闘して、遂に今日の大成を見たるの氏の如き、正に立志傳中の白眉と推稱すべきなり。氏は明治二十四年九月十七日を以て福岡縣に出生、夙に雄圖勃々奮然將來活躍の天地を工業界に求めて上京するや、一介の少年機械工として刻苦精勵、只管技術修練に努力邁進する一方、更に夜間東京工學院に學びて切磋琢磨の功を積みたる苦學力行の逸村なり。其後若冠十九歳以來腐心研究に没頭せる研磨機を完成し、獨立經營の確信を得ると共に敢然現所に創業、斯くて斯界に驥足を伸すに至るや、更に從來本邦には其の類例を見ざりし該機の改良完成に渾身の熱意努力を傾注しつゝ、遂に今日の成功を贏

ち得、今や信望隆々として容易に犯し難きもあると共に其前途を矚目せらる。

(所在地 川口市飯塚町一ノ八六二)

### 續著讀員

### 玉井、金五郎

徒手空拳、體軀一貫を資本とも恃み、背景とも恃み、之に確固不拔の信念を以て努力奮闘に終始し、遂に光輝燦たる成功の彼岸に到達したる者こそ、正に眞の成功者として尊敬仰すべきなり。

我が玉井金五郎氏は實に斯の如き人物、即ち其の過去半生に及ぶ開歴性行、奮闘史は、玉磨かざれば光なしとの古訓の如く、克く千辛萬苦に堪えて之を克服し、着々成功の道程を辿りしもの、而かも深甚なる造詣と卓抜なる識見を縦横に吐露し、若松市政壇上に侃語たる論陣を進めて偉風堂々、常に時代の眞髓に徹したる所論と、自治産業の發達に對する理想に燃え、社會公共の福祉増進を圖りて功績赫々たるに於ては、正に當今稀に見る偉材の士として推稱すべきなり。

氏は明治十三年十月二日を以て呱呱の聲を發し、夙に豪放不屈の精神に富みて霸氣勃然たる處、若冠二十三歳の折、奮然青雲の志を抱きて當市に來たり、爾來有炭積込人夫とし

て刻苦奮闘、凡ゆる苦楚を嘗めつゝ、労働に従事する事滿三ヶ年、而して其間縦横に發揮せる天賦の才幹を認められ、信望頓に高まるや茲に敢然獨立業を起し、若松港汽船積荷請負業者として雄飛發展の第一歩を印せり。斯くて斯界に一大活躍を擡にする事幾星霜、着々基礎を固め業勢を伸張せしめ、遂に今日見るが如き隆昌盛大、斷然業界に壓倒的なる業運を贏ち得、名實共に當市業界一方の重鎮として聲望隆々たるに至れり。而かも居常社會公



玉井金五郎氏

共に關心を抱くこと頗る厚く、夙に若松港汽船積込小頭組合長の要席に推され、同組合創立以來實に二十有五年間に亘りて貢獻寄與を怠らず、或は市會議員に當選する事四回、更に商工會議所議員たる事三期にして現に其の要職にあり、常に嚴正中立を標榜し、公明正大に一貫し、献身克く市民大衆を中心に其の福祉増進を圖りて功勞著大、即ち當市政界及び實業界に充分驥足を伸ばし、衆庶の尊敬信

### 南海化學工業株式會社土佐工場

近來異數の躍進發達を顯現せる本邦化學工業界の雄、南海化學工業株式會社の斯界に誇るべき理想的工場に同社土佐工場の儼然たる存在あり。抑も當工場は往時土佐硫黃株式會社の工場たりしも、昭和三年兩社合併と同時に現名に改稱し、爾來銳意諸設備の改善擴張を圖り、今や四鹽化炭素、硝酸、二硫化炭素等を製造販賣し、其の製品の優秀確實なる、正に國産品中の白眉を以て推され、業況の繁忙多端なる事亦た瞭目に値するものあり。

(住所 福岡縣若松市正保寺町)

### 工場長 正田 廉

氏は單に當工場の最高責任者たるのみならず、亦た當社取締役の重責を擔ふ斯界錚々の偉材なり。明治九年

和歌山市を搖籃の地として呱呱の聲を擧げ、  
夙に慧眼遠識、克く斯業に嚆目するや、同四  
十二年奮然當社の前身たる南海晒粉株式會社  
に入り、青岸工場主任として精勵恪勤、天賦  
の敏腕を縱横に發揮する處、上長の信任頗る  
厚きものあり、大正二年ネルソン式食鹽電解

苛性曹達製造の研究及び之が所要品購入の目  
的を以て米國出張を命ぜられ、歸朝後新智識  
を傾注して苛性曹達製造工場の設立に着手し  
見事之が完成を見たる後、更に北海曹達伏木  
工場の電氣苛性曹達及び晒粉製造工場を建設  
し、茲に俄然異彩赫々たる存在を顯はれるに  
至れり。後同社を圓滿退職し、工業藥品及び  
諸機械工具賣買業を獨立創始せるも、大正十  
年北海曹達社長吉富氏並に専務小泉氏の懇請  
黙し難く、同社伏木工場技師長として入社し  
翌年兩氏辭任に伴ひ氏も亦た勇退、爾來泉岡  
煉瓦株式會社の經營に當りたる後、同十二年  
由良染料株式會社支配人に招聘せられ、次で  
土佐硫曹株式會社取締役兼支配人に就任、更  
に昭和三年南海晒粉株式會社と合併實現し、  
茲に當社取締役兼土佐工場長の重職を帯ぶる  
に至れり。斯くて星霜を閱する事十星霜、今  
や當社の至實的存在として内外に絶大なる信  
望を博し偉名業界に噴々たるものあり。資性  
剛直健全にして人格清廉潔白、而かも周到緻  
密の心構えを有し、典型的工業家たるの名實

を遺憾なく有せる一種の傑物なり。  
(所在地 高知縣高知市潮江町)

### 合名會社肥塚商店代表社員 肥塚宗次

美味芳醇にして馥郁たる香氣を有し、その  
品質の佳良を以て夙に全國の通人の間に多大  
の愛好を受くる天下の美味「都蘭」の名こそ  
耳にするだに愛飲家をして齊しく垂涎せしむ  
る所たり。銘酒都蘭の醸造元としてその名聲  
高きが合名會社肥塚商店にして、當店の創業  
の古きこと斯界屈指を以て知られ、即ち今を  
去る百數十年前、九州長崎に於て始めて酒造  
業を創始し、その品質の卓絶せる所より絶大  
なる好評を博して業運隆々として勃興せり。  
後堺市に本店を移して愈々大をなし、斯界に  
確固たる業礎を築くに至れり。多年の研鑽に  
なる秘技に依りて独自の風味を有し、業界有  
數の逸品として絶讃湧くが如く、全國各地の  
博覽會、共進會等に於て受賞せしこと百數十  
回に達せり。需要の増大よりして事業大いに  
發展し、曩に全經營を擧げて資本金二十五萬  
圓の合名組織に改組して、支店を長崎・東京・  
大阪・御影・大連の各地に設立して、全國に  
一大業陣を布けり。當店の代表社員として經  
營の衝に當れるは肥塚宗次氏にして、氏は明



砥礪し、激甚なる角逐場裡を活躍して獨創の  
商陣を張り關東地方に牢固たる販路網を築き  
て大いにその快腕を顯はる。氏は資性潔恭謹  
直、素志頗る堅剛にして熱誠業務に精勵し、  
家道を愈々興隆せしめつゝあり。高潔なる品  
性を有し、謙讓にして思慮亦た圓熟し、至誠至  
純の人格者として世人の景仰を受くること厚

し。一面頗る仁情に厚く部下を見ること骨肉  
の如く、困窮せる者には私財を投じて救恤す  
る等、その温情は何人も悦服せざるはなし。  
業界有數の材幹として信望噴然たり。  
(住所 堺市熊野町西一丁目)

### 大阪書籍株式會社

抑も當社は世人周知の如く小學校用國定教  
科書の製造販賣を營み、明治四十二年九月二  
十七日を以て創立せられし以來、常に印刷書  
籍出版業界に特異の光彩を發しつゝ、一路堅實  
なる發展過程を辿り、以て現在に及べる優秀  
會社なり。而して現在資本金六十萬圓を擁し  
其額取て多大ならずと雖も、印刷工場の諸施  
設完全に堂々たる整備振りを示し、或は  
當大阪府を始め兵庫、奈良、和歌山、香川、  
愛媛、徳島、高知、佐賀、鹿兒島、沖縄の各  
縣及び朝鮮、臺灣、關東州、滿洲國等に獨自  
の販賣地盤を占め、其の業礎絕對確實なる等  
は他業者の羨望措く能はざるものあり。茲に  
工場概要を記述すれば同敷地は總坪數三千三  
百九十五坪餘、附屬地千七百六十坪餘を算し  
其内事務所、印刷工場、製本工場、製版及び  
乾燥室其他合計十一棟二千二百八十坪餘に亘  
る建物を含み、主要機械は自動給紙二色凸版

印刷機二臺、同單色凸版印刷機十七臺、各種  
凸版印刷機計十八臺、自動給紙二色オフセツ  
ト印刷機二臺、其他最新最良の新鋭各種印刷  
製本用機約六十臺並に電動機八十三臺三百十  
八馬力を設備し、事務員三十名、工務員十名、  
備員三名、工員二百六十餘名等を擁して全員  
眞摯社業に努力を傾け、最近に於ける製造高  
は年額二千三百六十四萬七千三百餘冊なりし  
も實用製産能力は二千五百萬冊を突破する一  
大偉力を具備し居れり。而して自昭和十二年  
六月至同年十二月間に於ける第五十七回營業  
成績を大觀するに、本期間工場作業日數は百  
五十六日にして其製造高は合計八百三十五萬  
七千四百五冊、九十一萬三千六百五十九圓餘  
を示し、又た販賣高合計は賣上冊數六百二十  
七萬三千六百五十冊、戻入冊數五十八萬七千  
八百九十三冊、差引賣上冊數五百六十八萬五  
千七百五十七冊、之が金額五十九萬一千九百  
六十三圓餘に及び、一方事變の影響に一時運  
輸機關の杜絶を見、或は諸材料の騰貴、工賃  
の増額等他に依り、生産費の増大定に忍び  
難きものあり、加ふるに國策上諸費節約の高  
調、更に國定圖書の値上げは當局の容認する  
處に非ずして、僅かに教師用書及び高等科兒  
童用書に於て若干定價引上げを實現されし等  
幾多經營上の困苦難障殺到し、創立以來未曾  
有の難局に達着せるも、學社相協力し専心業

務遂行に犠牲的努力を傾注せる結果、總收入  
百五萬三千八百三十圓餘、總支出九十七萬七  
千三百三十圓餘、差引利益金七萬六千四百九  
十九圓餘を擧げ得たるは洵に偉とす可く、尙  
ほ該期利益金に前期繰越金四萬二千一百八十  
五圓餘を加算せる十一萬八千六百八十五圓餘  
の處分法中、株主配當二萬四千圓(年八分)  
後期繰越金五萬七千五百餘圓と、餘裕裡々々  
たり。因に當社は全員服裝を一定して、男女  
工にはスフ製服を着用せしめ、國策線上に躍  
進すると共に、支配人を會長とせる自治會を  
組織、或は購買組合を設置して従業員の日  
品使用に便益を與え、社内常に和風飄蕩たる  
は、蓋し他の以て範とす可き所たり。首腦部  
は社長三木佐助、常務鈴木常松、取締役柳原  
喜兵衛同石田忠兵衛、同兼支配人竹内吉松、  
監査役石塚猪男藏、同松村九兵衛、主任北村  
正俊等の卓腕家を以て組織し居れり。  
(所在地 大阪市西成區津守町五九六)

### 服部製作所

滿洲事變以來國際關係錯綜し、國防費年々  
激増するの餘儀なきに至り、之が爲めに軍需  
工業を中核とする事業界は目覺しき活況を現  
出し來れるが、當社に於ても斯る事業界の風

潮を受けて、近時社業は一段と盛況を見るに至り業績飛躍的に向上を見ることとなり。當服部製作所の創立は大正六年十二月のことにして、その技術の卓越せりと製品の優秀なるを以て創業以來業績頗る好調を以て推移し、逐次の増資並に生産設備の擴張に依り、社業大いに擴張せられるに至り。現時資本金二百二十五萬圓にして全額拂込済なり。その事業は鐵骨建築鐵道用品、諸機械及送電線用鐵塔、三角鐵柱の製作販賣を爲せり。當社の工場は東京市池袋に於ける池袋工場並に福岡縣若松に於ける若松工場の二工場ありしが近時の需要増大よりして設備擴張の必要に迫られ、先年神奈川縣川崎市に敷地を選定して川崎工場の新設を行へり。事業の統制・爲替管理の強化等よりして材料の騰貴並に機械類の輸入難等の影響ありしも、豫期の通り工程進捗し池袋工場の一部を移轉して昭和十二年末より操業を開始せり。同工場は最新式の優秀設備を備へ、生産能力又頗る大なるものあるを以て、當社多年の研精に於ける技術益々精彩を加へ、當社製品は事業界を風靡するに至るものと期待せらる。支那事變の勃發以來軍需品並に之に伴ふ生産品の擴充政策の強化に依り、此等軍需工業を中心とする諸工業は多大の盛況を見るに至りしが、他面鐵材の統制或は爲替管理の強化等の影響を受け、當社

の主たる製作品たる鐵塔・鐵柱鐵骨等の諸工事は前期に比し製作數量稍々減少せしも、價格昂騰の爲め昭和十二年下期に於ては却て増收をなせり。又軍部方面よりの軍需品の注文ありたるに依り、池袋工場機械部に於ては設備の擴張をなし、銳意操業に當りたり。昭和十二年下期に於ける受注高二百四十二萬二千圓に上り、前期繰越高を加算すれば三百六十二萬三千圓に達す。同期に於ける竣工高は二百二十一萬九千圓を算せり。總收入二百二十三萬三千圓、總支出二百十八萬一千圓となり差引當期利益金五萬二千圓に上り、株主に五分配當を附せり。川崎工場の竣工に依り、當社事業は一段と威力加はり、今後の業績益々向上を期するに至るべし。當社重役に社長五十嵐小太郎、常務取締役大次郎、取締役有田勇次郎、尾高豊作、宮垣健、小川彌太郎、松下長久、多田久三郎、田中榮八郎、常任監査役原鐵五郎、監査役後藤元治の諸氏あり。

### 實業家 長谷川爲藏

頭腦緻密にして才略縱横、角逐場裡に獨創の商陣を布き、大阪財界に賦票の頭才を顯はれる長谷川爲藏氏は、多年事業界を馳騁してその材質愈々砥礪せられ、その快腕益々圓熟して、近時名聲大いに揚れり。氏は福井縣人内田彌左衛門氏の二男として、明治二十三年五月を以て呱呱の聲を發す。幼にして慧敏にして、頗る頭才あり。夙に福井農學校を卒業す。後長谷川辰太郎氏より懇望せられて、同家の養子となる。大阪アルカリ會社に入社するや、恪勤精勵して業務に専勉し、儕輩を抜いて大いにその鋭鋒を示して、拔擢せらる。氏は献身的に職務に津勵し、諸般の業務に關して研鑽怠らず、その對策用意周到にして水も漏さず、その行ふ處、明斷果爲正に快刀亂麻を斷つるの概を示して、其手腕は業界の大いに推重する所となれり。事業界に大いに頭角を現し、長谷川商會、帝國サルヴェージ、帝國海軍各社の常務取締役の要職に推され、才

腕を揮ひて赫耀たる業績を擧ぐ。現時長谷川社長、長谷川商店棉花部、太平鑛業各取締役日本サルヴェージ相談役等の要職に列し、事業界に牢固不動の地盤を築けり。氏は頭腦俊敏にして周匝緻密、機を見るに敏たると共に事を行ふに神速、神靈の鬼策をめぐらして財界を八方活躍し、卓勁の才腕は世人の深く嘆服する所たり。實實堅確にして素志健剛如何なる難關に直面するも動じも屈せず、勇往邁進身を挺して當り、常に新局面を拓開して商場場裡に赫々たる成功を収む。辯舌頗る豊かにして、その巧なる話術には何人も魅了せられざるはなく、その才略と相俟つて氏がよく財界に名を成すに至りし所以とす。資性濃厚にして謙虛、寛容たると共に敦厚、情誼に厚く仁俠に富み、克く部下を愛撫し、指導に力を盡して師父の如くに仰ふが。高潔の人格を有し、典雅の品性ありて財界より多大の崇敬を受く、今後大いに事業界に驥足を延ばすに足るべし。

(住所 神戸市東區區通七丁目)

### 株式 四國銀行

單に縣下金融界の覇者たる己ならず、冷く中國、四國一帶に絶大廣汎なる信望を顯はる

、四國銀行は、本邦財閥一方の雄、安田保善社を大株主に有し、其の系統下に強固不動の業礎を抱くと共に、常に地方業界に垂範的指導の實を示す優秀銀行中の雄たり。抑々當行は明治十一年十月設立せる第三十七國立銀行に同二十九年九月第九百二十七國立銀行を合併し翌三十年三月高知銀行と改稱して其營業を繼承し、同四十年十月安田家關係銀行の一に列班し基礎彌々堅固に且つ内容の充實と與に組織の合理化を期し業績逐期順調に進運、同四十四年一月八幡濱貯蓄銀行を買収し大正五年四月大竹貯蓄銀行の營業を譲受け同八年一月更に土佐貯蓄銀行を合併し、同十二年十一月縣下二大銀行の一たる土佐銀行と合併成立し同時に稱號を現稱と爲せり。越えて同十五年六月關西銀行を、更に昭和五年高陽銀行を合併するに及び現在資本金一千二百二十九萬五千圓を擁し、今や五十七箇所の支店出張所網は四國中國に跨り如上の古き行應を有して常に一般の信頼を擔ひ、地方銀行として、確に地方の實情に則したる堅實方針を第一信條として之れが實踐躬行し、共存共榮の精神を營業の根本策として其の使命に邁進し、名實共に赫耀たる光芒を放ち、地方銀行の紺綬として錚々たる威望を馳せつゝあり。而も曠古の非常時局に際會するや能く政府の趣旨に基きて地方産業の伸張、資源の開発に

益々助成の實を擧げ其の未來の重大使命遂行に遺憾なきを期し居れり。

因みに近年の營業成績は昭和十年上期以降五分配當を餘裕裡に繼續し、以て前途の一段たる好調を期待する、事勢なからず、尙ほ重役陣を形成するは頭取安田善五郎、常務取締役山本豊吉、取締役大脇順路、同池田眞樹、同橋田早苗、同川崎芳三郎、同松村正太郎、同兼支配人小松米吉、監査役長尾傳藏、同川崎清男、同片山頼之、相談役宇田友四郎等の諸氏にして何れも業界錚々たる人材なり。

### 常務取締役 山本豊吉

氏は夙に日本大學法科専門部を卒へるや銀行界雄飛の壮志を抱き、明治三十七年四月安田銀行に入社、爾來精勤恪勵、孜孜として職務に従ひ、且つ天賦の才幹縱横に發揮する、處、大正十一年十一月拔擢せられて同行米澤支店長に昇進、次で同十三年青森支店長に就任せる後、昭和元年を以て、保善社に轉任、更に大連所在の正隆銀行支配人の要席に就き、超えて昭和七年二月同行取締役の階進、斯くて同十二年一月四國銀行常務取締役の樞樞に榮轉せる地方金融界の重鎮なり。資性明朗剛腹にして小事に拘泥せず、常に大局的目標に勇往する一方頭腦明晰にして頗る計數に長じ、業務上の企畫運用は一點たりとも苟もせざる典型的銀行家

而かも精神崇祖の念に富み、自宅に祭壇を設けて鋭意精神修養を怠らず、常に皇室中心主義を説き、公私を混同せずして博愛以て全行員に臨む處、其の該博高邁なる識見と共に行員尊崇の的たり。

**取締役兼支配人 小松 米吉** 氏は明治十八年を以て當地に呱呱の聲を挙げ、夙に市立商業學校を卒へるや敢然業界の人となり、以來精勵努力、只管雄伏時代に在りて實力養成に努め、幾至るや果然銳鋒を現はして活躍縱横漸次頭角を抜んじて貸付課長に昇進し、其後更に卓腕を揮ひて天賦の材幹たるを深く認識さるゝや、遂に大正十二年土佐銀行と高知銀行の合併を見、茲に四國銀行誕生すると共に率先信任厚望を擔ひて取締役兼支配人の要席に就任せり。爾來同行業務の實際的總攬の重責を完遂しつゝ能く業運興隆に獻替し、今や當行不可缺の大柱石として内外に絶大なる信望を博し、名實共に名支配人の聲名を擡にし居れり。

資性濃厚篤實にして聰明俊敏、而かも人に接するや些も城府を設けず、常に春風駘蕩たる氣分に浸らしむるあたり、正に圓満玲瓏たる人格の所有者と云ふべく、縣下財界鮮々の偉材として令名噴々たるものあり。  
(所在地 高知市南播磨屋町)

合資會社光瀨鐵工所代表社員

### 光瀨 權 四 郎

我國鐵工界に刻苦精勵すること實に五十年に垂れんとし、堅實無二の經營と、優秀稀れに見る技術を以て漸次その馳名を謳はるゝと共に、信用博大し、今や斯業界の活況に乘じて龍雲の霸氣物凄く一路邁往する斯界の麒麟兒たり。氏は明治十二年八月十二日、光瀨龜之助翁の末子として東京市赤坂區新町五丁目に呱呱の聲を擧ぐ。天分俊敏なること鷹の如く頭腦亦極めて明晰なり。十二歳にして芝區愛宕下町四丁目所在木村幸太郎工場に入りて鍛工業を見習ひ、更に麻布區材木町小柴大次郎工場に轉じて斯業に一段の熟技を積み、弱冠二十七歳にして獨立鐵工場を創始し以來三十有餘年一人一業主義を以て今日に迫り。「成功の秘訣は目的の一定不變なるに在り」とは、膾炙さるゝ名言にして之を古今東西の立身出世者の事例に徴するに多くは其言に違はず、我が光瀨權四郎氏の如きも亦之れを事實の上に立證せるものにして今日隆々たる業績を擧ぐるに至れるは之れ一に其堅忍卓抜にして一事を執りて渝らざること五十年に近く幾多の迂餘曲折と風霜烈日に耐へて健骨彫身せるの結果に他ならざるなり。

當社は現代代表社員たる光瀨權四郎氏が、遠く明治三十九年頃、即ち日露戰捷直後、現舊工場たる品川區西品川二丁目に於て微々たる規模を以て獨立鍛工場を開始せるに端を發せるが、爾後堅實一貫主義と優秀製作品の生産を信條として逐年異情の成績を昂揚し、殊に歐洲大戰を期して大發展を招來して萬代不易の業礎を確立し以て其の覇を讃へらるゝに至り。次で經濟界の大恐慌たりし戦後の不況時も易々之れを突破し、關東震災に遭遇せしが業礎に些々の動搖をも生ぜしめず順調に推移を辿り來れるが、殊に滿洲事變を契機とする時局以來斯業界の活況に乘じて躍進眞に目醒しきものありて從來の工場にては狹隘を告ぐるに迫り到底需註に應ぜざるに至りたるため、昭和十年同區東品川四丁目に現新工場を建設し、益々生産能力を増大すると共に技術上一層の研究改善を累ね以て今日の盛果を呈するに至る。曩に氏は時勢に即應して全經營一切を擧げて之を合資組織に革めて現稱號と爲したり。

因に長子龜之助氏は明治學院の出身、次男治夫氏は青山學院を出で、三男喜男氏亦聰明健在にして學而父業の良佐として兩工場に恪勤し、以て其監督、指揮に奔命し、百餘名の従業員より畏服さるゝこと多大なり。  
(住所 東京市品川區南品川四ノ五六五)

### 株式 山岡發動機工作所

終始一貫發動機の製作研鑽に挺身し、一死亦安きを顧みざる献身的努力を捧ぐることを永年にして、我國産業界の進展に寄與するところ著大、其間慮を「燃料國策」遂行に馳せ、殊にヂーゼル機關の研究に凡ゆる辛苦を嘗めて過往し、遂に神技を得るに成功、今や三百万圓の資本と、一千數百名の従業員を擁して東京、福岡、京城、旭川、臺北に支店網を張り、生産三萬馬力の能力を有し、日夜孜々營々、天業達成に彫身し、その盛名燦として六合を光被する「躍進工業日本」の至實的存在會社なり。

由來當社は過ぐる明治四十五年三月、現在社長山岡孫吉氏が「機械報國」の念願により一般社會の要望せる小型輕量發動機の製作に端を發し、次で當時幼稚なりし本邦工業界に

驥足を伸張して、小型石油發動機完成に幾多難事の横はるを覺悟し、大正九年十月率先之製作に着手し遂に之を完成したるが、同十三年前代未開の大旱魃に遭遇し、農家の死活の境地に彷徨し、揚水用として該機の眞價は一般に認識せらるゝに至り、全國需要家より深甚なる感謝を寄せらる。昭和五年現在石油發動機と共に發售しつゝある輕油發動機の完成を遂げ農業の合理化は普く農村に提唱せら



山岡 孫吉 氏

れ益々需要激増し、且つ土木建築業界の需要も亦著しき傾向を示すに至り茲に事業擴張の目的を樹て、昭和六年三月資本金一百万圓の株式組織に革め一切の業務を繼承す。元來我國に於ける石油類及電力は極めて高價にして「ヂーゼルエンジン」の經濟なるは周知の事實なるも、小型純「ヂーゼル」は製作至難として全然製作業者より顧みされざるの狀態にあり、當社は之を遺憾とし、昭和元年より之

が研究に着手し、爾後引續き研究を重ねる一方昭和七年二月に至りて山岡社長並に隨員一名は「ヂーゼルエンジン」製作の先進國たるドイツを始め歐米各國を視察數ヶ月にして歸朝し、翌八年一月現工場長與一氏が設計及び製作に着手、同年五月堅型馬力、同年十月拾五馬力を完成せるが、其間當社の目的たる小型横式「ヂーゼルエンジン」製作に、大なる犠牲を拂ひ、同年十二月五、六馬力の試作を完了し、爾來引續き各種の製作に従事す。「ヂーゼルエンジン」發賣後需要は愈々激増し、尙工場擴張に迫られ、昭和十一年九月更に資本金を二百万圓に増資し、五十萬圓の拂込を了し、内容の擴充、工作機の充實に資す當社はその營業方針たる一定製品の多量生産在庫即納實踐せるは著聞する處にして、「ヂーゼルエンジン」の普及發達を計り、生産工業の原價引下、農村に於ける動力費節約に専念努力し、莫大なる燃料の輸入を防遏し以て國策の一助たるべく精進せり。尙當社に於て使用する「ヂーゼルエンジン」用高壓燃料ポンプ及び燃料弁は、姉妹會社たる山岡内燃機株式會社製品を使用しつゝあり。今や、山岡社長多年の念願一徹し、その偉業、その快舉は、將に氏の理念と現實とは當社の隆盛に悉く反映して餘蘊なしと、謂はんか。眞に偉なる哉。因に首腦の陣容は左の諸氏就任せり。

取締役社長山岡孫吉、専務取締役村上廣三、取締役兼技師長奥一、取締役仲松太郎、同前川眞一、同更谷眞清、監査役増崎平次郎

取締役社長 山岡孫吉 「機械報國」の信條を以て苦行すること實に三十年、殊に「チーゼル」機關の産業動力化を目指して、我國農産界に寄與貢獻するところ多大。曩に氏は阪神間神崎に、一萬數千坪の専門工場を新設し、一千數百名の従業員を使用し、一途燃料節約を其使命と爲し、石油發動機を一蹴して之に換ふるに「チーゼルエンジン」を以てし日夜研鑽、益々低廉なる優良「チーゼルエンジン」の製作に熱中し、燃料一ヶ年數千萬圓を益せんと志すの熱腸漢たり。

(所在地 大阪市北區茶屋町六二)

### 株式 高島屋

抑々高島屋の業祖は初代飯田新七翁が江州高島郡の一聚落より身を興し平少にして上洛某英服太物庫に奉公すること拾數年。江州人傳統の堅忍卓抜の格動を爲して二十七歳、鳥丸松原上る東側に獨力を以て店舗を開くに至る。即ち愛郷心の念するまゝに地名を冠して高島屋と號す。時に文政二年如月なりき。而

して其取扱品は主として古着木綿にして天保一年に至りて御蔭参りたる式年神宮御造營の吉年正月を期して店務の大革新を敢行す。斯て創業資金は奉公中に蓄積せし銀子二貫五百匁なりしと傳ふ。嘉永五年に迫んで翁は家督と資業を二代目に譲りて隱退す。二代新七氏は濃厚實着にして初代の豪放不羈と機敏なる商才の後を承けて周密にして堅實、眞摯業に勵み業礎を確乎たらしめたるが、創業二十五周年たる安政二年に至りて古着商を廢して呉服太物商に轉向して業路を開宏せり。明治七年初代は龜齡を全うして歿し、同十一年二代も亦逝去せるが其嫡男たる三代目は二十六歳次男は十九歳なりしも淑徳高く敏才の未亡人は克く店務一切を總攬し店員の等級制度を定む等積極的經營に終始し、顧客の範圍も信用の博大と同時に擴大す。斯の如く未亡人は明治四十年長逝まで能く子孫の繁榮協力を圖りて間接に店務を扶佐したり。其間同二十年星城の御造營に當り窓掛紙用其他織物一式の調達を仰付けらる。この光榮こそ當店が帝都に羽翼を伸長する緒にして爾來宮内省を始め諸官廳の納品を續々命ぜらるゝに至る。當初は出張員を派したりしが後不便の爲に同二十三年日本橋區本石町所在伏見屋旅館内に出張所を設け宮内省御用達の名稱を授けられたるを契機として神宮御造營の都度御用命を拜し

畏くも天皇旗、皇后旗、皇太子旗、皇族旗等を始め奉り御料材二重御料服地の謹製をも拜命せり。同三十年日本橋區吳服橋に高島屋飯田新七東京出張所と稱して東京店の素地を標し、同三十三年京橋區西紺屋町へ移轉同東京店と改題し前記各御用達の他、吳服小賣部の擴張を計りて外人向小賣部を増設す。日露戰役勃發に際して軍需品調度に心血を注ぎ君國の爲に貢獻するところ多大、次で大正五年新築落成の京橋大通に移り東京五大吳服店の一に加はる。尙大正四年御即位の大禮を始め奉り、内親王殿下御慶事の都度、内外御用品の光榮に浴し、大正十三年皇太子殿下御慶事に際會しては御調度品の謹製を拜命し、次で御制定の攝政族其他の謹製を拜受せり。而して其間大正五年十二月高島屋飯田株式會社を設立して専ら輸出入貿易問屋業を經營し、大正八年八月資本金三百萬圓を以て當店を設立、昭和八年四月一千四百萬圓を増資、現に内拂込一千二百六十萬圓を擁するに至れり。而して當店の現況を見るに先づ京都店の新築を初め、大阪南海、東京兩店の擴張事業あり。既に昭和十一年六月資本金百五十萬圓を以て高榮土地建物株式會社を設立して京都店新築の準備工作と爲し、南海店の擴張は建物所有主たる南海電鐵會社に於て行はれるが工事完成後は現在の延坪一萬坪は約二萬坪となり、東

京店は其所有主たる日本生命保險會社に於て着工せるが完成後は一萬六千坪となる。前者の完成期は本年末、後者の夫れは來年中の豫定なり。京都店も遠からず完工すれば十四年下期乃至十五年上期よりは全擴張工事完成後の廣大なるスペースを有するに至らん。

尙當店は本業の傍ら周知の如く時代の要求に依りて經營形式其他の範を歐米に採りて先づ三都を中心均一營業に進出せるは昭和八年にして、爾來約十年の間に店舗も五十數店の多きに達し高島屋十錢ストアとして合理的なる配給サービスは常に顧客の好評を受けて社會的に寄與する處も亦多々なりしが近時に至り業容も歐米模倣時代の域を脱し常に製造家をブツシユせる結果、所謂均一商品の合理的價値向上にも成功し着々業績を擧示するに至れり。從來の均一店營業を擧げて獨立の經營に移し新高標新高號を以て舊に株式會社丸高均一店(資本金四十五萬圓全額拂込済)の新設を見、本店を大阪市に支店を東京に置き店裝も新に一齊開業を爲し専ら日常生活必需品配給の新使命達成に一路邁進しつゝあり。而して當店昭和十三年一月末決算を見るに總売上高は、當店創業以來の新記録を作りたり。斯くして當期純益金七百八十四萬一千圓を擧げ前年同期に比し五十七萬四千圓の増收を擧げ一方支出六百七十萬六千圓と同じく四

十五萬六千圓の増高を生ぜるが、結局十一萬七千圓の増益を齎し得たり。配當は年八分を踏襲して之を据置きたり。

南海店 尙ほ斯業界は増設困難、夜間營業廢止等可成の障礙を餘儀なくせしめられつゝあるが、當南海店は從來の名物食堂を改善擴張して賣場とせるのみならず南海電鐵の高架完成に依るプラウトホーム地下三千七百坪を使用し中二千五百坪を食堂として從來の地下食堂を茲に移轉し、其あとは食料品其他を擴張し以て營業の萬全を期したり。要するに之れは既に百貨店法に依りて許可されて居り南海店にしては夜間營業廢止を充分補ひ得るものと云ふべし。更に均一店は前叙の如く丸高均一店の名の下に分離獨立せしめしため百貨店法に觸れずその幅を一掃せり。從而外見的には兎も角として實質的には當店今後の營業は殆んど從來に復歸し、百貨店法施行による影響は脱脚して商品の増加、配置の改善、購買力の旺盛と相俟ちて益々其前途の好望を期待されつゝあり。

因に當店の人的資源は、取締役社長飯田新七、専務取締役飯田直次郎、取締役橋爪源吾、同村松善次郎、同細原和一、同林田橋次郎、同飯田新太郎、同大澤徳太郎、同原邦造、同小澤直次郎、同川藤堅一、監査役飯田藤二郎、同片岡鐵雄、同竹田量之助、同成瀬達、大阪

兩支店支配人大谷友之進、同倉橋友四郎、同副支配人森立二、東京支店支配人小川竹次郎、同小瀬竹松、同副支配人飯田慶三、京都支店支配人由良一郎の諸氏なり。

- (本店) 京都市下京區鳥丸通高辻下
- (京都店) 京都市下京區鳥丸通松原上
- (大阪店) 大阪市南區長堀橋南詰
- (南海店) 大阪市南區難波新地
- (東京店) 東京市日本橋通二丁目

### 高知農會會長

### 伊野部重明

古來農は天下の大本と云はれ、如何に挺身戰場に馳驅する將兵多しと雖も、國內兵量の充實なくんば到底健全なる國家、發展隆興は期し難し。而かも刻下未曾有の非常時局に際し、舉國一致堅忍持久の體制下に、生産力擴充の一層要望するの秋、銃後國民日常生活の原動力たり、更に國力充實の根本動力たる農業こそ、正に國家永遠の繁榮の爲め、益々振興發展せしむ可き重大要事なり。我が伊野部重明氏は夙に高邁達達、深く此點に關心を抱きて殖産興業に努め、其の企業實踐する處、悉く地方農業界に裨益せる事甚大、即ち功績顯著にして名實共に斯界の第一人者たる偉材の士なり。氏は當地に連綿家歴を閉し、

屈指の豪門として聲望噴々たる舊家に生を享け、幼少より俊敏穎悟の譽れ高く、其の前途を矚目する、事厚かりき。斯くて郷費を卒へるや、奮然策を負ひて東上し、早稲田大學に研修の星霜を積み、克く優秀なる成績を贏ち得て卒業後、錦衣歸郷以て其後家督を繼承するや、孜孜として奮勵、益々家運を隆盛ならしめて父祖傳來の家名に一層光彩を添えしむるに至れり。而して一方、其の胸底に烈々たる公共奉仕の赤誠を藏し、常に献身地方産業殊に農業の啓發振興に絶大なる寄與貢獻をなし、更に自治の伸張發達を圖りて盡瘁奔走する事跡なからず、而かも卓見卓識、能く高邁切實なる實際的理想を顯現せしめ、衆庶の利福増進を企圖して實績歴然たる處、遂に衆望に推されて縣會議員の要職に就く事二回、斯くて英姿颯爽、縣政壇上に侃々諤々の辯論を揮ひ、大いに農村救済問題を論じたるも、其後深く感ずる處ありて政界を退き、専心農民指導に實踐躬行し、其該博深遠なる智識と加ふるに絶倫なる抱負を吐露して遺憾なく只管農業の發展、農村の繁榮を圖り、且つ縣内農産物の縣外移出を奨励、率先其の範を示す等常に眞摯熱誠なる努力を傾倒して日夜盡力を續け、今や高知縣農會會長の重責を擔ひて偉功績々たり。

權謀術策を弄せずして堂々正道を邁進すると共に、常に毀譽褒貶に超越し、獻身公利を圖りて奮闘する崇高廉潔なる態度心境は、正に他の以て範とす可きたるを失はず、加ふるに識見卓越、殊に肥料問題、米商政策に非凡の見解抱負を持し、德望亦た隆々たる處、即ち斯界稀觀の人物と云はずして何んぞ、蓋し衆庶尊敬の的たるも當然の歸趨なるべし。

(高知縣農會所在地 高知市)

會社 大紀ニウム工業所

當所はアルミニウム再製品製作並に同金屬精煉を主要業務に掲げて、斯界の一權威たる山本繁一氏の主宰經營に拘はるものなり。而して其の創業は大正十一年十一月二十三日に發し、當初二三年間は世人未だニウム廢物品の利用厚生に殆ど關心を有せず、殊に之が再製工業に至りては、全然顧慮せずと云ふも、敢て過言に非ざりし状態なりし爲、専ら該品再製を企圖し、之に主力を傾倒せる當所の營業成績頗る不振を極め、所謂創業の苦難時代に彷徨呻吟せりと雖も、經營者の不撓不屈、克く千辛萬苦を突破擊碎して只管初志貫徹に邁進せる結果、遂に再製上圓板製作に成功して、凱歌高らかに奏せらるゝや、茲に



山本繁一氏

使途益々多岐に亘り且つ軍用資材の充足一段と強化さるゝの趨勢に鑑み、當所前途の一大發展こそ、正に期して待つ可きものあらん。

因みに當所は多年、十一月二十三日を創業記念日として祝賀會を開催し、殊に昭和十二年は十五周年に該當せる故、祝宴頗る盛大なりしと聞く。

代表社員 山本繁一 初志に勇往して刻苦研鑽、遂に前人未踏の境地に創意發明を完成せしむるは、斷じて常人凡徒の能く爲す處に非らず、然るに氏は夙に此の至難の業を完遂し、更に工業報國の赤心を披瀝して、克く時勢を達觀、經營の合理化を圖り、以て今日の盛業を招來せる人物なり。蓋し斯界稀に見る偉材として、其の功勞多大なるを讃賞せられ、名聲赫々たるも當然の歸趨と云ふべきならん。資性濃厚にして細心周到、頗る旺盛なる研究心を有し、更に玲瓏玉の如き人格者と聞けば、何人たりとも自ら尊敬瞻仰の念を湧出せしめん。

(所在地 大阪市浪速區馬淵町二三三)

土佐ホテル

南海の雄都高知市の中心地に堂々宏壯雄麗



土佐ホテルの雄偉

の規模を構え、諸施設の完備せるは勿論、サービス高踏を以て鳴る土佐ホテルの如き、正に兩様兼備の模範的高級旅館と稱す可きなり蓋し當市隨一の代表的ホテルとして業運隆々たるも故無きにあらず。

抑も當ホテルは緑樹鬱蒼として閑寂、當市屈指の名所たる元衆議院議長故片岡健吉氏の邸址に地を相し、豪華美麗の雅趣横溢せる外觀の壯重美を誇る大建築を竣工、而して大小四十餘室の客室には調度設備萬端餘す處なく

整備し、其の收容人員三百名を越ゆる一大殿堂なり。而かも大ホールあり、娛樂室あり、大食堂あり、加ふるに各室に電話設備の便ありて内容充實せる事、遂に中央都市一流ホテルに比して些も遜色を見ず、且つ宿泊料或は休憩料の低廉にして多數従業員の懇切丁寧な接待は、宛然自宅に在るが如き居心地良さを宿客に感せしめ、一度當ホテルに宿泊せんか即ち容易に去り難き満足感ありて旅客の絶

讚好評の的たり。尙ほ其の位置を按ずるに高知城址、縣廳、市役所並に市内隨一の繁華街に至るに僅々數分の距離にして交通至便なる一面、極めて閑靜なる理想的地域に位し、庭内樹石の配置頗る妙を得て清楚幽遠、其の風趣拘す可きものあり。

斯くて内容外觀共に卓然豪華、絶對市内旅館中に匹敵を見ざる一方、更に宿客待遇の奉仕第一を實踐する處、客數年と共に増加を加へ、業運益々盛況を呈し居れり。殊に從來當市に於ては三百人を收容し得る大旅館皆無に等しく、團體客は分宿の餘儀なき状態なりしも、當ホテルの出現に依りて果敢、該不便は除去せられ、茲に團體觀光客の至便一入ほ増加を見るに至れり。

支配人 松本有弘 氏は濃厚篤實にして眞摯勤直、而かも典雅瀟灑なる近代的紳士の名實を具備し、其の圓滿玲瓏たる人格と、懇切懇懇なる態度を以て、衷心宿客の送迎に眞實味を吐露し、且つ一糸素れざる統制手腕下に多數従業員を心服せしめ、只管ホテル經營の妙腕を發揮する、當市業界第一人者たるの名を恣にせり。

即ち諸客の信頼を博する事多大なるは勿論同業者間にも絶大なる信望を贏ち得て、令名愈々高きを加へ居れり。蓋し斯界稀に見る偉

材の士と稱すべく、業態頗る好調なるも亦た當然の歸趨と云ふ可きならん。  
(所在地 高知市中島町)

### 江戸川砂採取販賣社 島野安五郎

關東に於ける砂利業界の人物を評する者は必ず先づ斯界の大親分たる島野安五郎氏の名を擧頭推唱するを例と爲す。蓋し、その推重さるゝ所以は、事業の壯大の外的觀察に據るは論を俟たざるも、一面氏の義侠の普遍的にして、その操履の至純至情の風概を欽仰するに基くものなり。氏が江戸川の下流、千葉縣東葛飾郡行徳町河原の茅舎に呱呱の聲を揚げしは、明治十六年三月八日にして、幼少五歳を以て父母の膝下を離れて當時東京市深川區黒江町居住の叔母の許に養子に遣らる。その行藏實に粗放を極めて腕白の限りを盡し、町内第一の頑童の名を恣にするに共に、小費に在りても退學を命ぜらるゝこと屢次、養母の心痛、言語に絶するものありき。斯くして十三歳の春を迎ふると共に、當時名にし負ふ砂利業庄司平吉商店に奉公を爲すこととなれり。その言動粗放の誹を免れざると雖も、膽大にして物事機宜に適ひ、而も義氣の萌すところ到底凡百の童子に異るを觀破せし店主は

私かにその成長を窺ひ、將來は養子に迎ふべく決意し、養母を聘致して具さに懇請、快諾を得たるも如何せん、常人たる氏は之れを肯せず、爾後反復懇請屢々たりしも拒絶するのみ。長ずるに迫んで其の超凡の行爲は益々店主を推服せしむると同時に人々を讚嘆せしめたり。氏亦自家の爲に減私奉公倦むことを知らず。斯くて壯年に至りて店主の九懸惜別裡に主家を去り、豫ての念願たる獨立事業に染着す。時に大正十年の交なりき。

由來、利根川に於ける砂利採取は數名の親分が何等の束縛を受けず無償にて人夫を便役して自由に採取し來れるが、偶々他縣の某氏之れが採取の權利を私かに獲得せる爲、同業に従事せる人夫數百名は忽ち其の職を奪はれ物情騒然にして憤懣の聲轟々たりき。此騒事氏の耳朵を打つや、直ちに縣廳に出頭し當局者に事情を陳述すると共に、突然の非行を難詰せしも容易に解決を見ず。以來氏は同志と共に之れが解決に奔命せしも、縣當局は新たに財源を得たる爲に斷然この陳述に耳を藉さず、斯くして數百戸の人夫の家庭は生死の境を彷徨すると共に、親分連の無爲無能を罵倒し、婦女間にも怨嗟愁訴の聲沸々として鼎の沸くが如く將に社會問題化せんとす。其間氏は慨然として全責任を以て之が解決は己の爲すところなりと告げ、之が救済に私財を傾け

て焚出を爲し以て萬全の處置を講ず。斯かる氏の義舉は頃述なる縣當局者を惻々として動かすを得、遂に砂利採取權は縣下業者に移轉することに決し、さしも凄慘たる寒風も爰に氷解して圓滿なる解決を見るを得たり。之れ偏に氏の犧牲的精神に據るところ論を俟たざるべし。踵で氏を中心に縣下の業者に其權利は移され、氏は行徳町に本據を措き業務に精勵し、一面本所區内に事務所を有し、業況頗る賑調を辿り來れるが、傍ら氏主唱の下に昭和十一年十月に及び、江戸川砂採取販賣株式會社を設立す。同社は創業日尙ほ淺きも能く島野社長の人格識見を反映、逐次業績を昂揚し、今や斯業界の鉅鱗たる存在を爲せり。

氏こそは昭和義民傳の第一頁を飾る人傑と嘆嘆するも敢て過當ならざるべし。

因に同社の現主關部は左の如し。  
取締役社長島野安五郎、常務取締役三井一榮、同竹内七太郎、取締役鈴木常吉、同鈴木富藏、同坂田徳三郎、監査役白井保四郎、同森谷權藏の諸氏なり。

(營業所 千葉縣東葛飾郡松戸町一丁目)  
株式會社 島田商店

明治三十四年以來、棉花商として異數の業

績を挙げ、殊に晩近飛躍的發展を顯現せる結果、業容の一大擴充を圖りて經營組織を變更し以て光輝赫奕たる傳統に一層光彩を添えしめつゝある株式会社島田商店の如きは、蓋し幾多業者中に嶄然群を抜ける代表的優秀商店とも推稱すべき存在たり。

抑も當店は棉花紡績綿及び絲屑販賣代理事務、並に有價證券、不動産賣買等を營業項目に掲げて昭和十一年一月、資本金百萬圓(全額拂込済)を擁する株式會社として設立せられし以來、年處を閉する事僅か二歳半に過ぎざるも、其前身商店時代より斯界に扶殖せる實勢力多大なる處、強固不搖の基礎と廣汎絶大なる信用を有し、而かも傳統的堅實なる營業方針を以て斷然斯界一方の雄者たる名實を具備し居れり。即ち本據を現地に設置して事業統制の中樞最高機關たるしむる他、久留米市京町六丁目及び名古屋市西區菊井町七丁目各支店を設け、更に神戸市東區磯邊通七丁目出張所を置きて營業陣容の充實せるを顯はれ、且つ經營主關部に卓腕達識、業界錚々たる人材を擁して舉店一致、能く努力奮闘に一貫する處、業運愈々隆盛を招來し、信望益々高きを加へて前途一層の發展膨脹を期待され居れり。因に當店重役は社長島田誠三郎氏以下、宮崎間平、田中正一郎、池田主三、ビーエーマチャード、島田省一、宮崎佐太郎

等斯界に蘊蓄深詣の諸氏を擁せり。

社長 島田誠三郎 氏は當府岸和田市士族島田豊翁の三男、明治八年六月を以て呱呱の聲を擧げ大正四年分家して一家を創立す。天分進取の氣象に富み、將來の活躍舞臺を實業界に求むるや、明治二十四年を以て奮然郷關を後に來阪し、堺筋通り砂磨商太田商店の店僮となりて刻苦奮勵する事五星霜、其間機敏誠實を以て店主の信認頗る厚かりしも、獨



島田誠三郎氏

立雄飛の霸氣胸底に燃えて抑ふるに由なく、同二十九年圓滿に同店を退き、更に棉花商に従事して業務修得を精進せる後、同三十四年遂に多年の宿望成りて斯業を獨立創業せり。爾來非凡の力量手腕を縱横に發揮し、拮据經營、着々業績を伸展せしめて今日に至れる斯界稀に見る奮闘的偉材の士なり。資性豪毅明朗にして識見高大、而かも高風玲瓏たる風格

を有し、業界人の尊敬欽仰の的たり。尙ほ趣味として長唄に造詣深甚なりと聞かば、其典雅の風格窺知するに足らん。南海沿ひ濱寺の家庭には嗣子省一氏(當店監査役)同氏賢子夫人、二男太郎君及び令孫ありて和氣霽々として、近隣に好評高し。

(所在地 大阪市西區南堀江通六丁目)

### 名望家 秋山眞男

抑も當家は當地創草の名門舊家にして、初代藤右衛門翁、以來家歴を閱する事實に三十有餘代、歴代當主克く家憲を遵守し、土民の尊崇を一家に蒐め居るも、殊に先代喜藏氏及び當主眞男氏は、山峽甲斐の生みし稀觀の偉材として令名風に著聞せり。即ち先老喜藏氏山梨縣立徵典館を出づるや、最初育英界に身を投じて寄與貢獻せる事多大、市川小學校長を最後に職を辭し、後年幾多名譽職に推舉せられて獻身地方自治の伸張發達を圖り、明治二十六年縣會議員に當選す。斯くて高邁達識常に侃々諤々の論陣を張りて縣政に盡瘁し、其の功績顯著たりしも、其後嗣然感ずる所ありて政界を去り、以來専ら實業界に屬翼を伸ばし、甲府電力株式會社設立の議起るや率先奔走して同社成立後、取締役社長の樞柄に倚



りて大いに巨腕を發揮し、同社今日の盛大をなせる基礎を築けり。然も一方甲府商業會議所議員、山梨生糸同業組合長其他の重責を擔ひ、挺身奉公、克く縣下産業の振興發展に寄與せる功勞たるや實に偉大、聲望隆々乎とし同縣實業界を風靡し、縣民畏仰の的たりしは能く人の知る處なり。曩に甲電全従業員相謀り、氏の在職三十年記念として甲府市を距る約三里、靜泉湛々たる荒川貯水池畔に胸像一基を建立す。以て其の偉業赫々たる、將又徳望隆々たりしを窺知するに足る。

我が秋山眞男氏は即ち其の長男なり。古來「將門將を出し、相門相を出す」と謂はれるも、蓋し至言なりと稱すべき歟。氏は明治二十一年正月三十一日の誕辰、幼少既に父君の英資を承けて聰明穎智を露はれ、而も長じて益々豪毅健全、同三十九年甲府中學卒業後、帝大農政經濟科に進みて雪の功空しからず見事優秀なる成績を保持し、同四十三年四月卒業するや、青雲の大志蔚勃として海外拓殖に雄圖を致し、直ちに東洋拓殖株式會社に入りて卓才敏腕を揮ふこと縱横無盡、即ち其の非凡の材幹たるを先輩上長に認められ、大いに重用せられ同社有数の名技師となれり。其後大正六年三月社令並に官令を帯びて南米、北米、アフリカ、マレー半島等に渡り、具さに各地拓殖事業の實情を調査研究なし、多大

の成果を収めて歸朝するや、幾何もなく同社參事の要椅に列せられ、俊魁偉材たるの名聲噴々たりしも、郷土開發の至念抑ふるに由なく、同十年圓滿同社を辭して衣錦歸郷せり。爾來專心縣下産業の進歩興隆を圖り、或は自治の伸暢發達を希念して東奔西走、實に涸席の暇もなく努力し、甲州製糖會社社長、市川納稅銀行取締役、山梨縣山林會評議員、山梨縣羈余業聯盟副會長、山梨工業懇話會副會長、山梨縣生糸同業組合長、山梨縣生糸新人聯盟會長等實業界幾多の要席に推選せらる、一方大正十五年以來町會議員たる事多年、其間消防協會幹事を兼ねて夫々功勞多大なるものあり。而して昭和十年十月縣議選舉戦に敢然出馬するや、衆望翕然として聚りて見事當選の榮冠を擔ひ、以來更に名譽縣參事會員、恩賜林調査委員、土地收用調査審査委員等の要職を帯び、獻身縣勢の伸張を圖りて協力貢獻し其の功績收斂に遑あらざるなり。蓋し、當代稀に見る至誠奉公の實行者として偉名赫々たるも當然の歸趨と云ふべきならん。

(住所) 山梨縣西八代郡市川大門町

### 美浦敏三

東京紡績名古屋支店長  
豪膽にして明朗眞摯、且つ八面玲瓏たる風

格は自ら模範的紳士の風をなし、而かも高邁達識、其事業上の企畫は堅實緻密にして一些事と雖も苟くせず、犀利縱横なる手腕を有して中京實業界に名聲噴々たる偉材の士。即ち我が美浦敏三氏の如きは寔に光輝燦たる存在と云ふべきなり。宜なる哉、氏こそ本邦紡績界の一王國東洋紡績株式會社に在りて同社名古屋支店長の重責を擔ひ獻身事業に盡瘁して功勞多大なる同社不可缺の至寶的人物なり。

氏は廣島縣美浦善三郎氏長男にして明治二十五年七月二十八日の出生、幼にして聰明穎才の譽れ高く、同四十二年尾道商業學校を卒業するや、一意實業界雄飛の霸氣に燃え、其活躍舞臺を紡績界に求めて當初大阪紡績株式會社に入り。而して精勵啓働能く社業に努力を捧げ、模範社員の稱を博したるも、其後大正三年を以て、現東洋紡績に合併實現、以來天賦の英才と不撓の勇猛心を以て更に職務に研鑽奮勵を累ゆる處、社内の信望翕然として聚り、昭和十年遂に拔擢せられて現職に就任せり。斯くて大正三年現在の觀光ホテル數地に營業所を設置せし以來、全社員の協力奮闘と首腦部の非凡なる經營手腕に依り、逐次發展膨脹を實現し、遂に昭和八年の頃、營業規模の一大擴張を圖り、現地に移轉すると共に支店に昇格せる當名古屋支店の業務一切を主管するに及ぶや、其の敏腕卓見の然らし

むる處、業績順に躍進發展を來たして單一支店たるに止まらず、實に同社多數の支店中最重要營業機關たらしめ、中京名古屋を中心とせる一帯の地に強固不可侵の綿糸販賣網を整備し、其堅實なる營業成績を以て本社に充實飛躍に貢獻寄與する處眞に偉大なるものあり。即ち氏の人物識見或は其功績に徴し、近き將來同社取締役の要椅に推さるゝは必然的歸結とされ居れり。

家庭には母堂を始め、令閨登志子夫人(明治四十一年生、山中高女卒)及び二女ありて頗る圓滿清福、共和氣霽然たるは附近羨望の的たりと聞く。

(支店所在地) 名古屋市中區廣小路通

### 株式 堀尾甚能商店

婦人子供服の製造卸商として關西同業界に覇を唱へ、其業勢隆々たる株式會社堀尾甚能商店は、實に需要界に好評噴々たるブライダル用品、專賣特許防縮加工品、パース毛メリヤス等の發賣元にして、將又一般毛糸製品各種綿製品、クレープ製品等の卸販賣を營業項目に掲げ、現地に營業所を設置せる一方、東京市日本橋區室町三丁目に東京店を、又名古屋市中區南武平町二丁目名古屋店を置き

東西業界に壓倒的勢威を扶殖し居れり。是實に主宰經營者の非凡縱横なる營業手腕、殊に人情の機微を察して先づ子供服を、次に婦人服を求め易き社會的心理に基きて大正六年創業するや他店に率先子供服加工を企圖し、斯界の先驅的存在として異數の業績を收めたり。斯くて逐次業務を擴張し、旭日昇天の儼を示して發展又發展、遂に今日の隆昌盛大なる業運を謳はるゝに至れり。而して其間製品加工技術に幾多研鑽攻究を累ね、劃期的新製品の完成を齎らすと共に、常に良品廉價販賣を標榜して大衆購買者の利福増進を圖り、前記專賣特許品を始め當店製造販賣に拘はる諸品の品質優良にして體裁斬新、而かも耐久力強大なる點等、夙に定評を博して斷然同種品の最高峰に位する他面、逐年業運發展せる結果、營業施設の擴大強化を斷行し、營業所を東區横堀二丁目より同區博愛町に移し、更に現所に移轉して堂々たる偉容を整備、且つ積極的事業經營に乗り出して今日に及べり。今や其販路實に内地一帯に亘るは勿論、遠く北海道樺太、鮮滿、南洋諸島等に強固不動の地盤を築き、洽く多大なる信用を贏ち得て一大躍進譜を奏し居れり。

店主 堀尾甚能 氏は愛知縣人堀尾甚助氏の二男、明治十八年九月を以て呱呱の聲

を擧げ、若冠十八歳にして立志郷關を出づるや大阪市東區備後町平山商店に入りて業務修得の年月を累ね、其後好機を把握して大正六年獨立創業せり。爾來不撓研鑽、克く時代の要求に適應せしめて業運を伸張せしめ、遂に光彩陸陸たる成功を達成せる關西斯界の第一人者たり。家庭には賢夫人の譽れ高きアサ夫人(明治廿七年生)との間、二男五女を擁して一家和氣に滿つ。尙ほ副店主格たる鈴木氏は氏の義兄にして早大卒業後更に犬養塾に於て修養練磨を累ね、後年神戸鈴木商店に入りて卓腕を顯はれしも、同商店大瓦落を來たすや當店に轉じ、以來義弟の良き協力者として偉名内外に洽し。

### 支配人 木全登之助

氏は店主と同郷にして愛知縣の出身、明治三十一年五月を以て同縣萬之助六男に生を享け、資性才氣煥發而かも進取の氣象に富み、當店創業以來常に獻身的盡力を傾けて店主を扶佐し、業運隆盛に資せる功勞たるや眞に絶大なり。蓋し當店不可缺の大柱石として聲望隆々たるも當然の歸趨ならん。資性豪放明朗にして斯界屈指の奮闘家として聞ゆ。尙又社會教育者として貢獻寄與する處尠なからざるものあり。賢夫人との間に二男一女あり。

(所在地) 大阪市東區南久寶寺町五丁目

### 喜多功

江南株式會社の商號を掲げて關西貿易界に將又三品取引界に雄飛發展を擅にせる事多年名實共に業界を席捲し去りて斷然覇者の實績を顯はれし故喜多兵太郎氏は、實に我が喜多功氏の岳父にして其生前、紐育棉花取引所取引員、大阪三品取引所綿糸、棉花、人絹取引員、日出製糸株式會社取締役、合資會社喜多兵商店代表社員其他の要職を兼ね、近代稀有の商傑として偉名赫々たりしは周知の事實たり。茲に其冥福を祈り、遺業の益々隆盛ならん事を祈念して斯界雄飛の跡を尋ねれば、即ち氏は古來近江南人の發祥地として天下に鳴る滋賀縣より身を起し、奮然棉花取引業界に在りて切磋修業の時代を經、好機到來するや若冠二十八歳にして早くも獨立創業、以來資本金二十萬圓を擁せる合資會社を拮据經營し其超凡非俗の商才を發揮すること縱橫無盡、而かも不撓精勵能く萬難を克服して着々大を築き遂に業界制覇の一大壯舉を敢行せる立志奮闘傳の所有者なり。蓋し其過去全生に亘る開歷性行は、以て斯界後進者に好箇の範を示すものと稱さるゝ所以たらん。而して昭和十一年六月二十五日、功成り名遂げて巨星忽然

地に墜つるや、其偉業を繼承して颯爽斯界に登場せる少壯氣銳の逸材こそ、實に當主喜多功氏に他ならず。

氏は徳島縣板野郡松茂村を播磨の地として明治四十年一月一日に産聲を擧げ、夙に山口高等商業學校を卒業するや、阿波商業銀行に入りて格勤電勉、孜々として行務に従事し、其才幹手腕儼然と卓然たる處、將來に多大の囑望を寄せられたり。斯くて同行勤務中、兵太郎氏長女千鶴子嬢と華燭の典を擧げ、先代後家督を相続するや、事業の刷新整備を圖りて益々内容を充實せしめ、殊に刻下未曾有の非常時局に對應し、決然三品取引業を廢し、銳意貿易業に努力奮勵を注ぎ、昭和十二年以來、コーヒー、紅茶等を多量輸入せる處、果然市價高騰せる爲、巨額の利益を擧げ得たりと。蓋し其慧眼先見の明に富み、且つ機略縱横の手腕たるや、正に養父兵太郎に學ぶるものあり、典型的青年實業家として前途の一大飛躍を期待され居れり。資性明朗闊達にして豪放磊落、小事に拘泥せざる反面、細心周到克く大局の成果を洞察する具眼の士にして、又體軀堂々頗る活動力に富み、社交辭令の圓滑滑脫、洗練味横溢せるあたり眞に近代的模範紳士と推稱す可きなり。

滋慶(四歳)、三女啓子嬢(一歳)を擁して琴瑟相和し、一家團樂たること附近評判の的なりと聞く。

(住所 兵庫縣武庫郡御影町)

### 埼玉 兒玉高等女學校

當校は大正十年十月、兒玉町外十ヶ村學校組合認可に其緒を發し、翌年三月兒玉實科女學校(修養年限三ヶ年)設置認可せられ、同十二年五月修養年限四ヶ年に延長認可され、同十四年五月兒玉女學校と改稱す。超えて昭和三年七月勅語體本御下賜、同年十月十一日天皇 皇后兩陛下御眞影御下賜。同五年四月埼玉縣立兒玉高等女學校と改稱す。同九年十一月第四學年高崎練兵場に於て御親閱拜受の光榮に浴す。如斯當校の歴史は二十年に充たざると雖も、校風既に成りて校績燦然たるものあり。即ち當校は國民的修養と優良圓滿なる女性の陶冶を旨とし、忠孝、誠實、敬愛の三徳目を訓校に且暮生徒の教養に挺身しつゝあり。特に御皇室の尊嚴たること世界無比の神國享生の感激を體得せしむる爲に、朝夕皇居並に皇太神宮の遙拜を行はしめ、尙毎月一日、十五日に國旗掲揚式を舉行し、祝祭日には其意義と由来を知得せしめ進めて國體觀念

の明徴を期しつゝあり。智識偏重は現今教育の一大缺陷たる觀點より地方女性として優良圓滿なる人物を養成するに努む。即ち克く親に仕へ良妻として夫を助け賢母として子女を養ひ、家庭の主婦として恥しからざる所謂誠實敬愛に立脚し各學科を通じ訓練に重點を措きて堅實なる思想と美しき女操の昂揚とに努力せり。而して校訓の徹底、校風の樹立こそは本校の生命にして、學校精神を發揮向上せしむるに級訓を制定し獨自の級風に依りて理想的なる學校社會を實現し、本校教育方針と相俟ちて試験の體験道場にて最良の實踐場たるが本校の學級經營の實際的訓練たり。

當校は昭和七年度より制度を改制し、卒業生は小學校准教員へ無試験檢定、小學校裁縫科専科教員無試験檢定、上級専門學校入學資格等を得らるべく其志望誘換に盡力す。其他個別的指導、卒業後の修養、就職の援助に資する爲、家事裁縫科の實際的指導、珠算の練習、技藝の指導、趣味の涵養、工作科の特設、園藝養蓄の實習を爲し、三年以上は志望に依り學科、趣味作業、運動の各課外教授に努めつゝあり。

校長 長 義 正 埼玉縣下異數的教育家にして中等教育家の魁傑たり。大正十三年廣島高師英語科出身の頭材にして、更に同徳

育科に登雪を積み昭和三年之を卒業す。曩に本庄中學校教頭に任ぜられ、その敏腕を顯はる。昭和十二年四月當校長に就く。先生天分頭腦明晰にして教育に熱心、其將來大成の兆



長校長と校學女等玉兒

歴然たり。現に従六位に叙せられ陸軍少尉たり。

敬頭 山岸諒三 先生は縣下中等學校に職を奉ぜらるゝこと久しく、斯界の至實的

### 實業家

### 大森慶次郎

存在たり。その質謹嚴にして聰明、父兄生徒間の畏敬を鍾むること多大。長先生の良佐として好評噴々たり。

(所在地 埼玉縣兒玉町八幡山)

今や第一線を退きて悠々自適、専ら閑雲野鶴の境地に在りて天下の大勢を靜觀し居れりと雖も、嘗ては山梨縣財界の覇者として名聲を擡にする事久しく、將又政治に參與しては志操堅牢、識見高邁、常に國利民福の大旗を翳して功績顯著なりし我が大森慶次郎翁の如きは、正に功成り名遂げし縣下稀觀の一大偉傑と稱するも敢て過褒の辭にはあらざる可し氏は明治四年十月を以て、當地屈指の名門豪農に生を享け、故貴族院議員大森嘉四郎氏の長男たり。少年時より聰明穎智氣才同輩に抽んじ、暖衣飽食の裡に人と爲りたりと雖も有産階級通弊の浮華輕佻たる氣風毫もなく、健全澄利以て自己修養に専念し、同二十六年七月早稻田大學英文科を卒業するや、郷土開發の至念に燃えて東奔西走、克く地方自治の伸暢發達を圖りて獻替する事多年に及び、其間衆望の然らしむる處村會議員、郡會議員の要職に擧げられ、更に大正七年九月貴族院議

員に互選さるゝの榮譽を擔ひし已ならず、翌年十月公益の爲に私財多額を寄附せし廉を以て紺綬褒章を下賜せられ、或は同九年十一月大正四年乃至大正九年事變の功に依り、銀盃一組を下賜されたる偉功赫々たる士なり。而かも一方夙に縣下産業界の進歩發展を希求する事厚く明治二十九年二月無限責任大森銀行を資本金二十萬圓を以て設立し、爾來拮据經營、漸次業運を隆昌盛大ならしめ、大正十三年十一月資本金一百萬圓を以て株式會社に組織變更するや、更に頭取に選任せられて卓腕を發揮する事縱橫無盡、常に縣下財界の爲に盡瘁貢獻し、其の振興隆榮に寄與せる功績たるや眞に偉大なりと云ふ可し。斯くて當縣自治産業の功勞者として聲望隆々、恰も山峽甲斐を風靡するの概あり、衆庶の尊敬信賴を一身に聚めたるも、昭和十年八月、大森銀行の第十銀行と合併さるゝや、後進に道を譲りて退任し、爾來大自然を友に風流韻事に親しみ俗超風の自適裡に餘生を送りつゝあり。資性濃厚にして人格高潔、而かも識見高大なるは勿論、其の音容端然として委致温雅、寔に貴公子然たる風貌拘す可きものあり、且つ博愛仁慈の念に富みて、常に社會公事の爲に多額の財を散じて惜まざる處、當代稀觀の徳望家として該地方民の尊敬瞻仰の的たり。

(住所 山梨縣東八代郡南八代村)

仲仕拾數名を使傭し、年商内高逐次著増し、終始一貫、堅實素朴の店風を以て經營し居れる斯業界の元老的存在たり。

而して翁は徒らに自家の貨殖にのみ熱中留心せずして、四隣大業の福祉増進に心身を傾けて秩掌繁旋し、市政に、自治に、公共事業に盡瘁せるところ枚擧に遑あらざるなり。曩に若松町第七區長に推されて本分を全くし、同町に市政布かるゝや市會議員、消防小頭、若松商工會議所議員等に推せられて其の義務を遂行し、或は慈善事業、教育事業には屢次巨額の私財を寄附して其の發展を促進せしむ。即ち播磨の郷里たる小富士小學校、糸島中學校、福岡縣警察官子女教育基金、貧民救恤金、若松市濱町小學校等に淨財を各々寄進せるはその一斑を證するに止まるのみ、昭和三年九月、勅定の紺綬褒章を下賜せられしも故なしとせず。現に福岡縣多額納稅者たり翁、高齡に達せるも心身共に生氣溢刺として壯者を凌ぐの概あり。世上凡庸の成功者の眼みに做ふところ寸毫もなく、奉仕獻答の純性に燃え、老軀に鞭ちて東奔西走席の温まる暇なく、且暮社會公共に力められつゝあるは、洵に讃嘆すべきところにして、無爲徒良の富豪運の以て反省を促し奮起せしむるに足らん歟。

因に店務は嫡男精之助、賢二兩氏協力以て

徳望家

### 岡崎 鶴吉

微賤を以て身を興して成功し、盛名を馳する者、古今其の例尠からず。現に事業界に錚々の名を顯はせるの士、その多くは垂髫時代より千苦萬難を體驗し、赤手空拳なり。所謂立志傳中の士なり。然れども斯かる成功者中機倖に依り、或は權策に依りて成功せる、即ち其の操履の清淨ならざる者無しとせず。茲に傳せんとする我が岡崎鶴吉翁の一生こそは眞に明澄なる行履にして微頭徹尾自強自重、所有る難關を突破し以て異様の成功を收め得たるものにして、眞に當代立志傳中の第一頁に編まらるべき人傑と稱すべし。

文久二年九月、岡崎吉助翁の二男として小富士村久家の聚落に生れ、明治二十四年分家一家を創成す。「梅檀は双葉より芳し」の譬の如く後年大器を成せる翁は、頑童の頃より既に衆童と異り、寺小屋に於て修學するや頭腦の明晰、殊に算數に於て頭脫し、郷黨よりその生涯、農を以て終るを惜まると共に、將來の大成を囑望さるゝこと多大なりき。斯くて翁自身夙に事業界雄飛の壯圖物々として腦裡を徂徠するところ、驟然立ちて弱冠十四歳の明治八年を以て出郷し、博多古小路なる松

翁の扶佐として努力しつゝあり。

(住所 福岡縣若松市明治町一丁目)

臨濟宗本山

### 相國寺

當寺は臨濟宗の本山にして萬年山と號し、詳さには相國承天禪寺と稱す。開創以來世孫相繼ぎて爰に百二十九世、法燈赫奕として萬代不滅の光芒を放ち、現に全國末寺百九箇寺教會説教所五箇所を統ぶる京都五山中第二位の巨刹たり。茲に其創建を尋ねれば遠く永徳二年の往昔足利義滿、後小松天皇に本寺建立を奏請し、勅許を仰ぎて同年十月着工、天下の諸侯に課して服役せしめ、義滿自ら其工事を督せりと。斯くて工事着々進捗し至徳元年大佛殿落成と共に寺號を定め、同二年佛殿の本尊釋迦、文殊普賢三尊佛の安座開眼の爲め大法會を修行、翌年寺格定まり京都五山中第二位たるべき教書を受けたり。其間永徳三年十二月、本朝僧録の權輿たる普明國師、先師七朝帝師夢窓國師を開山始祖に推尊し、自ら二世に降り給ひて入山住持となれり。而して創業以來星霜を閱すこと十箇年、明徳三年に至りて草創の功成り、茲に兜率天宮地上に現出し、諸堂伽藍塔頭寮舍等凡そ叢林に闕く可らざる建造物悉く完成を告げ、其壯麗森嚴

下金物店に奉公す。謹勉にして表裏なく、敏才にして機敏、而も放膽なるところ、隨所に光芒を閃發して主家の寵愛を蒐む。恪勤すること拾數年にして、同二十三年主家の後援を得て、若松に金物商を開始す。之を岡崎金物商店の溯源と爲す。不撓不屈、晝夜の別なく努力苦闘を續け、同二十六年、早くも土地及び家屋を買収するを得て店舗の擴張を行ひたり。爾後凡ゆる世露風霜の苦楚を嘗めつゝ惡戰苦闘、一貫せる結果、漸次店務好潮に向ひその商法の堅實にして正直勉強たるは逐次治開し、業績愈々順境にして大發展を招致せしめ、家運隆々たり。昭和八年三月に至りて時流に鑑みて全經營を擧げて、一族糾合以て、鐵材、瓦斯管、鑄山用具賣買を目的とする資本金二十萬圓(全額拂込済)の株式組織に革新翁自ら社長に就任し以て今日の景況を爲せり。之れ實に翁の一人一業主義に念する初意貫徹に邁進せる賜に外ならざると共に、烈々たる果敢勇猛の精神力こそは、現代青年の好箇の龜鑑たらすべからざるなり。現に當店の取引先は三井、三菱財閥の斯界關係會社、貝島鑛業、明治鑛業、住友鑛業の斯界第一流會社を始め、關西方面に於ては岡谷、岸木、津田、山本等々の錚々たる店舖より製品の供給を受け、之れが販路は筑豊方面の各炭坑並に北九州一圓の鐵工業者にして、店員拾數名、



臨濟宗大本山相國寺無畏堂

の美觀言語に絶せしも、惜しむらく其後僅か三歳、崇徳傑閣の間未だ木香新鮮にして香氣馥郁たりし應永元年九月、突如直震寮より火を發し、護法普神の擁護を裏切りて堂塔伽藍

悉く灰燼に歸せり。義滿直ちに再建に着手し翌年二月二十四日先づ佛殿、崇壽院の立柱成り、次で昭堂方丈、藏殿等落成し、同十四年復興工事完成と共に規模全く舊觀に復したり

一方同六年九月總高三十六丈、宏麗天下無比の七層建大寶塔建營されしも、同十年雷火に罹りて後再建せずと。其後同三十二年八月再び祝融の災に遭ひ、更に應仁の亂、天文の亂に際して兵燹に罹り、結構壯麗の諸堂宇再三回録の魔手に襲はれたり。天正十二年二月十五日、第九十二世西笑和尚入寺さるゝや、豊臣秀吉、徳川家康の知遇を得、覆舊工事漸く進捗せり。即ち文祿年間秀吉寺領千三百二十餘石を寄進し、慶長十年秀頼法堂を建て、同十四年家康山門を興立し更に元和年間徳川幕府亦寺領千八百石を寄進せるに依り、堂塔伽藍舊觀に復し法威益々高揚さるゝに至れり。然るに元和六年二堂十二院類焼の厄に遭ひ、後天明八年又もや大火を蒙りて鹿院、總門山門、方丈、庫裡、開山塔、寶塔、毘沙門堂鐘樓、並に塔頭子院等二十一ヶ所焼亡し、爾來漸次復興の實を挙げたるも、明治初年に至りて塔頭子院の廢合を行ひ、現存するは玉龍院、普廣院、慈照院、長得院の四塔頭及び光源院、大光明院、豐光院、林光院、慈雲院、瑞春院、養源院、大通院の八ヶ寺なり。境内寺城四萬五千坪、法所の北方老松鬱蒼たる閑寂幽邃の地を占め、總門は今出川通に南面し御幸門其西に並ぶ。北に功德池ありて天界橋之に架り、山門の舊址は池邊北方に存し、其北なる松林は佛殿の故址たり。佛殿址の西に

二寶塔、東に鐘樓あり、寶塔は承應二年後水尾院の御建立に拘はり、天明の火災に遭ひて遷座せしも萬延元年再興なり、塔下に衣冠法興等を奉振す。更に進まば正面に法堂あり。所謂本堂にして秀頼の建立に拘る紙唐様禪寺佛堂式なり。權衡頗る雄大、現存最古の法堂として貴重なる遺構なり。其附屬たる玄關廊と共に國寶建造物に指定せられ、内部には中央に釋迦如來、左右に阿難、迦葉西壇に達磨臨濟、百丈、疎石等亦た東壇に義滿の各像を安置しあり。祖堂は法堂の東に在りて南面し後水尾天皇御宸筆たる「圓明」の額を掲ぐ。其他方丈、選佛場、開山塔、庫裡、浴室等の諸建造物、何れも結構善美を誇るものたり。所藏の寺寶頗る多く、陸信忠筆「十六羅漢圖」文正筆「鳴鶴圖」を始め國寶指定物八點、其他傳來の重寶枚舉に遑あらず。

天臺の才幹に恵まれし者と雖も、千難萬苦に遭遇せざれば之を磨くに由なく、辛苦を克服し以て獲得せる地位名譽こそ、眞に吾人の尊敬に値し、萬代不變の光芒を放つものにあらざるや。我が田代仁作氏は夙に風浪狂亂する實社會に身を投じ、努力奮闘克く警根錯節を超えて遂に光輝燦たる成功に達せる立志奮闘傳の所有者、而かも居常社會公共に關心を抱く事深く、獻身居町の進展繁榮を圖りて功勞多大なるに至りては、正に世の儀表として堆稱敬仰すべき偉材の士なり。氏は明治十五年四月を以て秩父地方屈指の名門舊家に呱呱の聲を挙げ父君七郎右衛門氏は時代の先覺者として夙に政界に身を投じて活躍縱横、即ち自由黨秩父郡參謀の要職に推され斯界の名士小川平吉翁其他と斷金の交りありし名望家たりき、されど政治に奔走するの餘り、些かも家業に留意努力せざりし爲、不幸氏の幼時一家離散の悲運に逢着、茲に氏は長野市在親戚に寄寓するの運命を擔ひ、其後同地小學校を卒業するや、家運挽回の決意斷乎として奮然東都に出づ。爾來刻苦奮闘、克く世路風霜の困苦を踏碎して他日雄飛の素地を作り、後年佐世保工商學校を卒へるや、取羽商船會社に入りて機關長に就任せり。然るに時偶々日露の戰雲漢々たるに會し、假裝砲艦に乗込みて勇躍從軍中、他の不注意の齎らせる處、乗込

體沈没さるゝの不慮の災厄に襲はれし故、茲に潔然其實を一身に受けて同社を退き、其後三井所有船竹島丸二等機關士として海洋征服の壯舉をなす事幾星霜、而かも胸中烈々たる向學の念抑へ難く、努力力行、其の間神戸高等工業學校専科を卒へし奮闘家たり。斯くして少壯三十三歳に至るや、心中深く期する處ありて驕然一大轉換を決行し、以來郷土秩父に定住して鋭意専心機業界の發展を念願に盡瘁貢獻する事多大、其の卓犖不羈なる商略手腕は夙に業界に比肩する者尠なく、而かも機業報國の大志を翳して勇往する處、田中義一氏並小川平吉氏等の後援に俟ちて單に關東地方已ならず、廣く中國、九州地方に進出して驚天動地の大活躍を揮にせる結果、遂に一大成功を齎らし、一代にして巨萬の富を築きたる斯界稀に見る風雲兒なり。現に秩父織物商業組合理事、株式會社秩父會館取締役、同昭和館取締役、秩父産業購買組合幹事等の要席に在りて斷然當地實業界に重きをなす一方、更に町會議員に擧げられ東奔西走席の温まるを知らず、常に町民の利福増進を圖りて功績顯著なるものあり。資性濃厚誠實にして一片稜々たる任侠の義氣を藏し、而かも人格清廉、識見高邁なる處、衆庶の尊敬信賴翕然として譽まり居れり。

田代 仁作  
秩父織物商業組合理事  
（住所 埼玉縣秩父郡秩父町）

### 昭和生命保險相互會社

保險事業は直接大衆と密接なる關係ある公益事業中の尤たるものなれば、之が經營の主體は株式組織よりも寧ろ相互會社を以てするが理想的にして、相互會社にありては契約者は總べて社員となり、社員は社員總代を選擧し、社員總代會に於て會社の重要事項決定せられるが故に、右組織が契約者にとりて有利なるは業説の要なき所なり。昭和生命保險相互會社は株式會社の株主に該當なす基金は全部償却せられ、相互會社の根本理想たる「株主なき會社」一契約者自身の會社が名實共に達成せられ、相互組織の妙諦を遺憾なく發揮して、近時社業は躍進の一途を辿りつゝあり。業界には高率配當の好餌を掲げて誇大の宣傳をことゝせるものもあるも、高額の保險料を徴収するが故に高配を行ふは當然のことにして、殊に満期の利益を享受する者の極めて小數なるに想到する時、低率保險料こそ契約者にとりて有利なるは贅言を俟たず。當社は低廉保險料に徹底し、而かも相互會社本來の建前よりして毎年限餘金の大部分を契約者に對し、契約の年數に比例して配當せるを以て契約者にとりては保險料は一層低廉となりて

社員配當準備金十四萬圓、基本積立金五十萬圓、法定積立金二十八萬圓、特別積立金十五萬七千圓に上り、内各準備充實して社礎牢固として堅きものあり。保険料低率にして販賣する保険種類契約者に頗る有利なる仕組となり、資産内容頗る充實して、資産利廻頗る良好にして、各種積立金亦多額に上り、多年の堅實主義と契約者に對する懇切なる奉仕と相俟つて、世人に絶大なる好評を博しつゝあり。今後の社業の伸張眞に注目し、備すべし。

尙ほ重役陣には社長金杉英五郎、取締役北島多一、同藤道文彦、同武末祐三郎、同仲宗根玄愷、同中山壽彦、同賀來興次郎、同大塚健治、監査役林時、同前田青彦の諸氏列し、庶務課長佐藤若氏諸般の庶務を處理して敏腕の聞え高し。

(所在地 東京市京橋區京橋二丁目)

## 事業家 鹽原民二

處世道の根本要諦は誠の一語を措きて他に求め難き處にして、誠こそは人世の凡ゆる邪惡非道をして忽然影を消めしむる最大最善の偉力なり。即ち誠實一貫を處世の信條となし而かも渾身の努力熱意を傾けし來れる我が鹽原民二氏が、其實果を結びし必然的所産とし

て今日ある大を築きしは些も不思議とす可きにあらざるなり。

氏は明治五年十二月を以て大阪市に産聲を擧げ、父君を難波萬年氏と呼びて其の二男なるも、後年鹽原正一氏の養子となり現姓に改めり。天性頭腦明敏にして且つ勃然たる期氣を有し、同二十四年群馬縣實業學校を卒業するや、直に實社會に身を投じて畫策奮闘する事幾星霜、其間自己將來の針路を確立し、生糸商を創業して着々成功の道程を邁進する一方、更に日本鐵筋コンクリート會社を設立して新時代土木建築界に駿足を伸ばし、常に至誠一貫、信用第一主義を奉じて拮据經營する處、業績見る可きもの多々ありしも、慧眼達識克く時代の趨向を遠觀する先見の明に富み而かも烈々たる業欲に燃ゆる氏は、尙ほ日本興業及び無走治上昇航空機株式會社を創立して事業界の最先端に英姿颯爽、驚異的活躍を顯現し、今や兩社長及びヂエツトプレーン航空機研究所主等の標榜に就きて時代の寵兒たる已ならず、他面女子教育に深甚なる關心を抱き、明治四十四年鹽原學園を創立せし以來、獻身女子教育界の刷新向上に努力奔走したる功績没す可らざるものあり。即ち現に京都女子、神戸女子、新舞子女子並に神戸大阪、大阪第二、近江各高等技藝學校主として銳意學校經營の困難を克服し去り、關西各地

樞要地點に熾々たる學燈を掲げ居たり、蓋し當代實業界に毅然異彩を放つ偉材の主として世人の尊敬欽仰措く能はざるも當然の歸趨ならん。因に令閨千代子夫人は先代正一氏長女にして東京女子美校の出身、現在鹽原學園各校々長の重責を擔ひて「鹽原式裁縫書」「裁縫革新論」「標準洋服裁縫全書」等名著著を筆架し、女流育英家中錚々たる存在たり。

(住所 神戸市神戶區加納町二丁目)

## 阪和電氣鐵道株式會社

沿線風光明媚の景勝の地に富み、著名なる神社佛閣、名所舊蹟各地に所在し、遊覽地娛樂場等の諸施設完備して遺憾なく、遊覽客四季を通じて殺到し、近時に至り住宅地として發展するありて、乗客數累期著増して業績飛躍的に向上して關西電氣鐵道株式會社とす。當社の營業線は天王寺——東和歌山の幹線に風——營業軒六十二・八軒に達せり。沿線に 反正天皇御陵、履中天皇御陵、仁德天皇御陵、大鳥神社、泉井上神社、紀三井寺、根來寺、久米田寺、櫻尾山施福寺を始めとして幾多の古社名刹、或は史上に著名なる史跡に富み、而

も海に山に自然の風光頗る佳絶にして、春は花見、夏は海水浴、秋は松茸狩等四季を通じて果實、魚介を狩るによく、花鳥風月の鑑賞に優ぐれ、ピクニック、ハイキング等に絶好の勝地に恵まれ濱寺公園、白濱湯崎温泉等の遊覽地あるに依り一年を通じて遊覽の客にて



和 治 和 治 和 治 和 治

當社線は多大の混雑を呈せり。近時世上に紹介せられて名聲大いに揚げる砂川遊園を中心とせる附近一帯四十數萬坪の地は松林、雑木林、砂丘、池沼等在りて、砂川奇勝を始め天然の風光勝れ、梅、櫻、萩等の花見、狩、松茸狩、兎狩等によく、日時行樂の好適地と

して、當社線を利用して家族・團體等の來遊するもの日を逐ひて著増しつゝあり。又當社に於ては大阪府泉北郡八田莊村に坂和射撃場を直營し、公開射撃場として一般に開放せるが、時局に應じし施設として多大の好評を博し、頗る盛況を呈せり。叙上の如く沿線名所舊蹟各所に點在し、各種諸施設整備し、又住宅地として近時發展を見つゝある所より社業歷年發展に向ひ、九月末を締切とせる昭和十二年上期業績を見るに、時局關係よりして遊覽客減少せるにも不拘、客車收入一百三十四萬三千圓、貨車收入二十七萬一千圓に達し、前年同期に比し前者一割一分六厘、後者六分の各増收を示せり。又自動車收入に於ても増加を示し、土地經營にては向ヶ丘、霞ヶ丘及聖ヶ岡の三經營地にて同期間中五千九百餘坪を賣却す。當期利益金三十三萬六千圓なり。一萬七千圓を法定積立金に計上し、他を悉く後期に繰越せり。當社は毎期業績の躍進顯著なるものありて、近々三・四分程度の配當を開始する模様なるが、沿線開發の餘地を賡せらるに依りその將來亦多大に期待すべきものあり。資産内容に於ても頗る充實し、何等見るべき負債なく、洋々たる前途を約束せられ居れり。現時重役は専務平和憲夫、取締役林安繁、同太田光親、同高取盛、同竹中源助、同木本圭一郎、監査役川崎肇、同橋本喜作の諸

氏等錚々たる人物列せり。

(所在地 大阪市天王寺區悲田院町)

## 千葉縣 野田高等女學校

一國々運の消長は第二の國民を養育するの大任を帯ぶる母性の素質如何に拘ること甚大にして、女子教育の振興こそ爲政者の深甚なる意を盡くすの要あるは擧説を俟たず。千葉縣町立野田高等女學校は我國女子教育界に於ける異色ある存在にして、教育者に頸材網羅せられ、諸施設完備し、生徒又頗る優秀にしてその名譽赫耀たるものあり。當校の教育方針は高等普通教育を目的とする文部省令に從ひ、特に當地方の實情に鑑み勤儉實實の風を助長し、裁縫手藝家事等を重んじて實社會に有用なる婦人たらしめ、各個人將來の志望達成に向ひて充分なる實力を養ふことに留意せり。その創立は正十四年四月のことにして開校以來の歴史は必ずしも古しと云ふを得ざるも、施設の充實には銳意力を盡くし、現時教室十二室、他に講堂、理科準備室、地理標本室、體育室、圖書室、圖書習字鑑賞室、休養室、溫室等ありて頗る完備せるものあり。學校教育の稍々もすれば則ち主義に傾するの弊あるに鑑みて、各生徒個別に環境・個性・

趣味等の調査を爲し、家庭との聯絡の下に個別的訓育に力を注げるは教育界に新創意を開拓せるものとして多大に注目せらる。婦人としての必要なる徳育を施すと共に東葛方面の一般的體位の劣るものあるに鑑みて體育にも大いに留意し、選手制度の弊害の排除に努めて一人一藝主義を採り、生徒は各自好む所に從ひて運動の練習を爲すの規定あり。又全校生徒に對して一ヶ月七十錢の低廉なる費用を以て營養食を給與せり。その他校友會・衛生施設を始め幾多の諸設備に於て豁然他校を抜き、教職員生徒間又骨肉に優る圓滿を極めて多大の實効を挙げつゝあり。當校に於ては昭和十三年四月實政專政科を設置して、高等女學校出身者の實際的家政方面の教育を施せるが、之が成果に對しては多大の期待を拂はれつゝあり。因に當校々長は小林庄太郎にして主席教諭は渡邊勳一郎其任にあり。

校長 小林庄太郎 氏は縣下教育界の重鎮にして、蘊蓄深く經驗又遠大なるを以て多大に推敬せられ、高潔なる品性と調大の襟度は衆庶の深く悅服する所なり。明治三十六年三月千葉師範學校を卒業し、附屬小學校訓導を経て成田尋常高等小學校長となり、郡視學縣視學に榮進し、昭和十二年五月、當校長に就任せり。明治十五年一月の出生にして、世

人より師父の如くに欽仰せらる。  
(所在地 千葉縣東葛郡野田町)

### 株式 小倉計器用寶石製作所

電氣、計器用寶石の加工製作に鑄骨彫身すること實に數十年、其間幾多研究の成果は特許を得、我が國産業界の發展に資すること多大。今や斯業界唯一のメーカーとして、業況隆々たる斯界の至寶的會社たり。

抑々當社の源流は、現社長小倉嘉右衛門氏の岳父故小倉伊三郎翁が、桑梓の地たる石川縣に於て瑪瑙加工に従事し、明治二十七年の交上京し、ルビー、サファイヤ、瑪瑙等の寶石加工を以て創業せるに其の緒を發す。伊三郎翁は、舊加賀藩士として元治元年三月の出生天分冷頭快手、而も發明業務に頗る熱心にして、上京するや日清戰爭勃發に際し、羅針盤並に測量器用加工寶石を軍部に納むると共に多年研究の勞は酬ひられて計器用硬質軸承其他の特許を得。更に長くも 明治大帝の御命を拜して大高盃を謹製献上の光榮に浴す。堅實一貫の經營は、漸次優秀なる技術に拍車をかけ、斯業界唯一のメーカーとして電氣計器製作業界に不抜の地盤を確保し、以て不動の業礎を築くに至れり。

而して大震災に於て相當打撃を蒙りしも業礎は微動だもせず、其後先代伊三郎翁老翁の爲隱退し、養嗣嘉右衛門氏専ら經營の衝に當りて業績益々昂揚す。殊に數年來軍需工業の股輪は勢ひ精密計器の需要著増を招致して景況を加へ、支那事變勃發は更に一段の盛況を呈するに至れり。曩に岳父伊三郎翁の計に遵ひ家督相續せる嘉右衛門氏は、この機運に乗じて從來狹隘を託ちたる工場を移轉擴張するに市内大森區大森二丁目地一千餘坪をトシ工場新築に着手する等頗る積極的に業容を擴大する一方、將來に備へ先代以來四十餘年を個人經營に據りて來りたるを、本年三月下院資本金四十萬圓(全額拂込済)の株式組織にめたるが、其役員は小倉一家と功勞ありし店員を加へたるが、實質的には依然同氏の個人經營に異ならず。現に従業員百五十名内外を使備し、電氣計器用寶石加工の外、工業用ダイヤモンドを取扱ひ、原石をスイス、英國等より輸入し、鐵道省、東京計器、日本電氣、横河電機、芝浦製作所、北辰電機等を始め、電氣計器、精密計器製作所に獨占的地盤を占有し、その前途汪洋たり。

因に當社現役員には、取締役社長小倉嘉右衛門、取締役小倉やへ、同小倉コト、監査役小野ヒサ、同村山八太夫の諸氏就任せり。  
(所在地 東京市京橋區築地一ノ五)

### 名望家

## 山本丈之助

眞實は人を打つ。如何なる技巧粉飾と雖も到底眞實に敵せざるは素より論なき處にして凡そ社會事業の如き所謂身を設して仁を爲すの眞實ありてこそ、始めて其効果を擧げ得るものなり。殊に方面事業に於て特に然り。此意味に於て我が山本丈之助氏が京都府方面委員其他幾多の公職に在るは、寔に其人を得たるものとして衷心慶賀に堪えざる所以たり。即ち現在前記京都府方面委員を始め、日本赤十字社特別社員、伏見警愛會員、伏見防犯協會顧問、深草方面事業後援會名譽會員、深草公同衛生委員、伏見購買組合長、或は一徳會理事、心學修正會幹事、京都天泉會理事等の公私各方面に亘る要職に推され、至誠一貫、常に衆庶の利福増進を念願として盡瘁貢獻し能く其本来の大使命を完遂しつゝ功績顯著を顯はるゝ當今稀に見る眞個の社會奉仕家なり而かも今日大阪株式業界の重鎮として將又居所伏見區に於ける多額納稅者中第二位の資産家たる地位名望を贏ち得し道程が、實に過去半生に於ける刻苦奮闘、具さに世路風霜の苦楚を嘗めつゝ一意精進したる賜たるに於てを蓋し世の儀表として社會的尊敬を拂はる

も當然の歸結と云ふ可きならん。

氏は京都府人山本鐵之助翁の三男、明治二年を以て下京區に呱呱の聲を擧げ生家は代々農を以て家業とし、連線家歴を閉せる舊家なりと聞く。氏も長じて嚴君を扶佐して稼穡の業に従ひたるも、二十一歳にして敢然京



山本丈之助氏

都第一中學校に入り、爾來一層家業に懸命努力を注ぎつゝも苦學力行、誠に儒夫をも驚起せしむべき奮闘勉勵に一貫して遂に螢雪の功を完うせり。斯くて二十五歳の折小學校助教員たる資格を獲得し、初等育英界に盡瘁奉獻すること二星霜、其後神戸税關に奉職して三ヶ年を閉し精勤恪勵、克く弊弊を凌駕して前途を囑望せられしも、生來不撓不屈の精神に富み、而かも獨立不羈の念頗盛なる處、胸底深く感ずる處ありて豁然轉職し、大阪堂島米穀取引店石倉商店に入りて經濟界の人となれり。時に少壯不惑に達せる秋にして、以來店務に忠實熱誠以て従事し、且つ不斷の研鑽を襲ねて斯業の眞骨頂を極めし處、夙に店主の信認深甚なるを得て同店支配人の重責を擔ふに至れり。

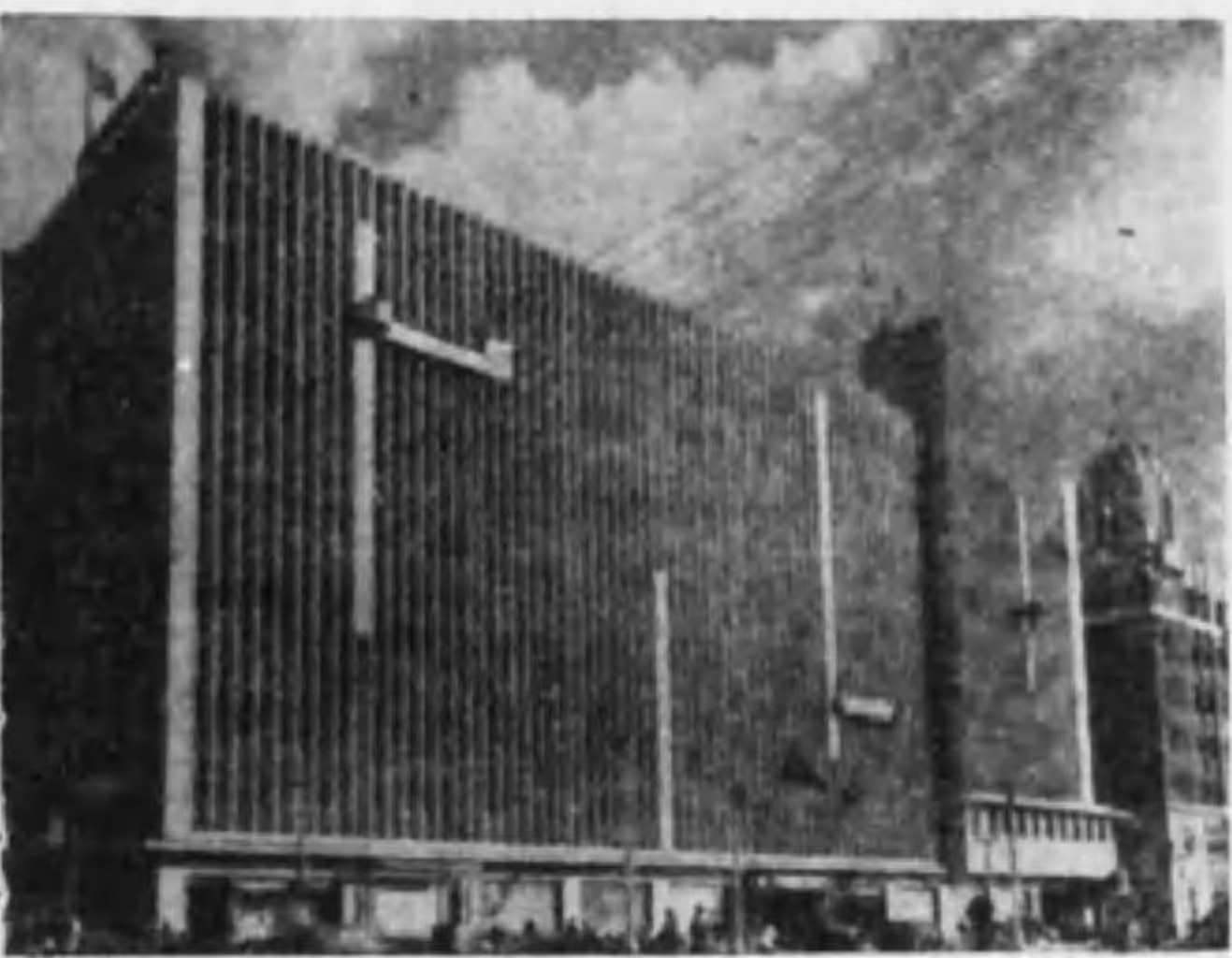
斯くて勤積する事實に十年、名實共に同店至實的人物として内外に信望を馳せ、才幹明瞭稀見の逸材として令名噴々たりき。

而して明治四十三年多年の宿願達成して獨立自營の機運を把握するや、僅々數千圓の資本金を以て敢然米穀取引店を開業し、爾來商略を按ずること縱横にして非凡、能く變轉盛衰常なき輪贏場裡に活躍して些も商機を誤らず、着々業運の躍進興隆を顯現して豁然斯界に頭角を抽んぜり。其後昭和十二年四月十五日、更に鵬翼を伸ばして大阪株式取引所一般及公債取引員となり、同年六月二十六日を以て同市東區北濱二丁目、即ち關西株式會社の中樞地に偉容堂々たる新店舗、山本丈之助商店を設置し、傍ら尼崎海上火災保險會社代理店を兼ねて業績顯然たり。是實に氏が多年に亘る努力奮闘と、天賦の英才を遺憾なく發揮せる結晶にして、今や當地實業界一方の雄者と遂に今日の榮譽に輝くと雖も、毫も功を誇らず、名利を趁はず、専心事業遂行の終局的目的を社會奉仕に在りと觀じ、其崇高敬虔なる宗教的信念に基きて前記各要職に就任、殊に細民救濟事業或は社會教育事業に貢獻寄與すること多大なるに於ては、正に世人の尊敬敬仰の的となり、徳望高きも故なしとせず。  
(住所 京都市伏見區深草敷之内町)

株式 十合吳服店

我國百貨店界の巨豪にして關西商店界に堂々の業容を示し、綾羅錦繡店內に充滿し、常に流行界の風潮をリードして業容の躍進をなせるものに十合吳服店あり。當店の淵源は文政四年に溯り、初代十合伊兵衛氏大和の十市村を出で、大阪座摩神社前に於て古着屋を創始。屋號を「大和屋」と稱せり。爾來商況順調を以て發展せしが、明治十一年二代目伊兵衛氏現在の心齋橋邊谷角に吳服店を開き、後々營々として事業に没頭したるに依り、遂年業勢躍進して、京都・神戸の各地に支店を設置し、業陣大いに擴大せられて斯界の驚異とせられたり。大正九年三月從來の合名組織を改めて資本金三百萬圓の株式會社十合吳服店の生誕を見、爾來事業は飛躍的發展を遂げ、我國百貨店界の彩華として仰ぶがるに至れり。先年北海道事業界の雄鎮として聲望並びなき坂谷吉氏代表取締役に就任するに及び、業態更に面目を一新して、業況一段と發盛に向ひ、鞏固不拔の基礎は茲に築かれることとなり。昭和十年十月に至り、四ヶ年の歳月と五百萬圓の巨費を投じて大阪市心齋橋筋に清

新華麗の近代的な大建築を設立し、世人をして瞠目せしめたり。總延坪一萬坪、全館ガラスとトラパーチン（大理石の一種）を以て装ひ、内部外觀の美近代建築の精華をなせると共に各種の諸施設に於ても最新科學の粹をとり、本邦百貨店界の覇者たるの實績を顯現し



唐服吳合十る誇を英の奧輪

て餘りありといふべく、流行界の源泉として美の殿堂として世人に讃仰せられるも故なしとせず。當店は斯界の頭才を集めて藝術的感觸を自由に驅使せしめて顧客の好尚に投ずべく創案に苦心を凝らし、更にサービスに關しても周到の用意を拂ひ、懇切鄭重を旨として

新創意を開けり。就中一般家庭人の半日店員制度を採用せるはまさに斯界に於ける劃期的試みを爲すものにして、スポーツ、洋裁、園藝等に通曉せる斯界知名の士を賣場に招きて顧客の商品選擇にアドバイザーを與へしめて多大の好評を博せり。従業員男女合して二千名に達し、何れも明朗快活にして懇切丁寧を以て名あり。現時資本金四百萬圓（内拂込三百二十五萬圓）にして毎期多大の好成績を擧げその經營方法の斬新にして社業の進展の顯然たるまさに業界の壓巻たり。當社重役陣には代表取締役坂谷吉、取締役木水榮太郎、同土屋啓造、同坂谷順助、監査役松本富藏、同十合芳三郎、同前田新藏、同柴野仁吉郎の諸氏ありて、一致奮力發展に畫策せり。尙ほ神戸支店は同市葦合區小野塚通り、京都支店は同市下京區四條通室町東入函谷鉾町に在り。

庶務課長 佐藤 半 頭腦明晰にして周匝緻密、俊敏の頭材を顯れること久しき氏は富山縣時負郡四方町に生る。夙に東京帝國大學法學部を卒業し、後横濱生命保險に入社し業務に淬勵して寄與する所多く多大に推重せられたり。昭和十年當店に入り現職に推される資性明朗活潑にして磊落落高貴なる品性を藏し、上下に噴然たる信望を博せり。

株式 唐金商店

關西洋裝雜貨商界の雄者として、株式會社唐金商店の眞價は爰に呷言を要せざる處なりと雖も、其各種加工製品に或は販賣品に獨特優秀なる體裁品質を具備し、常に實用的にして且つ新新優美なる國產最高品を提供し、且つ海外市場に目覺しき進出を實現せるは、實に躍進日本産業界の一部門に萬丈の氣を吐くものとして推賞するに足る。抑も當店は今を距る約二十年前、現社長唐金萬三氏が綿布加工並に婦人小供服雜貨販賣を營業目的となし一個人商店を獨立開店せるに濫觴す。而して當初は素より微々たる一小店に過ぎざりしも氏の卓腕遠識且つ不撓不屈の努力に依り、能く斯界の波瀾變遷を乗り切りて着々業礎を確立し、更に發展躍進の一路を辿りて業運盛大となるや、昭和十二年十二月、將來の一大飛躍に備ふべく業容の擴張充實を圖り、爰に資本金二十萬圓を以て株式會社を設立、前身商店の營業一切を繼承し、更に積極的營業方針を樹立して今日に至れり。今や改組以來月日を閉する事僅少なりと雖も、其多年に亘りて業界に扶植せる信用の博大なる、或は生々潑烈たる業勢を顯示せる事斷然他店の匹敵を許

さす、殊に其取路に於て單に内地全般に強固不搖の地盤を擁する己ならず、遠く南洋諸島亞弗利加方面を開拓して内外需要界に信望隆々たるは定に偉とす可き處たり。

社長 唐金萬三氏は當家先代萬吉氏の長男、明治二十三年十一月十一日を以て産聲を發し、夙に明朗にして俊敏、而かも頗る進取の氣象に富み、斯業創始以來常に不退轉の氣概に一貫して能く難關を打破し、遂に今日ある赫赫たる成功に達せる奮闘傳中の一偉材なり。今や年齒愈々熟し、識見才能益々完璧に近づき其飛躍的活動の實現は業界齊しく期待し居れる處なり。因に趣味として謠曲に堪能技既に玄人の域に達せりと。蓋し典雅高風たる性格の一端窺知すべきならん。家庭には父君を始め、令妻ヒサ子夫人（明治二十五年生）長男康雄君（昭和元年生）二男眞三君（昭和七年生）二女愛子嬢（大正五年生）三女喜代子嬢（大正九年生）等ありて一家團樂を極む。

（所在地 大阪市西區阿波座下通二丁目）

大日本電力旭川總務部長

堀 重 固

資本金一億數百萬圓を擁し我國電力界の雄

大日本電力株式會社は、北海道東北地方一帯を地盤となすものなるが、その主要根據地たる北海道旭川總務部長として才腕を揮ひ、社内にも重きをなせるが堀重固氏その人なり。明治二十二年九月大野勝二郎氏の二男として名古屋市に生る。後入りて堀家を繼げり。第八高等學校を経て、九州帝國大學工學科に入り明治四十四年に卒業す。大正三年志願兵として入營し、同年陸軍歩兵少尉に任官す。後東洋電氣工業會社に入社し、技師長としてその職に精勵し、同社に於て大いに重用さる。續いて利根發電に技師長として聘せられ、更に東京電燈に轉じて工務課長となり、富士川電力に入りて技師電氣部長等を歴任せり。昭和三年に至り大日本電力の前身北海道電燈に入り、技師に任ぜられて室蘭に在勤す。氏は當社に於て才腕を揮ひて大いに頭角を現し、簡拔せられて同六年に、札幌出張所長總務部長の要請に據へられ、續いて旭川に總務部の設置せられるや旭川總務部長の重責を托さる。北海道電燈は幾多の會社を併合して東北關東地方にまで進出し、大日本電力と改稱して我國有数の電力會社とし飛躍的發展をなすに至れり。當社は北海道、樺太に殊に壓倒的勢力ありて、氏は専ら同地方の業務を擔任し、多大の功績あり。格勤精勵、銳意事業の發展に盡瘁し、業務の刷新に傾倒す。農村の電化は

氏の十数年前より抱懐せる持論にして、これが目的達成の爲めに何等當局の援助を俟つことなく、自ら山間僻地を跋渉し、刻苦奮闘全精力をこれに傾注せり。斯くして社業は大いに發展し、北海道の産業開發に寄與する所甚大なるものあり。氏は頭腦明晰にして、寸暇には研究に専念し、學識頗る該博たり。大正七年東洋電氣會社の依頼に依りて、電力事業の調査視察の爲め米國に赴く。業務に對して眞摯誠實ことに當りて至公至平、資性豪放磊落落明快活にして小事に拘泥せず、而も意志強毅にして確固不動の信念あり。態度沈着、行動果敢、他面肌觸り圓滑を以て人頗る好感を與へ、道廳その他の方面の交渉は氏の存在に依りて頗る圓滿なるものあり。人格清廉潔白にして無慾恬淡その信望亦厚し。

(所在地 札幌市北一條西四丁目)

### 三浦環

お家藝「お蝶夫人」の至藝を以て内外歌劇界に名聲を博する事久しく、名實共に斯界の女王を以て推稱さるゝ我が三浦環女史は、單に舞臺に於て豊麗麗美の姿態を藝術的表現に亂舞し、或は宛然鶯鳴を鶯鶯せしむる美聲に聽者を魅了し去る已ならず、出で、は文化文

明の進展に伴ふ歌劇の高踏的藝術境に、更に大業的三昧境を與へて國民的藝術たらしむべく、殊に近代藝術の本領に基き歌劇の教授研究をなし、時代文化の穩健なる發展に資せしむ可く實際的歌劇歌手の養成に邁進し居れり。即ち之が目的達成の第一顯現として、三浦環歌劇音樂學校を設立し、爾來日尚ほ多からずと雖も、着々實績を挙げ居れるは寔に傳とするに足る、而して本校は帝都の中心地京橋區横町、即ち東京驛八重洲口附近に所在し、鐵筋コンクリート六階建、暖房衛生施設完備せる本校經營「城邊ビル」内に在り、科目及修業年限を幼稚科二年、豫科二年、本科二年、研究科及び選科に分ち、後者二科は年限無制限にして研究科は聲樂、ドラマに校長個人指導を以て當り、尙特典として本校生徒は修業中の如何を問はず、成績優秀なる者に校長及び本校關係者公演の場合、臨時出演せしめ、或は生徒並に學校關係の催しは樂壇一流新聞雜誌に發表し、亦た生徒研究成績を發表して音樂家の批判を徴し、一般世人の趣味を向上せしむる等の目的下に、隨時演奏會を開催し多大の好評を博し居れり。因みに各學科教授に斯界錚々の逸材人物を配置せるは勿論、其懇篤適切な指導薰陶下に、生徒中前途を期待され居る者尠ならず。

(所在地 東京市京橋區横町一丁目)

### 日本共立生命保險株式會社

大小の群雄相割據して角逐激甚を極める生命保險界に在りて、敢て契約高の多寡を競はず、保險事業本來の使命に鑑みて専ら堅實經營を旨となし、優秀無比の各種保險を提供して衆庶の福祉の増進に寄與せる所絶大にして眞に被保險者本位の生保會社として優良なる業績と鞏固なる基礎を讃へらるゝものを日本共立生命保險株式會社とす。當社は明治二十七年四月相互生命保險會社として出資金二萬圓を以て創始せられしがその淵源なり。爾來社業に一進一退ありたるも、歴代の當業者堅實主義を以て一貫せしに依り順調なる發展を遂げ、明治四十年九月、日本共立生命保險合資會社と改めて合資組織とし、大正二年二月株式會社に改組して、爾來順風滿帆の勢を以て業勢の伸張を見、昭和十二年現在資本金二百萬圓(拂込五十萬圓)、總資産一千六百九十六萬四千圓、諸準備積立金一千四百五十七萬三千圓を算し、斯界に堂々の業陣を張れり。昭和十二年末現在包有契約高八千八百三十一萬一千圓に達し、契約高の上進特に顯著ならざるも堅實なる足取りを以て増加しつつあり。即ち、昭和十二年年初契約高八千六百四十七

萬二千圓にして、新契約高二千二百八十七萬四千圓に上りしも、解約消滅一千九百五十四萬八千圓を落したるを以て、純増加は一百七十三萬八千圓に止りて前記の如くに年末現在高八千八百二十一萬一千圓となれり。世人稍々もすれば契約高の多寡を以て保險會社の業態の全般を判断せんとするの傾向あるも、之は本末を誤れるも甚しく、保險會社の選擇は販賣する保險種類の優劣と資産内容の良否に於て決せらるべきは業説を俟たず即ち當社は總資産一千六百九十六萬四千圓中運用資産一千四百七十九萬一千圓を占め、そのうち有價證券投資五割、貸付金二割六分となり、好利廻を以て利息收入を擧げつゝあり。被保險者にとりての最大關心事は保險金支拂に關する確固たる保證の存することなるが、當社には責任準備金一千二百六



日本共立生命保險株式會社本社

十五萬一千圓を始め各種準備一千四百五十七萬三千圓を擁せるが故にその業礎まさに盤石の如きものあり。その保險種類に至りては他にその比を見ざるの被保險者本位の特性を具へ「幸福保險」「特別利益配當附保險」の二種ありて、前者に終身保險、養老保險、一時拂込保險、後者に特別利益配當附終身保險並に、特別利益配當附養老保險あり。又最近兒童保險の發賣をなして多大の好評を受けつゝあり。その取扱頗る簡易にして保險金支拂亦極めて迅速・契約者の爲めには幾多有利なる特典を併し、保險報國の旗幟の下に犠牲的奉仕を爲し、世人より絶大なる讚辭を受けつゝあり。支社、出張所、代理店を全國に設け斯界に一大業陣を布けるが、最近に至りて常磐生命保險株式會社の經營權當社々長前川太郎兵衛氏の手中に歸するに至りたるに依り、當社の威力は一段と加へられ、將來の躍進眞に顯然たるものあらん。尙ほ堂々の陣容を誇れる當社重役に社長前川太郎兵衛、常務前川彌助、同前川道平、取締役成宮季一、同前川幸藏、監査役前田春雄の諸氏あり。

取締役社長 前川太郎兵衛 俊邁の氣格に天性の才腕を以て名聲赫奕として揚れる土に前川氏あり。當家は安政年間先々代太郎兵衛翁京濱を往來して木綿金巾の販賣を爲して家

道大いに勃興するに至りたり。氏は先代太郎兵衛氏の四男として明治四十年二月に呱呱の聲を發し、大正十五年前名治三郎を改め、襲名して祖業を繼承す。資性謹直にして温恭、教養高く、品性典雅の好紳士として世人の景仰を受くること厚し。

(所在地 京都市左京區岡崎圓勝寺町)

### 八十五銀行常務取締役 出牛充二郎

長者の風格と悠容迫らざる態度を以て、功に焦らず名利に捉はれず、圓熟老練なる識見手腕を縱横に發揮し、縣下金融界に君臨する我が出牛充二郎氏の當地方に於ける活躍は、正に驚嘆の眼を眩らざるを得ぬものあり。即ち夙に斯界に身を投じて努力奮闘する事多年に亘り、其間機業地秩父の産業振興を圖りて献替寄與する處甚大を極め、今や地方銀行界の雄者八十五銀行に在りて常務取締役の樞椅に就き、聲望隆々乎として容易に他の追隨を許さざる斯界の重鎮なり。

氏は明治八年一月を以て呱呱の聲を發し、幼時既に聰明賦性、氣才潑刺たるありて前途を囑望さるゝ事厚く、而かも烈々たる大和魂に燃えて日清戰爭勃發するや、勇躍從軍して挺身砲彈陣の下に奮戰偉功を樹立し、戦後



動七等に叙せられたる榮譽たる戦功者。其後慧眼遠識、克く自己將來の活躍舞臺を金融界に求むるや、奮然創立間もなき秩父郡野上銀行に入る。時に明治三十五年の交なりき。爾來精勵倍勤致々として職務を奉じ、天賦の卓腕を遺憾なく揮ふ處、早くも信望噴々として内外に洽く、翌三十一年同行常務取締役に推され、後年同行の西武銀行と改稱さるゝや遂に頭取の樞樞に擧げられたり。

斯くて同行内容の刷新充實を圖り、或は敢然秩父町に進出して活躍を擅にする處、單に行運を隆昌盛大ならしめて地方屈指の優秀銀行たらしむるに止まらず、縣下金融機關の雄として同地商工業の振興發展に資献する事實に偉大、即ち同行の信用篤甚なると共に、氏の令名亦た斯界を風靡するに至れり。而して昭和十二年十二月、當八十五銀行と合併を見るや、率先常務取締役の重職に推されて現在に及べり。

資性渾厚篤實にして而かも勤勉眞摯、常に獻身精勵に一貫し、克く多数行員を指導激勵して行務本來の大使命を完遂しつゝある典型的銀行家たると同時に、亦た野上銀行入社以來、勤積實に四十有餘年に及ぶ一大功勞者なり。是實に氏が終始一貫、只管金融報國を念頭に努力邁進せる賜と云ふべく、其の事務に忠實熱誠、而かも百尺竿頭一步を進めたる態度こそ、正に業界雄飛を志す者の好個の範たるに足る。蓋し偉名赫々として斯界に周く、一代の奮闘兒として衆庶の尊敬瞻仰を受くる事厚きも敢て偶然にはあらざる可し。

住所 埼玉縣秩父郡白鳥村

### 京都工業株式會社

我國ビツカー製造の始祖として事業界に絶大なる信用を博し、多年の研鑽に在れる秀技の技術を以てせる製品は優秀無比の稱ありて需要逐年激増し、業績累期躍進して社運の昌榮定に顯然たるものあり。當社は明治十九年現社長の先々代吉川新之助氏に依りて個人經營として創始せられたるに端を發し、その經營方針よく時代の要求に合致したる所より、社業は漸次飛躍的發展をなし、大正十年には組織を株式會社に變更して先代吉川吉之助氏社長に就任、爾來更に長足の進歩を遂げて斯界の雄を以て目せられるに至れり。當社の技術の秀技にして製品の優秀なるは夙に令名ある所にして、明治二十八年七月第四回内閣勸業博覽會に出品して賞状を受け、爾後各地の博覽會、共進會に於て受賞せしこと數知れず我國ビツカー界の最高權威として仰ふがれり昭和十一年九月織機用レザービツカーの實用

新案特許を受け、織機の性能増進に顯著なる貢獻をなせり。本社工場三百餘坪にして従業員百餘名、又岐阜縣津井町に敷地一千三百餘坪に上る分工場を設け、生産設備頗る完備して斯界注目目的となれり。その販路は全國一圓及び南洋、印度方面にも輸出せられ、賣行激増の一途を辿り、毎期多大の好成績を収めつゝあり。現時資本金五萬圓たり。重役陣に社長吉川光之、取締役吉中久三郎、同北本チヨ、同白井徳次郎、監査役砂河俊介、同松原利一の諸氏列して智囊を傾けて畫策せり。

### 吉川 光之

氏は明治四十五年一月先代吉川吉之助氏の長男として生る。資性動直にして濃厚、致々として業務に精勵し、部下より多大に信服せらる。品性高純にして仁情に富み、業を統率するの將器を具へ、その將來多大に囑目せらる。

(所在地 京都市伏見區深草下横堀町)

### 淺野 長之

維新の元勳先代長動侯の後を襲ひ、昭和十二年三月襲爵被仰付られし華胄界の長老正三位勳五等侯爵淺野長之氏は、其固熟老練なる識見手腕を顯はれ、加ふるに新時代の真髓に

建せる英賢の資性を以て飛躍日本の上層支配階級に斷然重きをなし、貴族院議員として其抱有經驗の卓抜なる、實に先君の偉名を辱づかしめざる貴院屈指の偉材の士たり。

抑も當家は源頼光八世の裔、淺野判官光時の末流淺野彈正少弼長政に發し、其孫但馬守長晟徳川氏に従ひて大阪の役に功あり、安藝備後兩國の大守に封ぜられ、四十二萬六千五百石を領せり。以來相傳へて十四世長動に至るや、時宛も幕末擾亂の世にして長動勳を奉じて王政復古の大業を翼賛し、功績洵す可らざるものありき。斯くて明治政府樹立後廣島藩知事となり、爾來元老院議員、伊國駐劄特命全權公使、宮内省出仕兼華族局長官等に歴任し、明治十七年侯爵を授けられ、從一位勳一等を賜り、麝香間祇候たりしも、昭和十二年一月上下哀悼裡に薨去されり。

氏は元治元年五月の誕辰、磐城氏七男にして従兄長動侯の養子となり、夙に英邁遠識を以て鳴り、政界財界に芳名を馳せしこと渺なからず。即ち嘗て英佛兩國に留學し、華胄界紳々の新智識所有者として明識才幹を稱され宮内省出仕式部官兼主膳官を拜命重責を果たす一方、貴族院に列しては聲望煥然犯し難きものあり、又義には十五銀行取締役として卓腕を發揮すること縱横なりき。現に交詢社、華族會館各會員たり。

因に長男長武氏は明治二十八年七月五日の誕生、大正五年東大國史科を卒業するや、内務省史蹟名勝天然記念物調査會囑託を拜命、更に帝國學士院囑託を兼ね、少壯有爲の人材として令名あり。二男峯松氏は大河内輝耕子爵の養子となり、又長女禮子嬢は子爵九鬼隆輝長男隆興氏に嫁し、二女望子嬢は男爵斯波忠三郎長男正夫氏に嫁せり。

(住所 京都市本郷區向ヶ丘彌生町)

### 高橋 インキ製造所

我が合名會社高橋インキ製造所は昭和三年創業以來、常に印刷に必須不可欠のインキ其他要品の製造販賣に當り、其各種製品の優秀卓越せるを以て需要界に好評噴々たる當市屈指の代表的優良工場なり。蓋し近代産業界の一分野に雄飛活躍し、文化の進歩發達に貢獻せる處渺ならずと云ふ可し。

抑も當所は大正十一年、現代社員高橋他三郎氏の個人經營にて創業せるに發し、爾來印刷用各種インキの製造販賣を主業として着々堅實なる發展過程を辿り、業態好調を持続するや、更に前途の一大躍進を企圖して昭和三年、合名會社を組織すると共に舊寫版附屬品の製造に着手し、以來不斷の研究精進を以



高橋 他三郎 氏

て製品の改良或は經營の合理化を圖り、常に卒先斯界に誇る可き優良品を市場に提供する處、當所マークの附ざる、諸品悉く使用者の絶大なる歡迎支持を得て白熱的賣行を示すに至れり。是實に平素經營首腦者の抱ける産業報國の烈々たる至念に基き、全従業員戮力協心、能く各自業務に精勵努力し、加ふるに新完備を誇る工場施設と、優秀卓抜なる技術との渾然融和せる賜と云ふ可きか。

現在製造品目に寫版用各種インキ、輪轉

そ正に刮目期待に反せざるものあらん。  
因みに現所に堂々三百餘坪を占むる理想的工場を構え、營業所を併置して従業員八十餘名を使用し居れり。尙ほ資本金二萬五千圓は全額拂込済にして代表社員高橋他三郎氏の外出資社員高橋久次郎、同高橋ツサ等の諸氏を以て經營陣容を組織す。

**代表社員 高橋他三郎** 氏は富山縣人高橋吉氏の末子、明治三十四年同縣石動町に呱呱の聲を擧げ、夙に富山縣人の有する美點長所たる堅忍不拔の精神と重厚勤勉の性質を有し若冠にして立志、勃然たる期氣を抱きて京都に出ずるや、廣山商店に入りて刻苦奮勵只營業務習熟に努力し、其蘊奥を極むるや、大正十一年機を得て當所に創業、爾來拮据經營克く今日の隆運を獲得せる立志成功傳中の一逸材たり。資性濃厚謙直にして頗る情誼に厚く、而かも機略縱横の才腕を有する人格者なり。

(所在地 京都市伏見區聚樂町)

### 土佐商船株式會社

古來西日本は商業の霸府にして實業の國際的接觸地として東日本よりも著聞す、土佐商

識見卓拔、手腕亦た常人凡徒の追隨せざるに於ては、蓋し四國實業界種に見る人物として令名噴々たるも當然なりと云ふべきならん。

**支配人 鶴見宗利** 氏は北越金澤市の出身、明治二十四年一月二日を以て家憲嚴格なる士族の裔に生れ、夙にスパルタ式教育法に依り心身を鍛練、更に縣立金澤商業學校に學びて孜々研鑽し、能く優秀拔群の成績を以て卒業するや、大阪商船會計課に奉職し、其後同社高知支店會計主任に榮轉せるも、再び本社詰となり更に高知支店に轉勤、船客荷物部主任として聲名を馳する事暫時に及び、後年同支店が土佐商船となるや、一躍拔擢せられて支配人の要席に就き、爾來常務を扶佐して其の女房役となり、至誠一貫、實際的業務一切の執掌に當りて敏腕を發揮する事縱横無碍今や社内の信望頗る厚く、當社不可缺の至實的存在として令名斯界に著聞す。資性濃厚明朗にして社交態度頗る圓満、且つ人格清廉、見識高邁なる處令名愈々光輝を發し居れり。

(所在地 高知市棧橋通五丁目)

### 帽子製造業

### 藤村眞三

最近舶來帽子の壓疊を摩して頌歌を高唱し

船會社は即ち西日本に本據を有する本邦海運界の一大王國大阪商船株式會社の仔會社にして、四國沿岸一帶は勿論、大阪高知、東京高知其他の海路に就行し近來社運の漸次好況に赴き居れる土佐屈指の代表的商船會社なり。抑も當社は元大阪商船支店なりしも、大正十年十二月を以て分離獨立なし、以來堅實なる營業方針の下に著々發展、時に業界不振の餘波を蒙りて業績好調ならざりし事ありたるも、現下未曾有の非常時局に際會し、海運界頗る活氣旺盛となり、俄然社業興隆の一途を辿るに至り、今や前途の一大飛躍を業界注視裡に待望され居れり。

茲に第三十二期（自昭和十二年五月一日至同年十月卅一日）の營業成績を概記すれば、即ち各社線中、大阪高知線は前半青果類の出廻り最盛期に在りて相應の活況を呈し、又後半に及びて夏枯時期並に時局關係に依り、一般貨物の移動一時不振を齎せるも、主要産業の増産遂行並に特種工業界の活況に伴ひ、好轉して愁眉を開きたり。亦た沿岸線に於ては前半東沿岸の團藝品移出其他に依り、活氣相懸なるものありしも、他線は依然不振を脱する能はず。更に東京線に於ける航海率不良を極め、期末以來該線の就航一時休止の已なきに至りしも、其他臨時線の大略順況なし爲全體的に觀察するに貨物運輸及び乗客來往相

當量に及び、業況好調なりしと雖も、他面諸物價勞金の高騰に依り船費其他の諸經費膨脹せる爲め、豫期の成績を収め得ざりし遺憾の點あり。されど當期總收入八十二萬二千二百餘圓を收め、總支出七十七萬七千八百餘圓を要し、差引利益金四萬三千三百餘圓を擧げ得、之を前年同期に比較せば、總收入に於て一萬一千五百餘圓、利益金に於て三萬九千五百餘圓を増加し、更に前期に比すれば總收入四萬二千八百餘圓、利益金一萬八千七百餘圓の増加を示し居れり。即ち當社業運の好轉顯著なるを窺知すべきならん。

### 常務取締役 泉谷彦治

當社業務總攬の大任を双肩に擔ひ、克く國策線に沿ひて土佐海運界の一段たる發展隆榮を圖り、率先垂範の實を示しつゝある氏の如きこそ、正に刻下必須の偉材の士と稱すべく、而かも人格高潔

單に内地需要を充足せしむる己みならず、更に海外に進出、好評籍甚を極むる國產帽の如きは、正に日本製品の眞價を世界に顯揚せるものと稱すべきなり。

我が藤村眞三氏は稟性達識英邁、克く斯業制覇の壮志を懷きて凡ゆる難關苦楚を克服し遂に今日見るが如き隆昌盛大なる業運を贏ち得ると共に、國產帽の世界的飛躍を顯現せしめたる斯界の第一人者たり。

氏は山紫水明の景勝地、京都府南桑田郡宮前村を産土として明治十八年五月三十日に誕生し、父君權平氏の長男にして母堂を順子女と呼ぶ。幼時既に伶俐氣鋭を以て郷黨に鳴り長じて京都商業學校に登雪の功を積むや、實業界雄飛の希望に燃えて奮然製帽界に身を投じ、以來鍊骨研究、只管優秀國產帽の製出に日夜苦心を累ぬる事多年、斯くて品質體裁共に舶來品に毫も遜色なき逸品を完成し、關西斯業界に驚異の進出を逞しうするや、更に一般製品の海外輸出を率先企圖して奔走盡瘁を怠らず著々其實を擧げて遂に燦爛たる國產帽の進歩發展を招來せしめ、今や本邦製帽界の重鎮として斷然斯界に君臨し居れり。即ち現に日本帽子工業組合副理事長、社團法人大阪貿易同盟會理事、大阪印度雜貨輸出組合理事、日本フェルト帽子輸出組合聯合會理事等の要職を兼ね、斯業の一段たる發展興隆を

圖りて異數の實績を擧ぐるは勿論、殊に輸出振興に貢獻寄與せる功績たるや眞に偉大にして、名實共に帽子輸出界の大恩人と推稱するも、敢て過賞の言辭たらざる可し。

尙ほ前記日本フェルト帽子輸出組合は昭和十三年四月を以て設立認可せられ、氏を理事長に勤きてフェルト帽の滿洲方面輸出に主力を傾倒し居れる處、氏は賦身奔走高率關稅改正を熱願し、或は組合を通じ或は直接外務省に陳情して銳意目的達成に邁進し、寄與貢獻する事尠なからず。因みに本邦製品がシヤム、印度、ジャワ、英國、伊國、米國等殆ど全世界需要界に雄飛發展し居れるは、之又た其偉功に俟つ事多大なるは茲に喋々の言を要せざる處なり。

資性濃厚篤實にして反面不撓不屈の努力心に富み、而かも人格識見共に卓然たる處、衆望顯然として一身に聚り、前記各要職に推されて令名噴々たる已ならず、又大阪商工會議所議員の樞樞に擧げられ、或は大阪西區公同委員として聲望隆々乎たり。

令閨若子夫人は明治二十八年生れにして京都第二高女出身の賢夫人、其間長女和子嬢、二女和佐子嬢を擧げ、養嗣子一久氏（明治四十四年生）を迎へて清福圓滿なる家庭を營み居れり。

(所在地 大阪市西區鞍上通二丁目)

# 東京市電氣局

その創立は明治四十四年八月にして本年は正に滿二十七年に當る。この星霜と共に推移せる當局事業史こそは「躍進東京」の絢爛たる第一頁を飾るものなり。當初市内に於ける電車事業は東京鐵道株式會社の獨占的經營たりしが同社は同三十九年に於て東京馬車鐵道東京市街鐵道、東京電氣鐵道の三社の合併せるものなり。三社併立時代市民は徒らに三社各別の乗車券、賃金の繁雜に悩まされ之が共通賃金制度確立の叫びは聽て公營論の喚起を誘接し遂に當時の市長尾崎行雄氏は六千四百五十八萬圓を投じて同社が湖業的に兼營せる電氣供給事業と共に之を東京市は買収し之が經營の爲電氣局を設置す。之其淵源なり。爾來滿次順調を呈し大正十二年の大震災の前後に於ては最高潮に達し乗客數實に四億八千萬人、乗車收入三千八百八十萬圓に及び市電の黄金時代を出現せしめしが震災後戸口の都市域移動省線の市内貫通、地下鐵の新設、バス並にタクシ一の普及發達其他財界の不況等々の原因にて事業收入の根幹たる乗車料收入の減減を來し特に昭和四年度以降七年度迄は毎年二百萬圓内外の減收を續け同九年度に至りて遂に

一千八百萬圓に減じ然も一方事業の買収其後の擴張並震災復興の爲に投ぜし巨額の公債に對する元利償還金は逐年増嵩して遂に事業經營上の病根と化し悲境に沈淪し黄金時代に比し轉今昔の感に堪へざるものありしが、爾來當局者の眞摯なる更生策功を奏し逐次向上の一途を進る折柄、曩に陸上交通事業調整法案の議會通過に依り、市電は逸早くも公營主義の大旗を翻し、サーピスガールの配置、乗客案内所の設置と共に車輛の改造新車の購入を怠らず、事故の防止とスピードアップに意を注ぎ、景品付回数券の賣出し定期券の發行に新機軸を示し時局に順應してガソリン節約に大奮の活躍を爲し更に木炭バスを出現せしめて世人を驚倒せしむる等、その努力漸く市民の認めるところとなりて今や業績好轉し十二年度特に正月以來の成績は目覺しく豫算に對し電車は百四萬圓、バスは三十六萬圓を超え特に三月執行の各營業所の増收競争は局長以下の現場中心主義に轉向せし東交の協力主義の結合に依り僅か一ヶ月の期間にて昨年同期に比して電車に於て三〇%、バスに於て三五%の驚異的増收率を示せり。斯くて「惜しめガソリン惜むな努力」の標語を掲げて以て時局克服に邁進して隆々たる業績を昂揚しつゝあり。

者との深刻なる競争に累され缺損を續け來りしが大正六年三電協定成立以來漸次好調を辿り同十三年の百萬燈計畫は豫想以上の成績を收め踵で昭和三年度より三箇年の繼續擴張事業として電燈十五萬燈、動力一萬四千七百キロワットの建設、六年度に於て更に五萬燈増燈計畫を樹立し七年度より三箇年間に電燈十五萬燈、動力六千三百キロワットの増設計畫を樹て何れも豫期の成績を擧ぐ。而して最近電燈電力の需要は時局を反映して著増の趨勢に在りて昭和十年以降三箇年の需要増加に應ずべく電燈設備十五萬燈、動力設備一萬三千八百キロワットの建設計畫を樹立し事業は順調裡に在り。

次に乗合自動車事業を觀るに大正十二年の大震災は軌道事業の根柢に致命的打撃を與へ之が復舊に長日月を要せる爲本市は同十三年一月新に電車の臨時補助機關として乗合自動車事業を創設す。其後電車の復舊事業進捗するに及び乗合自動車の收入漸減し一時經營中止の聲さへ聞きしが既に市内の交通情勢は之を許さず同年十月經營の恒久化を企圖して料金、車輛及營業時間の全般に改善刷新を加へ同十四年四月乗合自動車經濟を軌道事業經濟より分離獨立せしめ茲に名實共に乗合自動車事業の確立を見るに至る。斯くて同年以降昭和四年度迄に於て三百二十萬圓餘を投じて事

業の擴張を計り次で昭和四年度よりは更に十年間に至る七箇年の繼續事業として市内外重要道路約百八十軒に對し新設計畫を企圖せしが昭和四年以來の事業不振に觸せられ實施困難となりし一般の交通情勢は之が放任を許さざるものあるに鑑み取り敢て二百二十七萬圓を以て昭和八、九年兩年度にその計畫の一部を實施せり。此外雷門—濱松町間の運輸系統を品川驛前迄延長して幹線の交通を整備し更に十年間以降三箇年の繼續事業として三百四十萬圓を計上し重要路線百二十軒に對して事業の擴張に榮着す。而して本事業の成績は昭和八年以降財界好轉の影響により漸次好調を辿りしが、支那事變勃發の長期戦に入ると共に燃料統制に依り昨今其の運輸に幾分鈍重を餘儀なくするに至れり。

斯くて現在電氣局は前述の如く明治四十四年開設以來の軌道、供給事業の外に大正十三年新にバス事業を加へ、之に車輛工場、乗車券類印刷工場及制服類の製作、補修を爲す被服工場の三工場を附設して之が全般的運營に學局一致努力しつゝあり。

(所在地 東京市麹區町有榮町)

實に終局の勝利を贏ち得る所以にして、敢て實例に徴する迄もなく昭々明白の事實なり。我が河野徳之助氏は正に努力主義の權化とも云ふ可く、今日の成功を獲得せしは寧ろ必然的歸結と稱す可きならん。而かも居常敬神崇祖の美風を顯揚し、社會奉仕の功績顯然なるに至りては、眞に世の儀表として尊敬推服に値する稀觀の偉材たるを失はず。

氏は明治十一年十月一日を以て下關市外彦島に産聲を發す。當時同島は戸數僅か十數家



河野徳之助氏

に店舗を設置して業界制覇の第一歩を印せり。爾來慧眼機敏、能く機先を制して活躍發展すること縱橫無盡、而かも終始一貫堅實なる營業方針を堅持し、波瀾曲折なき斯界に泰然微動だもせざる業礎を築きて着々信望を増大せしめ、今や業歴燦然として四十有餘年、其内容愈々強固を加へて名實共に業界に君臨し傍ら第一證券監査役を兼ね、聲望隆々として斷然他の追隨を許さざるあたり正に當市斯業界の長老たる貫祿に背かざるものあり。即ち衆望翕然として集まる處、曩に下關市會議員の要職に推され、或は同商工會議所議員に擧げられ、政界財界兩方面に獻務寄與せしこと甚大、又た現に河野合資會社代表社員たる以外、吉豊公司取締役第一證券監査役等を兼ね、單に斯界に覇を唱ふる已ならず、汎く下關實業界に隱然梅り難き潛勢力を扶植し居れり。

生來不撓不屈の精神に富みて才幹明識の偉材たるは素より、更に八面玲瓏たる人格と流露たる温情を有し、全従業員より恰も慈父の如き敬慕欽仰を受くる一方、本邦傳來の美風たる敬神崇祖の至念を抱き、常に神社佛閣の造營あるや、率先多額の淨財を寄進して赤誠を披瀝し、或は社會の福祉増進を圖りて金錢物品を寄贈する等、其美譽善行の度數たるや實に枚擧に遑なきなり。

(住所 下關市阿彌陀寺町)

## 河野徳之助

下關米穀取引員  
天賦の稟性に俟ちて不斷に努力奮闘するは

一千八百萬圓に減じ然も一方事業の買収其後の擴張並震災復興の爲に投ぜし巨額の公債に對する元利償還金は逐年増嵩して遂に事業經營上の病根と化し悲境に沈淪し黄金時代に比し轉今昔の感に堪へざるものありしが、爾來當局者の眞摯なる更生策功を奏し逐次向上の一途を進る折柄、曩に陸上交通事業調整法案の議會通過に依り、市電は逸早くも公營主義の大旗を翻し、サーピスガールの配置、乗客案内所の設置と共に車輛の改造新車の購入を怠らず、事故の防止とスピードアップに意を注ぎ、景品付回数券の賣出し定期券の發行に新機軸を示し時局に順應してガソリン節約に大奮の活躍を爲し更に木炭バスを出現せしめて世人を驚倒せしむる等、その努力漸く市民の認めるところとなりて今や業績好轉し十二年度特に正月以來の成績は目覺しく豫算に對し電車は百四萬圓、バスは三十六萬圓を超え特に三月執行の各營業所の増收競争は局長以下の現場中心主義に轉向せし東交の協力主義の結合に依り僅か一ヶ月の期間にて昨年同期に比して電車に於て三〇%、バスに於て三五%の驚異的増收率を示せり。斯くて「惜しめガソリン惜むな努力」の標語を掲げて以て時局克服に邁進して隆々たる業績を昂揚しつゝあり。

法人 京都競馬俱樂部

馬匹改良の重大須要たるは、單に産業發展上に於ける已ならず、軍事的見地よりして寸時たりとも忽諸に附す可らざる處なり。されば本邦に於ても夙に馬政局設置され、公認競馬俱樂部の設立を見、之が改良獎勵に官民一致の實を擧げ居れるは喋々の言を要せざるべし。社団法人京都競馬俱樂部は、實に此間に處して多大の効果を擧げ、我が國三大競馬俱樂部の一として全國競馬フアンは勿論、一般大衆間に喧傳賞讃を博する代表的存在なり。即ち當俱樂部は内外國産優良馬種を集め、競馬會を舉行し、産馬事業の獎勵及馬匹の改良を圖り、併せて馬事思想の普及を目的となし、明治四十年三月を以て設立せられ、當初京都島原に馬場を有して開設以來異數の成績を擧げたるも、後政府の馬券發賣禁止法實施されるや、一時經濟的打撃を蒙りて經費關係上、府下須知村に移轉するの已なきに至れり。斯くて競意内容の整備充實を計り、着々其實を擧げ居れる秋、即ち大正十二年に至りて競馬法制定され、新たに馬券發賣の許可を見るや、翌十三年十月、現地に移轉して大いに面目を一新、内外諸施設の完備を圖りて現

在に及べり。今や當俱樂部の所有土地は廣袤十三萬四千坪、本馬場、障礙馬場、練習馬場に大別し、各馬場共に設備完全なるは勿論、更に觀覽席其他施設に間然する處なく、殊に本競馬場は中央に静水滿々たる池を配し、優麗雅趣の都京都に相應しき閑閑なる風景を備へ、又た一二等館共に頗る觀覽心地良く、且つ防雨設備を初め、不時の傷病者に備ふるべく醫療施設等完備し、或は其他競馬場必須の各設備に斷然他所に誇る可きもの多々あり。而して春秋二回に舉行する、本競馬は、實に遊覽都京都に於ける繁榮季節の魁として、當競馬場頭に勇壯絢爛たる一大豪華繪巻物を展開し、其規模の雄大豪華なる、或は觀客の翹集多大なる、實に全國斯界の最高峰にも位すべき一大盛況を呈し居れり。從て馬券賣上高の如き年々驚異的巨額を算し、業績顯然たるは素より取言を要せざる處なり。

官して當俱樂部に入り、以來温厚着實の資性と豐富多彩の識見、加ふるに眞摯熱誠なる態度を以て事に當り衝に接し、熟慮斷行、能く俱樂部發展に獻替して功績甚大なり。蓋し當俱樂部今日の隆榮あるは、一に氏の努力力闘に俟つ事大なりと云ふ可く、現に名書記長として偉名斯界に冠たるも當然の歸趨ならん。殊に現場監督の任に在りて發揮する卓腕は、正に快刀亂麻を斷つが如く未だ一回と雖も、當俱樂部競馬場に紛争を惹起せしめざるの譽れあり。

(所在地 京都府久世郡淀町字池上)

事業家

百合野保夫

臺灣青果商の長老として名實俱に九州全土に洽開するに止らず、その反面市政にも關與して躍進門司市の發展の爲め粉骨碎身し、今やその威名隆々、震撼しつゝある巨漢たり。臺灣領有以來爰に四十餘年、原始の大自然に近代文化を配して帝國の産業陣に特異の地位を占めつゝ、急激に發展する臺灣を、世人呼ぶに「飛躍臺灣」の詞を以てす。「飛躍臺灣」は同時に「寶庫臺灣」なり。躍進日本南方の生命線として戦時下に重大なる使命を課せられたる臺灣の開發に獻身的努力を盡し事

書記長 池田信四郎

氏は秋田縣由利郡小友村の出身、夙に青雲の志を懷きて上京し研鑽勉勵、中等學校に螢雪の功を積みたる後適齡軍務に服するや日露大戰に勇躍出征し、騎兵特務曹長として挺身奮戰、赫々たる武功を樹て功四級を賜はりし名譽の所有者、其後陸軍馬政局、農林省畜産課に勤務し、馬事通として聲望隆々たりき。斯くて大正十三年退實を壓倒して其眞價を識はれ全國的に普及され、果實玉の異名を恣にするに至りしは、之れ偏に萬難を排して初意貫徹に奔命せる氏の男子的氣魄の烈々たる發揚に依ること論を俟たざるべし。現に前社一ヶ年に於ける臺灣バナナ取扱高、勿驚れ一三三萬箱、金額にして實に二百數十萬圓の巨額を算しつゝあり。その販路は九州全島、四國、本州の一部及び朝鮮にまで擴大し、而もその需要は逐期著増の一途を辿れり。後社は目的の示す如く食料品の委託販賣にして、門司市の繁榮に雁行して隆々たる社運を遂げ、現に氏の長男百合野稔氏專務取締役に推舉せられて敏腕を揮ひ堅實なる經營裡に在り。斯くの如き偉業は即ち氏が能く萬難を克服して初志貫徹に敢進せる芳果にして、家運の榮昌と共に氏に對する市民大衆の信頼も自づと重厚を加へ、明治四十二年門司市商業會議所開設以來三十餘年連續的に議員に推され、同所の元老として畏仰され、商工業界に盡瘁せし功少しとせず。尙且つ昭和五年以來市民の輿望を擔ひて門司市會議員として改期如に連續當選の榮を贏ち得たるが如き、則ちその材器の一環を證するものにして、現に副議長に推重されて更に一段の獻替を奏せるは傳と稱すべきなり。其間大正十五年以來數年間門司市消防部長の要職に在りて其任を全ふせしは、今猶市民の記憶に新

(住所 門司市本町三丁目)

埼玉縣熊谷市

熊谷市は埼玉縣の西北部に位し、東は北埼玉郡持田、中條の兩村に接し、南西北の三方は大里郡佐谷田、市田、吉岡、大麻生、玉井奈良の諸村に連る。廣袤東西五・五六軒、南北四・九四軒にして全面積二〇・一六平方軒なり。東に筑波、西に淺間の雲峯を、西南に亘り秩父連山を隔て、富士の巒峰を、北に日光、赤城諸山の翠巒を望み、而も廣漠たる武蔵野平野に屬し、地勢極めて平坦にして地味肥沃水利の便良く農耕及び住宅地に最適なり。抑々熊谷市の潮源を經るに、上古の事は暫く之を措き、中世即ち天喜年間、私市直季當地に來りて姓を熊谷と改め、文明年間忍城主成田下總守の領地となりてより忍藩の所領に屬し、以て明治維新に造べり。明治四年廢藩

業報國に貢獻せる人士儻々たるが、爰に傳せんとする、百合野保夫氏の如き直接開發に挺身せし士に非ずと雖も領有以來直ちに臺灣青果を移入販賣を企て以て四十年不變一貫間接的に臺灣産業助長に獻身せるの士たり。氏は明治八年一月、山口縣富田與左衛門翁の次男として下關に出生す。同二十八年先代ミツ刀自の入夫となりて百合野家に入り前名龜吉を改む。夙に向學心に燃えて下關商會を卒業。天性長州人たるの長所を具へ、而も才氣煥發にして俊英機敏なり。明治三十一年臺灣領有勿々の交、内地に於て未だバナナに關心する者無きに先達として之を移入問屋を創始す、爾來バナナの宣傳に血涙の苦難に死力を傾注し、躬身すること眞に言語に絶するものありしが、其の苦行は見事酬ひられて歸國逐次成就し、同三十六年に追んで同業後進誘掖の義氣籠み難く驅起して門司バナナ荷受組合を結成し、臺灣青果移入販賣統制機關を確立し其組合長に就任す。昭和八年六月氏主唱の下に、臺灣産青果委託販賣の目的を以て資本金三十萬圓の門司臺灣株式會社を設立して之が社長に推され、翌九年七月には蔬菜果實類及其製品、肉鳥卵及漬物乾物鹽干魚罐詰類食料品委託販賣を目的とする、資本金二十萬圓の門司青果株式會社を創立せしめて其社長の任に就く。今日バナナの需要は斷然他の果

置縣の際人間郡に屬し、同六年熊谷縣となり同九年埼玉縣の管轄となる。其の後地方制度の變革を経て明治二十二年四月、町村制施行の際、熊谷宿、石原村を合して熊谷町を置かれ、大正十二年四月肥塚村を、昭和二年成田村を、更に昭和七年四月大幡村を合併し、昭和八年三月三十一日熊谷町を廢し、其の區域を以て同年四月一日市制を施行し、今や本市は面積二〇、一六平方軒、戸數七千數百戸、人口四萬を擁する都邑を爲すに至り、逐年著増の一途を辿りつゝあり。

而して熊谷市の交通現況を観するに、仲仙道は、市の中央を縦貫し、縣道又縱横に貫通す。鐵道は信越線を始め、本市を起點とする秩父鐵道、秩父、羽生線並に當驛を中心とする乗合自動車路數十數線を有し、宛然放射線狀の如く四通八達し、殊に時餘を以て大東京に至るを得、故に商工業發達し縣下西北部に於ける樞要都下として文化の中心たり。而して本市の主なる産物は生絲、製粉、製麥、製麵、染色、製菓、酒、醬油、味噌、履物、草蓆、建具、セメント製品、砂利等にして、就中製粉、製粉及び製菓中の五實實は海外への販路拓け其の輸出極めて旺なり。

市長 新井 良作 明治十二年七月、熊谷に生誕す。天資濃厚にして謹直而も堅忍不

抜たり。明治三十五年三月大里郡書記に任命せられしより今日まで實に恪勤四十星霜に近く、煩を煩とせず、勞を勞とせずして恪務精勵寸時も怠らず、その狀宛ら廳舎を家と爲し精勤を妻とせるに似たり。氣宇の明快なる、洞情の益々たる、夙に市民の敬仰するところにして、廳内吏員に對するに骨内の情を以て接す。其間郡治に、町治に、市治に寄與挺身するところ著大なるのみならず、北清事變、日露戰役に勳功亦多大。昭和八年五月現職に就任して今日に迄べり。現に勳六等を賜はり、市政事務會長に推選され、市政の爲め力行しつゝあり。

(所在地 埼玉縣熊谷市)

日光製洗粉本舖 春 芳 園

春芳園は女性美顏揚に一大福音を齎らせる現代の洗髮料の霸王、日本名物「日光製洗粉」を始め、高級汗知らず「日光チエコール」其他「日光ヘチマ洗粉」「日光シャンプー」等の本舖にして、其製造發賣品の効果的確なるは既に全國女性間に大好評を博し、斷然他品を凌駕せる逸品として自熱的賣行を展示し居れり。抑も當園は國主東松長一氏が多年鍊骨研究の結果、遂に劃期的優良洗髮粉の創製に

成功するや、社會的貢獻の意圖に燃えて大正十年奮然現地をトして創業せるに始まり、爾來巷間他業者の如き營利主義的經營方針を斷乎排斥し、只管良品廉價主義を標榜せる實費普及の營業方針に一貫、而かも人情味流露たる販賣政策を加味し、一般小賣業者に對する賣掛金回収の如何に拘はらず、受註即刻商品を提供して共存共榮の實を擧げ、且つ獨特巧妙なる宣傳戰術を以て勇躍激甚なる業界戰に臨む處、實際需要者の絶續激賞と相俟ちて業運發展又發展、斯くて急速的販路擴張の實績顯然たるものあり。今や内地各方面に強固不可侵の地盤を擁するは勿論、遠く海外各市場に進出を逞うして日本製洗髮粉の眞價を高揚以て業況の繁忙多端なる正に驚嘆瞠目に値す可く名實共に斯界の王座を確保したり。

因みに當園代表的發賣品たる日光製洗粉は毛髮に對して營養豐富なる舶來原料に、効果顯著なる美髮料を配合し、東洋人の毛髮に最適ならしむ可く、凡ゆる應用化學的研究の結果創製されたる純良洗髮料にして往々他品に見るが如き副作用缺點毫もなく、一度湯水に溶解すれば顯微鏡にても容易に發見し難き微粉となり、美髮養毛の目的を完全に達成する一方、精神に多大の爽快味を與へ、絶對他の追隨を許さぬ最高級品として、帝國大學病院各府縣立病院を始め各女子専門學校、高等女

學校、各美髮組合等の用命推獎を蒙る天下一品の洗髮料たり。

東松長一 岐阜縣人東松時次郎の三男、明治二十六年二月を以て縣下屈指の名門舊家に生を享け、長じて一家を成すや同縣竹ヶ鼻に吳服店を開業、爾來業績見る可きものありしも、業餘没頭研究せる洗髮料完成するや、茲に同業を廢して京都に出て、春芳



東松長一 氏

園を設立して拮据經營克く今日の隆盛を招來斯くて本舖を現所に構へる以外、東京、大阪神戸等に各營業所を設置して陣容を整備し、今や斯界秘に見る卓院家として令名燦然たるものあり。而かも居常烈々たる畫報國の志に燃え、献身社會奉仕に専念する已ならず、夙に氏の兄弟四人中、三人迄軍籍にありて氏一人軍門に入らざりしを深く遺憾とし、常に國家觀念に立脚して多額の金品を國防基金に

獻納、殊に滿洲事變以來其功績顯著なるを以て、京都市長より表彰を受けたるも、毫も名利を欲せざる氏は恬然之を辭退せりと。蓋し崇高廉潔、而かも衷心至情より發する社會奉仕の丹心窺知すべく、徳望愈々高きも寧ろ當然と云ふ可きならん。

(所在地 京都市下京區猪熊通九條南)

札幌商工會議所

札幌市は北海道の首都として近時の市勢の躍進顯著なるものありて、商工業多大の盛況を示し來れるも、明治維新の當初鬱蒼たる密林中に數戸の土人家屋と熊、狐狸の常棲せしものが、明治二年開拓使を派して以來、官民一致戮力克く本道の開拓並に本市の繁榮に力め急激なる發展を遂げ、今や世帯數約四萬二千、人口約二十一萬を算するの大都市となれり。市内及び市附近には植物園、博物館、官幣大社札幌神社、圓山公園、中島公園、月寒種羊場を始め、幾多の諸施設を設置し、工業地として、將又商業地として多大の發展をなしつゝあり。斯かる札幌市の市勢の勃興に關して當所は商工業發展に終始指導に任じ來りて貢獻する所頗る多大なるものあり、市民に絶大なる推重を拂れつゝあり。

會頭 大瀧甚太郎 夙に木材事業に従事し、北海道開拓の先驅者として幾多の貢獻あり。即ち氏は北海道製材會社を創立して製材事業の進むべき途に關して業界に範を示すと共に造林思想の鼓吹宣傳に努め、又その製品は三井物産を通じて海外輸出をなし、國際貸借の改善に寄與せんことを期せり。その他各種の事業の創設の爲めに八方奔走して賦稟の才腕を揮ひ、即ち北海道水力電氣の前身札幌電氣、北海道製鋼、北海道理化學工業等諸會社の創立をなし、更に幾多の産業開發に盡瘁して、本道の發展に關して没すべからざる功績あり。他面公共方面にも獻身的活躍をなし明治四十四年二月札幌商工會議所議員に當選して以來、引續き議員たること實に三十年、識見の高邁なると人格の清高なるを以て衆望を一身に鍾め、常議員・副會頭に推され、更に大正六年三月會頭に推選せられ、引續きその要椅にあること多年、札幌市商工業發展の爲めに粉骨碎身せり。又放送事業の重要性を早くより看取してこれが誘致に力を盡くし、氏の斡旋に依りて遂に設立達成せられしが、氏は推されて日本放送協會本部理事に就任す近年外國よりの觀光客次第に多きを加へ來れるが、之が誘致策としても、昭和九年札幌グランドホテルを建設して觀光施設の整備を圖りしが如く、氏の卓見の超凡なるを知るに足

らん。現時北海道製鋼、北海道理化学工業、札幌グラントホテル各社長、北海道水力電気取締役、北海道造林合資代表社員、札幌材木商組合相談役等の要職に在りて、北海道事業界の總帥として仰がれ、大正九年十一月多年の功績に依りて紺綬褒章を下賜せらる。

**理事 吉田 寧** 明治二十二年六月東京市に於て生る。同四十年、新潟縣立工業學校を卒業して直ちに寶田石油會社に入り、同四十四年、樺木鐵工所に轉じ、工場主任に擧げらる。大正五年に至りて長野縣工場監督に任ぜられ、同七年軍需局技手、次で國勢院技師を経て、昭和三年には日本工業俱樂部に入りて後參事課長に簡拔せらる。昭和十年迎へられて札幌商工會議所理事に就任し、今日に及べり。清白高朗の品性を有して、その信望噴然たるものあり。前途多大に囑目せらる。  
(所在地 札幌市北一條西四丁目)

### 警 視 廳

東京府下一帯に於ける警察行政並に消防事務を掌理し、帝都治安維持の大任に當る警視廳は、其起源を尋ねるは明治七年一月十五日鍛冶橋内元津山藩邸に東京警視廳を設置せる

に發す。其後同十年内務省警視局直轄の下に東京警視本署を置き、東京警視廳を廢せるも更に同十四年警視本署を廢して再び警視廳を設置し、府下の警察並消防及監獄事務を統轄せしめたり。當時管下監督區を六方面に分ち四十警察署、四十一巡查屯所、三監獄署、六消防分署を設け、巡查定員三千人を擁し居り。斯くて學藝奮勵能く其重任を完遂し居りたるも、帝都人口の激増、社會文化の發展に伴ふ犯罪件數の増加、或は天變地異其他非常急變、各種社會問題に對處萬全を期せんが爲め益々各制度機關の整備充實を圖り、昭和六年八月には鐵筋混泥土六階建、總建坪九千七百八十一坪餘の近代の偉容堂々たる新廳舎を櫻田門外、現所在地に新築し、内外觀共に帝都守護の一大偉力たるに相應しき偉容を顯示するに至れり。尙ほ現在警視廳には安倍源基氏就任し、以下官房主事水池亮、監察官第一山下豐、第二原田正、第三秋山博、警務部長兼警察練習所長岩上夫美雄、特高部長菊池盛登、刑事部長大坪保雄、保安部長野村儀平、衛生部長重成格、消防部長兼消防練習所長伊能芳雄等の諸氏夫々重責を擔ひて獻身努力、克く六百萬帝都市民の不安動搖を除去し、世界に冠たる本邦警察網完備の總元締として功績著々たるものあり。

情勢に因る事紛ならず、亦た犯罪個々に就ても同様現象を呈し、其件數の如き一般的には大正十二年大震災を轉機として爾來増加の一途を辿り、同年を例外に大正十三年に於ては七萬五千六百七十九件を算せるも、昭和八年には實に十七萬八千九百四十一件に及び驚異的增加を示せり。然るに同十年には一萬餘を減じて十六萬八千九百二十二件となり當時經濟的状況の稍々好轉し居れるを如實に證左し、從て所謂強力的犯罪は一般的に減少を見、殊に殺人の如きは昭和八年度二百七件に對し百五十五件に減じ、強盜も亦漸減するに至れるも、智能的犯罪たる詐欺、恐喝等の文化の進展に伴ひて益々増加の傾向に在るは注目し値する處なり。而して昭和九年中に於ける被害並檢舉件數を觀るに、即ち被害件數は十七萬二千五百九十件にして一日平均四百七十三件強に當り、之が檢舉件數は十三萬四千四百六十九件にして檢舉率實に七割八分の好成績に相當せりと。  
(所在地 東京市麹町區霞ヶ關一丁目)

### 辻 鑄 工 所

鑄物の川口か川口の鑄物かと謳はれ、本邦鑄物界の最高峰として、其群抜の技術と卓絶

せる優秀製品を以て斯界に巍然として聳立せるが川口鑄物にして、同地業界の新鋭を以て目され、近時の躍進まことに顯著なるものありて、同業者の齊しく讃嘆を禁ぜざるが辻鑄工所なり。その創業は昭和四年九月にして經營主辻榮三郎氏の卓動の手腕に依りてよく難關を打開し、常に新局面を拓開して、遂に現時見るが如き確固不拔の業礎を築くに至れり主なる製品にはタイプライター、シリンドー



辻 榮 三 郎 氏

自動車部分品、高級鑄物其他の各種ありて、卓抜なる技術に依るその製品の優秀なること既に業界に定評ある所にして、需要は日を送ひて著増し、近時の事業界の好調と共に業勢甚だ股賑を極めり。工場敷地二千五百坪、工場建坪五百二十坪に上り、飯爐二尺五寸にして、電氣爐及重油爐その他の設備頗る整備して業界屈指を以て稱せらる。一面従業員七十餘名を擁して、熱練工網羅せられたり。當所は徹底せる家族主義を以て従業員を遇し、食

堂、浴物その他の従業員の爲めに諸施設完備し、更に經營主辻氏夫妻の温情溢る盤旋に依りて勞資間恰も親子の如き情誼ありて、和衷協力して當所の發展の爲め盡瘁せるを以て今後の發展こそ眞に刮目して俟つに足らん。

### 經營主 辻 榮三郎

資性濃厚篤實にして義氣任侠に富みて、好んで人の困窮を救恤し、或は従業員を骨肉如くに愛撫なし、清康高潔の人格と共に衆庶の深く崇敬措かざる所なり。氏は明治三十年十月三重縣に生る。夙に神戸鈴木商店の經營せし鳥羽造船所に入り傍ら同造船所の經營に拘る鳥羽工業學校に學びて、卒業後も引續き同所に奉職し、英材を認められて漸次榮進し、大正十三年には工場長の要職に推さる。氏は寸暇を惜しみて技術の研鑽に没頭し、同造船所の設備の改善に鋭意力を注ぎ、至大なる貢獻あり。昭和二年同所の解散に依りて、氏は獨立して事業界に勵志を伸べんと欲し、昭和四年九月現地に於て創業せり。その資本金額の僅少なりし所より創業當初幾多の困難に逢着し、時に機械に注すべき油を購入するの經費に窮せしことすらありて、氏の苦心まことに筆舌に盡くし難きものありたり。されど氏は不撓不屈、勉勵勵力闘して克く危局を克服して遂に今日の繁榮を達成し、家道大いに興隆するに至れり。俊

### 全國購買組合聯合會

全國購買組合聯合會、略して「全購聯」と呼稱するは、世上既知するところなり。全購聯は過ぐる大正十二年五月、産業組合購買事業の全國的統制機關設立の熱烈なる要望に依りて生誕し、同年九月一日より事業を開始す。設立以來、其事業進展は洵に目覺しきものありて、大正十二年、六百九十六なりし會員數は、昭和十一年七月現在に於て五千

四百六十五と著増し、五十三萬四千圓なりし  
出資額は實に四百四十七萬五千圓の巨額を算  
し、一面事業分量(購買品費却高)は、産業用  
品と經濟用品合計百六十三萬四千六百二十六  
圓より、九千六百七十七萬六千五百一十一圓へと激  
増を示現するに至れり。消費者が唯一の武器  
とする協同組織に依りて如何に消費經濟が合  
理化されつゝあるか、自己のものたる全購聯  
の利用が組合員に如何に有利たるかは、如述  
の數字が、よくその間の躍進過程を物語りつ  
ゝあるものなり。

而して全購聯は我國の産業組合の購買事業  
に關する限り、その總元締と謂ふを得べし。  
個人の零碎なる出資金は組合を形造り、組合  
は合して道府縣聯合會となり、組合及び道府  
縣聯合會が全購聯を構成せるものなり。從而  
全購聯は組合のものにして、同時に組合員の  
ものなり。全購聯は所屬聯合會並に組合にそ  
の必要とする肥料、飼料、日用雜貨品等を配  
給する事を目的乃至使命とし、全國の需要を  
纏め、是等の物品を或は他より買入れ、或は  
自ら生産加工配給しつゝあり。

昭和七年四月全國産業組合大會に於て、産  
業組合の組合數の増大、資力の充實、事業の  
擴充、内部組織の整備を期して産業組合擴充  
五ヶ年計畫を樹立せしに依り、全購聯に於て  
は翌八年度以降五ヶ年を劃して肥料統制五ヶ

年計畫を樹立し、昭和五年以來の政府の助成  
に拘る肥料配給改善事業を一層擴充強化し、  
五ヶ年後の昭和十二年度に於ては全國全肥消  
費高の約二分の一の配給を達成したり。而し  
て全購聯は肥料統制五ヶ年計畫と並行して、  
雜貨配給五ヶ年計畫を樹立し、昭和八年以來  
逐年雜貨品配給量は累増しつゝあるが、この  
配給事業たるや大量取扱により良質のものを  
廉價に組合員へ配給するに止らず、組合員の  
協同意識の昂揚、國體意識の覺醒を重大な  
る使命を帯ぶるものにして、その取扱物品に  
は個々に協同自覺の精神の織込まれつゝある  
を窺察するに難からず。斯くて全購聯に於て  
は組合主義の理想とする自己生産を實踐する  
に全國一流の指定工場に於て委託生産の形式  
に依り、或は主要産地に於ける著名生産者との  
の特約に依りて配給の使命を達成し、其全責  
任を全購聯の負ふ事、更に暇を要せず。

而して全購聯は本所を東京市に、支店を大  
阪、門司の兩都市に、出張所を小樽、新潟、  
伏木、名古屋、大連、仙臺に措く外、駐在所  
を敦賀、鳥取縣境町、尾道、鹿兒島、函館に  
設置して配給網の完備を期しつゝあり。尙工  
場は横濱肥料飼料工場、伏木肥料工場、尼崎  
肥料工場、門司肥料工場、同彦島作業場、名  
古屋肥料工場、神戸ゴム靴工場を擁し、理想  
たる自己生産への歩武堂々とした大の業績を昂

揚しつゝあり。今や全購聯の顯勢は、恰も群  
羊を驅るが如く全國にその偉大なる配給を達  
成し、飛躍的發展を遂ぐるに至り、反産運動  
を尻目に景況を示せるは洵に偉なりと稱讃す  
べきなり。

因に燦然たる人的資源を列記せば、會長千  
石興太郎、専務理事田淵敬治、同倉繁良逸、  
理事山内純造、同越智太兵衛、同小林篤一、  
同國光五郎、同山田善一、同柳川宗左衛門、  
同宮脇雄、同長田保之、同伊藤連司、同富  
田勘之丞、同山脇延吉、監事藤田逸男、同尾  
留川安彦、同中村寛治、同乾神造、同奥久登  
同小泉山藏、書記長奥谷愛麗の諸氏なり。

#### 書記長 奥谷 愛麗

天稟頭腦明晰にして重厚質實、氣宇寬宏にして包容力の大なる  
夙に世上の推服するところなると共に、その  
温情の溢々たる上下の齊しく敬仰するところ  
なり。大全購聯の書記長として將に適器にし  
て其の將來を矚目する、存在たり。

(所在地 東京市麹町區有樂町一丁目)

#### 下關阿部技藝女學校長

阿 部 ヤ ス

縣下女性文化發揚の根元道場として開校以  
來爰に二十有七星霜、常に新時代女性に必須

なる學術技藝を授け、併せて日本婦徳を涵養  
せしめて實績昭々たる名譽國、即ち下關阿部  
技藝女學校の存在たるや光輝燦たるものあり  
我が阿部ヤス女史は實に同校々長にして、  
單に縣下教育界に止らず、全日本女子教育界  
に名聲噴々たる女流教育家の至寶なり。

女史は明治三年一月の誕生、夙に育英界に  
志を馳する事厚く、同十六年三月小學校を卒  
業するや、玖珂郡大野義塾に於て國漢學を研  
鑽、更に縣立山口高女專科に修學を繼ね同二  
十四年三月同校卒業後、二十六年を以て無試  
驗檢定に依り小學校准教員免狀を獲得し、更  
に三十一年十二月同校正教員資格を贏ち得  
し津勵力行の才媛なり。而して明治二十七年  
母校玖珂郡余田小學校に奉職せし以來同郡大  
里小學校兼同郡日積小學校准指導、同郡聖門  
小學校准指導、赤間關小學校指導、市立下關  
高女裁縫科教諭囑託、小學校教育夏季講習會  
幹事囑託等に歴任して至誠一貫、縣下教育界  
に盡瘁し、其後大正二年四月、夫君創立に拘  
はる阿部裁縫女學校に教鞭を執り、其後翌翌  
三年四月同校々長兼教諭に就任するや、全身  
全權を捧げて益々教育振興に努め、超えて同  
十一年十一月校則を改正校名を改稱し、下關  
阿部技藝女學校となして、引續き校長として  
今日に及べり。其間昭和二年五月、下關市長  
より教育功勞者として表彰されしを始め同五

年二月縣知事、同年十一月下關教育會長、同  
七年六月中國顯彰會、同八年十一月帝國教育  
會長等より夫々同主旨を以て表彰せられ、更  
に同六年十一月新宿御苑觀菊會に招せられた  
る名譽の所有者なり。蓋し其偉功赫赫たるを  
窺知するに難事たらざる可し。資性恭順謹嚴  
にして崇高なる人格を有し、而かも仁慈博愛  
の念に富みて生徒を訓育する事恰も慈母の愛  
子に對するが如く、温威兼備、正に名校長と  
して全校生徒は勿論、衆人敬慕の情を禁じ能



阿 部 ヤ ス 女 史

はざるも故無きにあらず。即ち昭和五年の交  
同志生相謀りて其偉徳を讃ふ可く、女史の還  
厝を祝して校門正面に胸像一基を建立せり。  
因みに當校は明治四十五年の創立、現在修  
業年限四ヶ年制にして普通學科及び技藝學科  
を併置し、職員二十七名を以て専心生徒の指  
導薫化に當り、教育の成果顯然たるは素より  
殊に校風の温雅純朴にして而かも潑刺健全な  
る、或は家事科、裁縫科に斷然他校の追隨を

許さざる特徴長所を有せるは、寔に當校の誇  
りと稱す可きならん。尙ほ専攻科を設置して  
同科卒業生も亦無試験檢定資格を有し、近來  
縣内縣外の何れを問はず、入學志願者殺到し  
て校運頗る隆盛なり。

(所在地 下關市大字關後地九二七)

#### 阪東調帶護大阪出張所長

島 村 善 次 郎

神戸市林田區に本社を構え、東京、大阪、  
名古屋、札幌、小倉等に出張所を設置して業  
運隆々たる阪東調帶護株式會社には、素よ  
り才幹力量非凡の士多々あり。就中、島村善  
次郎氏の如きは、實に斯の如き人物として推  
稱敬に値する稀觀の偉材なり。即ち當社大  
阪出張所長の要椅に坐し眞摯熱誠、卓腕を發  
揮する事縱横無盡なる已ならず、實に業績顯  
然たる現況を招來せしめて名出張所長の賞讃  
を博し居れり。氏は明治三十一年を以て京都  
府島村政松氏二男に呱呱の聲を擧げ、夙に工  
業界に矚目して研鑽勉勵、能く實際的修學に  
努め、今官職工學校を優秀技師の成績にて卒  
業せる秀才なり。其後當社に入社するや、精  
勤恪勵、儕輩に垂範的實を示して努力奮闘す  
る處、其天賦の英才に加ふる、技術識見の卓  
抜は相俟ちて着々信望を博し、異進以て遂に

現職に就くに至れり。資性明朗闊達にして遠々たる意氣に燃え、常に努力熱誠を信條として業務執掌に挺身する一方、商略縱横にして研究心頗る旺盛。而かも部下に對するに恰も慈父の如き温情を以て臨む處、同出張所の敬慕尊崇を一身に鍾め居れるは勿論、更に當社不可欠の至寶的存在として令名業界に周知もあり。因に讀書、スポーツ、旅行等に趣味を懐き、業餘閑暇あれば只管心身の練磨に専日なし。家庭には妻子夫人ありて賢夫人の譽高く、其間長男修君、次男輝雄君、三男滿喜男君、四男泰治君、長女壽子嬢、次女昌子嬢の四男二女ありて健在なり。

(住所) 大阪市天王寺區生玉町三〇

### 株式 増田 伸銅所

生産擴充の國策下に異常の盛況を呈せる伸銅工業界には、素より群雄割據して其覇を争ひ、慧眼の士に非らずんば容易に其黨籍を辨ぜずと雖も、創業以來年處を経ること爰に十有數年、今や強固不拔の業礎を有して社運隆々たるものあり、而かも權威的技術を顯はる株式會社増田伸銅所の如きは、蓋し斯界屈指の優秀會社と推稱すべきなり。抑も當社は正九年四月の設立に拘はり、

資本金六十二萬五千圓を擁する同族株式會社にして、常に堅實合理的なる經營方針に一貫し、加ふるに不斷に技術的研鑽を累ねて製品の優秀化を圖り、工場施設の完備せるは勿論、人的要素亦間然する處なき結果、各種製品の聲價顯然として業界を風靡し、需要方面の好評賞讃を博し來たり。斯くて設立以來順調裡に業運進展を見たるも、殊に滿洲事變勃發するや俄然其勢威激増し、恰も疾風枯葉を捲くが如く絢爛勇壯なる發展を擅し、遂に今日の如く關西斯業界の中堅的代表工場として斷然重きをなすに至れり。

因に當社の重役陣容を瞥見すれば、社長増田政治氏以下、取締役其他重役に比田種造、増田菊、森野爲雄等の諸氏を擁し、其指導統制下に全従業員一致協力、能く職務に精勵し一段の進展に力め居れり。

### 吉川兵次郎商店

工場雰囲気は他の以て範となすに足る、而かも人格識見共に高く、常に典型的工業家たりと云ふべきならん。家庭にはキク夫人ありて、其間長男晴一君、長女美枝子嬢、二女稚子嬢等を擧げて一家頗る圓滿なり。

(所在地) 大阪市北區玉江町一丁目

株式取引所は近代國家に缺くべからざるの重要な經濟機關にして、常に有價證券の賣買機關たるのみならず、經濟界の動靜を表示する一種の時雨計として重要性を帯び、されば之が取引に當る取引員に於てもその資産、信用程度を厳密に精査の上、始めて商工大臣より取引員たるの免許を許與せらるゝものなり。現在我國に於ては主要都市十二ヶ所に株式取引所設置せられ、就中指導的地歩を占め我國事業界の燈明臺と仰ふが、ものは東京株式取引所なり。同所は明治二十一年の創始にして其資本金に於てその出來高に於て更に規模に或は實力に於て、嶄然他に卓拔し、正に斯界の總帥たるの任にあり。吉川兵次郎商店は東京株式取引所所屬の長期清算取引、短期清算取引、實物取引、國債取引の各取引員にして、その業礎の鞏固にして信用の堅確な

る業界屈指を以て稱せられ、證券界、一般事業界を通じて多大に渴仰せらる。當店は大正三年三月一般取引員の免許を受けて始めて斯界に進出し來りしが、創業以來經營方針は飽くまでも堅實主義を遵守し、徒らに利益を欲求することなく、質實堅確に商法の正道を一步一步進み、而も顧客の利益の爲めに細心なる注意を拂ひ、懇切に之に奉仕せしに依り絶大なる信用を博すると共に又商況多大に繁榮を呈するに至れり。業界には當店に優さる



氏 郎 次 兵 川 吉

規模を有するもの渺しとせざるも、その業礎の鞏固にして、信用の確實なるものを舉示せんか、斯界の精通者は何人も躊躇することなく、第一に當店に指を屈すべし。常に内容の充實に力を盡くして堅實主義を堅持せるに依り、財界に如何なる波瀾の發生を見るも微動だにすることなく、證券投資に關する相談所として、又堅實なる株式取引店として周く江湖に推挙なし得る模範的商店なり。

### 店主 吉川兵次郎

氏は頭腦明晰たると共に素志堅剛、溫恭謹恪たると共に又清廉潔白、業界稀に見るの材幹として事業界に信望噴然たるものあり。明治十五年十月吉川兵次郎の長男として名古屋に呱呱の聲を揚ぐ。幼少より頗る慧敏にして學を好み、夙に東京國民英學會に學ぶ。後事業界に身を投じ、夙起晚寢して業務に砥勵し、熱誠熱直して事業の研修に勵精して次第に頭角を現すに至れり。その眞摯なる努力力闘と心魂を砕く刻苦艱勉とに依り、天稟の穎材大いに砥礪せられ、漸次その基礎築かれ、事業界の信望又大いに昂まるゝに至る。大正二年七月に迨んで東京米穀商品取引所第一部、第二部、第三部取引員たるの免許を受け、斯界に颯翼を張ることとなりたり。氏はその俊敏の智能を驅使して縱横に活躍し、千思萬慮して業界の大勢の歸趨を熟慮し、明晰果敢實行に移して商機を把へること又頗る敏捷にして、當店は逐年多大の發展を遂ぐるに至る。されど氏は徒らに利益を得能事畢れりと爲さず、顧客の爲めに極力利益を圖り、懇切に斡旋の勞を惜しまざると共に當店の内容の充實業礎の強化に意を注きたるに依り、その信用大いに認められ顧客層を接して店頭に雲集するに至り、商況大いに發達を呈せり。氏は東京米穀商品取引所取引員となりし翌年、即ち大正三年三月に

は東京株式取引所一般取引員の免許を得て、新たに株式界にも業陣を張ることとなり、氏の才腕とその堅實なる經營方針又大いに功を奏し、株界に於ても多大の成功を遂ぐるに至れり。氏は事業界には稀有の人格を有し、廉直にして敦厚、寛容にして謙讓、その一言克く人生の鑑戒となり、その一行能く衆庶の典範となりて、高風は人の深く崇敬する所たり。敬神の念に厚く、道念堅固にして操行又嚴正、涇情に富みて滾々として之を拘めども盡きせず、友情に厚く、店員を見ること骨肉の如し。店員の指導訓育に日常精魂を砕き、殊に株式、米穀取引業は、難事業中の難事業なるが故に全店員之を天業と爲すを得ざれば常に氏は店員の個性を觀察し、以て適材適業に就職せしむべく努力せり。現に資金の貸與を受け轉業して成功せる者實に數十名に達せり。而も又天資仁俠に厚き所より、好んで人の窮境に在るを救恤し、或は骨肉も爲し得ざる盤旋をなし、氏の手に依りて救済せられて頭角を現して世間に著名となりし人士數名あり。氏は行往座臥謹嚴を極め、常に善行に心掛けつゝあるが、尙ほ之を以ても自己を足らずとなし、眞摯修養に意を注ぎ人格の完成に専念しつゝあり。己を責むること峻厳なりと雖人を遇するに、頗る寛容にして、襟度潤大にして抱擁力廣く、八面玲瓏まさ玉の如き



ものあり。身より春風胎蕩たるものを發散し、莞爾として潤顔に笑を溢ふるの時盡せぬ仁情の盈々たるは悦服せざる者は非ざるなり。氏の徳望は實に赫耀たるものありて幾に一般取引員組合委員に推され、業界屈指の人格者として、其言説は同業者の深く傾聴する所たり。現に茅沼炭礦、萩長商店各取締役等に選任せられ、事業界に重きをなせり。因にシン子夫人は東京府に生れ、柳澤ヨシ子夫人の令妹にして内助の功多きを以て知らる。

(所在地 東京市日本橋區江戸橋一丁目)

### 石川島芝浦タービン株式會社

我が國工業界の二大權威たる東京石川島造船所及び芝浦製作所を母體となし、殊に前社の世界的名譽を博せるタービン製作技術並に貴重なる經驗を基礎として、現下非常時局に於ける生産擴充の根本要望に應へ、本邦原動力製作業界に巨然たる勇姿を現はせるを石川島芝浦タービン株式會社とす。

抑も當社は前記の如く大正七年以來、全世界業界の雄たるスキス國エツシャーウキス社とツエリー式船用蒸氣タービンの製造販賣協定を行ひ、帝國海軍艦艇用として製作開始以來星霜を経ること實に二十有餘年、光輝燦たる傳統を有する石川島造船所が時代の要望の

然らしむる處、明治四十三年以來白紙交款状態に在りて起重機を始め各種機械に要する電氣用品を仰ぎ、又タービン發電機の製作に協力關係を結び居りたる芝浦製作所と共同經營の下に陸上用タービン製作を主要業務と爲し、昭和十一年六月を以て子會社を設立したるに始まれり。斯くて之が實際經營の第一歩として後社の保有せる米國G・Eタービン製造權を活用し、其豐富多彩なる實踐經驗、並に技術を以てタービン製造技術を補強せんが爲め、新會社創立さるゝや、技術部長土光取締役、上松工場長以下を該G・E社に特派して檢討攻究を重ねしめ、且つG・E社技術者の虚心坦懐なる論評を得、多大の收穫を齎して歸朝せる一方、工場設備の一段たる整備擴張を圖りて從來芝浦製作所内に設置し居りし石川島分工場設備を擴大、即ち其最大容量を世界的最大容量に匹敵せしむる能力となし、又年製造能力は實に日本帝國を始め、滿洲國北支等に於ける總需要の三分の一を充足せしめ得る一大新工場を建設し、其規模の雄大豪華にして諸施設の完備せる、或は斯界の權威者を網羅せる技術陣の充實振り等は、實に本邦工業界にタービンメーカー多々ありと雖も到底他の企及し得ざる處にして、名實共に斯界の最高峯を獨占する巨星の最大存在なり。而して其間創立以來僅々二星霜を経たる已に

拘はらず、受註量實に五十餘萬キロワットを算する一大盛況に達せるは、正に兩新會社の斷然業界に頭地を拔ける信用と、新會社の世界的優秀製品と相俟ちて招來せる必然的歸結と稱す可きなり。而して最近に於ける當社製品及び製作中の著名タービンを掲げれば即ち七萬五千キロワットタービン二基、五萬三千キロワットタービン三基、及び九千キロワット水蒸氣タービン三基、及び九千キロワットト抽汽、排壓タービン二基を始、抽汽、復水タービン三十二基、其他一萬キロワット背壓タービン二基を始め、背壓タービン百五十三基を始め、其他プロアー用タービン十基等にして、各製品共に當社獨自の設計製作に依りて性能優秀、構造堅牢なること敢て明言を要せざる處なり。從而其信頼性に於て諸外國製品を斷然凌駕し、需要界の白熱的賞讃を博し居れり。因に當社第四回決算報告に依れば、資本金六百萬圓を擁し、當期利益金十五萬三千百九十餘圓にして、將來益々利益増大せん事は必然たる可く、尙ほ鶴見工場を横浜市鶴見區末廣町に設置せる他、大阪出張所及び大連出張所を設けて國策線上に飛躍發展爲し、首腦部には會長山口喜三郎、代表取締役松村菊男、常務取締役久保正吉、同吉江介三、取締役海津一男、同橋本厚吾、同村田慈磨、同

井田幸治、同島村一郎、同笠原逸二、同風岡憲一郎、同土光敏夫、監査役淺川眞砂、同小林康治、相談役平田篤次郎、顧問納富誓一、同栗田金太郎等の諸士にして斯界錚々たる人物を擁し居れり。

(所在地 横浜市鶴見區末廣町)

### 芝野松太郎

一業に終始して努力奮闘、覇を遠き將來に求めて志望を達するは、素より成功の一秘訣なりと雖も、又た慧眼克く時代の嚮向を遠視し、敢然轉業して銳意精進、以て赫々たる業績を擧ぐるも亦其の一手段たり。京都廣油商界に縱橫無盡の活躍を擅にし、業容の豪華雄大にして信用絶大なる、正に斯界に一頭地を

抜く我が芝野松太郎氏の如きは、實に後者の典型的人物として推稱すべき偉材の士なり。氏は本年四十七歳の働き盛り大阪を播磨の地と爲し芝野友治郎氏長男に呱呱の聲を擧げ風に實業界雄飛の霸氣勃然たる處、學序を卒ふるや奮然獨立業を起し、大阪に於て紅柄製造販賣業を營みて業運着々盛大に赴きつゝありしも、其の機略縱横の商才を認められ、叔父芝野松太郎氏經營に拘はる廣油商に従事する事を懸望せらる。茲に決然意を決したる氏は現業に轉向し、爾來非凡の商略と不撓の努力加ふるに斯業報國の熱誠に燃えて一路邁進する處、業績飛躍的發展を顯現して勢威恰も熱風砂塵を捲くが如く、忽ち同業界を席捲し去りて大を築くに至れり。即ち昭和六年規模内容の一大擴張を圖りて日本石油會社及び愛國石油會社兩社の京都、滋賀專屬販賣店を兼ね信望順に増加するや從來の營業所を移轉せしめて現地に堂々敷地三千六百餘坪を有する營業所を新設、更に石油貯藏施設として斷然業界に誇る可き一大油槽、即ち容量千二百石の石油タンク二基、同石油槽一基、倉庫四棟其他斯業不可缺の近代的設備を完全ならしめたり。而して現地は東海道線向町驛前に位し、京阪二大都市の中間、交通の要衝地たるを以て移轉以來、客足急増して業況俄然繁忙多端を呈するに至り、名實共に斯界の王座を

獲得せり。

是實に氏の卓犖不羈、容易に他の追隨を許さざる敏腕卓才の然らしむる處とは雖も、一面斯業員の大使命を痛感し、平時非常時の如何を問はず、産業發展上或は國防充實上に石油報國の至誠を披瀝し、良品廉價を標榜して需要供給の圓滑を期して拮据經營せる賜と云ふべく、殊に嘗て本邦斯業界に大波瀾を捲起せる露油輸入當時、一般業者の周章狼狽して得意先に迷惑を及ぼせし事勢ならず、以て顧客減失の非運に遭遇せる時に當り、些も業態不調を來たさずして反つて餘裕綽々裡に一段たる發展飛躍を顯示せる手腕こそ、寔に偉とすべきなり。

資性渾厚篤實にして眞摯熱誠、而かも玲瓏玉の如き人格と圓熟高邁なる識見を併有し、平素献身的努力を傾注して斯業の圓滿なる發達に貢獻寄與する處、業界人齊しく尊敬信頼の念を禁ずる能はずと聞く。家庭には内助の功多き賢夫人あり、其間長男桂太郎君、次男健次郎君を擧げて一家和氣に満つ。

(所在地 京都府乙訓郡向日町森本)

### 貝島化學工業株式會社

燃料問題は戰時體制下に於ける重要國策中

の最たるものにして、ガソリン節約と云ひ或は電力消費の如き何れも之に牽連せざるはなく、我國朝野の識者夙に燃料問題には深甚なる熟慮を練せし所なり。九州財界の重鎮として院名一世に鳴る貝島家に於ても、事業奉公の精神に立脚して燃料問題の徹底的解決に寄與せんことを決意し、石炭乾留並びに蒸留に於て新生面を開拓せんとして、大正十四年十一月始めて新業に手を染む。超えて昭和六年に至りて貝島乾留株式會社並びに貝島石灰工業株式會社を合併して貝島化學工業株式會社を創始し、爾來歴年堅實なる發展を辿りて現時資本金三百萬圓（拂込一百六十五萬圓）の現代科學の尖端を截る新銳會社たり。大阪市港區南恩加島町に最新設備を誇る一大乾留工場を設け、ミクニ炭並にその副産物たるタール、クレオソート、輕油等の製造を行ひ、又大分縣下に於て石灰石の採取をなせり。

抑も石炭乾留並びに蒸留の事業たるや今日に於ても未だ技術的研究の餘地存して充分に採算の域に達せざるが、夙に貝島家に於ては國家的見地よりして幾多の犠牲を甘受して敢然之に着手し、多額の經費と絶大なる心血を注ぎて設備の改善、技術の研鑽に没頭し來りしが、近時に至り前途に曙光現れ、漸次収益時代に向はんとせり。政府に於ても新業の國益に裨益する所甚大なるものあるに鑑みて、

毎年若干の獎勵金を下附せり。又石灰石採掘事業に於ては近年著しき好調を示しつゝあり現時の業績如何に不拘、當社の事業の如きは多大に將來性を有すると共に、國家社會の爲め寄與貢獻する所又絶大なるものあるなり。當社の重役陣は社長貝島健次、取締役福光二郎、同井上達五郎、監査役玉井磨輔、同藤野雄太郎、營業部長心得永井要輔の諸氏あり。

**社長 貝島健次** 識見高く蘊蓄該博にしてその達識時流を抜く氏は、夙に東京高工機械科を卒業し、後官中田坑業所長となり、次で當社々長の要職に就き、尙ほ貝島木材防衛會社監査役を兼ね多年に亘りて事業界の爲めに貢獻する所多く、曩に綠綬褒章を下賜せられ、昭和五年八月には紺綬褒章同飾版を賜る、明治十三年十月福岡縣人貝島嘉藏氏の長男として生れ、貝島太一氏の從兄に當り、貝島合名の代表社員にして、事業界に絶大なる聲望あり。

**取締役 福光二郎** 福岡縣人福光謙藏氏の二男として明治十二年四月に生る。明治三十六年東京高工機械科を卒業して、後貝島に入る。資性淵邃謹厚にして上下に多大の信望あり。頭腦緻密にして學識淵博の穎材として事業界に重きを爲せり。

**取締役 井上達五郎** 當社取締役たるの外貝島鑛業取締役兼輸送部長兼大阪支店長の要職に在りて、貝島王國に於ける俊髦として名聲噴々たり。夙に東京帝大工科を卒業し、大阪鐵工所、日下汽船、久原鑛業等に入り、大正十年貝島鑛業に入社す。

**監査役 玉井磨輔** 關西大學出身にして現時當社監査役たるの外貝島炭礦、中央火災傷害保險取締役、幸袋工作所監査役、貝島合名理事等の要職に列し、俊英敏腕の事業家として多大に推敬せらる。

**監査役 藤野雄太郎** 溫恭勁恰にして、篤敏俊秀の穎材として内外に信望高き氏は明治十四年十一月福岡縣に生る。夙に貝島鑛業に入り、頭角を現して唐津出張所長に擧げられ、後當社總務部長參事を経て現職に就く。溫情に富みて部下を愛すること深し、慈父の如くに敬仰せらる。

(所在地 大阪市西區川口町)

### 共同海陸運輸代表取締役 栃木 斷泥

「成功の秘訣は他なし、目的の一定不變なるに在り」とは、萬代不易の金言にして、之

を古今東西の成功者の操履に類みるに、その多くは此の諺に違はざるなり。我が栃木斷泥氏の如きも復た之れを身を以て證するものにして、今日威望隆々たる氏の地位は、蓋し一人一業主義の堅持躬行に依るところなりとす。氏は岡山縣の人故栃木作造翁の三男として明治十五年、同縣阿智郡新砥村の豪族に呱呱の聲を發す。少時聰敏にして頑童に類脱して郷關にその名を轟はる。長ずるに迫んで廣島



氏 泥 斷 木 栃

商船學校に入費し、雪雪を積みて同三十八年優秀の學績を擧げて之れを卒業し、直ちに日本郵船株式會社に入社し、近海航路に乗船して格働し、同四十一年聘徴せられて大阪商船株式會社に轉じ、南支航路の船長として勤務すること約七年の久しきに及び、僱傭を後へに一躍門司支店監督に榮達し、爾來非凡の才幹を揮ひて努力す。氏天資頭腦明晰、用意周密にして思想堅實、而も堅忍不拔の精神力を有して夙にその賢材著聞す。豫而その人格を

確認せる門司商船組組長某氏の聘に應じて同組支配人に簡拔せられ其の樞機に關與す。一たび其領鑰を握るや快刀亂麻を斷つ手腕力量と間然するところなき事務の統制は、社業の興隆に資すること著大、業績大いに昂揚す。大正七年に至りて愈々獨立の機熟し、門司市に於て栃木回漕店を創設す。拾有四年間の海上輸送乃至運輸業の経験に則りての經驗は著るものありて、同業者よりその前途を畏怖されるものありて、不幸、同十年の財界未曾有の恐慌時に遭遇して荷主の倒産するもの續出し著大の損害を蒙るの餘儀なきに立ち至り一時休業整理の悲運に際會したりき。然れども氏の信用は地に墮ちずして轉焉として遵照し同十三年更生開業を爲し、翌十四年合名會社栃木商會と改組し爾來且暮格働して業績好轉、内外の信用逐次増大し、數年を出でずして業容面目一新し、昭和十二年二月共同海陸運輸株式會社と改組し、代表取締役に就任し、時運に即應して事業の擴大を期し業務益々股輪を極め以て今日に至れり。現に關稅荷物取扱人、大阪商船、日本郵船、内外汽船各社の貨物取扱海陸運輸、沿岸各地行發動汽船補助船元扱等の外、國產工業會社戸畑工場專屬扱たると共に朝鮮、臺灣、北海道を始め本土各方面にも發動汽船を利用して船扱數量是は陸送貨

物の數倍に達する景況を呈し居れり。斯かる盛觀は要するに氏の交通運輸に關する多年の蘊蓄を傾けて縱横の才腕を揮ひしに因るところ論を俟たず。氏は所謂内剛外柔の器にして寛容溫和たりと雖も、毎に内に烈々燃ゆるが如き情熱と凛然たる義氣を包藏し、頗る高風節操に富み、人をして坐るに敬仰の念を抱かしむの徳望を有するが故に、曩に門司商工會議所議員に推舉せらるゝの外、大正十五年九月自ら起ちて九州運送同盟會を創立し、昭和元年之を同志會と改め、後ち同業を勸説して二ヶ年後に九州聯合會を組織して、初代會長に擧げられ、在任三ヶ年、斯界の爲挺身して其親睦發達に盡瘁し、嚮に門司管内運輸組合長に就任して努力する等其功績枚擧に遑あらざるなり。蓋し西日本に於ける運輸業界の雄鎮たりと云ふべきなり。

(住所 門司市東本町一丁目)

### 京都高等工藝學校

京都教育界に特異の功績を分つのみならず本邦工藝學校中の模範校として學燈燦々たる京都高等工藝學校は、明治三十五年五月左京區吉田町に校地を設置し、同年九月授業を開

始せるに始まる。當時假事務所を京都帝國大學内に設け、色染科、圖案科を置いて翌十月十八日開校式を舉行し、時の文部大臣理學博士男爵菊池大麓氏臨場せり。同三十六年四月本校規則中本科、別科の名稱を第一部、第二部と改め、同三十八年七月三日第一回卒業證書授與式を行へり。超えて同四十三年十月一月皇太子殿下行啓あらせられ、同四十五年二月九日御下命に依り、皇太子妃殿下御料服地二點を謹製上納し、以來、皇后陛下を始め奉り各客家に本校製品を上納せる事數回に止まらず、毎回御嘉納を賜りて校史に萬代不朽の榮譽を加へ居れり。一方同年十一月二十七日勅令第十九號に依り機械科課程表を改正し、大正四年十月二十一日には、天皇陛下御眞影を拜禮す。次で翌五年十月二十一日、皇后陛下、皇太子殿下御眞影を拜禮し、同年十一月十四日龔に讓與せられし大禮記念大嘗宮附屬朝集所の移築建造物たる朝集館の竣工式を舉行、次で同六年十一月十四日、皇后陛下行啓あらせらる。又同十二年五月三十日、久邇宮邦彦王殿下、同妃殿下、良子女王殿下、信子女王殿下の御四方、更に、同十四年十月二十六日には、東伏見宮大妃周子殿下御成あらせられ、或は同十五年十一月九日暹羅國文部大臣ダンニ親王、同妃殿下及びシツパン内親王殿下各科授業並に實習狀況を視察せらる。

超えて昭和三年十月九日、天皇、皇后兩陛下御眞影を奉禮し、翌四年四月一日陶磁器科を新設、其後同十二年四月十三日本校規則中學校課程及各般に涉る條項改正せられしと同時に、陶磁器科を窯業科と改稱して今日に及ぶ其間歴代文部大臣の巡視視察あり、又昭和五年十一月十一日京都府愛宕郡松ヶ崎村に新校舎落成するや、之に移轉し、同六年二月五日、兩陛下御眞影を奉還し、新たに御眞影を拜禮す。而して同年四月一日隣接市町村編入の爲め、本校地籍を京都市左京區松ヶ崎御所海道町と改稱されたり、斯くて創立以來校歴を閱する事三十數年、常に工藝文化顯揚の原本道場として當事者各員の熱誠眞摯なる指導訓育に依り、數多學生に斯學の實修及理論を開然する處なく會得せしめ、毎年優秀卒業生を出せる事斷然他校に冠たるものあり。蓋し現在工藝界各方面に亘り、本校卒業者の活躍發展せる者多々あるに徴し、本校教育成果の昭々たるを窺知す可きなり。

今や内容外觀共に整備し、近代的三層の學舎恰も巨城の陣容を誇るが如く巍然として聳ち各種實修施設の完備せるは勿論、教職員に幾多權威者を網羅して教授陣容の豪華絢爛又た他校に誇る可きものあり。而して本校は工藝に従事し、又は工藝に關する學校教員たらん者の爲に、必要なる學理及技術を教授するを目的となし色染科、機織科、圖案科、窯業科の四學科を置き、修業年限三ヶ年とす。現在教職員數は校長を始め教授十九名、助教十名、生徒主事一名、助手二名、書記七名、生徒主事補一名等にして、又學生には本科生及研究科生の他、選科生あり。

**校長 村上宇一** 氏は山口縣人村上宇一氏の長男、明治十二年十二月を以て生誕し同三十九年京都帝國大學理工科を卒業するや教職を奉じて敝身奉公の實を示すこと多年、即ち本校教授として學生間に人氣沸騰せる已みならず、大正十五年擧げられて現職に就き現に正四位勳三等に叙せらるゝ學徳兼備の名校長なり。而かも龔には商工會議員議員たりし事あり。今又同會議所顧問の稱に推され至誠一貫、能く當市工藝界の進歩發展に盡瘁し、其功績淺す可らざるは蓋し僞名轉たる所以ならん。

(所在地) 京都市左京區松ヶ崎御所海道町

**河 西 俊 夫**

當代東都に於ける少壯事業家中、最も其の將來を囑望され、異彩を放てるものに我が河西俊夫氏あり。氏は峽中の偉傑、前東電副社長河西豐太郎氏の嫡男として、明治二十七年

七月十九日を以て呱呱の聲を發す。長ずるに迫んで明大政経科に學び、大正八年之を卒業す。資性眞率恰情にして濃情明快。學成りて關東瓦斯株式會社に入りて横須賀出張所長、本社副支配人を歴職し、格動すること四星霜其間社運の興隆に挺身し、舊來の弊習を交際して事務の刷新を圖り、且暮夜々として倦むことを知らず、其超凡の熱誠は嚴君の少壯時代の行藏を勞號せしめ、上下の信頼を繋ぐに餘りありて好評噴々として社内を壓するの觀ありき。由來帝都の舊市内を主線とする乗合自動車界は市營、東京乗合自動車(現東京地下鐵道經營)の外、日比谷乗合自動車、王子環狀乗合自動車、グット乗合自動車其他ありしが、氏は後社三社の路線の連絡運營こそは帝都交通網に至大の便益たるに着目し、茲に意を決して三社合併を畫策し、爾來之れが達成に奔命すること年餘、幾多迂餘曲折を経、昭和十年初志を貫徹して茲に東京環狀乗合自動車株式會社を設立し、氏は當務取締役就任す。爾來氏の畫策は頗る當を得て市民の至便に資すること多大にして、運營の簡易、能率の増大顯著にして數年を出でざる今日早くも社業隆々を呈現するに至れり。而して氏は實踐躬行の士にして精勵寸時も怠らず。而も部下従業員に接するに骨肉の性を以てし、其の將來の大成の兆將に歴然たるものありて業

庶の長傲を一身に蒐めつゝあり。一面その私的生活を窺はんか、心身の鍛練に意を用ふるに弓道に悟道し、勁弩一度矢を放てば弓禪一如の妙諦を體得し、現に弓道三段の猛者たり。一面書畫骨董を愛蔵し透徹せる鑑識眼亦一家を爲すの概あり。その剛直、不退轉の資實も要するに氏の崇高なる趣味性に胚胎するところあらんか。

(住所) 東京市淀橋區西大久保二ノ二八七

**大阪晒粉株式會社**

近代化學工業時代の波に乗り、強固不動の業礎を誇る斯業界の雄鎮たり。

抑も當社は大正十五年四月二十一日、資本金百萬圓を以て設立され、爾來不斷の研鑽努力を製品改良上に積みし已ならず、更に合理の堅實なる經營方針を堅持して斯業戦に臨む處、其製品たる苛性曹達、硫酸、鹽酸等の聲價頗に顯然たるものありて業勢異數的發展を見たり。殊に滿洲事變を契機として本邦工業界の劇期的飛躍時代來るや、發展又發展、日夜繁忙多端の業況を展開しつゝ遂に今日の如き關西斯業界の花形たる名實を備へるに及び今や諸施設完備して近代的理想工場との賞讃を擅にす。一大工場を有し、全従業員の一致

**社 長 吉村 素 義**

山口縣人小野横三郎氏二男として慶應三年二月に出生す。天分聰明穎悟、頗る緻密なる頭腦を有し、明治二十五年東京高工應用化學科を卒業するや、奮然斯業界に身を投じて努力力闘に一貫する事幾早霜。其卓腕博識は業界の木鐸を以て稱され、斯業界の進歩發展に貢獻せる功績たるや眞に偉大なるものあり。現に當社々長たる以外大阪製煉、關西硫酸販賣、藏前工業會館重役として斷然重きをなし、聲望隆々乎たる、容易に他の追隨を許さざる斯界の長老たり。資性穩健誠實にして人格頗る高く、而かも慧眼を察知すること至妙の域にあり。家庭には賢夫人の譽れ高き倫夫人あり、其間嗣子即太郎氏、同氏令妻縁夫人、同長男淳君、同長女光子嬢を擁して一家の清福圓滿なる、實に近隣羨望の的たり。

(所在地) 大阪市此花區上福島町

株式 林 寛 商店

抑も當社は未だ本邦新業の搖籃時代たる明治三十年、慧眼遠見、克く新業將來の洋々性を洞察せる先代林寛氏が、男子學生の事業として現店舗の一隅に於て個人商店を創立せるに發し、以來業運着々、堅實なる發展を辿りて躍進又躍進、斯くて當初の營業目的たる機械工具内地販賣及び直輸出入商界に斷然重きをなすに至るや、大正八年規模の擴充を圖りて合名會社に改組し、更に滿洲事業を契機とせる軍需工業黃金時代の波に乗り、業運飛躍的興隆を招來せし結果、事業の一大擴張を企圖實踐して製作方面に進出すると共に、昭和十二年十二月十六日を以て株式會社を設立せり。爾來星霜を閱すること未だ僅少なりと雖創業以來連續四十年間に扶殖せる強固不動の信用を擁し、更に二代目當主即ち現社長林寛氏の卓犖不羈なる手腕の然らしむる處、銳意積極的且つ合理的なる營業政策に邁進し更に學社一致協力、和氣藹然たる雰圍氣裡に努力精勵を怠らざる處、業績異數の躍進を齎らせるは素より喋々の言を要せず。而して現在當市精密機製作界の權威合名會社大塚鐵工所に投資し、其の精巧優秀を誇る諸製品を販賣す

る一方、松下金屬株式會社機械工場製品關西總代理店の看板を掲げ、當社製品と共に洽く需要界に提供して絶讚好評を博し居れり。因みに當社首腦部を形成せるは取締役社長林寛専務取締役林次郎、取締役豊田益幸、同岡本松治郎、同泉盛茂、常任監査役沼野襄二、監査役林千代等の諸氏なり。



取締役社長 林 寛 明治四十二年十月を以て呱呱の聲を擧げ、前名を太郎と呼びて昭和七年家督を繼承すると共に改名顯名せり。夙才の俊銳敏を有し、昭和二年明星商業學校を卒業するや、父業に従事して孜孜精勵、専心家業の伸展發達を圖りて成果を擧げ、其後當社々長の樞樞に就くや、其胸底の烈々たる積極主義に依りて邁進、而かも「事業は其關係者及び、従業員全體の協同經營にあらざる可ら



場工に益氏寛林

す」との信念下に、重役、社員其他従業員に夫々職場を分ち亦た社員持株制を確立し、従業員たると同時に株主として營業の樞樞に參與せしめ、各自所有の能力を充分發揮せしめつゝあり。蓋し共存共榮の眞精神を解し、業運隆盛の根本的方法を執れる眞固の事業家として令名益々顯昭たるも當然と云ふ可きなり資性濃厚明朗にして機略縱橫、而かも潑刺氣銳の意氣凛として定に斯界代表的の青年實業家たるを失はず。曩に滿洲、上海事變勃發するや、卒先一萬圓を軍部並に各政治團體に寄附し、報國盡忠の赤誠を披瀝したるは偉とすに足る。尙ほ令閨フジ子夫人は才色兼備にして濯雅貞淑の譽れ高く、其間長男寛幸君、二男健二君、三男尙治君を擁して琴瑟相和して好評四隣を壓せり。

(所在地 大阪市南區谷町筋六丁目)

大内山 仁和 寺

眞言宗の大本山として末寺一千數百を擁し法燈熾々たる御室仁和寺は、其創建を經ぬるに人皇第五十八代 光孝天皇の御本願に依りて仁和初年、草創の工發せられしも、造營未だ完成せざるに 天皇崩御あらせ給ひし爲め次で 宇多天皇御即位し給ふや直に父帝の御

遺旨を紹がせられ 伽藍堂塔の經營を急がせ給ひ、仁和四年秋竣工せるものなり。而して先帝御等身の彌陀三尊を本尊となし。大内山仁和寺と勅號し給へり。其後 宇多天皇實算三十三歳にして御落飾遊ばされ、當本山開祖法皇に董御あらせ給ひ、之を寛平法皇と申し奉る、法皇叙明博識一層法威を顯揚せしめ給ひし一方、能く詩歌を賦し、天下の賢聖士を召して風雅の御清遊を催させ給ひ、或は御苑に小草花卉を植えさせられ、花朝到る毎に御室の瓶裡に移挿して、其天真爛漫たる挿花の形態に依り人倫の道を諭させ給ふ。爾來其芳觸を欽仰して華道御室御流の名傳はれりと。即ち當寺の舊御室御所華道總司道として全國に華務職及師範教授を配置し、傳書許狀席札を授與し居れる所以たり。斯くて標嚴定院御室(故小松大將宮彰仁親王殿下)に至る迄三十代、星霜一千年間皇子、皇孫相次で法親王に立たせられ、直叙一品法總務の宮として親しく各宗法務を統べさせ給ひき。されば寺域も往古に在りては、東は紙屋川を限り、西は嵯峨、朝日山を界とし、南は下立賣通を劃し北は宇多野山の奥、中河道路に接し、現今の龍安寺附近を中心地に寺内四十九院を擁し、堂塔伽藍、結構壯麗を極めたり。後年應仁の兵火に罹り、境内一圓灰燼に歸せしも、寛永年間第二十一世譽深法親王、中興の大業を念

願して將軍家光に再造の令旨を下し給ひ、家光多額の淨財を寄進して工事着手せられし時偶々皇居御造營の事ありて朝廷より紫宸殿、清涼殿、常御殿等を賜ひしに依り、茲に紫宸殿を金堂、清涼殿の一部を御影室となし三十有餘の堂塔殿舎、十餘の子院等竣功を告げ、規模全く昔時の美觀に復したり。其後明治二十年再度祝融の災に遭ひ、山門及伽藍一帶の堂宇を除き、二十餘宇の殿舎鳥有に歸したるも、開山法皇及故小松宮殿下の御冥護に依りて大正三年秋、現在の宸殿、靈明殿、黒書院勅使門等十餘宇の再建を成就し、更に昭和十二年五月以來、國寶指定建造物山門の改築工事に着手し、同十三年十月完成の豫定なりと聞く。境内十四萬餘坪にして森嚴崇嚴の氣瀟り、殿堂三十餘宇、國寶三十餘點、御宸翰、御染筆其他靈寶名器數百點を藏し、法都京都の一大巨刹として善男善女の參拜甚だ繁し。尙ほ御影堂に安置せる弘法大師像は、由來京都三弘法の一として諸人尊崇の的となり、伽藍背後に所在する境内成就山には、四國八十八ヶ所の靈場に模擬造築せられし殿堂八十八あり。而して當所は京洛市街を一望に收め愛宕の麗姿を仰ぎて眺望絶佳を極め、春の櫻花、夏の新緑、或は秋の紅葉に、冬の雪景に四季を通じて自然の風趣定に至妙。而かも參路險阻ならず、且つ夜間に備へて二百數十個

の電燈點せられ、老幼如何を問はず僅々二時間を以て瞻拜し得、殊に數百株を算する櫻樹在りて名所櫻「御室の櫻」として嵐山の櫻花と並稱せられ、一重、八重、或は一株にして兩様なるもの、さては黄、白、桃色等各種各様の名樹あり。其陽春の景色たるや、眞に言語に絶して美觀謂はんかたなく、近時山岳熱高唱さるゝや、小中學生の參拜急増し、名實共に信仰とスポーツを兼ねたる理想的ハイキングコースとされ居れり。

(所在地 京都市右京區御室)